

目 次

第1章 はじめに	8
1. 研究の目的および意義	8
2. 本稿の構成について	9
3. 後置詞とは何か	10
3-1 日本語	10
3-2 韓国語	16
第2章 先行研究	21
1. 日本語における先行研究	21
1-1 「について」「に関して」「に対して」	21
2. 韓国語における先行研究	30
3. 日・韓対照研究における先行研究	32
4. まとめ	34
第3章 日本語後置詞分析	37
1. 研究対象および方法	37
2. 後置詞の連用表現の用法について	40
2-1 「について」の用法	40
2-1-1 言語活動を表す語と共起する場合	40
2-1-2 思考活動を表す語と共起する場合	46
2-1-3 心的態度を表す語と共起する場合	51
2-1-3-1 感情＝評価的な態度	51
2-1-3-2 「動作的な態度」	54

2-1-4	考察の結果	55
2-2	「に関して」の用法	55
2-2-1	言語活動を表す語と共起する場合	55
2-2-2	思考活動を表す語と共起する場合	59
2-2-3	心的態度を表す語と共起する場合	62
2-2-3-1	感情＝評価的な態度	62
2-2-4	考察の結果	65
2-3	「に対して」の用法	66
2-3-1	言語的な態度	66
2-3-2	知的な態度	71
2-3-3	感情＝評価的な態度	73
2-3-4	動作的な態度	77
2-3-5	考察の結果	79
2-4	まとめ	80
3.	後置詞の連体表現の用法について	82
3-1	連体表現の全般的な傾向	83
3-2	「についての」「に関する」	84
3-3	「に対する」	85
3-4	後置詞の用法について	86
3-4-1	「に対する」と共に使う名詞	86
3-4-1-1	「に対する」のみと共起する名詞	86
3-4-1-2	「についての」との関係	86
3-4-2	「についての」と共に使う名詞	88
3-4-2-1	「に関する」との関係	88
3-4-2-2	「についての」のみ使う名詞	89

3-4-3 「に関する」と共に使う名詞	89
3-5 「に対する」「についての」「に関する」のすべてと共通に使える名詞	90
3-6 まとめ	91
4. 格助詞との関わり	94
4-1 先行研究から	94
4-2 各表現の意味・用法をめぐって	96
4-2-1 「について」「に関して」と「を」	96
4-2-2 「に対して」と「に」	103
4-3 考察の結果	106
4-4 まとめ	107
第4章 韓国語後置詞分析	110
1. 研究対象および方法	110
2. 辞書での定義	112
2-1 各語の辞書での定義	112
2-2 各語の形態上の差異	118
3. 国定教科書の、「에 대하여 (e daehayeo)」「에 관하여 (e gwanha aeseo)」について	122
3-1 全般的な傾向	122
3-2 小学校国語教科書	126
3-3 中学校教科書	128
3-4 高校国語教科書	130
3-5 まとめ	131
4. テキストのジャンル別研究	134
4-1 専門書籍	134

4-2 法律関連の書籍	137
4-3 一般教養の書籍	139
4-4 新聞雑誌	142
4-5 まとめ	144
5. 後置詞の用法上の差異について	149
5-1 「에 대하여(e daehayeo)」と助詞「을(ul)/를(reul)」 について	150
5-1-1 助詞「을(ul)/를(reul)」のみ可能な場合	152
5-1-2 後置詞「에 대하여(e daehayeo)」のみ可能な場合	156
5-1-2-1 話題	156
5-1-2-2 「話題」と「見解」	160
5-1-3 後置詞「에 대하여(e daehayeo)」と助詞「을(ul)/를(reul)」 いずれも可能な場合	163
5-1-4 まとめ	166
5-2 後置詞の連用表現の用法上の差異について	169
5-2-1 研究方法	169
5-2-2 「에 대하여(e daehayeo)」類のみ可能な場合	170
5-2-3 「에 대해서(e daehaeseo)」のみ可能な場合	175
5-2-4 「에 대하여(e daehayeo)」類と「에 관하여(egwanhayeo)」 類	180
5-2-5 まとめ	187
5-3 後置詞の連体表現の用法上の差異について	188
5-3-1 「에 대한(e daehan)」のみ可能な場合	189
5-3-2 「에 대한(e daehan)」と「에 관한(e gwanhan)」	190

5-3-3 「에 관한(e gwanhan)」のみ可能な場合	198
5-3-4 まとめ	201
第5章 日・韓後置詞分析	210
1. 研究方法	210
2. 各表現の用法について	210
2-1 「に対して」と「에 대하여(e daehayeo)」類のみ可能な場合	210
2-2 「について」と「에 대하여(e daehayeo)」類	218
2-3 「について」「に関して」と「에 대하여(e daehayeo)」類「에 관하여 (e gwanhayeo)」類	220
2-4 助詞「을(ul)/ 를(reul)」と「を」格	227
2-5 「に関して」と「에 관하여 (e gwanhayeo)」類	242
2-6 「に対する」「についての」「に関する」と、「에 대한(e daehan)」 「에 관한 (e gwanhan)」の用法上の差異について	246
2-6-1 研究方法	246
2-6-2 調査結果および各語の機能について	247
2-6-3 「に対する」と「에 대한(e daehan)」	250
2-6-4 「についての」「に関する」と「에 대한(e daehan)」 「에 관한(e gwanhan)」	255
2-6-5 「に関する」と「에 관한 (e gwanhan)」	259
2-6-6 まとめ	260
第6章 おわりに	264
1. 後置詞の本質規定	264

1-1 「に対して」「について」「に関して」	264
1-2 「에 대하여(e daehayeo)」類 「에 관하여(e gwanha yeo)」類	265
1-2-1 「에 대하여(e daehayeo)」類	265
1-2-2 「에 관하여(e gwanha yeo)」類	266
2. 日韓後置詞間の異同と今後の課題	268
2-1 日韓後置詞間の異同	268
2-2 今後の課題	272

参考文献	275
------	-----

第1章 はじめに

1. 研究の目的および意義

日本語学習が中級段階に上がると「について」「に対して」などのような後置詞の導入が多くなる。後置詞は格助詞と似た働きをしているが、その用法は異なる。例えば、「先生は遠足を生徒に連絡した。」は日本語として成り立たないが、「先生は遠足について生徒に連絡した。」は自然な文である。つまり、「について」は後置詞としての独自の用法をもつと言える。韓国人日本語学習者の場合、上級段階に到達する速度が早く、学習開始後、わずかの期間で高度な文章を作成することが多い。その中で、「について」「に関して」「に対して」などの後置詞は不可欠の要素であるが、初・中級段階での後置詞教育が不十分なまま上級に入るため、これらの具体的な使い分けが不十分であり誤用が多い。それは後置詞教育がこれまで文法的な位置づけという観点からのみ研究が進められてきたためである。後置詞の誤用を防ぐためには、意味論的な観点からの研究が要求されるが、1990年以前まではそのような研究は殆んどなされてなかった。さらに日本語の場合、後置詞は格助詞との用法上の違いも明らかになされていないのが現状である。

特に韓国人日本語学習者にとって、後置詞は韓国語と意味体系上のずれが生じることもあるので、ますます後置詞の習得が困難になるのである。例えば、「について」と「に対して」は韓国語の「에 대하여 (e daehayeo)」に対応し、「について」と「に関して」は「에 관하여 (e gwanhayeo)」に対応するのでその正しい使い分けは非常に難しくなる。また韓国語の場合、後置詞に相当する文法的な用語すら学者によって異なる。日本語学習者が増えるにつれ、翻訳や通訳などが盛んに行なわれるようになってから、後置詞が問題視されるようになったのである。後置詞の中で「について」「に対して」「に関して」は韓国人学習者だけの問題ではなく、かなり日本語を使いこなせる他国籍の学習者でもこれらの表現を混同して使ってしまうケースが非常に多い。中国語の場合でも張麟声(2001)¹では、「に対して」に相当する中国語の言い方が2種類もあって、「にとって」「について」の用法も補う

¹ 張麟声(2001)『日本語教育のための誤用分析：中国語話者の母語干渉20例』

ので、これらの表現の使い分けは難しくなっていると指摘している。このようにこれらの表現の研究の必要性が明らかであると思われる。しかし、後置詞の研究は日本でも韓国でもまだ未開拓な分野であり、今だに十分とは言えないのが現状である。また、格助詞との関係まで明らかにすることは大いに研究価値があると思われる。本稿は、日本語後置詞の研究のみならず、韓国語の後置詞の研究まで範囲を広げ、対照研究という方法を用いることで、両国における後置詞研究の基盤になることを目指す。そして本研究の成果を応用して日本語の指導、教育への提言も行いたい。

2. 本稿の構成について

本論文の構成は以下のようである。

第1章では、後置詞とは何かを説明し、日本語、韓国語での後置詞の立場や見方について言及する。その後、後置詞を認める根拠、意味などを考察する。

第2章では、まず日本語「について」「に関して」「に対して」の先行研究について考察し、先行研究の問題点などを指摘する。次に韓国語の「에 대하여(e daehayeo)」類と「에 관하여(e gwanhayeo)」類の先行研究について考察し、先行研究の問題点などを指摘する。

第3章では、日本語の「について」「に関して」「に対して」のそれぞれの表現について文献からとった用例を中心に分析を行ない、各表現の用法について考察する。主に後置詞と格助詞との関わりと各表現の連用表現と連体表現との関わりを中心に考察する。

第4章では、韓国語の「에 대하여(e daehayeo)」類と「에 관하여(e gwanhayeo)」類について文献からとった用例を用いて分析を行ない、その用法について考察する。特に韓国語の場合は「에 대하여(e daehayeo)」類と「에 관하여(e gwanhayeo)」類についての研究がまったく行われてないので、この部分に力をいれて考察してみたい。主に後置詞と格助詞との関わりと各表現の連用表現と連体表現との関わりを中心に考察する。

第5章では、日韓対照研究を行ない、日本語、韓国語双方の後置詞の機能を明らかにし、後置詞をもっと幅広く考えてみたい。主に格助詞との置き換えを通して後

置詞と格助詞との相関関係を考察する。また、文献に用いられている表現と実際に使われている表現との差異について、アンケート調査などを行って考察する。

第6章では、各章ごとに纏めて、「について」「に関して」「に対して」と「에 대하여(e daehayeo)」類と「에 관하여(e gwanhayeo)」類に関する本質規定と日本語と韓国語のそれぞれの後置詞間の異同について考察する。

3. 後置詞とは何か

3-1 日本語

英語の「前置詞」と言われると、すぐに該当する語やその働きを思い浮かべることが出来るが、日本語の「後置詞」と言われると、ピンとはこない。後置詞とは前置詞と全く同じ機能をもつものであろうか。では、後置詞とはどんなものであるかを調べてみる。身近にある辞典、例えば、国語学者の執筆になる『日本文法大辞典』（松村明編、1971）を見ると、次のように書いてある。

前置詞：西欧語で、名詞または代名詞の前に置かれて、これらの語と他の語との関係を示す語。preposition の訳語。日本語で、この前置詞に該当するのは助詞であるが、日本語の助詞は、前置詞のように前に置かれるということがなく、その添う語のあとに来るので、後置詞と呼ばれるものに近い。（山口明穂）

後置詞：（postposition）西欧語の文法で、目的語の前におかれて用いられる前置詞に対して、それと同等の機能を持ちつつ目的語のあとにおかれて用いられる語に与えられた名称。日本語の助詞も、目的語のあとにおかれるという面を考えると、後置詞とも呼べることになる。広池千九郎の『てにをはの研究』（明治 39）では、「が」「の」「に」「を」「と」などの名詞のあとにつく助詞にこの名称を与えている。（山口明穂）

この説明によると、日本語ではいわゆる助詞が後置詞と呼ばれるものにあたり、西欧語の前置詞と同じ機能をもつということになる。つまり「後置詞」と「助詞」を同一視する見解である。これは、伝統的な国文法・学校文法の立場からの見方である。これに対して、もう一つの見方は、格や格支配の概念をある程度備えたもの

で、松下大三郎(1901)は『日本語俗語文典』ではじめて「就いて」「取って」「おいて」「よって」などを助詞とは異なる独立した品詞として見ている。つまり、「後置詞」として扱っており、後置詞を独立した品詞として見ている。しかし、後年、松下(1930)は『改選標準日本文法』では、「後置詞」を「副詞」の一種と位置づけ、広義の状態修飾語句としての機能に注目しており、「後置詞」の位置づけは後退している。

松下の初期の考えを受け継ぐのが鈴木重幸(1972)²である。鈴木によると、日本語の助詞は西欧語の格語尾に相当し、助詞は独立した単語（言語学でいう後置詞）ではなく、名詞にあとについて、その名詞の、文の中での他の語との関係を表示する接尾辞的なものである。一般に、名詞が文の中で他の単語に対する関係を表しわけるために、語形変化する現象を格変化というが、日本語の名詞も格変化するとみる。格変化した一つ一つの形が集まって、名詞の格の形が体系をつくっている。つまり、格助詞を名詞の格の形をつくる要素とみている。日本語の後置詞をいわゆる格助詞ではなく、格助詞をともなった名詞の格の形と組み合わせさせて使われる、補助的な単語をさしていると指摘し、「について」「によって」「において」などを後置詞として認めている。鈴木は、このような後置詞を補助的な品詞の一つとして認め、それについて『日本語文法・形態論』で次のように述べている。

これは、単独では文の成分とはならず、名詞の格の形（およびその他の単語の名詞相当の形式）とくみあわさって、その名詞の他の単語に対する関係をあらわすために発達した補助的な単語である。日本語の後置詞は、英語などヨーロッパ語の文法の前置詞 *preposition* に対応するものであるが、名詞に対する位置が逆なので、後置詞 *postposition* とよばれる。
(p. 499)

鈴木の考えと同じ立場をとるのが金子尚一(1983)³である。金子は日本語の後置詞は、格のくっつき（格助辞・格助詞）とは混同してはならないものであると言う。なぜなら、格のくっつきとは、名詞が、文中あるいは単語のむすびつきのなかで、

² 鈴木重幸(1972)『日本語文法・形態論』

³ 金子尚子(1983)「日本語の後置詞」

他のメンバーに対する「自記」の一定のありかた（格関係）を表示するための、かたちづくりの要素であるからだ。そして、単独では文の部分にならず、その一定の格形式を補助してはたらくものが後置詞であると述べている。また、後置詞の用法について、意味を明確にする用法と他の格助詞と置き換えられる迂語的（periphrastic）な用法があると指摘している。

村木新次郎(1983)⁴は助詞と後置詞の共通点と違いを次のように述べている。共通点はいずれも単独では文の中で機能することはできず、名詞か名詞相当の語句と結びついてはじめて文の成分となりうる点であり、相違点は、名詞が文の中で機能するための形式上、もしくは手続き上のちがいにあり、「を」「に」などのいわゆる助詞がつく場合を総合的な形式、「について」「において」などの後置詞がつく場合を分析的形式と分けて調べている。例えば、

- 1) a. 自分の将来を考える。
b. 自分の将来について考える。
- 2) a. 会議は大学で開催される。
b. 会議は大学において開催される。

a は総合的な形式によるもの、b は分析的な形式によるものである。上の例はいずれも格助詞と後置詞が両方用いられる場合である。村木はこのような後置詞「について」「において」を、文法形式化の進んだものとして扱っている。また「について」「において」のように文法形式化の進んだものではないが、後置詞としての性格が強いものとして「に対して」「によって」「にとって」などをあげている。最後に後置詞としての特徴はもっているが、十分には後置詞化の進んでないものとして「にあたって」「におくれて」「に関して」などをあげている。後置詞はこのように不安定な単語群ではあるが、名詞の他に対する関係をあらわす補助的な単語として、ひとつのグループをつくっているように思われると述べている。

⁴ 村木新次郎 (1983) 「日本語の後置詞をめぐって」

高橋太郎(1983)⁵は後置詞の特色として、もとの動詞などの持つ意味が稀薄になり、関係的な意味、機能が強く押し出されてくることをあげている。後置詞は、もとの意味の切れたところで再編成されるため、別の動詞から発達した後置詞が同じ関係的な意味と機能をもつようになるという。つまり、関係的な意味による再編成という立場をとって、後置詞という品詞の市民権を主張している。

佐藤尚子(1990)⁶は、日本語の後置詞は動詞や副詞から派生したもので、後置詞ともつようになった品詞との間に絶対的な線を引くのは難しいと述べており、文法上の必要性から補助的な手段として存在するものが後置詞であると指摘している。また、後置詞の発達には、漢文訓読の影響が見られると指摘している。

これに対し、「について」「によって」などの表現を助詞相当の語や複合格助詞とする説がある。橋本進吉(1934)⁷は、「について」「によって」「をして」などを助詞と似た機能を果たすものとして「格助詞相当」と扱っている。橋本の文法論を基礎としている学校文法では、例えば、「について」の語構成を、「格助詞「に」+動詞「つく」の連用形+接続助詞「て」と分けてしまい、「格助詞「に」+動詞「つく」の連用形+接続助詞「て」」がそれぞれもっている意味では、「について」がもつ独自の意味を明白にすることはできない。つまり、後置詞を独自の意味をもつ語として扱うことができないとする。このような橋本の理論は辞書にもその影響が見られる。佐藤尚子(1990)は、辞書には、「後置詞」を「連語」としているもの、品詞の表示がないもの、もとの動詞の項に入れているものなど、位置づけがバラバラであると指摘している。例えば、「について」を構成する動詞「つく」をみると、述語にならず、主語とは対応しない。そして、連用修飾を受けない。これらの点から動詞「つく」は動詞性を失っていると言える。そして、辞書において後置詞が正當に扱われていないことは、従来の国文法がいかにも実践から遊離した文法論であるかをしめしていると指摘している。

また、仁田義雄(1982)⁸は「において」「に関して」「に対して」「について」「にとって」などを複合格助詞として位置づけた。複合格助詞は複合助詞に含まれ

⁵ 高橋太郎(1983)「構造の機能と意味—動詞の中止形(～シテ)とその転成をめぐって」

⁶ 佐藤尚子(1989)「現代日本語の後置詞について—『～について』と『～に対して』を例として—」

⁷ 橋本進吉(1934)『新文典別記文語篇』

⁸ 仁田義雄(1982)「助詞類各説」日本語教育学会編『日本語教育辞典』

るものであるが、複合助詞について砂川有里子（1987）⁹は「複数の語が結合して助詞と同じような働きをするようになった形式」と定義している。砂川は複合助詞をさらに2つのグループに分けた。

1) 動詞や名詞など、実質的な意味をもつ語がその実質的意味を失い、形式的に固定化して助詞と同じような機能を果たすようになったもの。

（として、だけあって、であれ、など）

2) 複数の助詞が結合して1語の助詞相当になったもの。

（からには、だけに、など）

また、塚本秀樹(1990)¹⁰は動詞部分の意味の実質性の段階を次のように3つに分けて調べている。

A) に関して、に対して、を指して、を指して

B) において、について、にわたって、によって、をもって

C) にとって、をおいて、でもって、として

A) のグループは、動詞部分の意味の実質性を比較的保持しているものであるに対して、C)グループは、かなりそれを欠いてしまっているものである。そして、B)グループはA)とC)の中間に位置づけられると指摘している。

他にも永野賢(1953)¹¹は慣用句や複合語に対するものとしての複合助詞を句末・文末の形式を問わず、「複合辞」と呼んでいる。佐伯哲夫(1966)¹²は機能の退化した動詞を中核に格助詞や「て」「まして」が緊密に結びついた、そして、格表示の主たる機能をする言語形式を「複合格助詞」といい、「に対して」「について」「において」などをそのなかに入れている。松木政恵と森田良幸(1989)¹³は『日本語表現文型』で永野の説に従って「複合辞」と呼んでいる。

⁹ 砂川有里子(1987)「複合助詞について」

¹⁰ 塚本秀樹(1990)「日本語と朝鮮語における複合格助詞について」

¹¹ 永野賢(1953)「表現文法の問題—複合辞の認定について—」

¹² 佐伯哲夫(1966)「複合格助詞について」

¹³ 森田良行・松田正恵(1989)『日本語表現文型』

以上のように、「後置詞」についてはかなり以前から注目され、研究が行われてきているが、その研究は十分に行われておらず、今まで確かな位置づけはなされていない。また学者によって、後置詞の分けかたが異なる。例えば、村木は「について」と「において」を後置詞化の進んだものとして、「に対して」「にとって」などを後置詞化の中間的のものとして、「にあたって」「に関して」などを後置詞の特徴はもっているが、後置詞化の進んでないものとして扱っているが、塚本は「について」と「において」などを後置詞化の中間的なものとして扱っており、「にとって」「をにおいて」などはかなり後置詞化の進んだものとして、「に関して」「に対して」などを後置詞化の進んでないものとして扱っている。

また、名称においては「後置詞」以外にも「複合助詞」「複合辞」「助詞相当連語」などと呼ばれているが、研究の流れを見れば、大きくは「後置詞」と「複合格助詞」に二分されている。

後置詞と複合助詞の相違点をみると、両者の違いは、名称だけでなく、その捉える単位体にある。例えば、「について」「において」「をもって」は、後置詞の場合は「(に) ついて」「(に) おいて」「(を) もって」の一線部分を後置詞とする。(に) (を) のような助詞を認めず、「くっつきのとりにつけ (agglutination)」という文法的な手続きによって作られる形とするため、それに続くものとして、後置詞を認めることになる。複合助詞の場合、「について」「において」「をもって」いずれも全体を複合助詞として認めている。このように、後置詞と複合助詞とではその指す単位体が基本的に異なるわけであるが、本稿では名称は、「後置詞」と呼ぶことにするが、内容の面では「について」「において」などの語全体を後置詞として認めることにする。それは、例えば、「結婚について話し合う」の場合、「について」が「結婚」と「話し合う」の間に入って働くとき、「について」全体のほうに意味の中心があるように思われるからである。

しかし、このような形態論的な面も無視できないが、それよりもその表現一つ一つの文法的な意味や機能を考察してみる方が、日本語教育においてももっと重要なことだと思われる。

3—2 韓国語

日本語の場合は後置詞の研究が以前から行われており後置詞を品詞の一つとして認めようとする動きがあるが、韓国語の場合はどうであろうか。

後置詞という用語は、元々フランスの宣教師によって書かれた『朝鮮語文法』(1881)で、「前置詞」として使われたものを、西洋語の言語学者である H. G. UNDERWOOD 博士 (1914)¹⁴が「後置詞」と呼んだのである。従って後置詞は『朝鮮語文法』の前置詞から由来したものである。H. G. UNDERWOOD は英語の前置詞に当たるすべてのものを後置詞とし、後置詞を Simple Postpositions (이, 가, 의, 을, 에서 など) Composite Postpositions (안희, 맞고, 아래 など) Verbal Postpositions (위하야, 인하야, 넘어 など) の三つに分けて分類している。それ以後、韓国語の研究に貢献した G. J. RAMSTEDT 博士 (1957)¹⁵は、西洋語の前置詞に当たる語の中で依存形態素の一部を「格語尾」といい、それ以外の語を後置詞として扱っている。また、H. G. UNDERWOOD の “Simple Postpositions” を格の変化とし、“Composite Postpositions” を “The Nominal Postpositions” とし、次のように分けている。

1) The Nominal Postpositions

안에/안으로, 앞에/앞으로, 아래, 위에, 속에/속으로, 끝, 같이
가지, 끼리, 중에, 과/와, 처럼, 데, 다음, 자리 など

2) The Verbal Postpositions

보다, 이다, 하고, 말고, 더브러, 가지, 당하야, 인하야, 대하야, 없이
너머, 나마, 부터, -께, 보아, 좇차 など

つまり、まず、G. J. RAMSTEDT が従来の「吐」(依存形態素)を曲用語尾 (Declensional suffix) と後置詞 (Postpositions) に分けて分類することにより、西洋のアルタイ語の研究者たちは、前置詞と後置詞はほぼ同じ機能をもつものとして扱ったのである。その後、韓国内の学者たちもこうした影響を受け、「吐」の中の格のみを表すものを格語尾 (Case ending) または格尾辞に、特殊「吐」を後置詞または接尾辞とし、韓国内では新しい学説として登場した。韓国内で後置詞の本格

¹⁴ H. G. UNDERWOOD (1914) 『An Introduction to the Korean spoken Language』

¹⁵ G. J. RAMSTEDT (1957) 『A Korean Grammar』

的な研究を行ったのは李承旭（1957）である。李承旭は西洋語の前置詞に当たる語のなかで主に副詞的な成分のものを後置詞といい、次のように分けている。

1) 基本的な Postpositions

-까지, -처럼, -더부러 などのような単純な形

2) 体言的な Postpositions

-때문에, 속, 밀 などのような曲用の形

3) 用言的な Postpositions

-부터 〈붙어 〈 붙 (着) 다, -다히 〈 -다비 〈 답(加)다 などの用言の語源的な形

李承旭は後置詞を不変化詞として規定し、単語、語節、文などの後につくもので依存の形ではないと述べている。また、後置詞の前後に格語尾が置かれるという点をみると、後置詞は体言に準じるものであると指摘している。

その4年前李崇寧(1953)¹⁶は後置詞を名詞への接尾辞として扱っている。李崇寧(1966)¹⁷はこれを細かく分類し、後置詞と名付けた。李崇寧は李承旭の説をもとにし、15世紀の後置詞を次のように細かく分けて説明している。

1) 与格: 그에形, 거기形, 기形

2) 在格: -애-서, -에-서, -의-서

3) 比較格: 두고, 도곤, 두곤

4) 同伴格: 더브리

5) 原因格: -을(를), -부터

6) 出格: -으로-부터, -로-부터

7) 造格、離格: -로-서, -으로-서

8) 処格: -게/-에

9) 如の意味: 다히

10) ある程度固定された状態または持続: 자히/차히/재

¹⁶ 李崇寧(1953) 「격의 독립품사 시비」

¹⁷ 李崇寧(1966) 「조사설정의 재검토- 특히 Postpositions, particle과 격과의 혼합설정에 의 의의를 중심으로-」

11) 「좃다」動詞の後置詞: -조초, -조처

李崇寧 (1966)は後置詞について、「後置詞とは、動詞の一つの活用形からその機能が一方的に固定されて後置詞として発達したもの」と述べている。このような後置詞は中世韓国語までは認められたが、現代韓国語に入ってから補助詞として扱っている。また高辛淑 (1987)¹⁸は次のようなものを「後置詞的単語」になる可能性が高いとしながらも、品詞の分類上動詞項目(補助動詞)に入れている。

-에 관하여/-에 관한, -에 즈음하여/-에 즈음한, -에 의하여/-에 의한
-에 반하여/ -에 반한, -에 대하여/-에 대한, -에 기초하여/-에 기초한
-을 비롯하여/-을 비롯한, -을 향하여/-을 향한, -을 통하여/-을 통한
-을 위하여/-을 위한
-로 인하여/-로 인한, -로 말미암아/-로 말미암은
-에 (도) 불구하고/-에 (도) 불문하고

高辛淑(1987)はこの部類の補助的な動詞は後置詞的な機能は持っているが、まだ過渡期的な状態にあるため、後置詞独自の機能は認められないとしている。安周鎬(1994)¹⁹では、後置詞の中でも動詞から派生した語を中心に考察する中で、後置詞を「後置詞的単語」と呼んでいる。そして、「後置詞的単語」とは、助詞として認めるには語彙的な意味がある程度残っており、文法的機能だけを持つものでもなく、語彙的な意味を完全にもつ自立的な動詞として扱うためには、活用に制限があり、元の語の意味と距離のある形態を表すとしている。そして、これらは独立した品詞としては認められないが、文法化の段階を説明するには一つの単位として扱うのが適当であり、これらを便宜上「後置詞類」と呼んで次のように分けている。

- 1) 共存段階 : -더브러, -에게
- 2) 分化段階 : -가지고, -보고, -두고, -놓고
- 3) 特定化段階: -나아, -부터, -서, -조차, -마저

¹⁸ 高辛淑 (1987) 『조선어 리문법(품사론)』

¹⁹ 안주호(1994) 「동사에서 파생된 이른바 후치사류의 문법화 연구」

- 4) 維持段階: -께서, -와 더불어
- 5) 脱範疇化段階: -더러, -다가
- 6) その他の文法化の初期段階
 - (1)-로: -로 인하여(인한), -로 말미암아(말미암은), -로 하여(해)
 - (2)-에: -에 관하여(관한), -에 반하여(반한), -에 의하여(의한)
-에 대하여(대한)

南基心(1993)²⁰は、6)の(2)は中世韓国語にはあまり見られない形で、近代韓国語の後期に入ってから現れるようになったと述べている。これらは漢字語に「하다(する)」がついて用いられるもので、このような形態素は文の中で述語としての機能はなくなり、「名詞+에(e)格」の形で用いられ、特定の形以外には活用不可能なので、このような種類の表現は文法化の初期段階で後置詞的単語と認められると指摘している。この他にも洪思満(1976)²¹は 助詞は依存形式として扱っており、後置詞は準自立形式の依存名詞と近い語として扱っている。つまり、後置詞は格標識とは無関係であるといい、後置詞を助詞の下位分類ではなく、接尾辞の下位分類として扱うべきであると指摘している。柳龜相(1983)²²は格と後置詞を同一に扱うべきものであるといい、後置詞は前後に格をもっているので複合格と同じであると指摘している。李嬉子(1995)²³はこれらを「固定された語彙の形、またはごく制限された活用の形として表れる語彙論的な現象」といい、「形態的な連語」と呼んでいる。

以上述べてきたように、韓国語の場合、後置詞についての研究はかなり以前から行われてはいるが、後置詞の由来や分類などの全般的な流れの把握など文法的な立場から論じられてきたが、後置詞として認めていてもその定義は学者によって異なっている。また、現代語を研究対象にした場合、後置詞を補助詞の一つとして扱っているため後置詞研究が遅れているのが現状である。遅れる理由の一つとして、例えば、「에 대하여(e daehayeo) (について、に対して)」「에 관하여(e gwanhayeo)

²⁰ 남기심 (1993) 『국어조사의 용법』

²¹ 洪思満 (1976) 「國語 Postpositions의 下位 分類」

²² 유구상 (1983) 『國語의 後置詞』

²³ 李嬉子 (1995) 「한국 국어 관용구의 결합 관계 고찰」

o) (について、に関して)」のような語は、南基心が指摘した通り、近代韓国語の後期に入ってから現れるようになった語であるが、韓国人の日本語学習者が日本語を勉強するときのみ起こる問題であるため、韓国ではこれらの表現があまり問題視されない。しかし日本語を勉強する学習者が増えるにつれ、翻訳や通訳の際にこれらの表現が問題として取りあげられるようになってきた。

以上、日本語と韓国語における後置詞の先行研究について考察した。両言語いずれも「後置詞」についての研究は以前から行われている。しかし、後置詞と認める範囲も立場も異なっている。両言語とも最初は西欧語の前置詞からの影響を受けて発達しているが、日本語の場合は後置詞を一つの品詞として認めるべきであるという声が高いが、韓国語の場合は、むしろ現代語に入ってからそのような動きは小さくなっている。韓国語の場合、後置詞というのは、詞らしい辞を、つまり、例えば「에 대하여(e daehayeo) (について、に対して)」は、もとの動詞「對하다 (対する)」とはつながりを持っているが、元の語の意味は薄くなり、その動詞が機能化(特殊化)、文法化、意味単位化されたものを表していると思われる。日本語も韓国語も後置詞は元の語とは繋がりを持つ(後置詞によって異なる)が元の語とは異なる意味・機能を持つものであるという共通点をもっているので、本論では日本語と同じように名称は後置詞とし、内容の面では、「에 대하여(e daehayeo)」「에 관하여(e gwanhayeo)」などの語全体を後置詞として認めることにする。先にも触れたが、両言語において後置詞としての位置づけも重要であるが、それよりも日本語教育の立場から考えてみると、後置詞とそうでないもののように形態的に分析するよりも、その文全体に関わる文法的な意味・機能を考察することが重要であると思われる。

本稿で扱う「について」「に関して」「に対して」は後置詞の中でも外国人の日本語学習者にとって、それぞれの用法の違いを理解するのが非常に難しい。それは、元の動詞「つく」「関する」「対する」が後置詞化したものであるが、いずれも行為者と対象物(対象)の関わり方を表しているという関係的な意味が類似しているため、混同が起りやすいからであると思われる。特に、これらの表現は韓国語の場合、「について」と「に関して」は「에 대하여(e daehayeo)」「에 관하여(e gwanhayeo)」に、「に対して」は「에 대하여(e daehayeo)」に対応しているの

で、その正しい使い分けはますます困難になる。これらの表現の語彙的な意味の違いを意味論的な観点から考察を行うことにする。

第2章 先行研究

1. 日本語における先行研究

先にも触れたように「後置詞」については、今までは主に文法的な位置付けという観点から研究が進められてきた。意味論的な観点からの研究は、最近に入ってから進められるようになった。その理由は、日本語を勉強する留学生が増えるにつれ、このような後置詞の使い分けを明確に説明する必要があったからだと思われる。本論では、後置詞の中でも特に、韓国語と意味上のずれの生じる「について」「に関して」「に対して」を中心に先行研究を考察した上で、これらの語に対応する「에 대하여(e daehayeo)」「에 관하여(e gwanhayeo)」についての先行研究を考察してみる。

1-1 「について」「に関して」「に対して」

まず、身近にある辞書で「について」「に関して」「に対して」について調べると次のようである。

1. 『日本国語大辞典』²⁴

- ・蟻は、吾等の、常に見る虫にして、別に珍しからねども、此虫に就きては、種々の面白き話しあり（第9巻p. 295）
- ・美学者迷亭君のことに関して居るらしい（第3巻p. 1313）
- ・東にて威勢をなすとも西の方蜀に對(たい)しては入日の如く（第8巻p. 681）
「つく（付・着・就・即・憑）」
(1) あるものと他のものとのすきまがなくなる。離れない状態になる。
①接触する。また、触れそうに近づく。

²⁴ 『日本国語大辞典』（第2版、2001）、「つく」は第9巻、p. 294～295、「関する」は第3巻、p. 1313、「対する」は第8巻、p. 681参照

- ②くっついて離れない状態になる。付着する。
 - ③色、よごれ、傷など、何か行った跡が残る。
 - ④連歌や俳句で、前の句と後の句とがうまく連関する。
- (2) ある人、物事などに従う。
- ①ある人に心を寄せる。その言葉に従う。また、従い学ぶ。
 - ②あとに続いてゆく。ある人、物のそばに添う。つき添う
 - ③対立するものの一方に加わる。味方をする。など
- (3) ある気持、力、作用などがはたらく。
- ①ある気持になる。
 - ②力、知恵などが加わる。
 - ③病気になる。など
- (4) ある定まった状態になる。
- ①性質や状態としてそのものにそなわる。
 - ②名前、値段などが定められる。
 - ③ある状態に落ち着く。など
- (5) ある地位、場所などに身を置く。
- ①進んで行ってある場所に至る。
 - ②ある地位、特に帝位にのぼる。
 - ③座をしめる。ある場所にすわる。など
- (6) 「…につき」「…につきて」「…について」などの形で用いる。
- ①…に関する。— つき（就）
 - ②…の理由による。— つき（就）
 - ③…を単位とする。— つき（就）

「かんする（関）」

- (1) かかわる、たずさわる、関係する。

「たいする（対）」

- ①他のものに向かって位置する。互いに向かいあう。また、ある対象に向かう。
- ②応じる。こたえる。
- ③敵として相手に向かう。相手になって争う。抵抗する。敵対する。当たる。
- ④対（つい）になる。並ぶ。
- ⑤あれとこれとを比べ見る。対比する。対照する。

2. 『大辞林』²⁵

- ・ 政治情勢について討論する (p. 1602)
- ・ 政治に関して発言する (p. 549)
- ・ 会議に対する要求 (p. 1444)

ただいまの発表に対する質問を受け付けます。 (p. 1444)

「つく (就く)」

- ①ある位置に身を置く。
- ②ある職業、仕事に従事する。
- ③ (床につくの形で) 寝る、就寝する。
- ④巢にこもる。
- ⑤ある行程に身を置く。
- ⑥あるものに沿う。
- ⑦ある人に従って、教えを受ける。
- ⑧対立するものの一方に加わる。味方をする。
- ⑨連用形やこれに助詞のついた形で用いる。
 - ア. 実際にそれにあたる。
 - イ. 「につき」の形で理由を述べる。
 - ウ. 説明の対象を示す。に関して。
 - エ. 「その単位あたり」の意をあらわす。に対して。

「かんする (関する)」

- ①ある物事にかかわりをもつ。関係する。かかわる。

「たいする (対する)」

- ①二つの物が向かいあう。
- ②対象となる。相手となる。
- ③人と応対する。
- ④一対になる。対照される。
- ⑤敵として当たる。対抗する。
- ⑥かかわる。関する。

²⁵ 松村明編、『大辞林』²⁵ (第2版、1988)、「つく」p. 1602、「関する」p. 549、「対する」p. 1444参照

以上、身近で使っている辞書2冊で調べた結果は、いずれも「について」は元の動詞「つく」とは異なる意味・機能をもつものとして扱っているが、「に関して」と「に対する」は元の動詞「関する」「対する」と同じ意味・機能をもつものとして扱われている。つまり、「について」は独自の意味・機能をもつものとして扱われているが、「に関して」と「に対して」はそうでないことが分かった。それでは、仁田(1982)²⁶ではどのように扱われているかを調べてみる。

「について」

(1) 動作や状態等が向けられる対象となる事柄を表す。

- ・日本文法について本を書く。
- ・平和について話し合う。

(2) 割合を表す。

- ・子供一人について手当てが5000円出る。

(3) 「につき」の形で、理由を表す。

- ・本日定休日につき休業させていただきます。

連体格の用法として、「についての」があり、また、丁寧体として「につきまして」がある。

「に関して」

(1) 動作や状態等が取り扱ったり関係を有したりするところの事柄や内容を表す。

- ・フランスの革命に関して本を書く。
- ・その意見に関して意見がある。

連体格の用法として、「に関しての」と「に関する」とがあり、また、丁寧体として「関しまして」がある。

「に対して」

(1) 動作が向けられる対象や目標を表す。

- ・質問に対して答える。

²⁶ 仁田義雄(1982)『日本語教育辞典』「第4章語法各説」p.395参照

・教師に対して反抗する子供たち。

(2) 割合を表す。

・子供一人に対して手当てが3000円出る。

(1) と (2) は「に」格とほぼ置き換え得る。連体格として、「に対しての」と「に対する」とがある。また、丁寧体として「に対しまして」がある。また、(1) の「質問に対して答える。」は「質問について答える。」ともいえるが、「教師に対して反抗する子供たち。」は「教師について反抗する子供たち。」とはいえない。

以上、一般の辞書よりは、「について」「に関して」「に対して」について元の動詞「つく」「関する」「対する」とは意味・機能が異なる表現として認めているのが分かる。しかし、上の説明では、これらの表現の使い分けがよく分からない。例えば、(1) の「質問に対して答える。」の場合、「質問について答える。」ともいえると言っているが、この説明だけでは「について」と「に対して」が全く同じ意味で使われるのか、それとも意味には多少差があるのか、差があるとしたら、どのような差があるのか、ということがよく分からない。森田良行・松田恵(1989)²⁷『日本語表現文型』では、「について」「に関して」「に対して」を対象・関連を示す語として捉え、次のように述べている。

「について」は、動詞「つく」の“本来関係のなかった事物が他の事物に接触して離れない状態になる”という性格を引きついでいるため、対象との緊密度が強く、対象を指示するだけでなく、それと限定する意識がある。「に関する」はその字義通り“かかわりをもつ”程度なので、対象との関連性を明示するにとどまる。従って、

a その写真について懐かしい思い出がある。

b その写真に関して懐かしい思い出がある。

を比較した場合、aは写真そのものにまつわる思い出(例えば、写真の所有者、所有状況についてのエピソードなど)を、bは写真と関連して思い出した状況(例えば、写真を撮った人物・場所・時間やその場所の雰囲気など)をとらえていることになる。

²⁷ 森田良行・松田恵(1989)『日本語表現文型』p.7~11参照

「に（へ）対し（て）」は、動作や感情が向けられる対象を指示する機能を果たす。動詞「対する」の“他のものに向かう、応じる”意を引くつぐため、目標を示すといった方向性や、相対する人物・事物への反作用性などが示唆されることが多い。例えば、

- a 息子について説明する。
- b 息子に対して説明する。

a・bのように同じ「息子」を受けても、aでは「説明する内容は息子のことである」の意味で「息子について」は対格（目的格）となり、bでは、「説明する相手は息子である」の意味で「息子に対して」は与格となるのである。つまり、「について」は対象と密着することから、格助詞「を」と置き換え可能であり、「に対して」は対象と離れた地点に立つことから、ほぼ格助詞「に」と置き換え可能である。

以上で、「について」「に関して」「に対して」を対象・関連を示す語として捉え、「について」はもとの動詞の一部分の意味を引きつぐものとして、「に関して」「に対して」は、もとの動詞の意味をそのまま引きつぐものとして、それぞれ後置詞としての用法をもつ語であると述べている。

塚本秀樹（1991）²⁸は、従来の格助詞についての研究は単一の格助詞についてばかりであって、複合格助詞については殆ど分析が行われていないことを指摘し、複合格助詞に焦点を当て、形態・統語・意味に分けて次のように述べている。

まず形態特徴として、複合格助詞の種類は次の二つに大別される。

(ア) 動詞の連用形の「て」が付着した形態（いわゆる「て」形）

- a ～において、～について、～に当たって、～に際して、～に関して、
～に対して、～にとって、～にわたって、～によって
- b ～をおいて、～を指して、～をして、～を目指して、～をもって
- c ～でもって
- d ～として

(イ) 連体格助詞（つまり「の」）或いは連用格助詞にかなり形式化した名詞が続き、またそのうしろに単一の連用格助詞がきたもの

²⁸ 塚本秀樹(1991)「日本語における複合格助詞について」p. 78～94参照

- a ~のために、~のくせに、~のおかげで、~のせいで
- b ~といっしょに、~とともに

本稿における考察の対象となるのは、主として（ア）の方であるが、それらの複合格助詞の中に動詞が含まれているという解釈するための根拠が二点挙げられる。

一つは、動詞の格支配の特徴を受け継いでいる。という点である。例えば、「~について」や「~に当たって」は、「つく」「当たる」が着点を合意する動詞であるおかげで「に」が現れ、また「をもって」において「を」が登場するのは、「もつ」が対象を要求する動詞であって、その反映のためである。こういったことは、すべてのすべての複合格助詞に解答該当するとは限らない。

もう一つは、丁寧語形式に取って代わることがある。という点である。「~につきまして」「~におきまして」「~にあたりまして」「~をもちまして」「~としまして」といったように、動詞に付着する丁寧語形式「ます」を用いて表現することができる。

単なる格助詞に動詞のテ形が接続しているのではない、と解すべき根拠が三点指摘できる。一つは、係助詞、副助詞などを挿入することができない。という点である。例えば、「*~におきまして、*~におもおいて、*~にさえおいて」「*~をはもって、*~をももって、*~をさえもって」のように、単一の格助詞で表示された補語の部分のみを「は」「も」「さえ」などで取り立てることは不可能である。

二点目として、動詞部分の表記の違いが挙げられる。〈付着〉〈到着〉という実質的な意味を有する場合には、「~に付いて」や「~に着いて」のように動詞部分を漢字で表記することが多いが、複合格助詞として使用される場合には、「~について」のようにひらがなで表記するのが普通である。

三つ目に挙げられるのは、朝鮮語に見出せるが、日本語のは見当たらない、与格の現れ方の現象である。朝鮮語では、一般の文における与格は、その前に立つ名詞類が生物か無生物かで異なった形態のものが使われる。ところが、複合格助詞の中に含まれている与格は、その前に生物の名詞類が来ようと、無生物の名詞類が来ようと、同一の形態のものが使われる。これについては、塚本（1990）²⁹に詳しく述べておいたので、それを参照して頂ければありがたい。

複合格助詞の連体表現には、（ア）連体格助詞の「の」を付加する方法〔（例）~に関しての〕と、（イ）動詞部分を連体形にする方法〔（例）~に関する〕の2種類がある。例には、今たまたま、（ア）（イ）両方の可能な「~に関しての」を挙げたが、種々の複合格助

²⁹ 塚本秀樹（1990）「日本語と朝鮮語における複合格助詞について」p. 647～648参照
または、「3日・韓対照研究における先行研究」のところで詳しく説明している。

詞について観察してみると、複合格助詞によっては、(ア) (イ) とともに成り立つとは限らないことがわかる。その成立状況をまとめると次のようになる。

①「ての」形と連体形の両方が可能なもの

〔(例) ～に関して、～に対して、～によって、など〕

②「ての」形は可能であるが、連体形は不可能なもの

〔(例) ～について、～にとって、など〕

③連体形は可能であるが、「ての」形が不可能なもの、というのは見当たらない。

統語的な特徴として、まず、いくつかの複合格助詞は単一の格助詞に置き換えられる場合が多いということである。複合格助詞と単一の格助詞との交替現象としては、例えば、「～について」「～に関して」と「を」、「～に対して」と「に」、「～によって」と「に」などが挙げられる。次は、ある補語がある動詞にとって必須的であるか(つまり、ある動詞のある補語に対する要求度が高いのか)、副次的であるか(つまり、その要求度が低いのか)、といった動詞の結合価に関する問題を取り上げる。

寺村秀夫(1982: 179-185)は、どのような述語にとっても副次的であるとする補語を14種類挙げており、「～によって」「～に対して」「～につれて」「～に関して」「～にとって」「～について」「～として」「～とともに」といった複合格助詞で表示された補語も、その中の一つに含まれている。しかし、その複合格助詞の何種類かが、それが取る述語によっては必須補語と見なすべき場合があることを本稿では主張する。例えば、

- a. 容疑者が警察の尋問に対して答えた。
- b. 会社側が大学新卒者の採用に関して説明した。
- c. 生徒達は将来の夢について語り合った。

a. b. c. においては、複合格助詞で表示された補語の部分、つまり「警察の尋問に対して」「大学新卒者の採用に関して」「将来の夢について」を取り除くと、談話構造上、何か情報伝達不足の感じが非常に強い。

このように「警察の尋問に対して」は動詞「答える」に、「大学新卒者の採用に関して」は動詞「説明する」に、「将来の夢について」は動詞「語り合う」によって、それぞれ強く必要とされており、従って、「に対して」で表示された補語は、「答える」に、「について」「に関して」で表示された補語は「説明する」「語り合う」という動詞にとっては必須補語と見なさなければならない。こう言えるのは「に対して」が必須補語を形成する「に」格と置き換え

可能であり、「について」「に関して」は「を」格と置き換え可能であるからである。つまり、複合格助詞で表示された補語を、いかなる述語にとっても副次補語とする寺村（1982）の記述に対して、それらは必ずしもすべてが副次的であるわけではなく、「～に対して」「～に関して」「～について」のようないくつかの複合格助詞は、ある種の動詞にとっては必須補的、あるいは必須性の高い補語を成り立たせる。ということを論証した。

意味的な特徴としては、「内容性」といった特性をもってその使い分けを調べることが出来る。例えば、例文bcを「を」格と置き換えた場合、bはcに比べて不自然である。これは「に関して」「について」に前置されている名詞類の「内容性」といった特性に解答が求められる。bの「採用」はcの「夢」より「内容性」といった特性が非常に弱い名詞類である。つまり、必須補語と判断される場合において、前置される名詞類が有する「内容性」といった特性が強いと「について」「に関して」と単一の格助詞「を」のどちらでも用いることができる。しかし、その特性が弱いと、「について」「に関して」は使えるが、「を」は使えない。従って、複合格助詞は、前項部分名詞類が持つ何らかの特性が弱くても、動詞部分の意味がその特性を補い、強化することによって、使用が可能になる機能を有している、と言える。

以上のように、塚本は後置詞の機能を格助詞との関係から説明している。

まず、統語的な特徴として、複合格助詞と単一の格助詞との交替現象を挙げており、またある補語がある動詞にとって必須的であるか副次的かであるかといった動詞の結合価に関する問題を取り上げている。しかし、必須補語と副次補語との区別の基準が定かではないということが言える。定かでない基準をもって、各語の関係について述べるのは難しい。次に、意味的な特徴の場合、内容性が強いか弱いかの判断が曖昧であることが指摘できる。塚本の説については、本稿の第3章で詳しく考察する。また形態的な特徴の中で、与格のことは第4章で考察する。

また、佐藤尚子（1989）³⁰は、「について」「に対して」を用いて後置詞の機能を考察している。佐藤は「について」と「に対して」の用法上の差異を次のように述べている。

「について」はもとになった動詞『つく』の意味からはなれてしまい、「テーマ」の提示という「について」だけが持つ用法を確立している。しかし、「に対して」は独自の用法を確立

³⁰ 佐藤尚子(1989)「現代日本語の後置詞について－『～について』と『～に対して』を例として－」p. 35～44参照

しているが、その独自の意味はもとの動詞『対する』がもつ語彙的な意味とのつながりが濃い。

つまり、佐藤は「について」は「テーマ」、「に対して」は「態度の対象」と「関係の明確化」の用法を持っていると述べている。

坂井厚子（1992）³¹は、日本語教育上後置詞の使い分けを明確にするために「について」「に対して」を用いて、意味論的な観点からの考察を試みた。坂井はこの二つに共起する動詞の意味的特徴という観点から「について」「に対して」について次のように述べている。

「について」は、対象物に対する行為者の知覚、見解をあらわす動詞と共起しやすい。

「について」は行為者が、対象物の具体的な内容を様々な観点からうけとめる、という意味をもつ。行為者は対象物に対し、積極的に関わりをもとうとし、二者の関わり方は密接である。

「に対して」は、行為者の、対象物への一定の態度、感情をあらわす動詞(形容詞、形容動詞)と共起しやすい。行為者と対象物の間には一定の距離がおかれ、両者の関係が対向・攻撃的となる場合もある。また、対象物は全体としてひとつのものとしてとらえられている。

この他にも蔦原伊都子(1984)³²は、「について」を用いて後置詞の用法を述べている。

2. 韓国語における先行研究

第1章のところで触れたように「에 대하여(e daehayeo)」「에 관하여(e gwanhayeo)」の使い分けについての研究は全然行われていない。この二つの表現は日本語と韓国語の間の意味上に生じる問題であるので、特に韓国人の日本語学習者が日本語を勉強するときのみ起こる問題であるため、韓国内では今まではこれらの表現があまり問題視されなかった。しかし、日本語を勉強する学生や、韓国語を勉強する日本人の学習者が増えるにつれ、また、翻訳や通訳の際にこれらの表現が

³¹ 坂井厚子(1992)「『～について』『～に対して』の意味・用法をめぐって」p. 139～152参照

³² 蔦原伊都子(1984)「～について」p. 73～77参照

問題として取り上げられるようになった。それで、金仙姫（2005）³³で、この二つの表現の実際の使い分けを調べるために、韓国語がかなりできる日本人24人（韓国に来て5年以上経っている人を中心）と、日本語を専門としている人、またはかなり日本語ができる韓国人24人と、韓国語が専門である人、または日本語が全然できない韓国人24人を対象に、文献からとった用例を用いて、アンケート調査を行った。インフォーマントは、日本人は主として昌原とソウルに住んでいる人で、大学で日本語を教えている人が多い。韓国人は主として昌原と馬山に住んでいる人で、大学や高校で教えている人が多い。設問は韓国語で28項目あげてアンケート調査を行った。アンケートの対象者を高学歴にした理由は、「에 대하여(e daehayeo)」「에 관하여(e gwanhayeo)」は、韓国語学習の中級段階に入るとぶつかる問題であり、文法の一つの項目として扱うものではなく、自ら論文を書いたり、本を読んだりする際の問題であるため、かなり語学力が必要であると思われたからである。調査の結果、まず、日本人の場合は、日本語の影響をかなり受ける傾向が見られた。

つまり、「에 대하여(e daehayeo)」「에 관하여(e gwanhayeo)」の使い分けについては大体は日本語の表現をそのまま対応して使っている傾向が見られた。次に日本語をかなり勉強している韓国人の場合は、日本語の影響を受けている部分とそうでない部分が分かれる傾向が見られた。最後に韓国語が専門である韓国人の場合は、若い人のほうが二つの表現の連用表現のうち省略表現である「에 대해(e daehae)」「에 관해(e gwanhae)」を多く使う傾向が見られた。これは若い人のほうに話し言葉が用いられやすくなっているからであると思われる。また二つの表現についても個人差が見られた。以上のようにこの二つの表現は、学校での教育課程の中に入っていないので、外国人はもちろん韓国人さえも、その使い分けが微妙である。金仙姫（2005）のアンケート調査の結果については、第5章の各表現の連体表現の差異について考察するとき詳しく述べることにする。

3. 日・韓対照研究における先行研究

³³ 金仙姫（2005）「後置詞『에 대해서』『에 관해서』の意味・用法をめぐって—実際の使用状況の調査を中心に—」 p. 1~22参照

「について」「に関して」「に対して」について韓国語との対照研究を試みる唯一の研究者として塚本(1990)が挙げられる。塚本(1990)³⁴では、塚本(1987a、1987b)の、日本語における複合格助詞の考察を踏まえ、韓国語における複合格助詞を形態、統語、意味の側面から分析し、その3部分の相関関係に言及するところで、「について」「に関して」「に対して」と韓国語「에 대하여(e daehayeo)」「에 관하여(e gwanhayeo)」との意味上のずれについて触れている。以下は、塚本の言葉を適宜利用して、筆者なりにまとめてみたものである。

まず、朝鮮語における複合格助詞は、形態的な面からみると、日本語におけるのと同様に、ア)の動詞形にseが付着した形態が単一の連用格助詞に後続したものと、イ)の連体格助詞にかなり形式化した名詞がつづき、またその後に単一の連用の格助詞がきたものと連用格助詞の後に副詞的な要素が置かれたもの、の二つに大別される。複合格助詞の種類には次のようなものがあげられる。

- ア) a ~ey tayhayse (～に対して、～について)
- ~ey kwanhayse (～に関して、～について)
- ~ey uyhayse (～によって)
- ~ey issese (～にあって、～において)
- ~ey chehayse (～に際して)
- ~ey cuumhayse(～に際して、～に当たって)
- b ~lul/ul wihayse (～のために〔目的〕)
- c ~lo/ulo inhayse (～によって〔原因〕)
- イ) a ~ttaymum-ey (～のために〔理由・原因〕)
- ~tekpun-ey (～のおかげで)
- ~thas-ulo (～のせいで)
- b ~wa/kwa kathi (～といっしょに、～とともに)
- ~wa/kwa hamkey (～といっしょに、～とともに)

「~ ey tayhayse」「~ey kwanhayse」はア)に当てはまる。また「~ eytayhayse」(～に対して、～について)は、日本語と同じように動詞の格支配の特徴を受け継いで

³⁴ 塚本秀樹(1990)「日本語と朝鮮語における複合格助詞について」p. 75~95参照

いる。例えば、tayhata（対する）が対抗・対応する相手・事物を含意する動詞であるために、
～eyという補語が表れるのである。例えば、

- (1) a. tam{～ey/*～eykey}puticchia（塀にぶつかる。）。
b. sensayngnim{*～ey/～eykey}sangtamhata（先生に相談する。）。

tam（塀）は無性物の名詞であるから、後続する与格はeyが用いられ、eykeyの方は不可能であるのに対して、生物の名詞であるsensayngnim（先生）の場合には、後続が許される与格はeyではなく、eykeyである。ところが、複合格助詞の中にふくまれている与格は、今述べた一般の文の場合と異なった現われ方をする。

- (2) a. tam{～ey/*～eykey}kwanhayse ; tayhayse ; uyhayse
（塀に関して、ついて；対して、ついて；よって）
b. sensayngnim{～ey/*～eykey} kwanhayse ; tayhayse ; uyhayse
（先生に関して、ついて；対して、ついて；よって）

代表的な複合格助詞の例として「kwanhayse、tayhayse、 uyhayse」をあげたが、この場合、前にたつ名詞類が生物・無生物という特性の違いに関係なく、eyが現われる、というようにいえる。このようなふるまいは、複合格助詞が語句としてかなり形式化していると判断するための証拠の一つに繋がっていくと思われる。

統語的特徴としては、いくつかの複合格助詞と単一の格助詞の交替現象から見られる。動詞の結合価から必須補語、副次補語にわけて、格助詞と置き換え可能な場合は必須補語、置き換え不可能な場合は副次補語としている。例えば、

- (3) Yonguyca-ka kyengchal-uy sinmun{～ey tayhayse/～ey}
taytaphayssta.（容疑者が警察の尋問{に対して/に}答えた。）
(4) Cwmintul-un kyengchal{～ey tayhayse/*～ey}hyeplyek-ul akki-ci anhassta.（住民達は警察{に対して/*に}協力を惜しまなかった。）
(5) Haksayngtul-un canglay-uy kkwum{～ey kwanhayse, ～ey tayhayse-ul}
selo iyaskihayssta.（学生達は将来の夢{に関して、について/を}話し合った。）
(6) Hoysachuk-i tayhakkyo colepca-uy chayyong{～ey kwanhayse, ～eytayhayse *-ul}selmyeng-hayssta.（会社側が大学卒業者の採用{に関して、について/*を}説明した。）

意味的特徴としては、まず、意味領域のずれによって「向かい合う」を表す場合は、「～に対して」と「～ey tayhayse」両方可能であるが、「かかわり」を表す場合は、「～ey tayhayse」が可能であるのに対して、「～に対して」は認められない。

つまり、「～に対して」は常に、中にふくまれた漢語「対」の原義「向かい合う」を表す場合にしか用いられない。一方、「～ey tayhayse」は、「～に対して」と同様に、含意する漢語tay [=対] の原義「向かい合う」を表す場合に用いられるばかりではなく原義から少しはなれた「かかわり」を表す場合にも使用が可能である。

次に「内容性」といった特徴をもって、内容性が強いと「～ey kwanhayse」、「～ey tayhayse」と格助詞「lul/ul」どちらも可能であるが、内容性が低いと、「～ey kwanhayse」、「～ey tayhayse」は使えるが、格助詞「lul/ul」は使えない。

以上、塚本は日本語における後置詞「に対して」「について」「に関して」の考察を踏まえ、韓国語における後置詞「에 대하여(e daehayeo)」「에 관하여(e gwanhayeo)」との意味上のずれについて述べている。塚本は韓国語を日本語の判断基準に合わせて考察しているため、その基準が定かであるとはいえない。これに関しては本稿の第4章で詳しく考察してみる。

4. まとめ

以上、日本語と韓国語との間に意味上のずれの生じる後置詞「に対して」「について」「に関して」と、それに対応する「에 대하여(e daehayeo)」類「에 관하여(e gwanhayeo)」類について先行研究を調べてみた。

まず、日本語の場合、一般の辞書では、「について」のみ後置詞としての機能をもつものとして扱っているが、仁田義雄（1982）では「について」「に関して」「に対して」を元の動詞「つく」「関する」「対する」とは意味・機能が異なる表現として扱っている。しかし、仁田は三つの語を後置詞として認めているだけで、その使い分けについては詳しく触れていない。後置詞の役割について本格的に研究したものには、塚本秀樹（1989）と佐藤尚子（1989）と森田良行・松田恵（1989）が挙げられる。塚本は後置詞の機能を格助詞との関係から説明しているが、使っている用語の定義が非常に抽象的である。例えば、「内容性」が強い、弱いとの関係

で後置詞と格助詞の使い分けを判断しているが、判断の基準が曖昧であるといえる。佐藤は後置詞の機能を「について」「に対して」を用いて、「について」は「テーマ」、「に対して」は「態度の対象」と「関係の明確化」の用法を持っていると述べている。森田・松田は「について」「に関して」「に対して」を対象・関連を示す語として捉え、「について」はもとの動詞の一部分の意味を引きつぐものとして、「に関して」「に対して」は、もとの動詞の意味をそのまま引きつぐものとして、それぞれ後置詞としての用法をもつ語であると述べている。また、日本語教育上後置詞の使い分けを明確に説明するために、意味論的な観点から考察したのは坂井厚子(1992)である。

坂井は「について」「に対して」についてこの二つに共起する動詞の意味的特徴という観点から考察している。

今までの研究では、「について」はかなり後置詞としての機能を果たす語として扱われており、「に対して」は元の動詞との繋がり濃いものの、後置詞としての機能を果たすものとして扱われている。しかし、「に関して」は後置詞としての機能はもつが、元の動詞の意味をそのまま引きつぐものとして、または「について」とほぼ同じ機能をもつものとして扱われている。本稿では「に関して」を「について」とほぼ同じ機能をもつものとして扱うべきかどうか、または「について」が「に関して」を大部分代用しているのかも含めて考察してみる。

次に、韓国語の場合は、「에 대하여(e daehayeo)」類「에 관하여(e gwanhayeo)」類についての研究は殆ど見当たらない。もともとこれらは日本語と韓国語の意味上のずれによって生じる問題であり、外国語として日本語と韓国語を勉強する際、生じる問題であるので、韓国内ではあまり問題視されなかった。しかし、日本語を勉強する学生や、韓国語を勉強する日本人の学習者が増えるにつれ、また、翻訳や通訳の際にこれらの表現が問題として取り上げられるようになった。またこの二つの表現は、実際の使用状況を調べた結果でも、外国人はもちろん韓国語を専門とした韓国人さえも、その使い分けが微妙である。また、日本語の場合の一つの文法項目として学校での教育課程の中にも入っているが³⁵、韓国語の場合そういう教育は一

³⁵ 基礎日本語の時間に教えている。友松悦子他(1996)『どんな時どう使う日本語表現文型500』

切行われていない。韓国で出版されているいろいろな種類の本や雑誌などでは、「에 대하여(e daehayeo)」類は多く使われているが、「에 관하여(e gwanhayeo)」類は殆ど使われていない傾向が見られる。その上に、「에 대하여(e daehayeo)」類「에 관하여(e gwanhayeo)」類と日本語との対照研究も、韓国人研究者によって行われるのではなく、日本人研究者の塚本秀樹（1990）によって初めて行われた。塚本は日本語における後置詞「に対して」「について」「に関して」の考察を踏まえ、韓国語における後置詞「에 대하여(e daehayeo)」類「에 관하여(e gwanhayeo)」類を形態・統語・意味に分けて考察している。塚本は韓国語を日本語の判断基準に合わせて考察しているので、その基準が定かであるとはいいがたい。

そこで、本稿は今までの諸研究成果を踏まえた上で、もっと新たな立場から両言語の後置詞を考察し、両言語における後置詞の共通点や相違点、また格助詞との関わりなどといった後置詞の諸問題を明らかにしたいと思う。

アルク（p. 17参照）にも扱われている。

第3章 日本語後置詞分析

1. 研究対象および方法

後置詞の機能について調べてみるうちにいろんな問題点が現れた。まず、後置詞「について」「に対して」がもとの動詞「つく」「対する」とは異なって、独自の用法を確立しているが、日本語の教育においてその位置づけがなされていないことである。二つ目には後置詞の使われる頻度について考えなければならないということである。三つ目は後置詞と格助詞の関係についてである。四つ目には、後置詞と文体との関係である。この他にも問題点は沢山あると思われるが、とりあえず、この四つの大きい問題を頭に入れて、後置詞「について」「に関して」「に対して」のそれぞれの用法を考察する。なお、後置詞「について」「に関して」「に対して」の用法の分析を行うに当たっては、『日本語語彙体系5 構文体系』（岩波書店、1998年）、と、『日本語文法・連語論（資料編）』（むぎ書房、1983年）、の中の奥田精雄の「を格の名詞と動詞のくみあわせ」「を格のかたちをとる名詞と動詞とのくみあわせ」「に格のかたちをとる名詞と動詞のくみあわせ」を主に参考にする。

まず、後置詞と文体との関係や頻度について調べてみる。後置詞と文体とが密接な関係を持っているということは従来の研究にも見られる。また、作家や作品の内容によって後置詞に差が出てくる。どのような場合にどのぐらいの頻度で使われるのかを調べるために、「について」「に関して」「に対して」の各用例をジャンル別に調べた。ジャンル別にとった用例をみると、硬くて重い内容のものとして、「新聞・心理学・ドキュメンタリー」を扱っており、日常的でやや軽い内容のものとして「随筆」を扱っている。そして、これに当てはまらないものはその他に入れておく。このような分け方が正しいかどうかは別としても、後置詞「について」「に関して」「に対して」の全般的な傾向は見られると思う。ジャンル別にとった用例を分析した結果は〈表1〉にまとめておく。

〈表1 ジャンル別の用例〉

	ジャンル	作品	について	に関して	に対して
重い内容のもの	新聞	朝日新聞・読売新聞	161	17	63
	論説文とドキュメンタリー	現代人の心をさぐる	47	0	30
		知的好奇心	7	10	14
		人生と愛	23	6	8
		人生論	5	5	10
		韓国・韓国人	14	1	8
日常的でやや重いもの	対談集	日本人とは何か	39	5	13
		元気が出る教育の話	9	3	16
		笑談笑発	5	1	13
		向田邦子全対談集	6	9	7
		日本人の内と外	14	1	10
		「ことばシリーズ」敬語	19	5	12
		言語生活2・3	4	4	5
日常的でやや軽いもの	随筆	愛すること信じること	4	0	3
		あらあらかしこ	16	5	2
		人生論・愛について	28	0	8
		ソウル実感録	13	0	6
		私は赤ちゃん	5	0	0
日常的で軽いもの	シナリオ	ふぞろいの林檎たち	7	0	0
		男と女のあいだには上・下	13	8	22
	小説	空の城	50	6	42
		人間失格	3	1	15
		思い出トランプ	5	1	0
		風の歌を聴け	8	0	0
		愛と死	3	0	2
		何でもない話	3	0	0
		湾岸道路	3	4	7
その他	雑類	56	14	8	
合計			570	106	324
総計			1000		

表1)をみると、「について」が570例で一番多く、次が「に対して」で324例、その次が「に関して」で106例見られた。「について」が一般的に広く使われている反面、「に関して」はその使用範囲が狭いことが分かる。すなわち、「について」は重い内容のものにも軽い内容のものにもよく使われているが、「に関して」は同じ分量の本でも、「について」と比べてその使用範囲が非常に狭いし、特に軽い内容のものには現れにくい傾向が見られる。ところが〈表1〉をみると、「に関して」が軽い文章にも使われているのが分かる。どういう場合にどういう意味で用いられているかを各語の用法についての考察のところで調べてみる。そして、「に対して」は重い文章にも軽い文章にも普通に使われているが、特に、小説の場合、面白い特徴が見られる。小説の中でも「空の城」「人間失格」のような、人間と人間との関係を示すものが話題として扱われている場合は、「に対して」が現れやすい。「思い出ランプ」「何でもなし話」のような一般生活で起こる問題を話題としている場合は、「に対して」が現れにくい傾向が見られる。どういう場合にどのように使われているかは「各語の用法」を考察するとき詳しく考えてみる。

後置詞「について」「に関して」「に対して」の機能上の分析にあたっては、先も触れたように、『日本語語彙体系5 構文体系』(1998年)³⁶と『日本語文法・連語論(資料編)』(1983年)の中の奥田精雄の「を格の名詞と動詞のくみあわせ」「を格のかたちをとる名詞と動詞のくみあわせ」「に格のかたちをとる名詞と動詞のくみあわせ」³⁷を主に参考にして、述部に来る語(主に動詞が中心)を次のように分けて考察する。第1に「言語活動」を表す動詞の場合、第2に「思考活動」を表す動詞の場合、第3に「心的態度」を表す動詞の場合である。これをさらに細かく分類すると、①「感情=評価的な態度」を表す場合、②「動作的な態度」を表す場合、③「知的な態度」を表す場合、④「言語的な態度」を表す場合の四つに分けて考えてみる。そして文の中で、後置詞「について」「に関して」「に対して」の前にくる語を「先行部分」に、後にくる語を「後行部分」と呼ぶことにする。この先行部分については、第1に、「人を表す」場合、第2に「人に準じるもの」の場合、第3に「抽象的なもの」の場合、第4に「具体的なもの」の場合の四つに分けて考察する。

³⁶ 池原悟・宮崎正弘他(1997)『日本語語彙体系5 構文体系』p.1~389参照

³⁷ 言語学研究会(1983)『日本語文法・連語論(資料編)』p.21~323参照

ここで先行部分を四つに分けた理由は、「について」「に関して」「に対して」がとる語の種類や述語（動詞）との関係を詳しく考察するためである。また、この四つの分け方は従来の説を参照したものの、特に「抽象的なもの」と「具体的なもの」については、奥田靖雄（1983）の説に従ったものである。

2. 後置詞の連用表現の用法について

2-1 「について」の用法

2-1-1 言語活動を表す語と共起する場合

ここで「言語活動」というのは、言語を話したり、書いたり、了承したりする、人間の行動一般を示すものである。まず、人を表すものが先行部分にくる場合「について」がどういう役割をもつのかを調べてみる。

1) 「まるっきり、ゆずりません」

真剣な顔をし、芙美子に訴えかけるように喋るのだが、自分の息子についてそんなふう語ることを、母親は明らかに楽しんでいた。（湾岸道路、p. 73）

2) 韓国人の民族感情といわれているものの底にはそれが脈々と流れているように思われる。

従って外国人が自分たちについてとやかく言えば、家族の悪口を言われているような気がするであろう。（ソウル実感録、p. 44）

3) 同じことは人間の乳幼児についても報告されている。母親やそのかわりの人がいるとはじめての場所でも子どもは安心しており、能動的に探索したり遊んだりできる。

（知的好奇心、p. 92）

4) 上杉二郎について言えば、河井が社長になって四年目に、彼は源原燃料・鉱産業務担当専任の常務として江坂アメリカから東京本社に二十年ぶりに呼び返されることになった。

（空と城、p. 45）

5) 母親が、このごろ、あの人について、いろいろなことを伝えようとしていることに、亜弓は気づいている。（朝日新聞、1988. 9. 19）

1) ～5) の例は、言語活動を表す動詞「語る」「言う」「伝える」のような和語動詞と、「報告する」のような漢語動詞が後行部分に来ている場合である。この他

にも「聞く」「話す」「論じる」「説明する」などの語が挙げられる。ここで、「について」は動作が向けられる対象³⁸を表しているのではなく、動作が取り扱っている内容を表している。そして、文の中は、「について」で示されている対象についての説明（内容）が言及されている。例えば、1)の「そんなふうに」、2)の「とやかく」、5)の「いろいろなことを」というふうに内容が表れている。3)と4)は、後にその説明（内容）が表れている。すなわち、「について」は「話題」を取り上げる力を持つのが分かる。ここで「話題」というのは、高橋太郎（1983）の説を借りると次の通りである。

- a) 結婚に関して、両親とのあいだにひんぱんな書簡の往復があった。
- b) かようにしてあらゆる文化について、娯楽的な対しかたというものができた。
- c) …この木星の分裂をめぐって、またも二つの見解が対立したこと…

これらは、転成前の動詞（「関する」「つく」「めぐる」）の持つ実質的な意味を失い、関係構成的な意味を表すようになってきている。関係的な意味は、いずれも題目しめしであって、おなじグループに属している。³⁹

高橋の「題目しめし」にあたるものを本稿では「話題」と呼ぶことにする。つまり「話題」とは、直接的な動作を受ける「対象」とは違って、話の種やトピックなどを表す。

次は人に準じるものの例を上げてみる。ここで「人に準じるもの」というのは、会社、学校などの組織、世間、世の中という人の集まりによって、形成されているものなどを表す。

- 6) 書店にはこの街について書かれた本があふれ、いつも満席の直行便が日本からの観光客を運ぶ。（朝日新聞、1988. 11. 12）

³⁸ 言語学研究会（1983）『日本語文法・連語論（資料編）』 p. 282参照

「動作の成立に加わる物や現象や状態は、動作との関係において、すべて対象になる」

³⁹ 高橋太郎（1983）「構造の機能と意味—動詞の中止形（～シテ）とその転成をめぐって」 p. 20参照

動詞「書く」は、主体が見たり考えたりした事柄を、絵や表・記号・文字などの形として物に写し記す行為を持つ語である。坂井（1992）も「書く」を言語・思考活動を表す動詞以外の動詞の方に入れている。しかし、6）は「この街」を話題に取り上げて、この街のことを紹介するという意味で、「書く」を言語活動を表す語として扱うことができるのではないだろうか。

以上で「について」は人を表すものや人に準じるものが先行部分に来るとき、動作が向けられる対象ではなく、動作が取り扱う話題を示すことが分かる。「について」の用例の中で、人に準じるものが先行部分に来る用例は非常に少ない。次に抽象的なものが先行部分にくる例を挙げてみる。

- 7) 尾形仇（つとむ）成城大教授が司会したパネル討議では、西独と中国の若手の日本文学研究家ベアーマン、陣力街の両氏が、立て板に水の日本語でそれぞれの国の芭蕉研究の実情について語った。（朝日新聞. 1988. 11. 11）
- 8) デレク・ハートフィールドは、その厩大な作品の量にもかかわらず人生や夢や愛について直接語ることの極めて稀な作家であった。（風の歌を聴け、p. 128）
- 9) テレビのモニターには、マダム・イガワが婉然とほほえみながら、自分のおしゃれ哲学について語っているはすがだが、うつし出されていた。（男と女のあいだには上、p. 58）

7)～9) の例は、あるまとまった内容を相手にそっくり伝えるという意味を持つ「語る」と対象の関係から、それぞれ違う特徴が見られる。7) は「芭蕉研究の実情」という話題で今まで行なわれてきた研究の実情を初めから順に言葉で綴るという意味を表している。すなわち、話題がある程度限定されている場合である。8) は「人生や夢や愛」という漠然とした話題を取り上げて、その内容について述べているという意味を表している。9) は7) と8) のような、あるまとまった内容の事柄を述べるという硬い意味ではなく、ユーモアのある軽い意味として用いられている。すなわち、後行部分に同じ動詞が来ても、先行部分にどういうものが来るかによって、「について」の用法も違ってくるのが分かる。ここでは、「について」が話題がある程度限定されている場合や漠然とした硬い文章の場合、そしてユーモアのある軽い文章にも用いられやすいと言える。

10) わたしは、処女無価値論について尋ねてきた週刊誌に、次のように答えた。

「なんだ、きみって案外古いんだネ。処女なんか、なんの値打ちもないんだよ、ネいいだろう。」（愛すること信じること、p. 158）

11) 本書の大きなメリットは、原則論をかかげた在日韓国・朝鮮人問題にたいする主張ではなく、そういうさまざまな人びとの生活史や苦悩をえぐりだすことによって、日本社会の、あるいは、日本人のありうべき姿について、静かに訴えていることであろう。

（韓国・朝鮮人、p. 134）

12) 「…つまり、専業主婦にもメリットとデメリットがあるのね。同じように働く主婦にもメリットとデメリットがある…」 それから私は、両者のメリットとデメリットについて、ややていねいに喋りました。（あらあらかしこ、p. 86）

13) 各先生も、それぞれ専門の立場からの診察に忙しく、そこまで手が回らないことも多い。主治医とその辺の判断について話し合うのは親の責任だと思う。

（現代人の心をさぐる、p. 265）

10) ～13) の例は、後行部分に「尋ねる」「訴える」「喋る」「話し合う」のような言語活動を表す語がきて、先行部分が話題になる。先行部分は、「処女無価値論」「日本人のありうべき姿」「両者のメリットとデメリット」「主治医とその辺の判断」という話題になっている事柄の範囲が限定されている場合である。特に、12) と13) は話題を客観的に取り上げる動詞と結び付いて、話題そのもの、つまり、より限定的になった話題についていろいろな角度から説明するという意味を持つ。次は漢語動詞の場合はどうであるかを考察する。

14) 残りは英国のBPほかオランダ系とフランス系の石油会社である。この処置について政府は「イスラエルのアラブ諸国侵入にたいする報復であり、アメリカに一撃を加えるため」と言明した。（空と城、p. 208）

15) 二十数年前、日本はまだ戦争をひきずって、国際比較文化論とか、国民性の違いとかについていまほど宣伝されていませんでした。

（あらあらかしこ、p. 69）

16) 現在は機関誌「医学と福音」（月刊）を出し、医療従事者や学生への伝道・教育を行なうとともに、患者と医療担当者との人間関係の在り方についても、積極的に発言している。（朝日新聞. 1989. 8. 28）

17) 「死をみつめて生きるいのち」の討議では、定川キリスト教病院ホスピス病棟婦長、石

森携さんが、同病院での終末期医療のケースを報告、それを軸にしてがんの場合の「病名告知」問題、「生命の質」のとらえ方、患者の権利などについて議論した。

(朝日新聞. 1989. 8. 23)

18) どの新聞や雑誌を見ても、身の上相談というのは、なかなか盛んようだ。その中でも、夫の不貞について相談しているのが特に目立つ。(朝日新聞. 1989. 8. 23)

14) ~18) の例は、後行部分に「言明する」「宣伝する」「発言する」「議論する」「相談する」のような言語活動を表す漢語動詞がきて、先行部分が話題になる。10) ~13) の例は、後行部分に言語活動を表す和語の述語がきて、先行部分が限定されている話題になるが、14) ~18) の例は10) ~13) の例に比べて、先行部分にやや包括的な話題がきている。また、15) と17) では、先行部分の話題の内容が具体的に表れている。例えば、15) では、「国際比較文化論」「国民性の違い」であり、17) では、「『病名告知』問題」、「『生命の質』のとらえ方」「患者の権利」のようにその内容が具体的に表れている。「について」は先行部分の内容が文の中に具体的に表れる場合にも用いられやすいということが言える。つまり、「について」は先行部分に限定されている話題がくる場合でも、複数の内容が具体的に表れる包括的な話題の場合でも用いられやすくなっていると言える。また、後行部分が和語より漢語のほうが「話題性」が強いと言えるのではないだろうか。

19) このピーターパン・シンドロームは現代の若者の苦悩について、日米共通の若者像をみごとに描き出しているからである。(現代人の心をさぐる、p. 72)

20) 朝鮮の政情や運命について書いた文章は、当事者である朝鮮人と第三者である日本人とのあいだに、おのずから違うものがあるはずだ、と私は信じている。

(ソウル実感録、p. 25)

21) このアンケートは仙台・松島地域に在住の外国人の方々をお願いしております。日頃のあなたさまが本地域について感じている問題、課題、意見について和文と英文のどちらか一方のみご記入ください。(雑類)

19) ~21) の例で見られる動詞「描き出す」「書く」「記入する」は動詞自体は言語活動を表すものではないが、先行部分の「現代の若者の苦悩」「朝鮮の政情運

命」「問題、課題、意見」を話題として取り上げ、その内容をいろいろな角度から述べるという意味を持っている。そういうことで、「描き出す」「書く」「記入する」も言語活動を表す語として扱うことができるのではないだろうか。

次は具体的なものが先行部分に来る例を挙げてみる。

22) 教室は、終始、ざわついていた。アンケートの各項目についてクラスのそれぞれの感想を述べあって進んだ。(韓国・朝鮮人、p. 38)

22) の例は、後行部分に「感想を述べあう」のような言語活動を表す動詞がきて、先行部分が話題になる。先行部分に「アンケートの各項目」という非常に具体的な話題がきて、その話題についていろいろな観点からお互いの意見を交わすという意味を持つ。言語活動を表す「について」の用例の中、先行部分に具体的なものがくる例は非常に少なかった。

以上では、言語活動を表す動詞を中心に、その先行部分になるものを、人や人に準じるもの、抽象的なもの、具体的なもの、に分けて調べてみた。その結果、「について」は、人に準じるものや具体的なものが先行部分にくる場合には表れにくくなっているが、「話題」になる可能性の高い抽象的なものが先行部分にくる場合には表れやすい傾向が見られた。そして、後行部分が和語の場合は限定された話題を取り上げている反面、漢字の場合は対象が複数考えられる包括的な話題を取り上げている傾向が見られた。すなわち、「について」は限定されている話題にも、包括的な話題にも用いられることが言える。

「について」が共起しやすい言語活動を表す表現は次のようである。

言う、語る、述べる、喋る、話す、話し合う、ささやく、申す、聞く、知らせる、伝える、伺う、申し入れる、告げる、申し込む、論じる、説明する、告げる、尋ねる、訴える、答える、質問する、言明する、宣伝する、発言する、演説する、解説する、論議する、相談する、討論する、反論する、通告する、返事する、うわさする、挨拶する、発表する、電話する、紹介する、連絡する、助言する、批評する、質問する、コメントする、レポートする、描き出す、書く、記入する、感想を述べあう など。

また、言語活動を表す動詞には態度的な意味を含んでいるものもある。奥田(1983)はその種類を次のように述べている⁴⁰。

いいつける、命令する、命じる、呼びかける、お願いする、もとめる、要求する、せびる、ねだる、すすめる、頼む、謝る、詫びる、違う、約束する、など。

それでは、例文を挙げて考えてみる。

23) 野党側はこの事態について、採決前の状態に返すことをいっせいに要求している。

(朝日新聞. 1988. 11. 11)

24) 山崎 「私はふと思うんですが、毛沢東が未来についてなにかを約束しただろうかと…

(日本人とは何か、p. 29)

25) ホールディング「政策決定者が、この不確姓について注意しないと危険がともなうということはおわかりでしょう」(現代人の心をさぐる、p. 97)

26) 自分がいろいろ勉強して、夫婦のあり方について家庭問題、あるいはもっと広い社会問題などについて話しかけても、さっぱり返事をしてくれない。

(現代人の心をさぐる、p. 126)

27) 自分の職場での大変さを、ぐちることはあっても妻である自分がどんな気持ちであるか、共働きでどんなふう到大変かなどについて語りかけるとさっぱり耳を傾けない。(現代人の心をさぐる、p. 193)

23) ~27) の例をみると、「について」は態度的意味を持つ語と共起して、先行部分に間接的に働き掛けている場合である。いずれも抽象的なものが先行部分にきて、先行部分の変化には無関心である。奥田が挙げている動詞以外にも、「注意する」「話しかける」「語りかける」「指摘する」などが態度を含んだ言語活動を表すものとして挙げられる。ここでも「について」は先行部分を話題として捉えている。

2-1-2 思考活動を表す語と共起する場合

⁴⁰ 奥田精雄(1983)『日本語文法・連語論(資料偏)』、「に格の名詞と動詞のくみあわせ」、p. 299 参照

ここで、「思考活動」とは、人間の知的作用で、ある内容を分析・判断して論理的に推理する精神作用を表す。

まず、先行部分に人がくる場合や人に準じる場合を考えてみる。（人に準じるものの例が非常に少ないので、人を表す例と一緒に扱うことにする）。

28) しかし、実のところ信太郎は、この男についてまだ何も知らないといってよかった。
（海辺の光景、p. 35）

29) 当時十七歳だったこの生徒について、学級担任だった同級英語教諭大川進（四九）がまず思い出すのは、「ビートルズの好きな子」である。
（韓国・朝鮮人、p. 107）

30) ところで信太郎は弁護士というものについて、なんとなくマルマルと肥った顔の男を想像していた。（海辺の光景、p. 55）

31) 文部省が国立、私立の中学、高校について、入試の難問、疑問を調べた。
（朝日新聞. 1989. 9. 17）

32) 陣「なんといっても、戦後の日本について知らないことが中国側にあると思うんです。中国の日本観あるいは日本人観というものが新聞の情報でしかわれわれはわからない。」
（日本人とは何か、p. 75）

28) ～32) の例は、後行部分に「知る」「思い出す」「想像する」「調べる」のような思考活動を表す動詞がきて、先行部分が話題になる。この五つの例いずれも、文の中で話題の内容を表している。特に31) は、弁護士という話題を取り上げて、弁護士というものがどんなものであるかを、「を」格を用いて具体的に説明している。つまり、「について」は思考動詞を表す動詞と共起して、先行部分を話題として捉え、話題の具体的な内容を「を」格で表している。後行部分に思考活動を表す語がくる場合、人と人に準じるものが先行部分にくる例は、その数が非常に少ない。次は抽象的なものが先行部分にくる場合を考えてみる。

33) また消毒、殺菌の過程で生じるトリハロメタンという発がん性物質について解明し、家庭でできる防ぎ方を伝える。（朝日新聞. 1988. 11. 13）

34) 人が命について考える機会のうち最も劇的なのは、自分の死の影をみたときであろう。
（朝日新聞. 1989. 8. 28）

35) それでこの筆者は、死というもの、死後の世界というものについて、考えはじめますが、とても手におえるテーマではない。(あらあらかしこ、p. 56)

36) 人と話していて、その人のことばづかいについて、ときとき思うことがあります。(月間日本語、p. 47)

33) ~36) の例は、後行部分に「解明する」「考える」「思う」のような思考活動を表す動詞がきて、先行部分が話題になる。先行部分に「命」「死後世界というもの」「その人のことばづかい」のような、抽象的なものが話題になりやすいと言えるが、話題の中では、33) の「発がん性物質」、35) の「死後の世界、というもの」36) の「その人のことばづかい」のような限定されたものもあり、34) の「命」のような包括的なものもある。

つまり、「について」は、言語活動を表す語と思考活動を表す語と共起する場合、先行部分にくる表現は抽象的なものの中で、話題が限定されている場合や話題が包括的な内容の場合にも用いられると言える。ここで「包括的な内容」とは、話題として取り上げることができる側面を複数もつことを前提としている先行部分を示す事柄である。例えば、「命」の場合、命の大切さ、命の種類、命の本質など話題として取り上げることができる側面が複数考えられる。また、33) の「解明する」は先行部分を明らかにするという意味を持つ語であり、「を」格と置き換えられるので、先行部分と後行部分との間の結びつきが強い語⁴¹であると言える。こういう場合は、「について」と「を」格は用いられやすくなるが、「に関して」は用いられにくくなる。「について」と「に関して」の用法の差については、「5. 格助詞との関わり」のところで詳しく考察する。

37) 彼女を日本に連れて行かないと言ったときの両人の表情からこの女秘書どもが自分とアリアンの間について何を想像しているか上杉には推量できた。(空の城、p. 150)

この例は、後行部分に「想像する」のような思考活動を表す動詞がきて、先行部

⁴¹ 先行部分と後行部分との間の結びつきが強いかわりに弱いかわりに関する判断は、主に後行部分(述語)の性質によって決められる。例えば、1) 「この事件の原因について解明する」と2) 「この事件の原因について話す」の場合、1) は「を」格と置き換えられるが、2) は置き換えられない。つまり、「を」格と置き換えられる場合、先行部分と後行部分との間の結びつきが強いと言える。

分が話題になる。「自分とアリアンの間」という人と人との関係を表す語が先行部分にきて、「について」が人間関係を表す場合にも用いられるのが分かる。その他にも思考活動を表す動詞の例をみしてみる。

38) 吉田「また日本人には、ある種の偉い学者がでていましてね。ルネサンスのことについて西洋人はだしなほどたくさん勉強している。」(日本人とは何か、p. 56)

39) 私は娘や息子の性の問題については、何も心配しておりません。

(あらあらかしこ、p. 93)

40) そして、標職について検討し、そこで設定された体系から実質を導き出す規則について考察し、さらに他の重伏調方言との違いについて「句音調」をめぐって考える。(雑類)

41) われわれは大学生、大学院生、職員の健康について十分配慮する努力していますが、これまでの経験にもとづいて、若干の問題について気がついたことを列挙しましたので参考していただきたいと思います。(雑類)

38) ~41) の例は、後行部分に「勉強する」「心配する」「検討する」「考察する」「配慮する」のような思考活動を表す漢語動詞がきて、先行部分が話題になる。この場合は、33) の「解明する」のような対象との関係が密着されているのではなく、対象をいろいろな観点から述べるという、対象と述語の間の結び付きは「解明する」ほど強くないということが言える。ところが、39) は、軽い断定の意味を表す場合で、上の他の例とは異なる。

42) 英語の能力を自己評定する欄がありました。英語の〈読み〉〈喋る〉〈聴く〉のそれぞれについて、excellent、good、fairのいずれにチェックするのです。

(あらあらかしこ、p. 89)

例文38) ~41) が漢語の影響を受けたとしたら、42) は英語の影響を受けた場合である。これは「チェックする」という動作が取り上げる話題、すなわち「読むこと」「書くこと」「喋ること」「聴くこと」について思考活動を及ぼす場合である。

43) 自分自身の心の健康を維持するためにも、もう一度この辺で自分たちの夫婦のあり方に

ついて目を向けてほしい。(現代人の心をさぐる、p. 163)

この例は「目を向ける」という述語が対象に直接関わる場合で、「に対して」と置き換えられる。今までは「について」が話題を表すものとして用いられていたが、これに関しては佐藤(1989)でも次のように述べている。

「～について」と「～に対して」が言い換えられる場合があるが、必ずしも意味は同じではない。いいかえられるとしても、やはり「～について」は“テーマ”をあらわし、「～に対して」は“態度の対象”をあらわしている。⁴²

しかし、この例は動作に直接向けられる対象になる場合であって、話題になる可能性は低いのではないだろうか。すなわち、動詞の中では、話題を必要とする動詞と、必要としない動詞があって、「について」と結び付いたとしても、対象になる部分が必ず話題になるということではないということが言える。これに関しては、「2-3-2動作的な態度」でまた述べることにする。

以上では、思考活動を表す動詞を中心に考察した。言語活動を表す動詞と同じように、「について」は人と人に準じるものや具体的なものが先後部分にくる場合には表れにくくなっているが、「話題」になる可能性の高い抽象的なものが先行部分にくる場合には表れやすい傾向が見られた。また、「について」は先行部分が抽象的なものの場合、先行部分が限定されている話題にも、話題としてその内容が複数考えられる包括的な話題にも用いられることが言える。

「について」が共起しやすい思考活動を表す表現は次のようである。

考える、考え出す、思う、思い出す、知る、思い出す、想像する、回想する、調べる、解明する、考察する、観察する、考慮する、検討する、工夫する、分かる、チェックする、学ぶ、勉強する、覚える、記憶する、研究する、認める、認識する、迷うなど

⁴² 佐藤尚子(1989)「現代日本語の後置詞について－『～について』と『～に対して』を例として－」p. 42～43 参照

2-1-3 心的態度を表す語と共起する場合

人間は、対象と関係を結ぶとき、対象を認めたり、対象の何かをめぐって考えたりするだけでなく、対象に対して態度を示す場合がある。ここで扱う「態度」というのは、物事に対して、感じたり考えたりしたことが表情、動作、言葉などに現れたものとして、つまり、人間の心理的な活動を示すものであり、人間に対する行動的な関係を示すものもある。本稿では、このそれぞれを「感情＝評価的な態度」と「動作的な態度」を示すものと名づけて考えてみる。まず、「感情＝評価的な態度」の場合から考えてみる。

2-1-3-1 感情＝評価的な態度

まず、人を表すものが対象にくる例を考えてみる（人に準じるものの例が非常に少ないので、人を表す例と一緒に扱うことにする）。言語活動を表す語と思考活動を表す語と比べて、感情＝評価的な態度を表す語の場合「について」がどのような用法をもつかを調べてみる。

44) あの人について、亜弓は、父親という実感をもたずにきた。

(朝日新聞. 1989. 9. 19)

45) 時々、部下たちが彼について、そう評している声を、啓吉は耳にすることがある。

(何でもなし話、p. 110)

46) 双方が一致するのは、子供について、その成長を楽しみ、よい学校に入ったり、よい会社に入ったりすることを楽しみにしているという点だけである。

(現代人の心をさぐる、p. 58)

47) 上杉からひきついた江坂アメリカ全事業に関する重要書類を一応は点検したが、安田はべつにNRについて疑問を起さなかったかもしれない。(空の城、p. 82)

44)～47)の例は、後行部分に「実感をもつ」「評する」「楽しみにする」「疑問をおこす」のような心的傾向を表す語がきて、先行部分が話題になる。44)～46)は、文の中に話題の内容を言及している。47)は動作を受ける対象を表しているが、「疑問をおこす」はただ対象に動作を及ぼすという意味よりは、対象に思考活動を

与えて判断するという意味が強く作用すると思われる。46)は、「楽しみにする」という述語は、対象との結びつきの弱い語でもあるが、文の中で「双方が一致するのは～という点だけである」という断定の意味の内容が補われて、先行部分を話題として捉えている。次は抽象的なものが先行部分にくる場合を考えてみる。

48)しかし、普通の結婚をした両親の子供であっても、思春期を迎えると彼らは皆、自分たちの出生の由来について深刻に悩む。(現代人の心をさぐる、p. 24)

49)司馬「だからだれでも責任がないということはよく言われてますけれども、ではどういう制度でどうなったという経緯についてはあいまいです。」(日本人とは何か、p. 85)

50)抽象的な思考の能力については、彼はそれが自分にずいぶん欠けていることを、愉快そうに認めていた。(人生論、p. 63)

48)～50)の例で、48)は感情動作を表す「悩む」が、「自分たちの出生の由来」という話題に思考活動を及ぼす意味として用いられている。49)と50)は後行部分に「あいまいだ」「欠ける」という評価的な態度を表す語がきて、先行部分に何らかの思考活動を及ぼすという意味をもつが、48)ほど強くはない。すなわち、「について」は評価的に中立の立場をとる場合やマイナス的な立場をとる場合に用いられると言える。

51)この会議の模様について、カナダ連邦政府のバートランド国務相はこんな印象を持った。日本側のさいきん債権者は会議において紳士的であった。というのは他の債権者たちにくらべ、非常におとなしかったという意味である。(空と城、p. 238)

52)ソウルに住んで半年ぐらいしたころ、私は大学生や大学院生が自分の専門科目以外の学問についてはなはだ関心が薄いということに気づいた。(ソウル実感録、p. 49)

53)選挙戦の非難合戦については、ブッシュにより責任があると考え。(朝日新聞. 1989. 8. 29)

54)外務省首脳は十九日、国連教育・科学・文化機関(ユネスコ)執行委員会がフェデリコ・マヨール元スペイン教育・科学相を新事務局長の推薦候補に指名したことについて「結構なことだと思う」と評価するとともに「総会(十一月七日)」でもスムーズに新任されるよう期待している」と述べた。(読売新聞. 1987. 10. 20)

51)～54) の例は、後行部分に「印象をもつ」「関心が薄い」「責任がある」「評価する」のような心的態度を表す語がくる場合である。これらは評価的な態度を示す語として、先行部分に対象や話題をとるのに対し、言語活動や思考活動を表す語は、先行部分に話題をとることが多い。抽象的なものが先行部分にくるとき、後行部分にくる表現には連語の方が多くみられた。

55) トルストイの「戦争と平和」については彼は常々批判的であった。もちろん量については問題はないが、と彼は述べている。(風の歌を聴け、p. 119)

56) 彼女は明日の天気について心配してした。(作例)

以上の例で、55) の「戦争と平和」は「批判的だ」が向けられる対象として使われているので、具体的なものとして扱うことができる。56) は「明日の天気」が「心配する」という述語の直接な対象として取られるので、具体的なものとして扱うことができると思われる。先行部分にくるものが抽象的なものか具体的なものかは、後行部分にくる表現との関係や文の条件などによって変わってくるので、その区別が非常に曖昧である。この点についても十分検討する必要があると思われる。

以上では、「感情＝評価的な態度」を表す場合の例を挙げて考察してみた。言語活動や思考活動を表す語の場合と同じように、先行部分に抽象的なものがくる場合には「について」が表れやすいが、具体的なものがくる場合には表れにくい傾向がみられた。また、後行部分に心的態度（または行為）を表す語がくる場合は、言語活動や思考活動を表す語よりは、先行部分を話題としてとる性質が弱いと言える。

「について」が共起しやすい感情＝評価的な態度を表す表現は次のようである。

実感をもつ、評する、楽しみにする、疑問をおこす、悩む、あいまいだ、欠ける、印象をもつ、関心が薄い、責任がある、評価する、批判的だ、心配する、嫌悪感をもつ、目立つ、イメージをもつ、方針を固める、方針を示す、否定する、肯定する、怒る、不満をもつ、気にする、気になる、上回る、位置づける、自信がある、疑う、信頼する、保証する、不安がある、責任をもつ、無気力だ、有効だ、観念をもつ、結論をだす など。

続けて、動作的な態度を表す例を挙げて「について」の用法を考察する。

2-1-3-2 「動作的な態度」

ここで「動作的な態度」というのは、物事に対して考えたりすることが動作として現れるもので、対象に対する行動的な関係を表すものである。用例の中でも「動作的な態度」を表す例はその数が非常に少ない。また、先行部分にくる語も人を表す場合と、人に準じるものを表す場合は一例も見当たらなかった。

57)娘はすべての項目について、正しい答えとしてBにマルをつけていました。

(作例)

58)アンケート調査は28名について行なう。(作例)

59)たまたま私は、これらの精神病理現象について日夜臨時的に診断と治療を行なっている。

(現代人の心をさぐる、p. 262)

57) は、「項目ごとにBにマルをつけた」という意味で、「項目」が「マルをつけた」という動作の直接的な対象になる。58) も「28名にアンケート調査を行なう」という意味で、「28名」が「調査を行なう」という動作の直接的な対象になる。二つの例はいずれも、「項目」「28名」のような具体的な物事が先行部分にきている場合で、「に対して」と置き換えられる。59) は「精神病理現象」という抽象的な物事を表す語が先行部分にきて、「診断と治療を行なっている」という動作の直接の対象ではなく、話題として捉えている。このように「について」は「動作的な態度」を表す語と共起する場合と、具体的な物事が先行部分にくる場合、動作を受ける受け手の対象になりやすく、抽象的な物事が先行部分にくる場合は、話題として捉えやすくなっていると言える。「動作的な態度」を表す場合については、「に対して」の用法を考察するときもう一度論じることにする。

「について」が共起しやすい動作的態度を表す表現は次のようである。

マルをつける、(調査を)行なう、診断と治療を行なう、反発する、修正する、反対する。
対応できる、面倒みる、加入する、協議する、試行錯誤を繰り返す、影響を及ぼすなど。

2-1-4 考察の結果

以上では、「について」の用法をジャンル別にとった用例を中心に考察してみた。その結果としては、まず後行部分から考えてみると、「について」の用例中「言語活動を表す語」場合の用例が一番多く、その中でも和語と漢語がほぼ同じ比率で表れた。その次が「思考活動を表す語」の場合であるが、和語より漢語のほうが多く見られた。三番目が「感情＝評価的な態度」を表す場合で、連語のほうが多く使われていた。最後は「動作的な態度」を表す場合であるが、その用例の数が一番少なく、連語のほうが表れやすい傾向が見られた。

次に先行部分にくる語を考えてみると、抽象的な物事が先行部分にくる例が一番多く、人間関係を表すことや具体的な物事が先行部分にくる例は非常に少なかった。すなわち「について」が言語活動を表す語と思考活動を表す語と共起する場合、抽象的な物事を表す語が先行部分にくるとき、先行部分を話題として取る確率が高くなる反面、「心的態度を表す語」と共起する場合は、後行部分の性質によって先行部分が話題にも取れるし、態度の対象にも取れるということが分かる。そういうことで「について」は必ずしも“テーマ”を表すという佐藤（1990）の指摘は正しくないということが言える。

2-2 「に関して」の用法

2-2-1 言語活動を表す語と共起する場合

まず、先行部分に人がくる場合や人に準じる場合を考えてみる。「に関して」の用例の中で人を表すものと、人に準じるものの例が非常に少ないので、一緒に扱うことにする。

60) ロバートソンという人は、ジョンという一人の乳児に関して、こんな報告をしている。
ジョンが生後八週目のとき、父親が病気になってしまった。

(知的好奇心、p. 73)

61) 大林「私は日本人は一つの人種から分かれたのではなく、元はいろいろあって、それがむしろ混合、合成に向かったというのが本当じゃないかと思うのですがね。同じことは中

国に関するもいえます。」（日本人とは何か、p. 145）

60) と61) は、後行部分に「報告する」「言う」のような言語活動を表す動詞がきて、先行部分が話題になる。60) は、ジョンという乳児と関連して思い出した状況を報告する例である。61) も中国と関連して状況を示しているという意味で、話題を包括的にとっている。すなわち、「に関して」は「言語活動を表す語」と共起し、話題を表す用法をもつが、対象そのものを話題にするのではなく、それと関連している事柄を表していると言える。

次は抽象的なものが先行部分にくる例を考えてみる。

62) これに関連して、夢の言語のもう一つの特徴があげられるが、これについては、夢に関して語るときにも、一般には十分評価されていない。（人生と愛、p. 98）

63) 好奇心・向上心に関しても、同じことがいえるだろう。いまの受験体制のなかで、それも受験にしか役立たない勉強を、楽しくつづけていく子どもを考えてみよう。

（知的好奇心、p. 66）

64) すなわち「情報提示群」では、粘土の重さや体重の保存のテスト問題に関して他の小学校の子どもたちがどう答えたかその「調査結果」を示すのである。

（知的好奇心、p. 126）

65) 北朝鮮の白南淳（ペクナムスン）外相は24日、タイのカンタティ外相とバンコクで会談、6か国協議に関して「1国だけを満足させるものではなく、（参加各国）全員を満足させる包括的な解決を話し合いたい」と述べた。（読売新聞. 1991. 8. 21）

66) だが、参院幹部は骨子の内容に関して「政府がまとめたものを『はい、そうですか』と受け取る訳にはいかない。政府に疑問点をただす」と語った。別の参院幹部は「だいぶ厳しい内容だ。執行部の手腕が問われる。受け入れられない人もいるのは当然だ」と述べた。（読売新聞. 1991. 8. 21）

67) ただ、入学試験のやり方に関しては、活発に議論が行われております。まず、入学試験というのは、今までは国立大学ですから、文部科学省との話し合い、打ち合わせをしたり、いろんなことをしながら、国立大学協会も随分調整をし、申し合わせをして、そのことに関しては自由度がなかったわけですね。（朝日新聞. 1989. 9. 15）

68) 太郎ばかりではなかった。山本家では、おやじの政二郎も歌舞伎に関してはこれが日本人かと思うような無茶を言った。つまり例えば、女が自害して、刀を胸に突き立てたまま、髪を乱して、長広舌をふるったりすると、《おかしいな、早く医者を呼びにいけ

ばいいのに》とか《あれ、まだ生きてら》などと隣に聞こえるような声で言うものだから、同行した母は、いたたまれなくなるのだと言う。（太郎物語、p.105）

62)～68)の例は、後行部分に「語る」「いう」「答える」「述べる」「議論が行なわれる」のような言語活動を表す語がきて、先行部分が話題になる。62)と63)は、先行部分と後行部分が直接結び付いている場合であるが、62)は、「夢」のように話題として挙げられる事柄が複数考えられる場合で、63)は、話題に関する内容が文の中に表れる場合である。67)も63)と同じように話題に関する内容が文の中に出ている。65)と66)は、「『～』と」という形で話題の内容を表している。68)は、「歌舞伎」という対象を話題として取り上げて、話題の内容に当たるものを文の中で詳しく述べている。64)の「答える」は、「語る」「いえる」と一緒に言語活動を表す語として扱うことができるが、「答える」は対象に直接働きかけるという用法ももっている。この場合は「答える」が「に関して」と共起して、先行部分を話題として取り上げている。すなわち、「に関して」は言語活動を表す語と共起して、包括的な話題を表す用法を持つとともに、文の中で「『～』と」という内容が表れている場合に用いられやすいことが言える。また「答える」のような言語活動や心理的な傾向の両方の意味をもつ語と結び付いて、話題を表していることも言える。言語活動を表す語には態度的な意味を含んでいるものもある。例を挙げて考えてみる。

69) 公的違反という事実からみて、自民党はこの問題に関して「多数決原理」を主張する資格はない。（朝日新聞. 1989. 8. 17）

70) とくに日本側は、原油の供給のためにこれ以上の資金を調達しないし、製油所の操業に関して今後いっさい金を注ぎこまないことを宣言した。（空と城、p.119）

71) 一九七二年（昭和四十七年）一月、NRCとニッポン・ライオンとは用船の仮契約を行った。しかし、あとになってからNライオン（ニッポン・ライオン）は用船料に関して銀行保証をとうぜん要求した。（読売新聞. 1987. 10. 5）

69)～71)の例で、「に関して」は「主張する」「宣言する」「要求する」のような態度的な意味をもつ語と共起して、「～は～に関して～する」という形をとっ

ている。後行部分が態度的な意味をもつとしても、この場合は主体が対象に直接関わるのではなく、「～を」という形で話題の内容を表している。すなわち「に関して」は、態度を表す語と共起しても、先行部分にあたるものが動作が向けられる対象を示すのではなく、文の中に内容が言及されている話題を表していると言える。

以上では、言語活動を表す動詞を中心に、その先行部分にくるものを、人や人に準じるもの、抽象的なもの、具体的なもの、に分けて調べてみた。その結果、「に関して」は、人や人に準じるものや具体的なものが先行部分にくる場合が「について」に比べて非常に少ない傾向が見られた。純粹な言語活動を表す語ではない、主に「話題」になる可能性の高い抽象的なものが先行部分にくる場合は現れやすい傾向が見られた。そして、後行部分に単独の和語より単独の漢字語や連語がくる例が多かった。すなわち、「に関して」は、包括的な話題に用いられやすくなっており、話題の内容にあたる事柄が文の中に表れている傾向が多く見られた。

「に関して」が共起しやすい言語活動を表す表現は次のようである。

報告する、言う、語る、答える、述べる、議論が行なう、主張する、宣言する、要求する、おわびする、会談する、明言する、明言をさける、報告する、発表する、質問する、論議する、協議を行う、提案する、証言する、解説する、異論を出す、問いかける、紹介する、告発する、記述する、通告する、説明する、警告を発するなど

72) 胡锦涛・国家主席は15日、国連創設60周年を記念して開催されている国連総会特別首脳会合で演説。安保理改革に関して、「発展途上国、特にアフリカ諸国の代表数を優先的に増加させるべきだ」と述べ、日本の常任理事国入りを牽制した。16日付で新華社が伝えた。(読売新聞. 2005. 9. 16)

73) この中で、胡・国家主席は、国連改革に言及。「改革は全方位的で、幅広い領域に及ぶべき」とした上で、安保理改革については、「発展途上国、特にアフリカ諸国の代表数を優先的に増加させるべきだ」と述べた。(読売新聞. 2005. 9. 16)

72) 73) の例は、読売新聞の記事であるが、同じ日に書かれた文章で内容も全く同じである。72) は「に関して」が、73) は「について」が用いられている。すなわち「に関して」と「について」は「述べる」のような対象についていろいろな角

度で説明するという発話活動を表す語と共起する場合、両方とも先行部分を話題として取り上げる用法をもつと言える。では、思考活動を表す語の場合はどうであるかを調べてみる。

2-2-2 思考活動を表す語と共起する場合

まず、人と関係のあるものが対象にくる例を考えてみる。

74) ボールディング「したがって私の未来論の基礎には、社会に関しては常に不確実な予測できない要素があるという前提があるのです。」

(日本人とは何か、p. 10)

この例は、「に関して」が「予測できない」と共起して、「社会」という話題についていろいろな角度から予測するという場合である。思考活動を表す場合も、人と関係のあるものが先行部分にくる例は非常に少なかった。次は抽象的なものが先行部分にくる例を考えてみる。

75) また、ハンガリーが出国を許可するに際して、東独との査証協定より「人に関して一般的に認められた国際的な諸原理と人道主義の観点」を重視したことは、東独で人権が軽視されていると指摘したことを意味している。(朝日新聞. 1988. 10. 13)

76) 幸い『浮世風呂』に関しては、その登場人物の階層を詳しく考察した研究があるのでここでは先学の研究成果をフルに利用させていただきながら、論を進めて行くことにする。(雑類)

77) 現在では音韻体系や語順といった個別的な特徴に関して類型を考えるのが普通である。(月刊日本語、p. 54)

78) ソフトバンク広報部は、「コンテンツの拡充に関しては、さまざまな可能性を検討しているが、現時点で決まっていることはない」と否定しているが、関係筋が16日午後、ロイターの取材で交渉を認めた。ソフトバンクは、最終合意を踏まえ、番組をインターネットで配信、ソフト事業を拡充する方針だ。(朝日新聞. 2005. 9. 16)

79) 温暖化防止の方策は、即効性のあるものではありません。しかし、私たちが環境問題に関して自覚することでよい方向に進んでいくことは間違いありません。今、地球で起こって

いることを知り、どうすれば温暖化防止につながるか考えましょう。

(朝日新聞、2005. 4. 20)

75) ~79) の例は、後行部分に「認める」「考察する」「考える」「検討する」「自覚する」のような話題を客観的に取り上げる語がきて、先行部分が話題になる。「に関して」は「認める」「考察する」「考える」「検討する」「自覚する」のような語、すなわち、話題をもっと話題らしく取り上げる能力を持つ語と共起して、話題性を強くするといった特徴がみられる。この場合はいずれも「について」と置き換え可能である。

では、「に関して」と「について」は、先行部分をより話題らしく取り上げる能力を持つ知的行為を表す語（思考活動を表す語と発話活動を表す語）と共起する場合、全く同じ用法を持つものとして扱うべきであろうか。これについて塚本（1991）は、次のように述べている。

必須補語と判断される場合において、前置される名詞類が有する「内容性」といった特性が強いと、複合格助詞「~について」「~に関して」と単一の格助詞「を」のどちらも用いることができる。しかし、その特性が弱いと、「~について」「~に関して」は使えるが、「を」の使用は困難になる。⁴³

塚本（1991）は「に関して」と「について」の用法上の違いについて述べているのではなく、後置詞と格助詞との違いについて述べている。後置詞と格助詞との違いを、前にくる名詞類の性質の強弱によって分けている。ようするに内容性が強いかわ弱いかによって、「について」「に関して」と「を」格の用法の差を調べている。しかし、内容性が強いかわ弱いかの判断も非常に微妙である。「に関して」「について」と「を」格の関係は、〈5. 格助詞との関わり〉のところでもっと詳しく考察したい。

80) スポーツに関して、どのような振興策を考えていますか。プロ野球やサッカーなど、見るスポーツだけでなく、自らスポーツに親しみたいという願いに応え、誰もがスポーツの出来

⁴³ 塚本秀樹(1991) 「日本語における複合格助詞について」p. 91~92参照

る条件づくりに力を入れていきたい。元気な子どもを育てるスポーツ活動を充実させるため、施設の整備をはかり、指導員やボランティアを支援していく。（朝日新聞. 2005. 9. 17）

81) 少子高齢化の問題について、どのような対応を考えていますか。保育所の入所待機児童をなくすため、保育所の新增設を計画的にすすめ、共働きの父母のニーズにあった学童保育の充実に努める。要介護認定者が増加する一方で、低所得者の介護サービス利用が抑制されないように、介護保険料・利用料の減免制度を充実させていく。元気長寿日本一の県総合施策を推進したい。（朝日新聞. 2005. 9. 17）

80) と81) の例は、両方とも朝日新聞のコラムの記事である。80) と81) は、後行部分に「考える」のような思考活動を表す語がきて、先行部分が話題になる。80) は「スポーツ」という包括的な話題を、81) は「少子高齢化の問題」という、80) に比べれば、やや限定された話題を取り上げている。80) は、「スポーツ」という包括的な話題に関してこれからのスポーツのあり方について、「誰もがスポーツの出来る条件づくりに力をいれたい」など比較的大雑把な内容が書かれている。81) は、「少子高齢化の問題」について、「保育所の新增設を計画的にすすめる」、または「介護保険料・利用料の減免制度を充実させていく」などの具体的な対応の内容が書かれている。すなわち「に関して」と「について」は、「考える」のような思考活動を表す語と共起して、先行部分を話題として取り上げる用法を持つ面では同じである。しかし「に関して」は包括的な話題の場合に用いられやすく、「について」は限定されている話題の場合に用いられやすくなっていると言える。

以上では、思考活動を表す動詞を中心に主に先行部分との関係について調べてみた。その結果、発話活動を表す語の場合とほぼ同じ結果が得られた。「に関して」は、思考活動を表す語の中でも「考察する」「考える」などの話題をより話題らしく取り上げる能力を持つ語と共起して、話題もより包括的な内容の場合に用いられやすくなっている。

「に関して」が共起しやすい思考活動を表す表現は次のようである。

認める、考察する、考慮する、考える、検討する、自覚する、思う、テストする、ためす、疑う、知る、分析する、予測できる、納得できる、想定する、認める など。

2-2-3 心的態度を表す語と共起する場合

2-2-3-1 感情＝評価的な態度

まず、人と関係のあるものが先行部分にくる例を挙げてみる。

82) 「ジョージ・サンソムによると、十六世紀の南蛮人が東へ回ってくる途中で、インドと中国に関しては日本とまったく違う印象をもったようですね。」

(日本人とは何か、p. 136)

82) の例は、「に関して」が対象との関連性を明示するにとどまるという従来の説とは違って、「印象をもつ」という評価的な態度を表す語と共起して、断定的な場合に用いられる例である。人と関係のあるものが先行部分にくる例は非常に少ない。

次は抽象的なものが先行部分にくる例を見てみよう。

83) 本社から派遣された代表とは違うという「プロ意識」に徹し、「ノウハウの蓄積に 関してだれにも負けない」と言い切る。(朝日新聞、1989. 9. 14)

84) 田辺「日本語が優れてようが、つまらなかろうが、それで生きていくほかないわけで、言葉に 関してほかより優れてるって発想は、絶対間違いないと思うんですね。」

(笑談笑発、p. 229)

85) 日本の新幹線は、スピードに 関してフランスのTGVと世界一、二を争う。(作例)

86) 「それにもかかわらず、いまごろになって、ビレーキングに欠陥があったかのようにいわれるのは、言いがかりもはなはだしい。わが社は、それに関 してなんの責任もない。」

(空と城、p. 237)

87) 私の娘や息子の人格に 関しては、散らかし屋である。動作がややぐずである、といった欠点はありますが、非行に走る子どもでないことは、親として絶対の確信があります。

(あらあらかしこ、p. 83)

88) だから言葉も十分にはできない日本の生活でも、チマチョゴリの仕立てに 関しては十分な自信があった。(韓国・韓国人、p. 173)

89) とんでもないジャズ・ファンにお会いしました。歳の頃は70才、物腰、態度は非常に柔和、口許に微笑を浮かべてお話します。しかし、ジャズに対しては頑固一徹、ある一

点に関してはぜったいに譲りません。(朝日新聞. 2003. 12. 2)

90) 「音楽に関してお手伝いをすることがあったら、何でも致しましょう」

(朝日新聞. 1988. 11. 13)

91) 私は投資理論に関しては専門家だと思っていますが、それ以外のことは専門家ではありません。しかし、株式投資だけに時間を使ったとしても全ての専門家になることはできないと思います。(朝日新聞. 2003. 6. 16)

83) ～91) の例は、後行部分に「だれにも負けない」「ほかより優れてる」「世界一、二を争う」「なんの責任もない」「絶対の確信がある」「十分な自信がある」「ぜったいに譲らない」「お手伝いする」「専門家だ」のような、観点や基準などを表す語がきて、先行部分が話題になる。この場合、「に関して」は「言語活動を表す語」と「思考活動を表す語」の「話題」の用法とは違って、「他のことは分からないが、この点では～だ/この点にかけては～だ」というニュアンスの「話題限定」用法をもつことが分かる。この他にも次のような例が挙げられる。

92) 半沢は洗面所の鏡にうつる自分の顔をのぞき込んだ。五十にまだ間があるというのにひげには白いものが混ざりはじめています。もっとも白髪に関しては幹子のほうが早く白髪染めを使いはじめたのはたしか一昨年である。(思い出ランプ、p. 58)

93) 麻里子夫人は、金銭的なことに関してはまるで子供だ。以前にも何度か失敗しては、伊川治が後始末をやっている。(男と女のあいだには上、p. 65)

94) 山本正二郎は、渡されたスプーンで真剣にシチューかけ飯を食い始めた。その姿は小学生のようだった。おやじは飯を食うという行為に関しては、年をとらなかつたのだ、と太郎は思った。(太郎物語、p. 63)

95) 山本はしかし、実際のところ、飛行機に関しては素人であったから、自ら望んで来たこの配置でみっちりと実地の空の勉強をしたらしい。(太郎物語、p. 82)

96) 山口、小林、木村。共通なところといたら、よくある苗字で、字画が少ないということです。その程度の印象しか与えない苗字。それでも「姓を名乗り続けるよりは、私にとって精神衛生上、とてもぐあいがよい。この件に関しては、私にとって男女平等等、どうでもよいのです。」(あらあらかしこ、p. 29)

97) 「こうするんだといったん決めたら、なにがあっても絶対に自分の考えているとおりにしてしまう子ですから」「中村さんも、そうおっしゃいました。」「芙美子さんも、

二年間、いろんな思いをなさったでしょう」「私に関しては、そんなことはなにもありませんでした。」（湾岸道路、p.58）

また、「に関して」は次のような場合にも用いられる。

98) 〈やはり立場を変えてみるのも、たまにはいいもんだんな〉と彼は思う。そう言えば、麻里子夫人は伊川治の書いたコピーに関しては、いつも辛らつだった。
（男と女のあいだには上、p.77）

従来の説によると、「に関して」は新聞などの重い文には表れやすいが、シナリオや小説などの軽い（やわらかい）文には滅多に表れないと言われている。しかし、この場合はシナリオのようなやわらかい文に「に関して」が用いられている例である。そのような例は非常に少ないが、「に関して」は「辛らつだ」のような心理的態度（評価）を表す語と共起するときは、文学作品にも表れやすくなっていると言える。

99) おしゃれに関していえば、私は、おしゃれが大好き。おしゃれな人も好き。
六百円のストッキングをはいて、わが足に見とれるときの豊かな気持ちが好き。
実際には、たいして違いはないようなだけれど。（あらあらかしこ、p.53）

この場合は、「に関して」が「おしゃれ」を話題として説明しているのではなく、ただの決まり文句として、自分の考えを軽く喋っているようなやわらかい文章に用いられていることが分かる。

100) 彼はいろいろな事柄に関して興味を持っている。（人間失格、p.63）

この場合は、「興味をもつ」のような心理的な態度を表す語と共起して、対象を話題として取り上げる例である。すなわち、今までの「観点や基準を表す」のような用法とは違って、「興味をもつ」という評価的な態度を表す語と、「いろいろな事柄」という包括的な話題が結びついたところに「に関して」が用いられている。

以上では、心的態度（評価的な態度）を表す語を中心に主に先行部分との関係について調べてみた。その結果、発話活動を表す語の場合と思考活動を表す語の場合と異なる用法をもつことが分かった。すなわち、「他のことは分からないが、この点では～だ/この点にかけては～だ」というニュアンスの「話題限定」用法をもつことが分かる。この用法は、「に関して」が従来の説のような、元の動詞（関する）の意味をそのまま引き継いで、「対象との関連性を明示するにとどまる」ということとは異なる場合である。また「に関して」は従来の説では、文芸作品のような柔らかい文には表れにくいと言われていたが、実際の用例をみると、人間関係を表す心的態度（評価的な態度）の語と結びついた場合は、文芸作品にも表れやすい傾向がみられた

「に関して」が共起しやすい心的態度を表す表現は次のようである。

印象をもつ、だれにも負けない、ほかより優れてる、世界一、二を争う、なんの責任もない、絶対の確信がある、十分な自信がある、ぜったいに譲らない、お手伝いする、幹子のほうが早い、子どもだ、素人だ、几帳面だ、年をとらない、どうでもいい、なにもない、辛らつだ、興味をもつ、確信がある、気になる、うまい、厳しい、無知だ、無関心だ、妥協しない、自己中心的だ、嫉妬する、妥当する、戸惑う など。

2-2-4 考察の結果

以上、「に関して」の用法をジャンル別にとった用例を中心に考察してみた。その結果としては、「について」に比べて用例の数が少ないが、おおよそのことが言える。まず後行部分から考えてみると、「に関して」の用例中「言語活動を表す語」と「心的態度（評価的な態度）を表す語」はほぼ同じ比率で用いられていたが、「思考活動を表す語」はその数が少なかった。後行部分にくる語の特徴としては、和語より漢語や連語がくる例が多かった。

次に先行部分にくる語を考えてみると、「に関して」は「について」と同じように抽象的な物事が先行部分にくる例が一番多く、人間関係を表すことや具体的な物事が対象にくる例は非常に少なかった。「について」では見られない「に関して」独自の用法として「話題限定」用法を持つことが分かった。「話題限定」用法は、

「に関して」が従来の「元の動詞（関する）の意味をそのまま引き継いで、対象との関連性を明示するにとどまる」という説とは異なる独自の用法と言える。また従来の説では、「に関して」は文芸作品のような柔らかい文には表れにくいと言われていたが、人間関係を表す心的態度（評価的な態度）の語と結びついた場合は、文芸作品にも表れやすいという傾向がみられた。

2-3 「に対して」の用法

今までは、「について」「に関して」の用法を先行部分と後行部分にくる語の関係を中心として考察した。その中でも、後行部分にくる語を、言語活動を表す場合、思考活動を表す場合、心的態度（評価的な態度）を表す場合という三つに分けて調べた。しかし、「に対して」は、用例の殆どが後行部分に、純粋な知的行為（発話動詞、思考動詞など）を表す語とは共起せず、態度の入った語と共起する傾向が見られた。また、純粋な知的行為（発話動詞、思考動詞など）を表す語と共起する場合でも、文の中に態度の内容が表れている。つまり、「に対して」は「について」「に関して」とは異なる特徴を持っているので、その分け方を別にする。すなわち、言語活動や思考活動を表す語の場合を、心的態度を表す語の中に入れて、「言語的な態度」「知的な態度」という観点から考察する。

2-3-1 言語的な態度

ここで「言語的な態度」とは、言語活動を表す語で、態度的な意味を含む語を表す。まず、人を表すものが先行部分にくる例を見てみる。

101) 男性の名は、中村といった。杉本とおなじくらいの年齢だが、杉本に対して、ていねいな言葉を使った。（湾岸道路、p. 84）

102) 林「まあ、友達でしょう。たとえば、カキ大将に対しても「ちゃん」づけで呼んだんですよね」（元気がでる教育の話、p. 97）

103) 彼は、日本の新聞記者に、嘘、おざなりを言わなかったように、外国人に対しても嘘とおざなりは言わなかった。（新潮文庫100冊）

104) 実際問題として、日本は世界に向かって少しでも発言できないというけれども、私だって、となりのオヤジに対してさえ自分を語れないですからね。

(読売新聞. 1991. 8. 25)

105) 同氏はきょうにも武村主義さきがけ代表と会談するが、そこで武村氏に対して「結党時の参加は遠慮してほしい」と申し入れ、受け入れなければ、離党して新党結成に踏み切る考えだという。(新潮文庫100冊)

106) また、安部幹事長はこの席で渡辺政調長に対して税制改革関連案の追加修正について野党と話し合いを進めるよう要請した。(朝日新聞. 1988. 11. 12)

101) ~106) の例は、いずれも「に対して」が動作が直接向けられる相手を表している。後行部分に「言う」「語る」という言語活動を表す語がきても、先行部分を話題として取り上げるのではなく、動作を受ける相手として取り上げる。すなわち、人が対象にくる場合、「に対して」はその対象を動作の相手として取り上げる用法を持つということが言える。「に対して」は「について」「に関して」より人を表すものが先行部分にくる場合が多く見られた。

次に人に準じるものが先行部分にくる例を見てみる。

107) 九月一日、ナチスドイツの大軍は、突如ポーランド領になだれ込み、三日後には、イギリス・フランス両国が、ドイツに対して宣戦を布告した。(新潮文庫100冊)

108) 太郎は検察官に対して、自分の犯罪事実を申告した。(作例)

109) アラブ連合国(エジプト)やシリア諸国にたしてはソ連が応援している。

(空の城、p. 91)

110) それだけ言って、それで充分、つまり一本勝負はきまって、自分は乱暴にもこの二階に泊まり込む事になったのですが、しかし、おそろしい筈の「世間」は、自分に何の危害も加えませんでしたし、また自分も「世間」に対して何の弁明もしませんでした。

(人間失格、p. 51)

111) 向田さんは、倉本聡に対しては、「私は放送作家よ、逃げたんじゃないわ。私はクラモッチャンの仲間よ」と言い続けていた。(向田邦子全対談、p. 79)

107) ~111) の例は、後行部分に「布告する」「申告する」「応援する」「弁明する」「言い続ける」のような、対象に動作を及ぼすという態度的な意味を含

む語がきて、先行部分が動作を直接受けている相手になる。

- 112) 司馬「逆に、日本のいまの社会に対して言えば、ちょっと旧中国風になっているという気がします。というのは外務省や社のなかで芸をもつ人間は卑しめられている」
(日本人とは何か、p. 12)
- 113) ベビーシッターに関して言えば、NYは移民してきた人たちがほとんどで、貧富の差も激しく、ベビーシッターを雇う側、雇われる側の経済格差の問題もあり、能天気、いいねー、とは言えないと思うが、父親たちの手なれた育児に、妻への心遣いはどうだ。これはもうほんとうに、いいねー、えらいねー、日本の父親も見習えよ！てな感じだったのである。(朝日新聞. 2003. 6. 21)
- 114) ここで「アリバイ破り」という推理小説の作風について一言しておけば、推理小説のポイントは真犯人は誰かにつけるわけだが、「アリバイ破り」の作品では、最初からあるいは途中から完璧なアリバイを持つ人物が真犯人たることは暗々裡に読者に前提されているのである。(新潮文庫100冊)

112) ~114) の例は、後行部分に「言う」「一言する」という発話活動を表す動詞がきて、先行部分が話題になる。この場合は「に対して」「に関して」「について」いずれも用いられる。しかし、「に関して」と「について」は、話題を説明の対象として取り上げているが、「に対して」は話題をやや強い調子で批判するという意味として用いられている。

すなわち、「に対して」は「について」「に関して」と同じように先行部分にくるものを話題とする用法(非常に稀である)ももつが、話題を説明の対象ではなく、態度の対象として取り上げているので、「について」「に関して」の話題の用法とはその性質を異にする。また、「について」「に関して」の場合も、「について」は、112) の例で分かるように話題についての内容がかなり具体的に述べられている。「に関して」の場合、113) を見ると、話題そのものについて具体的に述べるのではなく(例えば、「ベビーシッター」はどんなものであるのか、など)話題に関わる事柄について自分が感じたことが述べられている。すなわち、「について」「に関して」は話題の表す用法をもつということでは同じであるが、「について」は話題の内容をより具体的に述べようとしており、「に関して」は

話題との関わりのある事柄を自分の観点で述べようとするということが言える。

次は抽象的なものが先行部分にくる例を見てみる。

115) この作品の中でソルジュニーツイン氏は、ブレジネフ時代の反体制派への言論抑圧に対して道徳的抵抗を呼び掛けている。(朝日新聞. 1988. 11. 11)

116) 半沢は検定意見に対して「積極的に肯認しうる理由を見いだすことは困難といわざるを得ない」などと、いくつも疑問を出す。(朝日新聞. 1989. 10. 4)

117) 司馬「いわゆる都市文化人が、盆踊りに対してかっこうのいい発言をしているのを耳にしますが、あんな変なものはないですよ」(日本人とは何か、p. 59)

118) 教師が生徒の質問に対して「はい」「いいえ」の形でただちに情報を与えてくれる、という点では、まさにムーアのいう「応答的環境」が与えられることになるのである。(知的好奇心、p. 57)

115)～118)の例は、後行部分に「呼び掛ける」「疑問を出す」「発言をする」「情報を与える」のような態度を表す語がきて、先行部分が態度の対象になる。先行部分の「言論抑圧」「検定意見」「盆踊り」「生徒の質問」は話題になる可能性の高い語であるが、後行部分にくる語の性質が対象を要求する傾向が強いので態度の対象になってしまうと思われる。

119) 土井委員長の「消費税を廃止するお考えはありますか」という質問に対して海部首相は「その考えはありません」と答えた。(作例)

119)の例は、後行部分に「答える」のような発話活動を表す語がきて先行部分が話題になる。しかし、119)は、話題に対する態度が文の中にはっきりと表れている場合である。119)の例で、「に対して」は後行部分に純粋な発話活動を表す語がきて、先行部分が話題になれる可能性の高い表現が来たとき、先行部分が「態度の対象」ではなく、「話題」になることが分かる。しかし、話題性の場合「に対して」は文の中に話題に対する態度が表れているので、「について」「に関して」より話題性が弱くなっている。つまり、佐藤(1990)の、話題を取り上げる動詞と共起しても「に対して」は、必ずしも「態度と対象」しかなれない、すなわち、「テーマ

(話題)」にはなれないという説は、正しくないということが指摘できると言える。

120) 〈ね、その子、きれいだったでしょ〉それに対して、伊川治は必ずこう答えたものね。

〈いやあ、写真と実物は違いさひどいブスでね。魅力なんかこれっぽちもありゃしない。仕事でなけりゃ、あんな女口もきくもんか〉 (男と女のあいだには下、p. 69)

121) 「自分の記念碑をほしがるのは、人間の本性なんですよ、私は自分の記念碑をつくるまで死ねません」それに対して、娘は顔を赤らめつつ、こう答えました。「私たちのことを考えてくれる人などは、だれもいなくなって、このいろりばたで気楽に満足しているほうが、しあわせでしょうに」 (あらあらかしこ、p. 36)

120) と121) は、「に対して」が「答える」のような言語活動を表す語と共起して、対象に対する態度が述べられている例である。すなわち「に対して」は、相手との対立関係や批判的な意味を表す場合には、文芸作品にも自然に表れる傾向が見られる。

以上で、言語的な態度を表す語を中心に、その先行部分になるものを、人や人に準じるもの、抽象的なものに分けて調べてみた。具体的なものはあまり見当たらなかった。その結果、「に対して」は、人や人に準じるものが先行部分にくる場合が「について」「に関して」に比べて非常に多い傾向が見られた。「に対して」は、人や人に準じるものが先行部分にくる場合、後行部分の動作を直接受ける受け手、すなわち「相手」として取り上げられる。また「話題」になる可能性の高い抽象的なものが先行部分にくる場合、後行部分の性質が態度性の強い語と共起する場合、対象は「態度の対象」になりやすく、後行部分の性質が態度性の低いものがあるほど、話題になりやすくなっている。しかし、先行部分が話題を表しているとしても「に対して」は、文の中に話題に対する態度がはっきりと表れているので、「について」「に関して」とは違って、話題性が弱くなっていると言える。

「に対して」が共起しやすい言語的な態度を表す表現は次のようである。

言う、語る、申し入れる、呼ぶ、宣伝する、要請する、提言する、呼び掛ける、疑問を出す、発言をする、情報を与える、ていねいな言葉を使う、答える、要求する、応援する、弁明する、言い続ける、注文する、擁護する、命じる、主張する、明言する、苦情を言う、

アプローチする、お礼を言う、説明をもつ など

2-3-2 知的な態度

ここで「知的な態度」とは、思考活動を表す語として、態度的な意味を含んでいるものを表す。まず、例を挙げて考えてみたい。「知的な態度」の場合、他の語と比べて用例が非常に少ないので、先行部分を分けずに一緒に扱うことにする。

- 122) 大石「社長より下の課長のことをいうのだから、それでは社長に対して失礼ではないかと思うし、『おります』と言ったのでは、自分の直属の上役に自分が敬語を使っていないということで気がとがめるということです。（ことばシリーズ敬語、p. 68）
- 123) 「われわれは世間に対して、自分が正しいとか狂っているとか考えるわけだ。そうじゃないか」（男と女のあいだには上、p. 95）
- 124) 一方で、毎日おびただしい記事のいちいちに対して、そこまで感想を持てるものではあるまい、と思わずにはいられなかった。（朝日新聞. 1988. 11. 13）
- 125) 夫はいままでの習慣から、夫としての役割をちゃんと妻に対してとろうという自覚がない。（現代人の心をさぐる、p. 108）
- 126) 方便に銀行の圧力をもち出したのは上杉がブリグハムやサッシンにたいして試みたいちおうの脅かしであった。（空の城、p. 87）
- 127) 前方の状況と信号、そして自分の周囲を走っている自動車に対して冷静な注意力を注いでいる彼女が、彼女全体のなかの一部分として存在しているのだが、それ以外の彼女は、冷静さをまったく欠いて有頂天だった。（湾岸道路、p. 29）

「知的な態度」を表す語にも異なる特徴が見られる。例えば、122) と123) は、「に対して」が「思う」「考える」のような先行部分を話題として取り上げる力を持つ、思考活動を表す動詞と共起している場合である。しかし、「に対して」と結び付くと、先行部分を話題として取り上げるという元々の用法を失って、文の中に態度を含む語と結び付いて、態度を含む知的態度を表す語として用いられる。126) と127) の、「試みる」「注意力を注ぐ」には態度が含まれているので、内容が言及されなくても「に対して」が用いられやすい。124) と125) の「自覚がない」「感想を持つ」のような中立的な語の場合は、「に対して」はもちろん「について」

「に関して」とも共起しやすくなると言える。すなわち、「に対して」は、先行部分を話題として取り上げる純粋な思考動詞「思う」「考える」「知る」などの語とはあまりそぐわない。もし共起したとしても、本来の意味とは異なる態度の入った知的態度を表す語として用いられる。次の例の場合も同じことが言える。

- 128) a. あなたこの企画に対してどう思いますか。
b. ウーン、ちょっと賛成できませんね。(坂井、1992)⁴⁴

この例は、「この企画」に対して反対か賛成か聞いている場合である。もし、「あなたの企画に対してどう思いますか。」だけの質問であるならば、「について」「に関して」も置き換えられる。質問文を「この企画に対して反対する意見はありませんか」にすれば、「について」「に関して」は用いられにくくなる。すなわち、文の中に態度を表す表現がある場合と、答えの文に態度を表す表現が表れる場合には、「に対して」が用いられやすくなっている。前にも触れたように、「に対して」が純粋な思考動詞「思う」「考える」のような動詞と共起した場合、先行部分が話題になる可能性の高い語、すなわち包括的な内容の語の場合、例えば「この企画」は、費用の問題、期間の問題、企画の妥当性など、話題として取り上げることのできる側面が複数考えられる語の場合、「に対して」も先行部分を話題として取り上げることができる。「に対して」の用例中、知的な態度を表す例は少ない。

以上で、知的な態度を表す語を中心に、先行部分（他の語と比べて用例が非常に少なかったので、対象を分けずに一緒に扱った）との関係を考察した。その結果、後行部分にくる語の性質によって次のことが言える。

まず、「に対して」は、態度の含まれている語と共起しやすい。二番目に、中立的な語の場合「に対して」「について」「に関して」が用いられやすい。三番目に、純粋な思考活動を表す語とはあまりそぐわない。しかし、純粋な思考動詞と共起する場合、先行部分に包括的な内容の語がくると、先行部分を話題として取り上げる用法をもつ。しかし、文の中に態度を表す表現が含まれている場合が殆どなので、「について」「に関して」より「話題性」が弱くなると思われる。「に対して」が

⁴⁴ 坂井厚子(1992)「『～について』『～に対して』の意味・用法をめぐって」p.148参照

共起しやすい知的な態度を表す表現は次のようである。

思う、考える、考えをもつ、予感がある、試みる、認める、注意力を注ぐ、自覚がない、感想を持つ、見当がつく、意味をもつ など

2-3-3 感情＝評価的な態度

ここで「感情＝評価的な態度」とは、人間に対する感情や価値判断という評価的な態度を表すものである。まず、人を表すものが先行部分にくる例を見てみる。

129) 娘はじろりと伊川治を見上げ見下ろして、「ずいぶんでかい口きくわね」「きみこそ客に対して無礼だと思うがね」(男と女のあいだには上、p. 132)

130) 「きみは甘えすぎているんだ。人生に対しても、ぼくに対しても」
(男と女のあいだには下、p. 58)

131) 「白状なさい。わたしに対してももう単なる同居人以上の関心を失ってしまったんじゃないかって」(男と女のあいだには下、p. 70)

129)～131)の例は、「に対して」が文芸作品、特にシナリオのような柔らかい文章に表れている場合で、いずれも人間の緊張関係を表している。すなわち、「に対して」は感情的な行為が向けられる相手を示しており、その場面が人間の緊張関係を表す場合であれば、文芸作品にも自然に用いられる。

132) 江坂アメリカの財務部長田沢貞一には、安田現部長に対してNRG貸付金の四千二百万ドルの秘密があるが、これがいつ安田に暴露するかわからないである。(空の城、p. 91)

133) 井上「つまり観客や読者に対してある緊張感がないと、成り立たないところがある……」
(笑談笑発、p. 114)

134) 夫に対してさまざまな不満や批判を持っていても、妻はそれよりも母親である自分を優先する。(現代人の心をさぐる、p. 105)

135) U君も両親の影響なのか、T子さんに対してしっかりしていて、女友達とつき合う術を心得ている。(現代人の心をさぐる、p. 43)

136) 「自分の中に偏見があるかも知れない。しかし、朝鮮人に対して差別されているからか

わいそうな人たち、という意識ではいけないと思う。そんな意識では偏見はなくならない」と赤羽は意見を言った。（韓国・朝鮮人、p. 48）

132) ~136) の例は、いずれも後行部分に「秘密がある」「緊張感がない」「不満や批判をもつ」「しっかりする」「差別する」のような感情的・評価的な行為を表す語がきて、先行部分が行為の相手になる。これらの例から「に対して」は、相手との対立関係を表す場合や人間の緊張関係を表す場合に表れやすい傾向が見られる。次に人に準じるものが先行部分にくる例を見てみる。

137) 白書は「言葉どおり実施されたとしても、依然としてソ連の軍事力は西側に対して優位にあり、さらに、このような削減表明を行う一方で、引き続き核戦力および通常戦力の両面にわたり質的強化を図っている」と述べている。（朝日新聞. 1989. 9. 13）

138) 問題は、OPEC側がアラブ諸国に対して適性をもつと判断した国には石油の輸出を大きく削減することにする。（空の城、p. 135）

139) しかし自分の家族にたいしては責任を持つ必要がある。なぜかと言うと、家族は一つの社会をつくる単位であるから、その単位にたいして人々は責任をもたなければならない。（人生論、p. 72）

140) 斉「そこに何年かいて、次に、もう少し便利は悪いんだけど、やっと一戸建てのうちに持ってたっていうんで引越して行く。そういう人たちはその町に対して、何の愛着もないわけ」（元気が出る教育の話、p. 39）

137) ~140) の例も、後行部分に「優位になる」「適性をもつと判断する」「責任を持つ」「愛着もない」のような感情的・評価的な行為を表す語がきて、先行部分が行為の相手になる。すなわち、「に対して」は対象と離れた視点に立って、先行部分を行為の相手として取り上げ、心理的な行為を及ぼすことを意図している。感情＝評価的な態度を表す語の場合、人や人に準じるものが先行部分にくる例が多く見られた。以上の例から「に対して」は、「について」「に関して」より先行部分にくるものを動作を受ける相手や態度の対象として取り上げる程度が強いと言える。次は抽象的なものが先行部分にくる例を見てみる。

- 141) 高校生の時に、たまたま小学校三年生ごろの通知表を見つけ、通信欄に書かれていることに対して、母が先生に書き送っている言葉に驚きを感じたのです。
(朝日新聞. 1989. 9. 19)
- 142) 「レズの問題に対して、偏見を持ってないって証拠よ」
(男と女のあいだには下、p. 107)
- 143) 「君がここまで仕上げてきた努力と才能にたいして江坂の首脳部はもっとそれを評価し、君のすることにどうしてもっと寛大になれないのだろうか。」(空の城、p. 48)
- 144) 私の見る限り、韓国の親たちは、日本の親に比べると、自分たちのもつ偏見の体系、儒教を基軸としたモラルの体系にたいして自信をもっている。(ソウル実感録、p. 154)
- 145) 東洋のすぐれた芸術に対して我等はもっと親しみを持つべきである。(人生論、p. 53)
- 146) ボルーディグ「私自身、すべての社会科学の発展に対して興味をもっており、ただ経済学だけ、政治学だけ、社会学だけの単一の学問で十分だと思いません」
(日本人とは何か、p. 79)

141) ~146) の例は、後行部分に人間の対立関係や緊張関係を表す場合だけではなく、「驚きを感じる」「偏見を持つ」「評価する」「自信をもつ」「親しみを持つ」「興味をもつ」のような評価的な態度を表す語がきて、先行部分が態度と対象になる。後行部分に評価的な態度を表す語が来る場合は、「について」「に関して」も用いられるが、「について」「に関して」は話題を、「に対して」は態度の対象を表すということで、その用法上の差が見られる。次は具体的なものが先行部分に来る例を見てみる。

- 147) 私や十年代の学生たちが「朝日新聞」に対して、いかなるイメージを抱いているかは、わかっていただけと思う。(朝日新聞. 1988. 11. 13)
- 148) ヘビに対して怖れや嫌悪感を持つ人が多い。(知的好奇心、p. 41)
- 149) もっと重病の中には女性に対して積極的な感情や関心を抱くことが乏しい、そうしたタイプの若者が目立つようになった。(現代人の心をさぐる、p. 148)

147) ~149) の例は、後子部分に「イメージを抱く」「怖れや嫌悪感を持つ」「感情や関心を抱く」のような感情・評価的な態度を表す語がきて、先行部分が感情的な行為(評価的な態度)が向けられる対象になる。すなわち、「に対して」が

後行部分に感情・評価的な態度を表す語がくる場合、先行部分の性質によって、相手になったり態度の対象になったりする。先行部分に人と人に準じるものがくる場合は「相手」に、抽象的なものや具体的なものがくる場合は「態度の対象」になる可能性が高くなっていると言える。

150) チンパンジーでも人間でも、おとなは、へビに関して過去に「かまれた」とか、「かまれた人の話を聞いた」など不愉快な経験をしてきた。(知的好奇心、p. 42)

この例は、148)と同じように後行部分に「不愉快な経験をする」という感情的・評価的な態度を表す語がきて、先行部分が対象になる。148)と150)は先行部分に「へビ」という具体的な名詞がきているというのは同じであるが、その捉え方によって用法が違う。148)は、へビを感情が向けられる対象として取り上げているが、150)は、へビと関連して思い出した状況などを描いているので、先行部分が話題になっている。すなわち、後行部分に心理的な態度を表す語がくる場合でも「に関して」は話題を表していることが言える。

以上で、感情＝評価的な態度を表す語を中心に、先行部分にくるものを、人や人に準じるもの、抽象的なもの、具体的なもの、に分けて調べてみた。その結果、先行部分に人や人に準じるものが一番多く見られ、抽象的なものはその次である。先行部分に人や人に準じるものがくる場合、人間の対立関係や緊張関係を表す場合が多く、先行部分を相手として取り上げる傾向が見られた。抽象的な場合や具体的な場合は、態度の対象として取り上げる傾向が見られたが、具体的なもののほうが態度(行為)の対象そのものといったニュアンスが強いと言える。

「に対して」が共起しやすい感情＝評価的な態度を表す表現は次のようである。

甘える、無礼だ、秘密がある、緊張感がない、不満や批判をもつ、しっかりする、差別する、驚きを感じる、偏見を持つ、評価する、自信をもつ、親しみを持つ、興味をもつ、イマージを抱く、怖れや嫌悪感を持つ、感情や関心を抱く、感謝する、秘密がある、信義を尽くす、威張る、好悪がはげしい、夢を抱く、失礼する、敬礼をする、批判を向る、可能性を許容する、友好的だ、愛を抱く、優位になる、非難する、好奇心を抱く、愛着を持つ、同情的だ、消極的だ、驚きを感じる、怒りを持つ、残酷だ、敏感だ、不安になる、恐れおののく、腹もたつ、弱い、楽しむ など。

2-3-4 動作的な態度

ここで動作的な態度というのは、心理的な活動の一つで、先行部分に対する行動的な関係を表すものである。まず、人と人に準じるものが先行部分にくる例を見てみる。

- 151) 上杉に対して相変わらず忠実をつくしているこの二人を使うことは好ましくない。
(空の城、p. 59)
- 152) 私は大臣に対しては、絶対に服従するものであります。(新潮文庫100冊)
- 153) 例えば、飲物の店で、調理労働者が客に対して、きわめて不当な取り扱いをしたりするのが、私には理解できなかった。(新潮文庫100冊)
- 154) 森「ある意味で言えば、先生のほうで、親に対してむかついた場合に、それを子どもにハネ返すわけにいかないので、よけいむかつくんじゃないの？」
(元気が出る教育の話、p. 77)
- 155) 世の中がそう簡単に変わるものではないことを確信している夫に対して、嫁であるオモニの立場は弱く、逆らえないことがわかっていたからである。(韓国・韓国人、p. 86)
- 156) 一方、球団側に対しては、応援スペースの確保に必要以上の外野自由席を応援団に割り当てることを禁止する。チケットを客に高値で転売する行為が暴力団の利権となっているケースがあるためだという。(朝日新聞. 1989. 8. 14)
- 157) 衛藤氏に対しては、03年は公明党本部が推薦。今回は機関決定はしないものの、大分県本部として「全面支援」することを24日に決めた。(朝日新聞. 1989. 10. 5)
- 158) 山口「彼自身は、中心に向こうとするけれども、反対に圏外に去っていく。そういう意味で、乃木大将の場合は、明治天皇に対して放浪の王子の役割を果たした」
(笑談笑発、p. 38)
- 159) ブッシュ政権は、レーガン政権よりもいっくらか厳しい貿易政策をとることになるだろう。日本に対しては、他の国より圧力をかけることになると思う。
(朝日新聞. 1988. 11. 12)

151) ~159) の例は、後行部分に「忠実をつくす」「服従する」「不当な取り扱いをする」「むかつく」「逆らう」「禁止する」「推薦する」「役割を果たす」「圧力をかける」のような先行部分に直接動作(行為)を及ぼす語がきて、先行部分が態度の相手になる。次は抽象的なものが先行部分にくる例を見てみよう。

- 160) 人間が多くを断念しなければならぬほど、断念の無理強いに対して反抗させないための服従のしつけが必要である。(人生論、p. 98)
- 161) なぜこんなに寒いのか、寒いことはかねて承知の上で、充分用意して出て来ているのに、寒いと感ずるのは、もともと、寒さに対して抵抗する能力がないのかも知れないと思ったりした。(新潮文庫100冊)
- 162) 子どもの働きかけに対して、環境がいつも応答変化してくれるかどうか、これが愛着の形成に重要な役割を果たしているようにみえる。(知的好奇心、p. 127)
- 163) ビール・発泡酒のメーカー・卸側が仕入れ値引き上げを提示したのに対して、イオンが強く反発したのも、小売りに主導権が移りつつある例だ。イオンは流通効率化でビールの店頭価格は据え置き、発泡酒については逆に値下げする構えだ。
(朝日新聞. 2005. 4. 6)
- 164) 高野は郵政民営化に対して「採算性重視になれば、庶民に金が回らない」と反対。農村部での得票も狙う。(朝日新聞. 2005. 9. 4)
- 165) かつての自分とは別人なのだと言ってもいいほどにトレーニングをつんできた自分体全体が、オートバイのパワに対して敏感に反応していた。(湾岸道路、p. 55)

160) ~165) の例は、後行部分に「反抗する」「抵抗する」「応答変化する」「反発する」「反対する」「反応する」のような動作的な態度を表す語がきて、先行部分が行為(動作)の対象になる。すなわち、先行部分に直接ある行為(動作)を及ぼして、その行為が外に表れるという特徴を持つ動作的な態度の語と共起する場合、「に対して」しか用いられない。

「について」も後行部分に動作的な語がきて、先行部分が「話題」ではなく、「対象」になる場合がある。

- 157) 娘はすべての項目について、正しい答えとしてBにマルをつけていました。(作例)
- 158) アンケート調査は28名について行なう。(雑類)

157) と158) の場合は、「に対して」も用いられやすい。「マルをつける」「行う」のような語は、動詞的な態度を表す語である。この場合は「について」「に対して」両方とも用いられやすい。しかし、心理的な態度まで含まれているときは、「に対して」のみ用いられやすいと言える。

以上で、動作的な態度を表す語を中心に、先行部分との関係から調べてみた。その結果、感情＝評価的な態度を表す語の場合と同じように、先行部分に人や人に準じるものが一番多く見られ、抽象的なものはその次である。動作的な態度の場合は、先行部分に人や人に準じるものがある場合、先行部分が行為（動作）の相手になり、抽象的なものがある場合、行為（動作）の対象になる。すなわち「に対して」が動作的な態度を表す語と共起した場合、特に心理的な態度まで含まれている場合、「について」「に関して」とは置き換えられない「に対して」の独自の用法を持つと言える。

「に対して」が共起しやすい動作的な態度を表す表現は次のようである。

忠実をつくす、服従する、不当な取り扱いをする、むかつく、逆らう、禁止する、推薦する、役割を果たす、圧力をかける、反抗する、抵抗する、応答変化する、反発する、反対する、反応する、援助する、交渉する、戦う、対応する、働きかける、応援する、提供する、支払う、擁護する、捜査する、順応する、調節する、協力する、妥協する、影響する、売るなど

2-3-5 考察の結果

以上、「に対して」の用法をジャンル別にとった用例を中心に考察してみた。まず、後行部分から考えてみると、「感情＝評価的な態度を表す語」が一番多く用いられていた。「言語的な態度を表す語」と「動作的な態度を表す語」はほぼ同じ比率で用いられていたが、「知的な態度を表す語」はその数が非常に少なかった。後行部分にくる語の特徴としては、和語より漢語や連語がくる例が多かった。「に対して」の後行部分にくる語の特徴としては、態度の含まれている語とは共起しやすく、純粋な言語活動を表す語や思考活動を表す語とは共起しにくい傾向が見られた。

次に先行部分を考えてみると、「人や人に準じるもの」が一番多く用いられており、その次が「抽象的なもの」で、「具体的なもの」はあまり用いられていなかった。後行部分に態度性の強い語がくる場合、先行部分が「人や人に準じるもの」であれば「相手」になりやすく、「抽象的なもの」や「具体的なもの」であれば「態度の対象」になりやすい傾向が見られた。先行部分が「態度の対象」になる場合、

「抽象的なもの」より「具体的なもの」のほうが態度（行為）の対象そのものといったニュアンスが強いと言える。また「に対して」が動作的な態度を表す語と共起した場合、特に心理的な態度まで含まれている場合、「について」「に関して」とは置き換えられない「に対して」の独自の用法を持つと言える。

2-4 まとめ

以上の「について」「に関して」「に対して」についてジャンル別にとった用例を用いて考察してきた。まず、「について」「に関して」「に対して」の全般的な使用傾向を調べるため、朝日新聞と読売新聞及び新潮文庫100冊⁴⁵についてその用例数を調べてみた。朝日新聞は、asahi.comトップWEB検索から、読売新聞は、YOMIURI ONLINEウェブ検索から、及び新潮文庫100冊から調べた結果は、〈表2〉のようである。

〈表2〉

	について	に関して	に対して
朝日新聞	42, 354, 334	7, 089, 022	7, 250, 000
読売新聞	7, 250, 000	941, 000	1, 090, 000
新潮文庫100冊	1873	212	909
合計	49, 606, 207	8, 030, 234	8, 340, 909

全体的に朝日新聞が用例数が多いが、両新聞とも「について」が一番多く用いられており、その次は「に対して」と「に関して」の順、ほぼ同じ傾向で用いられている。また『新潮文庫100冊』の場合でも、「について」が一番多く、その次が「に対して」と「に関して」の順で、新聞類と同じ傾向が見られたが、小説の場合は「に関して」より約4倍ほど「に対して」が用いられやすくなっている。本稿で実

⁴⁵ 朝日新聞と読売新聞は2005年1月から8月までのデータであり、新潮文庫100冊は1995年のCD-ROMのデータである。

際に用いられた用例を見ても同じ傾向が見られた。〈表1〉を見ると分かるようにジャンル別にとった用例の考察の結果でも、「について」は新聞や論説文のような重い内容の文と文芸作品のような柔らかい文にも表れやすい傾向が見られた。つまり、「について」は、新聞や論説文や小説などの全てのジャンルに用いられやすくなっていると言える。「に対して」と「に関して」は、新聞類ではほぼ同じく用いられているが、小説類では「に関して」より「に対して」の方が用いられやすくなっていると言える。

次に用法の面では、「について」は知的行為（言語活動を表す語と思考活動を表す語）を表す語と共起して、先行部分を話題として取り上げる。また、動作的態度を表す語と共起す場合は先行部分を対象としても取り上げる。「に関して」は、知的行為を表す語と共起する場合、ほぼ「について」と同じ用法を持っている。先行部分が包括的であるか、具体的であるかによって「について」と「に関して」の用法上の差が見られる。また「に関して」は、主に新聞や論説文のような重い文に用いられた場合は、客観的で冷淡な意味として使われている。文芸作品の中で日常生活の柔らかい文に用いられた場合は、ユーモア的で、滑稽な意味として使われている。「に関して」が文芸作品で一番多く用いられたのは、断定の意味を表す場合である。すなわち「について」は主観的、客観的、感情的な場合など幅広く用いられる反面、「に関して」は客観的、断定的な場合のみに用いられやすい傾向が見られる。「に対して」は、新聞や論説文のような重い文でも文芸作品の中で日常生活の柔らかい文でも用いられやすいが、主に人間の対立関係や緊張関係を表す場合が多い。特に、人間の緊張関係を表す場合は、批判的な意味として、日常的な会話文にも表れやすい。「に対して」は態度を含む語と共起しやすく、態度の強弱、先行部分の性質、態度の対象（相手）、または非常に稀ではあるが、話題としても取り上げることができる。では、これらの表現の連体形である「についての」「に関する」「に対する」の場合はどうであろうか。今までの考察の結果では、「について」と「に関して」は「話題」、「に対して」は「対象や相手への態度」という後置詞としての独自の用法を確立していることが分かった。その際「について」「に関して」はどちらも「話題」の用法をもつものとして一緒に扱ったが、文献を用いてアンケ

ート調査⁴⁶を行った結果大きな差が見られた。一般文献では、「について」は多く用いられているが、「に関して」はあまり用いられていないのに対し、アンケート調査では「に関して」が「について」と殆ど同じように用いられている。このような理由で連体形の考察は必要であると言える。連体形「についての」「に関する」「に対する」は連用表現「について」「に関して」「に対して」と同じ用法を持つものとして扱っているのであろうか。それでは、連用表現と全く同じ用法を持つかどうかを実例を用いて考えてみる。

3. 後置詞の連体表現の用法について

ここでは後置詞の連用表現の分析ではよく分からないところを、連体表現の分析を通して考察してみる。

まず、どのような場合にどのような頻度で使われているかを調べるために「についての」「に関する」「に対する」の各用例を様々なジャンルの文献から取って、各語の全般的な機能を調べてみる。次に、各語の用法上の差を明らかにするために、それぞれの後置詞の前後につく名詞の関係を中心に用例を検討する。例えば、「税制に関する法令」の場合、「税制」に当たる部分を先行部分、「法令」に当たる部分を後行部分と呼ぶことにする。

後置詞の連体表現には、塚本（1991）の指摘のように（ア）連体格助詞の「の」を付加する方法と、（イ）動詞部分を連体形にする方法の二種類がある。

	(ア)	(イ)
について	についての	×
に関して	に関しての	に関する
に対して	に対しての	に対する

⁴⁶ 金仙姫(1990)「現代日本語における『～について』『～に関して』『～に対して』の用法上の差異について—アンケート調査を中心に—」p. 121～128参照

3-1 連体表現の全般的な傾向

まず、連体表現の全般的な傾向を調べるため、朝日新聞と読売新聞及び新潮文庫100冊についてその用例数を調べてみた。朝日新聞は、asahi.comトップWEB検索から、読売新聞は、YOMIURI ONLINEウェブ検索から、及び新潮文庫100冊から調べた結果は、〈表3〉のようである。

〈表3〉

	についての	に関する	に関しての	に対する	に対しての
朝日新聞	8, 312, 989	14, 603, 506	418, 480	7, 777, 923	521, 382
読売新聞	1, 230, 000	3, 040, 000	147, 000	1, 320, 000	127, 000
新潮文庫100冊	171	250	7	799	18
合計	9, 543, 160	17, 643, 756	565, 487	9, 098, 722	648, 400

使用頻度から見ると、朝日新聞・読売新聞両新聞とも「に関する」が一番多く用いられており、「についての」と「に対する」はほぼ同じく用いられている。また「に関しての」と「に対しての」はその数が非常に少なかった。新潮文庫の場合、「に対する」が一番多く用いられており、その次が「に関する」と「についての」の順である。また「に関しての」と「に対しての」は新聞類と同じようにその数が非常に少なかった。本稿で調べた用例の場合も、新聞類では「に関する」が一番多く用いられており、一般文献では、「に対する」が一番多く用いられている。新聞類では新しい事件やトピックについて報道したり、解説したり、批評したりするなどの論説的で硬い文章が好まれるので、「に関する」が用いられやすくなっており、一般文献では人間の対立関係や緊張関係などを表す文章が多いので「に対する」が用いられやすくなっているのではないだろうか。新聞類と一般文献いずれも「に関しての」と「に対しての」は用例の数は非常に少なかった。少ない用例では用法の差異が判断できないので、今回の考察の対象外とした。また「について」と「に関して」の場合は、〈表1〉〈表2〉からも分かるように「について」が圧倒的に使われていたが、「についての」と「に関する」の場合は、〈表3〉からも分かるように

「に関する」の方が「についての」より多く用いられていた。「に対して」と「に対する」については、新聞類では「に対して」と「に対する」が同じように用いられているが、新潮文庫や一般文献では「に対して」より「に対する」の方が用いられやすくなっている。つまり、使用頻度の面では、「に関して」と「に対して」より「に関する」と「に対する」の方が用いられやすくなっている反面、「についての」は「について」ほど用いられてないと言える。それでは、「についての」「に関する」「に対する」が、「について」「に関して」「に対して」と全く同じ用法を持つかどうかを実例を用いて考えてみる。まず「についての」「に関する」の関係から考察してみよう。

3-2 「についての」「に関する」

「について」と「に関して」の場合は、ジャンル別に用例をとった結果、「について」の方が「に関して」より圧倒的に多く用いられていた。アンケート調査の結果（金仙姫、1990）でも次のような用例を除けば殆ど「について」が「に関して」を代用する形になった。

159) 日本の新幹線は、スピードに関してフランスのTGVと世界一、二を争う。（作例）

160) モーツァルト研究に関して彼の右にでる者はいない。（作例）

159) と160) の例のように、「他のことは分からないが、この点では/この点にかけては～だ」という「観点や基準などを表す」意味として用いられている場合には「について」が用いられにくい。これに対して「についての」と「に関する」はほぼ同じように使われていた。「についての」は「について」とほぼ同じでその使用範囲がかなり広いが、「に関する」の場合は、「についての」と似た用法も持つが「に関する」だけの独自の用法を持つものとして使われている傾向が強いと考えられる。例文を見ながら検討しよう。

161) ソ連内閣不信任に関するゴルバチョフ大統領（読売新聞. 1987. 10. 7）

162) ウズベキの国家独立に関する法（読売新聞. 1991. 8. 15）

163) 財産の今後の使用問題は、所有および社会的団体に関するソ連邦および共和国の法律を原守して解決される。(読売新聞. 1991. 8. 17)

164) 社主の買物に関する限り、形式的なものでしかなかった。(空の城、p. 86)

165) このインスタントラーメンとコーラというものに関する限り、お家の固いご法度山門に入るを許さず、の世界であった。(くたばれグルメ、p. 68)

以上の用法は「に関する」の例でしか表れていない。例文の中で164)と165)は、「に関して」の独自の用法の「話題限定」を示す用法と同じである。ここで「話題限定」というのは、後行部分に評価的な態度を表す語がきて、「その点で(は)～で、～にかけては」の意味で用いられて場合を表す。161)162)163)のように、後行部分が「法」「大統領」「法律」などの国の法律の関係の事柄を表す場合には「に関する」しか使われていない。その理由は各語の機能を調べるとき具体的に考察することにする。

3-3 「に対する」

「に対して」と「に対する」は使用頻度の面では、ほぼ同じく用いられていた。用法の面でも同じであるかどうかを考察してみよう。

「に対する」の用例は数多いが、その殆どは下の例のように、先行部分が行為の直接の受け手を示す例である。

166) 初対面の人に対する話の場合などは前置きはぜひ必要だ。(話し上手になる本、p. 59)

167) バルト三国に対する経済支援策の検討(読売新聞. 1987. 10. 14)

以上の二つの例で、166)の「初対面の人」は、「話」という動作の具体的な働きかけが及ぶ対象である。167)の「バルト三国」は「経済支援」を受け取る受け手である。このような用法では、先行部分は、後行部分で表される行為の単純な受け手を示しているにすぎない。このような例で用いられる「に対する」の意味は明白であるので、ここでは取り挙げないことにする。

また「に関する」には、元の動詞の意味を忠実に再現した「～に係る」

「～にかかわる」という意味での使い方もあるが、これも考察の対象外とした。

168) 私の家に関する私の記憶、総じてこういうふうひなびている。(硝子戸の中、p. 97)

3-4 後置詞の用法について

「についての」「に関する」「に対する」の先行部分と後行部分の名詞に注目し、これらの表現の使い分けを考察する。まず、後行部分に注目して考察を行い、後行部分だけでは判断できないところは先行部分に注目して考察してみたい。

3-4-1 「に対する」と共に使う名詞

3-4-1-1 「に対する」のみと共起する名詞

次のような例では、「に対する」は使われているが、「についての」と「に関する」は殆ど使われていない。

168) 急激なストレスに対する急性の反応 (現代人の心さぐる、p. 65)

169) 相手に対する配慮 (話し上手になる本、p. 117)

170) 不正に対する怒り (自分を嫌うな、p. 38)

171) 先輩自身の仕事に対する姿勢 (愛されるオフィスレディの話し方、p. 38)

以上の「反応」「配慮」「怒り」「姿勢」は、「態度・姿勢」を表す語で、これらの後行部分は先行部分に向けられる行為を示している。後行部分の観念性が薄れて具体性が強まると、先行部分が単純な受け手になる用法に繋がって行く。

また「犯人に対する怒り」の場合は「犯人」は単純な受け手を表す。このように先行部分が人格性を持っている場合は単純な受け手になりやすい。

3-4-1-2 「についての」との関係

「に対する」を使う語(後行部分)で、「についての」とも共起しやすいものに

は、次の例がある。

- 172) 葛藤についての認識 (現代人の心をさぐる、p. 84)
仕事に対する認識 (愛されるオフィスレディの話し方、p. 63)
- 173) 材料の性質についての理解 (知的好奇心、p. 40)
問題に対する理解 (知力と学力、p. 58)
- 174) 民族と祖国についての考え (韓国・朝鮮人、p. 35)
ロータリーに対する考え (ロータリの友、p. 13)
- 175) 旅行についての考え方 (話し上手になる本、p. 105)
テレビに対する基本的な考え方 (話し上手になる本、p. 117)
- 176) 青少年交換についての意見 (ロータリの友、p. 28)
外国人医療に対する意見 (雑誌類)
- 177) 「人間性」についての見方 (ロータリの友、p. 42)
課長に対する見方 (話し言葉の技術、p. 58)
- 178) 医療と衛星についての関心 (ロータリの友 p. 68)
仏教に対する関心 (人生論、p. 35)

以上の後行部分「認識」「理解」「考え」「考え方」「意見」「見方」「関心」は、知的行為を表す語である。⁴⁷ ここで挙げた「についての」と同様な「に対する」は上述の「に対する」のみしか用いられない例とは少し用法が異なっている。168)～171)では、後行部分はその表す行為が外に表れるのに対して、172)～178)の後行部分は、その表す行為が主体の内部のみ存在し、変化として外部にあらわれない。つまり、「についての」と「に対する」とが共起する場合の後行部分は対象に対する心的態度(評価や認識など)を表していると言える。先行部分にくる語も「についての」は、包括的な内容の語が表れやすいが、「に対する」は人格性を持ってい

⁴⁷ 「認識」や「理解」は次の三通りの用法を持っている。

①自分の差別意識に対する理解がない。(その存在に気がしているかどうか)

②子供に対する理解がない。(共感)

③仕事に対する理解が足りない。(知識・情報)

このように「認識」や「理解」は「に対する」と「についての」とも共起する用法や「に対する」とのみ使える用法を持つ表現である。①と②は「に対する」のみ使える例であり、③は「に対する」と「についての」の両方使える例である。用例で取り上げたのは③である。つまり、「認識」「理解」は「に対する」と共起する語の領域と「についての」と共起する語の領域の境界の語であるとも言えるだろう。

る語や具体的な内容の語が表れやすいと言える

3-4-2 「についての」と共に使う名詞

この中で、「に対する」とも共起する名詞（後行部分）については、5-4-1-2で調べてみたので、ここでは、「に関する」と言い換えられる場合と「についての」のみと使われる場合を扱う。ただ「についての」のみ使われる場合はあまり見当たらないので、最初は「に関する」との関係について取り上げる。

3-4-2-1 「に関する」との関係

「についての」と共に使う名詞で、「に関する」とは共起するが、「に対する」とは共起しないものには、次の例がある。

- 179) 村の住宅についての調査（読売新聞. 1991. 8. 13）
 公務員に関する世論調査（朝日新聞. 1989. 9. 10）
- 180) 農薬その他の技術についての研究（米の未来学、p. 59）
 糖質に関する研究（米の未来学、p. 78）
- 181) 職業についての講演会（ロータリの友、p. 51）
 日本語教育に関する講演会（日本語教育）
- 182) 旅についての討論会（ロータリの友、p. 67）
 粘土の重さの保存に関する討論会（知）
- 183) 彼についての記事（天声人語、p. 78）
 国際交流に関する記事（ロータリの友、p. 47）
- 184) 鷗外についてのたくさんの著書（ロータリの友、p. 62）
 西郷に関する本（日韓理解への道、p. 35）

以上の例で、後行部分「調査」「研究」「講演会」「討論会」「記事」「本」は、知的行為もしくは知的行為の所産を表す語であると同時に、タイトル（内容の提示）を要求する性質の強い語である。つまり、これらの用例では後行部分は「内容」をもつものであり、その内容に当たるのが先行部分ある。これらの用例ではい

ずれの場合でも「についての」とともに「に関する」の用例も多く見られた。

3-4-2-2 「についての」のみ使う名詞

「についての」方が「に関する」より自然な文になりやすい例がある。

185) 未来の理想郷についての話 (話し言葉の技術、p. 66)

186) おかしな登山家についての話 (新潮文庫100冊)

187) 米山記念奨学金に関する話 (ロータリの友、p. 43)

188) 米軍の軍縮問題に関する話 (朝日新聞. 1989. 9. 18)

この例の「話」は、「調査」「研究」「記事」などと同じように、知的行為を表す語である。187) と188) の先行部分は具体的事実として存在するのであるのに対し、185) と186) は思考の産物にすぎない。「に関する」は題目として提示する先行部分が具体的事実である方が共起しやすいということが窺える。つまり「に関する」は先行部分が空想ではなく事実である方が共起しやすいらしい。

189) 彼に関する新聞記事についての話は、いっさいが揶揄に思われた。
(新潮文庫100冊)

この例は「についての」が、「彼に関連する新聞記事」という具体的な内容(事実である)と共起している場合である。つまり、「についての」は後行部分に知的行為を表す語がくる場合、先行部分に空想的な内容も具体的な事実の内容も両方共起しやすいと言える。

3-4-3 「に関する」と共に使う名詞

「についての」と共起する語については、5-4-2-1で述べた。ここでは、「に関する」とのみ使われる例を見る。

190)共和国の政治的、経済的独立に関する法律（読売新聞. 1991. 8. 12)

191)まちづくりに関する法律。（新潮文庫100冊）

「法律」「法」に関係する例は多く見られるが、すべてに「に関する」が使われていた。これらの「法律」「法」は、タイトル（内容の提示）を要求する点では、5-4-2-1で使われている語と同じである。しかし、後者すなわち「についての」とも置き換えられる語は、他者への知的な行為を示す名詞であるという点で、「法律」などの語とは性質を異にする。⁴⁸

なお、「に関する」と「に対する」の両方が使えて、「についての」が使えない場合はない。

3-5 「に対する」「についての」「に関する」のすべてと共通に 使える名詞

192)自然界についての知識（空間のエコロジー、p. 77）

193)自分の体に関する科学的な知識（雑誌類）

194)税に対する知識（河北新報. 1991. 2. 5）

195)日本語教育についての質問（日本語教育の教材、p. 57）

196)内藤についての質問（新潮文庫100冊）

197)作戦に関する質問（新潮文庫100冊）

198)彼に関する質問（新潮文庫100冊）

199)この問題に対する米側の質問（朝日新聞. 2003. 6. 15）

200)幼児期の周囲に対する異常なまでの質問（現代人の心をさぐる、p. 97）

以上の例で、「知識」と「質問」はこの二つの表現全部と共起できる。「知識」と「質問」は知的行為を表す語で、先行部分は後行部分の内容を表すので「についての」「に関する」は使われる。「に対する」は「知識」をもって問題に対処、問題を解決するといった態度が入っているように感じられる。「質問」の場合も

⁴⁸ 「に関する」はC部分として「事柄」「事」「件」など形式的な名詞と共に使われてその内容を提示している例も多い。

同じことが言える。つまり、「知識」と「質問」は「についての」「に関する」と共起する領域と「に対する」と共起する語の領域の境界の語であるとも言えるだろう。

また、次の用例を見て三つの表現の用法上の差異を調べてみよう。

- 201) 学生の家族についての情報（雑誌類）
- 202) 街についての情報（新潮文庫100冊）
- 203) 英語資格に関する情報（雑誌類）
- 204) 非加熱製剤の危険性に関する情報（新潮文庫100冊）
- 205) ? 日本語の試験に対する情報（作例）

「情報」も「知識」「質問」と同じように知的行為を表す語であるが、「に対する」は共起しにくい。なぜであろうか。「知識」と「質問」は上に述べたように態度性をもっているが、「情報」はもっていないからではないだろうか。

3-6 まとめ

以上で、「について」「に関して」「に対して」の連体表現である、「についての」「に関する」「に対する」について考察した結果は、次の通りである。

- 1) 「に対する」は態度を表す語（後行部分）と共に用いられやすい。その中で「怒り」「反応」「配慮」「姿勢」などの語は、その態度が外に表れてその影響を受ける対象が存在することが前提となっている。それに対して後行部分が「理解」「関心」などその行為が内部のみ存在する語、すなわち、心的態度（評価や認識など）を表す語であるときは「についての」とも共起しやすくなる。
- 2) 「についての」も「に関する」も内容（情報）を表す用法がある。「についての」は「認識」「意見」「考え」などの知的行為を表す語と共に用いられる。「に関する」は、「講演」「本」「法律」など主とした題目（タイトル）の提示を要求する傾向が強い語と共起しやすいが、「話」などの純粋な知的行為を表す語とは共起しにくい。共起するとしても先行部分は空想ではなく、具体的

な事実を表す内容の語と共起しやすい。「についての」は、空想の場合にも、具体的な事実の場合にも、どちらにも用いられやすい傾向が見られた。

- 3) 「についての」は「に対する」や「に関する」と共に用いられる用例が多い。「についての」と「に関する」は辞書類などでは、殆ど同じ用法を持つ表現として扱われているが、特に注目したいのは、「に関する」は後行部分が心的態度（評価・認識）を表す表現に馴染まず、共起しにくい。また「に対する」と共に用いられる用例はごく少数である。
- 4) 知的行為や心的態度（評価・認識）の意味を合わせ持つ「知識」「質問」などの語（後行部分）は、「についての」「に関する」「に対する」をすべてとることができる。
- 5) さらに「に対する」「についての」「に関する」の二つ以上と共起できる語は、それぞれの表現と主に共起する語が持っている性質をすべて備えている。つまり、「についての」と「に対する」の両方と共起できる語（「理解、見方、関心」など）は、知的な行為（「についての」と共起できる性質）を表す語であると同時に態度（「に対する」と共起できる性質）を表す語でもある、すなわち評価・認識などの心的態度を表す語であると言うことができる。同様に、「についての」と「に関する」の両方と共起できる語（「研究、講演、記事」など）は、知的行為を表す語であると同時に内容の提示を必要とする語でもある、すなわち知的行為でその内容を示すタイトルを持つことのできる語である。
- 6) 「に関する」には、「に関する限り」という固定した表現がある。

以上から三つの表現のうち一つの表現が選ばれる手順を考えると、次の通りになるのではないだろうか。

まず後行部分の性質によって後置詞が決められる（今回の用例の場合は殆どこれに属する例が多い）。

例) 質問に対する反応。税制に関する法律

次に後行部分だけでは後置詞が決められない場合は先行部分が決め手の役割を持つ。

例) これからの生き方についての話。刑法に関する話。

さらに後行部分と先行部分では後置詞が決められない場合は他の要素（文体や文脈など）が決め手の役割を持つ。

今回分析した結果を次の〈表4〉にまとめておく。〈表4〉に出る数字は用例数を表す。

〈表4 連体表現の分析の結果〉

後置詞（連体表現）			語 例	後行部分の性質			
についての	に関する	に対する	後行部分の語	態度	知的行為	情報	タイトル
0	0	30	反応・抵抗	◎	×	×	×
0	0	120	配慮・気持ち				
8	0	30	要求・要望				
29	1	51	認識・理解	○	○	×	×
25	4	112	評価・見方				
12	3	48	関心・興味				
15	9	13	意見				
14	7	29	考え・考え方				
13	4	1	話	×	◎	○	×
20	20	2	情報	×	○	○	×
42	17	29	知識	○	○	○	×
10	6	5	質問	○	○	○	×
4	20	2	調査	×	○	○	○
21	33	2	研究				
11	28	0	講演会				
13	15	0	記事・記述				
19	44	0	本	×	×	○	○
0	49	0	法・法律	×	×	×	◎

これらの連体表現である「についての」「に関する」「に対する」の場合は、連用表現の用法とほぼ同じ用法を持つことがわかる。つまり、「について」は「話題の用法」と「対象の用法」を、「に関して」は、「話題の用法」と「話題の限定」

用法を、「に対して」は、主に「態度の対象」の用法を持つなど、それぞれの用法を持っていることがわかる。

しかし、連体表現の「に関する」と「に対する」の方が連用表現の「に関して」「に対して」より、その使用範囲が広がっている反面、「についての」は「について」よりその使用範囲が狭くなっていると言える。また、連用表現の場合よりは連体表現の場合の方が、後行部分の性質によって、この三つの表現が選ばれる手順がある程度明確に分けられる傾向が見られた。

4. 格助詞との関わり

後置詞「について」「に関して」「に対して」の意味・用法を考察するとき、「について」と「に関して」は格助詞「を」と、「に対して」は格助詞「に」と密接な関わりを持っていることに指摘されている。これから格助詞「を」・「に」と後置詞との関わりについて用例を中心にその使い分けを考察する。

4-1 先行研究から

格助詞については以前から比較的の研究が進んでいるが、後置詞について本格的な研究が行われるようになったのは、ごく最近である。また、どの場合に後置詞が使われ、どの場合に格助詞が使われるかを一緒に調べた研究は少ない。特に、後置詞「について」「に関して」「に対して」と格助詞「を」「に」についての比較研究は非常に少ない。佐藤（1990）では、「～について」「～に対して」の用法の差を調べているところで、格助詞「に」と「を」について少しふれているだけである。佐藤は「を」と「について」の使い分けを次のように述べている。

「を格」と「～について」の大きなちがいはかざり名詞にある。奥田氏によれば、「～について」は抽象名詞、具体名詞のいずれもかざりになるが、を格は抽象名詞しかかざりにならない。かざりが抽象的であるときはを格と「～について」がいかえられるが、具体名詞の「…のことを」という手づきでその意味を抽象化しなければならない。つまり、「～について」は対象の全体を、を格はその側面をあらわしている。しかし、「～

について」が言語活動・思考活動・認識活動をあらわす動詞と結び付いて、“テーマ”をあらわす場合はを格ではあらわせない独自の用法をもっていることがいえる。⁴⁹

「に」格と「～に対して」についても次のように述べている。

「～に対して」の用法とかざり名詞と、かざられの位置にくる語とのむすびつき方によって、“態度の対象”と“相手”に分けられるが、文の中で果たしている機能の特徴からみると、“態度の対象”“関係の明確化”“表現性”の三つに分けられる。“態度の対象”は「～に対して」が特定の対象をとることを必要としない動詞と結び付いて、対象との関係を積極的にあらわす用法として、に格ではあらわせない独自の用法である。“関係の明確化”はに格でもあらわせるが、に格ではその関係が分かりにくくなってしまうので「～に対して」を用いてその関係をはっきりさせている。“表現性”は態度の対象にも相手にもみられ、いかえられる格にはに格とを格がある。

この場合は文体、表現性の問題であって、“態度の対象”“関係の明確化”とはその性格を異にする。

また、塚本(1991)では、格助詞と後置詞との関係を統語・意味の側面から考察し、次のように述べている。

統語的な特徴として、まず、いくつかの複合格助詞は単一の格助詞に置き換えられる場合が多いということである。複合格助詞と単一の格助詞との交替現象としては、例えば、「～について」「～に関して」と「を」、「～に対して」と「に」、「～によって」と「に」などが挙げられる。次は、ある補語がある動詞にとって必須的であるか(つまり、ある動詞のある補語に対する要求度が高いのか)、副次的であるか(つまり、その要求度が低いのか)、といった動詞の結合価に関する問題を取り上げる。

意味的な特徴としては、「内容性」といった特性をもってその使い分けを調べることが出来る。つまり、必須補語と判断される場合において、前置される名詞類が有する「内容性」といった特性が強いと「について」「に関して」と単一の格助詞「を」のどちらでも用いることができる。しかし、その特性が弱いと、「について」「に関して」は使えるが、「を」は使えない。従って、複合格助詞は、前項部分名詞類が持つ何らかの特性が弱くても、動詞部分の意

⁴⁹ 佐藤尚子(1989)「現代日本語の後置詞について－『～について』と『～に対して』を例として－」p. 35～44参照

味がその特性を補い、強化することによって、使用が可能になる機能を有している、と言える。⁵⁰

まず、佐藤は奥田の説に従って、を格と「～について」の違いをかざり名詞にあると指摘した。しかし、二つの表現の違いをただかざり名詞が抽象名詞か具体名詞かによって区別するのは説得力が低いと思われる。に格と「～に対して」では、“態度の対象” “関係の明確化” に分けて説明しているが、その説明では「に」格と「～に対して」の使い分けがよく分からない。“表現性” のところで文体の面も少し触れているが、二つの表現の使い分けについては触れていない。また、塚本の説については第2章のところでも少し触れたが、まず、統語的な特徴からすると、必須補語と副次補語との区別の基準が定かではない。定かでない基準をもって、二つの関係について述べるのは非常に難しい。次に、意味特徴からすると、内容性が低いか高いとかの判断が曖昧であることが指摘できる。

以上の研究からは、格助詞「を」「に」と後置詞「～について」「～に関して」「～に対して」の具体的な使い分けについては明らかにされていないので、本稿では、実際の用例を用いて、その使い分けを調べてみたい。研究の方法としては、まず後行部分（動詞）によって分け、次に先行部分（名詞）の性質を考えながら、全体の構造を考えるという方向をもって分析してみたい。

4-2 各表現の意味・用法をめぐって

4-2-1 「について」「に関して」と「を」

まず、「について」「に関して」と「を」格の交替現象から考えてみよう。

206) 教授はトリハロメタンという発がん性物質について解明し、家庭で出来る防ぎ方を伝える。

に関して (*)

を (○)

(朝日新聞. 1988. 11. 13)

⁵⁰ 塚本秀樹 (1990) 「日本語と朝鮮語における複合格助詞について」 p. 647~648参照

この例は「について+動詞」の構文で、先行部分（内容）と後行部分が直接結び付く場合で、「を」格は表れやすいが、「に関して」は表れにくい。この場合は後行部分が決め手の役割を持つと思われる。「解明する」は対象に直接に関わる動詞であり、対象との結び付きが強いので、このような動詞の場合「について」と「を」が用いられやすいと言える。

207) 加藤教授は記者会見で発がん性の食品について述べた。（作例）

に関して (○)

を (*)

この例は「について+動詞」の構文であるが、「述べる」は「解明する」のように先行部分（内容）に直接働きかけるものではなく、先行部分をいろいろな観点から説明する場合である。この場合は、「に関して」は用いられやすいが、「を」は用いられにくい。

以上の206) と207) の例で、「解明する」のような先行部分との結びつきの強い語の場合、先行部分に「発がん性物質」という具体名詞（具体的な事物を表す名詞）が来ても、「について」と「を」格が用いられやすいが、「述べる」のような事物をいろいろな観点から説明する語の場合、「発がん性食品」という具体名詞が対象に来ると、「に関して」と「について」は用いられやすいが、「を」格は用いられにくいと言える。

208) あなたたちは、世界の未来について考えたことがありますか。

に関して (?)

を (○)

(ふぞろいの林檎たち、p. 87)

この例は「考える」という知的行為を表す動詞と「世界の未来」という抽象名詞が結びつく場合として、「について」も「を」格も両方用いられやすい。しかし、

そのニュアンスは全く同じだとは言いがたい。また「に関して」は、「に関する」のように「考える」のような知的行為を表す語と共起する場合、先行部分は、「世界の未来」のようなただの空想ではなく、事実である方が共起しやすいと言える。つまり、「について」は先行部分との結びつきの強い動詞でも、先行部分との結びつきのやや弱い動詞（物事を様々な観点から捉える）の場合でも用いられやすい傾向が見られた。「に関して」は、先行部分との結びつきの強い語よりやや弱い語と共起しやすい傾向が見られた。また、「について」と「を」は、先行部分にくる名詞が抽象名詞でも具体的名詞でも用いられやすい。「を」格は、先行部分との結びつきの強い語（動詞）の場合、先行部分にくる名詞が抽象名詞でも具体名詞でも用いられやすいが、先行部分との結びつきがやや弱い語（動詞）の場合は、先行部分にくる名詞が抽象名詞の場合は用いられやすいが、具体名詞の場合は用いられにくいことが分かった。従って、奥田の、「～について」は抽象名詞、具体名詞のいずれもかざりになるが、を格は抽象名詞しかかざりにならないという説は、正しくないということが指摘できる。

では、知的行為を表す語が述語に来たとき、先行部分にくる名詞が抽象名詞か具体名詞かによって、「について」「に関して」と「を」格との使い分けが明らかにされるかどうかを、用例を用いてその使い分けを考察する。

209) 母親は息子の進路について相談した。（日本語と私、p. 58)

に関して (○)

を (○)

210) 新製品について店員に質問する。（話し言葉の技術、p. 87)

に関して (○)

を (*)

209) と210) の例は、知的行為を表す動詞が先行部分を話題（内容）として取り上げている場合である。209) は、「について」「に関して」「を」格三つとも用いられやすいが、210) は、「について」「に関して」は用いられやすく、「を」格は用いられにくい。209) の「相談する」は、「について」と「に関して」と共起する場合、先行部分にくる「息子の進路」について様々な観点から述べようと

する意味を表し、「を」格と共起する場合、「息子の進路」そのものについて述べようとする。210) の場合、「新製品アスタリューションが今出ているかどうか」のように具体的になると、「を」格は用いられやすく、「に関して」は用いられにくくなると言える。

211) 「うぶめ」という言葉の意味について調べた。(作例)

に関して (*)

を (○)

212) 警察は関係者に事故の状況について話した。(日本語と私、p. 92)

に関して (*)

を (○)

211) と212) の例は、209) 210) に比べて、具体的な内容が対象にきている場合である。この場合は、「について」と「を」格は用いられやすいが、「に関して」は用いられにくい。以上の例で、後行部分に知的行為を表す語と共起する場合、先行部分にくる語が具体的な内容の場合は「を」格と「について」が用いられやすく、より包括的な内容の場合、「に関して」と「について」が用いられやすい。すなわち、「について」は具体的な内容の場合も包括的な内容の場合も用いられやすいと言える。

213) 車のタイヤ を 調べる。(話し言葉の技術、p. 103)

について (○)

に関して (*)

213) の例からみると、奥田の指摘通りであれば、先行部分が「車のタイヤ」のような具体名詞がくる場合は「を」格が用いられにくいことになるが、この場合は「を」の方が一番自然である。「に関して」は用いられにくい。

「を」格の場合は、「車のタイヤを調べる」というのは、一台の車を具体的にチェックしてみるという意味に取れるが、「について」を用いた場合は、車のタイ

ヤのいろいろな面について調べる、という意味を持つ。つまり、「車のタイヤの性質（種類）」のようにすれば「について」はもちろん「に関して」も用いられやすくなっているのではないだろうか。特に、「車のタイヤの種類の情報などをいろいろと幅広く調べる」の意味で取られる場合は「に関して」がもっと用いられやすいと言えるのではなかろうか。このように知的行為を表す動詞が後行部分に来る場合、「について」は先行部分（内容）のいろいろな面をいろいろな観点から述べる、という意味を持つが、「を」格は先行部分（対象）そのものに直接働きかけるという意味を持つ。つまり、先行部分にくる名詞部分が抽象名詞か具体名詞かによって、「について」「に関して」と「を」格の使い分けが判断出来るという説は限界があると思われる。

214) 恵子は自分の気持ち を 弘に話した。（日本語と私、p. 81）

について (*)

に関して (*)

215) 息子からうわさ を よく伺っております。（日本語と私、p. 76）

について (*)

に関して (*)

216) アナウンサーがニュース を 放送した。（日本語と私、p. 53）

について (*)

に関して (*)

217) 機長は無事空港に着陸したこと を 伝えた。（作例）

について (*)

に関して (*)

214) ~217) の例いずれも「について」「に関して」が用いられにくい場合がある。この場合も奥田の抽象名詞・具体的名詞では説明できない場合である。

「気持ち」「うわさ」「ニュース」「無事空港に着陸したこと」などは具体的な物事が実際にそのまま表れるという意味を持つ。この場合「を」格が用いられやすいというのは、「を」格が抽象名詞のみ用いられやすいという従来の説とは違

って、具体的な事実の場合でも用いられやすいことが分かった。

218) 先生は遠足について生徒に連絡した。(日本語と私、p. 125)

に関して (○)

を (*)

219) 先生は遠足の日程について詳しく述べる。(作例)

に関して (*)

を (○)

220) 歴史家が武田信玄について古文書で調べる。(日本語と私、p. 147)

に関して (○)

を (*)

221) 歴史家が武田信玄の家系について古文書で調べる。(作例)

に関して (?)

を (○)

218) ~221) の例はいずれも知的行為を表す動詞が後行部分に来ているのであるが、先行部分の名詞部分が決め手の役割を持つと思われる。塚本(1991)は、「について」「に関して」と「を」の用法の違いを「内容性」をもって調べている。例えば、「について」「に関して」は、前置される名詞類の内容性といった特性が高い場合でも低い場合でも用いられるが、「を」格は前置される名詞類の内容性といった特性が弱いと使えない、と述べている。しかし、上の例はいずれも内容性といった特性が強い例の場合である。「を」格が用いられやすい場合も用いられにくい場合もある。この場合は塚本の内容性といった特性では説明できないということが言える。

このように知的行為を表す動詞が述語に来る場合、対象の部分が包括的な内容の名詞が来る場合は、「について」「に関して」が用いられやすく、内容が具体的になるほど「を」格が用いられやすい。ここで、「包括的な内容の名詞」とは、話題として取り上げることができる側面を複数持つことを前提としている先行部分を示す名詞である。例えば、220) の「武田信玄」は、包括的な内容の名詞である。「武

田信玄」という先行部分には、その家系のみならず性格、業績など、話題として取り上げることができる側面が複数考えられる。このような包括的な内容の場合は、「について」「に関して」が用いることができるが、「を」格は用いることができない。「を」格は、221)「武田信玄の家系」のように、その中の一つの側面のみを先行部分にする場合にだけ用いることができるのである。

この点について興味深いのは、包括的な内容を示す場合「～のこと」が添加されている。

222) a. 先生は遠足について詳しく述べる。(○)

b. 先生は遠足を詳しく述べる。(*)

c. 先生は遠足のことを詳しく述べる。(○)

222) の例のように、「遠足」のような包括的な内容を示す先行部分でも「～のこと」を添加すると、「を」格が使えるようになる。これは、「～のこと」の添加により、「遠足」という複数の側面を考慮することができる先行部分から、「遠足のこと」という、その中の複数の側面を考慮することができない一つのまとまりに変換されたからである。例えば、「遠足のこと」の日程などは言うことはできない。このように、知的行為を表す動詞と共に用いられる「を」格は、その先行部分が、複数の側面を持たない場合に限られる。すなわち、「遠足の日程」のように、考えられる複数の側面の中の一側面のみを先行部分にするか、「遠足のこと」のように全体で一つのまとまりと考えられるものを先行部分とするかのいずれかである。また、「について」は先行部分に包括的な内容も具体的な内容も共起しやすいが、「に関して」は、包括的な内容の可能性の高い名詞の場合と共起しやすいことが言える。例えば、「遠足の日程」より「武田信玄の家系」の方が話題として広がりがあるので、先行部分に具体的な内容がきた場合も「に関して」が用いられやすくなったのではなかろうか。

以上では、「について」「に関して」と「を」格の使い分けについて調べてみた。この三つの表現は知的行為を表す動詞が後行部分にくるとき一緒に用いられる傾向があった。しかし、意味は微妙に異なる。すなわち「について」は先行部

分（内容）を様々な観点から述べる、という意味を持つが、「を」格は先行部分を「内容」と「対象そのもの」として表している。「を」格の「対象そのもの」の用法の場合、「について」「に関して」は用いられにくい。先行部分を「話題（内容）」として取り上げる用法の場合、「を」格が用いられやすくなると、「について」は用いられやすいが、「に関して」は用いられにくくなる。つまり、先行部分にくるものを「内容性」といった特性が高いか低いか、また抽象名詞か具体名詞に分けるより、包括的な内容か具体的な内容かに分けたほうが、もっとこの三つの表現の使い分けを分かりやすくするのではなからうか。では、「に対して」と「に」格はどのような関わりを持つかを調べてみる。

4-2-2 「に対して」と「に」

まず、佐藤（1990）が指摘した通り「に対して」と「に」格との使い分けを、文体、及び表現性の問題から考察してみたい。というのは実際の用例の場合でも「に対して」と「に」格は文体、表現上の問題で分けられることが多いからである。

では、実際の用例を用いてその使い分けを考えてみたい。

223) たまには、あのばかに文句でも言ってやれ。（作例）

に対して（*）

この場合は「に」格は用いられやすいが、「に対して」は用いられにくい。つまり、「に」格は口語的な文章の場合、より用いられやすい傾向がある。では、「に対して」と「に」格のそれぞれの用例を以てその使い分けを調べてみる。

224) a. 土井委員長の「消費税を廃止するお考えはありませんか。」という質問に対して海部首相は「そんな考えはありません」と答えた。（作例）

b. 僕は警官の質問に「知りません」と答えた。（日本語と私、p. 136）

225) a. 私はその留学生に「お国はどちらですか」と聞いた。（日本語と私、p. 109）

b. 私はその留学生に対して「あなたのお国はなぜいつも戦争ばかりしているのか」と

聞いた。(作例)

224)と225)では、「答える」「聞く」のような知的行為表す動詞と共起して、先行部分を態度の対象として取り上げている。先行部分を態度の対象として取り上げる場合は、「に対して」と「に」格両方とも用いられやすい。しかし、文体上や表現上の違いを見てみると、「に対して」はやや形式張ばった固い文章や重い内容の場合に用いられやすいが、「に」格は日常生活の軽い感じの文章に用いられやすい傾向があると言える。以上の例からも「に対して」と「に」格の用法上の差異は、文体、表現上の問題と深い関係があることが窺える。文体の問題はもっといろいろな視点(作家や作品や内容など)から考察しなければならないので、今後の課題としておく。

225)私はその孤児 に 同情した。(日本語と私、p. 148)

に対して (○)

226)弘は先生 に 「はい」と返事した。(日本語と私、p. 105)

に対して (○)

227)社員たちは会社 に 抗議した。(作例)

に対して (○)

228)先生は学生に対して公平でなくてはならない。(作例)

に (○)

229)「きみこそ客に対して無礼だと思うがね」(男と女のあいだには上、p. 68)

に (○)

230)私はこれまで仙台という町に対して大変よいイメージを持っていた。(作例)

に (○)

225)～230)の例は、「に対して」も「に」格も用いられやすい。後行部分に「返事する」「抗議する」「同情する」「公平だ」「無礼だ」「よいイメージを持つ」のような心的態度(評価的な態度)を表す語がきて、先行部分が直接行為を受

ける相手になる場合である。つまり、先行部分が相手を表す場合⁵¹、「に対して」「に」格両方用いられやすいことが分かった。

231) 医者たちはその患者に対してなすすべを失った。(日本語と私、p. 123)

に (*)

この例は、先行部分が相手を表す点では、225) ~ 230) と同じであるが、「に」格が用いられにくい。「に対して」を使うと、より相手(その患者)を明確にするニュアンスがある。この例は、佐藤の「関係の明確化」の用法に当てはまると思われる。しかし、佐藤は、「関係の明確化」は、に格でもあらわせるが、に格ではその関係が分かりにくくなってしまうので「~に対して」を用いてその関係をはっきりさせている、と述べているが、この例は「に」格は用いられにくい場合である。

金子尚一(1983)の説を借りると、例えば、「祖国の援助」の場合、祖国は「援助の受け手」になるのか、「援助のし手」になるのかよく分からない。

「祖国に対する援助」にすれば、祖国が「援助の受け手」になるという関係が明確になる、と述べている。格助詞「の」と「に」では表せない部分を、後置詞「に対して」とその連体形である「に対する」を用いて表せるということは、「に対して」「に対する」が「関係の明確化」という独自の用法を持つことが確認できる。

232) 仕事に対して満足していますか。(作例)

に (○)

233) 部長は弘の提案 に 難色を示した。(日本語と私、p. 35)

に対して (○)

234) 子供が本 に 興味を示す。(日本語と私、p. 69)

に対して (○)

235) 新製品が出たとのニュース に マニアたちの目の色が変わった。

に対して (?)

⁵¹ 対象が相手を表すとき「に」格だけでなく、「を」格も用いられやすい。

例) ただ生活指導部長が、僕に対して怠慢だと非難した。

を (○)

この場合「を」格が用いられやすい。相手を表す「を」格については今後の課題としておく。

(日本語と私、p. 87)

236) 母親は子供が無事だとの知らせ に 安心した。(日本語と私、p. 93)

に対して(?)

232) ~236) の例は、心的態度(評価と反応)を表す後行部分が先行部分に直接働きかける場合である。233) と234) は、「に対して」「に」格両方用いられやすく、235) と236) は、「に」格は用いられやすいが、「に対して」は用いられにくい。つまり、対象に「提案」「仕事」「本」のような包括的な内容がくる場合は、「に対して」も「に」格も用いられやすい。「新製品が出たとのニュース」「子供が無事だとの知らせ」のような具体的な内容がくる場合、「に」格は用いられやすいが、「に対して」は用いられにくいことが言える。つまり、「に」格は先行行部分が包括的な場合でも具体的な場合でも用いられやすいが、「に対して」は先行部分が包括的な場合には用いられやすいが、具体的な場合は用いられにくい傾向があると言える。

4-3 考察の結果

以上、格助詞と後置詞との関係をそれぞれの用例を中心に考察してみた。

その結果、おおよそ後行部分の性質と、先行部分の性質によって後置詞が決められることが分かった。その使い分けを詳しく述べると次の通りである。

- 1) 「について」「に関して」と「を」格は知的行為(発話動詞・思考動詞・認識動詞)を表す語(動詞)と共起しやすい。「について」「に関して」は、先行部分を「話題」として取り上げているが、「を」格は「対象や内容」と「対象そのもの」として取り上げている。つまり、知的行為を表す動詞と結び付いて、先行部分に包括的な内容がくるほど「に関して」が用いられやすく、具体的になるほど「を」格が用いられやすい。さらに「を」格が用いられやすくなると、「に関して」は用いられにくくなる。
- 2) 「に対して」と「に」格は心的態度(評価・反応など)を表す語と共起しやすい。「に」格は先行部分が包括的な内容の場合でも、具体的な内容の場合でも用いら

れやすいが、「に対して」は具体的になるほど用いられにくくなっている。また、先行部分が心的行為を受ける相手を表す場合には、「に対して」も「に」格も用いられやすい。しかし、「に対して」の方が「に」格より対象（相手）を明確にするニュアンスがある。つまり「に対して」は「関係の明確化」という独自の用法を持つことが確認できた。

3) 「に対して」と「に」格は文体、表現上の問題でどちらも使われる例が多かったが、「に対して」は形式張った固い文章で用いられやすく、「に」格は口語的な文章用いられやすい傾向が見られた。

4-4 まとめ

以上、後置詞「について」「に関して」「に対して」を中心にその使い分けを考察した。考察の際、連体表現「についての」「に関する」「に対する」との関わりや格助詞「を」格と「に」格との関わりなどを中心に、実際の用例を用いて考察した。その結果は次の通りである。

後置詞「について」「に関して」「に対して」については、従来の説では「について」「に関して」「に対して」を対象・関連を示す語として捉え、「について」はもとの動詞の一部分の意味を引きつぐものとして、「に関して」「に対して」は、もとの動詞の意味をそのまま引きつぐものとして、それぞれ後置詞としての用法をもつ語であると述べられている。

しかし、考察の結果、まず後置詞「について」「に関して」「に対して」と元の動詞からの関わりを考えると、「について」は、元の動詞「つく」の先行部分を明らかにさせるという意味を一部分引き継ぐため、後行部分と先行部分（話題）との結びつきを強くする力を持っている。

つまり、話題そのものに知的行為を及ぼすといった用法を持つ。「に関して」は、元の動詞「関する」の「かかわりをもつ」という意味を引き継ぐため、先行部分との関連性のある周辺的な内容を話題に取り上げる用法を持っている。「について」と「に関して」は、先行部分を「話題」として取り上げる用法では、ほぼ同じように使われているが、元の動詞との繋がりから両語の用法上の差が見られた。

また「に対して」は、元の動詞「対する」の「他のものに向かう、応じる」という意味を引きつぐため、先行部分を「態度の対象」として取り上げる用法を持っている。次に「について」「に関して」「に対して」の独自の用法としては、「について」は先行部分が後行部分にくる語の性質によって、すなわち後行部分に知的行為を表す語がきて、「話題」になり、心的態度を表す語の中で、動作的な態度を表す語がきて、「対象」になる。つまり、「について」は「話題」の用法と「態度の対象」の用法を持つと言える。先行部分を行為の対象として取り上げる用法は、連体表現である「についての」の用法ではあまり見当たらなかった。「に関して」は、元の動詞では表せない「観点や基準などを表す」意味として「話題の限定」の用法を持っている。「話題の限定」の用法は、実際の用例では「について」「についての」は殆ど見当たらなかった。「に関する」は、「に関する限り」という形で「話題の限定」を表している。また「話題（タイトル）」の用法では、法律に関することは、連用表現の中では「に関して」が多く用いられたが、「に関して」より「に関する」の方が圧倒的に用いられていた。「に対して」は、格助詞でははっきり表せない「関係の明確化」の用法を持っている。これは「に対して」「対する」両方に見られる用法である。つまり、「について」は連体形の「についての」より、その用法の範囲が広く、「に関して」「に対して」は連体形の「に関する」「対する」よりその用法の範囲が狭いと言える。

内容の面では、従来の研究では、後行部分に知的行為（言語動詞・思考動詞）を表す語（動詞）がくる場合、先行部分の性質によって後置詞が決められると指摘されている。特に後置詞と格助詞との使い分けを名詞部分が抽象名詞か具体名詞かによって、また名詞部分の内容性の強弱といった特性によって分けている。それに対して本稿の考察では、後置詞が選ばれる手順として次のことが言える。まず後行部分にくる語の性質によって後置詞が決められる（「攻撃する」、「解明する」などの語）。次に後行部分だけでは決められないときは、先行部分が決め手の役割を持つ。この場合、従来の説のように先行部分の性質を抽象名詞か具体名詞か、または内容性の強弱で判断するのではなく、名詞部分が包括的な内容の名詞か、具体的な内容の名詞かによって判断した方が、こられの表現の使い分けを明らかにすることができる。包括的な内容になるほど後置詞「に関して」「について」が用いられや

すく、具体的な内容になるほど「を」格が用いられやすい。

また、「に関して」「について」は、名詞部分の性質が包括的な内容になるほど用いられやすくなっているが、「に関して」のほうがより包括的な内容に用いられやすいことがわかった。名詞部分の性質、つまり、名詞部分をどういうふうにするかによって、後置詞が決められるのではないだろうか。「に対して」と「に」格の場合は、包括的な内容になるほど「に対して」が用いられやすくなっているが、「に」格は包括的な内容にも具体的な内容にも用いられやすくなっている。最後に後行部分と先行部分で後置詞が決められないときは、他の要素（文体や文脈など）が決め手の役割を持つのではないだろうか。

第4章 韓国語後置詞分析

1. 研究対象および方法

後置詞の中でも、「に対して」「について」「に関して」は、韓国人日本語学習者が間違いやすい表現である。まず、学生たちの誤用の例を見てみよう。次の三つの例文は、韓国の日本語学科3年生の作文の時間に、学生たちに「に対して」「について」「に関して」の使い分けについて、問題を出して答えさせた結果から得られたものである。

- a. 自分の将来の夢に対して書いてください。
- b. 過半数の人数が新しい制度について反対している。
- c. 日本の新幹線は、スピードに対してフランスのTGVと世界一、二を争う。

a. の「に対して」は「について」に、b. の「について」は「に対して」に、c. の「に対して」は「に関して」にしなければ自然な文にならない。この混同はなぜ起きるのであろうか。これらの誤用は、「に対して」「について」「に関して」の用法上の区別ができないところにその原因がある。その理由としては、韓国語では、「에 대하여(e daehayeo)」という表現が、日本語の「に対して」「について」の両方の意味に用いられ、「에 관하여(e gwanhayeo)」という表現が、日本語の「について」「に関して」の両方の意味に用いられるためである。また、大学での日本語テキストを調べてみると、「に対して」は「에 대하여(e daehayeo)」に、「について」と「に関して」は「에 대하여(e daehayeo)」と「에 관해서(e gwanhaeseo)」両方に用いられている。『日本語用例辞典』では、「について」と「に関して」は両方とも「에 대하여(e daehayeo)」「에 관하여(e gwanhayeo)」の意味とされ、例文の訳のほとんどが「에 관하여(e gwanhayeo)」となっている。例えば、

- d. 学校ではフランス文学について研究した。
학교에서는 프랑스문학에 관해서(e gwanhaeseo) 연구했다.

e. この問題に関してあなたの意見を聞かせてください。

이 문제에 관해서 (e gwanhaeseo) 당신의 의견을 들려 주세요.

また『朝鮮語大辞典』では、

f. 彼は自分がしている仕事の作業能率を高めることに関していつも熱心に考えた。

그는 자기가 하고 있는 작업 능률을 높이는 데 대하여 (e daehayeo) 언제나 열심히 생각했다.

g. 彼は私に国家の機能について話してくれた。

그는 나에게 국가의 기능에 관하여/ 관해서 (e gwanhayeo/e gwanhaeseo) 말하여 주었다.

e)の「に関して」は「에 관해서 (e gwanhaeseo)」に、f)の「に関して」は「에 대하여 (e daehayeo)」に訳されている。このように翻訳では、「について」は「에 대하여 (e daehayeo)」類 「에 관해서 (e gwanhaeseo)」類の両方に訳されており、「に関して」は、「에 관하여 (e gwanhayeo)」類が普通であるが、「에 대하여 (e daehayeo)」類に訳される場合もある。また f)の「에 대해서 (e daehayeo)」と g)の「에 관해서 (e gwanhaeseo)」のような形もみられる。「에 대하여 (e daehayeo)」と 「에 관하여 (e gwanhayeo)」と、「에 대해서 (e daehayeo)」 「에 관해서 (e gwanhaeseo)」はどういう関わりを持っており、意味は同じなのか、などについての説明はどこにもない。このような状況では、韓国人学習者がこれらの表現について間違いを起こすのも無理はない。このように「に対して」「について」「に関して」を正しく使い分けるためには、まず「에 대하여 (e daehayeo)」類と「에 관하여 (e gwanhayeo)」類の使い分けを考察する必要がある。第2章の方でも触れたが、「에 대하여 (e daehayeo)」類と「에 관하여 (e gwanhayeo)」類の使い分けについての研究は全然行われていない。また、学校での教育課程の中にも入っていないので、韓国語を専門としている人でさえも「에 대하여 (e daehayeo)」類と「에 관하여 (e gwanhayeo)」類の使い分けが微妙である。ある大学の韓国語学科の教授の話によると、韓国語を正しく使っていると言われているテレビのアナウンサーや新聞記者でも、この二つの表現について使い分けているかどうかは分からないのが現状だということである。

そこで本稿では、「에 대하여(e daehayeo)」類と「에 관하여(e gwanhayeo)」類について、まず辞書の定義を調べてから、韓国で一番基本的で正しい韓国語を使っていると考えられる小学校、中学校、高校の韓国語教科書を中心に「에 대하여(e daehayeo)」類と「에 관하여(e gwanhayeo)」類の使い分けを考察する。

まず、身近に使われている辞書で「에 대하여(e daehayeo)」類と「에 관하여(e gwanhayeo)」類を調べると次のようである。

2. 辞書での定義

2-1 各語の辞書での定義

1) 『標準国語大辞典』⁵²

①대-하다 (daehada) 02⁵³ (對--) [대(dae):--]動詞「3」

【…에】(‘대한’, ‘대하여’ 풀로 쓰여) 대상이나 상대로 삼다.

【…e】(‘ daehan’ ‘ daehayeo’ の形として使われ) 対象や相手につく。

• 전통문화에 대한 (e daehan) 관심

伝統文化に対する/についての関心

• 이 문제에 대하여 (e daehayeo) 토론해 보자.

この問題について/に関して討論してみよう。

「似ている語」 「3」 관하다 (gwanhada) 02.

②관-하다 (gwanhada) 02⁵⁴ (關--) 動詞

【…에】(주로 ‘관하여’, ‘관한’ 풀로 쓰여) 말하거나 생각하는 대상으로 하다.

【…e】(主に ‘ gwanhayeo’ ‘ gwanhan’ の形で使われ) 話したり考えたりする対象につく。

⁵² 韓国国立国語院が作った韓国語辞書で、韓国語を勉強するとき一番頻繁に使われるネット辞書である。

⁵³ 『標準国語大辞典』の大-하다 (daehada) は多義語で二つの意味を持っており、本稿で現れている意味は02で、대-하다 (daehada) 01は、(代) 代わりにするという意味である。

⁵⁴ 『標準国語大辞典』の「관하다 (gwanhada)」は多義語で三つの意味を持っており、本稿で現れている意味は02である。 관-하다 (gwanhada) 01は貫くの意味で、突き通すの意味である。 관-하다 (gwanhada) 03は観るの意味で、よく注意して観察するという意味である。

- 다음은 여성의 사회적 지위에 관하여 (e gwanhayeo) 토론하도록 하겠습니다.
次は女性の社会的地位について/に関して討論します。
- 한글이 우수한 문자라고 하지만 우리는 한글에 관해 (e gwanhae) 과연 얼마만큼 알고 있는가?
ハングルが優秀な文字だと言われるが我々はハングルについて/に関してどのぐらい知っているのだろうか。
- 감시원이 오래 자리를 비운 사이에 일어날 가능성이 있는 모든 불상사에 관하여 (e gwanhayeo) 그는 조목조목 잔소리를 늘어놓았다.
監視員が長く席を離れた際に、起こる可能性のあるすべての不祥事について彼はいちいち小言を並べた。
- 그 문제에 관한 (e gwanhan) 한 우리는 한 치도 양보할 수 없습니다.
その問題に関する限り私たちは一步も譲りません。
「似ている語」 대하다 (daehada) 02 「3」

2) 『延世韓国語辞典』⁵⁵

- ① 대하다 1 (dahada) (對-) 대 : 하다 (대한, 대하여 (해)) 動詞a. ‘~에 대한’ 의 꼴로 쓰이어 ㄱ. (무엇에) 관하다 ㄴ. (무엇을) 대상으로 하다 ‘~e daehan’ の形が使われ、
ㄱ. (何に) ‘gwanhada’ 関する ㄴ. (何を) 対象にする
ㄱ. 검찰 발표는 이 사건에 대한 (e daehan) 의혹을 말끔히 해소하기에는 미진한 것이 었다.
. 檢察の発表はこの事件に対する/についての疑惑をきれいに解消するには不十分だった
ㄴ. 특히 올해에는 영세 농가에 대한 (e daehan) 지원이 확대되도록 경지면적에 대한영 농자금 지원 기준을 마련, 시행할 방침이다.
殊に今年は規模の小さい農家に対する支援が拡大されるように耕地面積に対する 営農資金の基準を設け、施行する方針である。
- b. 「~에 대하여/대해」 의 꼴로 쓰이어 ㄱ. (무엇에) 관하다 ㄴ. (무엇을) 대상으로 하다~e daehayeo/daehae ’ の形が使われ、 ㄱ. (何に) ‘gwanhada’ 関する ㄴ. (何を) 対象にする。
ㄱ. (그는 문학을 보는 요즘의 시각에 대해 (e daehae) 분노를 나타냈다.
彼は文学を見る最近の見方に対して怒りを表した。

⁵⁵ 『延世韓国語辞典』 (1998) 「관하다 (gwanhada)」 p177, 「대하다 1 (dahada)」 p487参照

L. 그들은 한 선생님이 그들에게 가르쳐 준 것에 대하여 (e daehayeo) 무척 고마워했습니다.

彼らはハン先生が彼らに教えてくれたことに対してとても感謝しました。

② 관하다 (gwanhada) (關-) gwanhan, gwanhayeo (hae) 動詞(주로 ‘관한, 관하여, 관해서’ 꼴로 쓰이어(무엇을)소재나 대상으로 하다.) (主に ‘gwanhan, gwanhayeo, gwanhaeseo’ の形で使われ(何を)素材や対象にする。)

• 옛날 사람들은 우정에 관한 (e gwanhan) 아름다운 이야기를 많이 남겨놓았다.

昔の人たちは友情についての/に関する美しい話を沢山残した。

• 묘옥은 한번도 길산에 관하여 (e gwanhayeo) 드리내놓고 말을 꺼내지 않았다.

ミョオクは一度もギル산について/に関して あからさまには話さなかった。

韓国語の辞書として代表的な『標準国語大辞典』『延世韓国語辞典』でも、「에 대해서 (e daehaeseo)」「에 관해서 (e gwanhaeseo)」は動詞「대하다(daehada, 對-)」「관하다(ganhada, 關-)」の項目で扱われていることが分かる。後置詞という独自の用法をもつものとして扱われるのではなく、元の動詞の意味分類の一つとして扱われている。動詞「대하다(daehada, 對-)」「관하다(ganhada, 關-)」は、どちらも似ている語として扱われているので「에 대해서 (e daehaeseo)」「에 관해서 (e gwanhaeseo)」の使い分けについては詳しく説明されていない。

また形態の面では『標準国語大辞典』と『延世韓国語辞典』では、少し異なる。例えば、『標準国語大辞典』では、動詞「대하다(daehada, 對-)」と「관하다(ganhada, 關-)」いずれも ‘daehan’ ‘daehayeo’ ‘gwanhan’ ‘gwanhayeo’ の形で使われると説明されているのに対し、『延世韓国語辞典』では、動詞「대하다(dahada, 對-)」は ‘~e daehayeo/ daehae’ の形で使われていると説明されており、「관하다(ganhada, 關-)」は ‘gwanhan, gwanhayeo, gwanhaeseo’ の形で使われていると説明している。つまり一般の辞書では、「에 대해서 (e daehaeseo)」「에 관해서 (e gwanhaeseo)」の使い分けについてはもちろん動詞「대하다(dahada, 對-)」「관하다(ganhada, 關-)」の意味の違いについても詳しく説明されていない。次は外国人韓国語学習者を対象に作られた韓国語辞書を見してみる。

3) 『外国語としての韓国語文法辞書』⁵⁶

①-에 대하여 (e daehayeo)

・範疇：統語的構文

- ・構造：助詞-에 (e) + 動詞 대하다 (daehada) + 連結語尾-여 (yeo) 助詞 ‘-에 (e)’ と ‘關係する、-を素材にする’ の意味を持つ動詞 ‘대하다(dahada)’ の活用形が結合する形式で、 ‘-에 대해서 (e daehaeseo) , -에 대한 (e daehan)’ の形とも用いる。 ‘-에 대한 (e daehan)’ は次にくる名詞を修飾する連体形の役割をする。
- ・意味：名詞について ‘その事物について、または ‘事物を対象にして’ の意味を表す。

例) ·정리 해고에 대한 (e daehan) 선생님의 의견을 듣고 싶습니다.

リストラについての/に対する先生の意見が聞きたいです。

·나는 한국의 경제에 대해서 (e daehaeseo) 논문을 썼다.

私は韓国の経済について/に関して論文を書いた。

·오늘은 김 교수님이 한국의 전통문화에 대하여 (e daehayeo) 강연을 해주시겠어요.

今日は金教授に韓国の伝統文化について/に関して講演をしていただきます。

·한국의 풍습에 대해서는 (e daehaeseoneun) 저는 하나도 몰라요.

韓国の風習については/に関しては私は全然分かりません。

②-에 관하여 (e gwanhayeo)

・範疇：統語的構文

・構造：助詞-에 (e) + 依存動詞 관하다 (gwanhada) + 連結語尾-여 (yeo) 助詞 ‘-에 (e)’ と活用が不完全な ‘관하- (gwanha)’ が結合した形として ‘-에 관하여 (e gwanhayeo) , -에 관해서 (e gwanhaeseo) , -에 관한 (e gwanhan)’ の三つに用いられる。 ‘-에 관하여 (e gwanhayeo)’ 나 ‘-에 관해서 (e gwanhaeseo)’ は結合した名詞と共に副詞語として用いられ、 ‘-에 관한 (e gwanhan)’ は連体語として用いられる。

・意味： ‘-에 대하여 (e daehayeo) . -に関わり’ の意味として用いられる。 ‘-에 관하여 (e gwanhayeo)’ は ‘-에 대하여 (e daehayeo) に比べて形式ばっていて、公

⁵⁶ 백봉자(2006) 『外国語としての韓国語文法辞書』、-에 대하여 (e aehayeo) p.104、-에 관하여 (e gwanhayeo) p.209参照

的なニュアンスを与えるので、会話より文語によく用いられる。

例) ·노인과 복지문제에 관하여 (e gwanhayeo) 논문을 썼습니다.

老人と福祉問題について/に関して論文を書きました。

·동아리 모임에서 통일에 관한 (e gwanhan) 토론회를 가졌습니다.

サークルの集まりで統一に関する/についての討論会を設けました。

·정부는 노사문제에 관해서 (e gwanhaeseo) 관심을 표명하였다.

政府は労使問題に関して/について関心を表明した。

·나는 문학에 관해서는 (e gwanhaeseo) 낫 놓고 7자도 모른다.

私は文学については/に関しては全然分からない。

·한국어 문법에 관한 (e gwanhan) 책을 좀 읽어 보세요.

韓国語の文法に関する/についての本を読んでください。

『外国語としての韓国語文法辞書』は、外国人韓国語学習者を対象に韓国語の伝統的文法理論を元に、韓国語の教育現場での応用を前提にして作られた辞書である。

後置詞、「에 대하여 (e daehayeo)」類と「에 관하여 (e gwanha)」類は、一般の辞書では動詞「대하다(dahada, 對-)」「관하다(ganhada, 關-)」の項目で扱われているが、『外国語としての韓国語文法辞書』では「-에 대하여 (e daehayeo)」 「-에 관하여 (e gwanhayeo)」のように統語的構文として扱われている。応用辞書の場合は、「-에 대하여 (e daehayeo)」 「-에 관하여 (e gwanhayeo)」が独自の領域を確保していると言えよう。しかし、一般の辞書はもちろん『外国語としての韓国語文法辞書』の場合も、「에 대하여 (e daehayeo)」類と「에 관하여 (e gwanha)」類の使い分けについてはあまり触れられていない。このようにこれらについての研究があまり進んでいないので、「에 대하여 (e daehayeo)」類と「에 관하여 (e gwanhayeo)」類の使い分けは、韓国語の母語話者にとっても外国人韓国語学習者にとっても非常に難しい。また形態の面でも、「에 대하여 (e daehayeo)」類と「에 관하여 (e gwanhayeo)」類の他の形態については例文のみでその意味や用法の違いについては一般の辞書・『外国語としての韓国語文法辞書』いずれにおいても扱われていない。

以上では、『日本語用例辞典』と『朝鮮語大辞典』のような辞書類には、動詞「대하다(daehada, 對-)」の項目で「에 대해서 (e daehaeseo)」、「에 대하여 (e daehayeo)」、「에 대해(e daehae)」の三つの表現が用いられており、「관하다(gwanhada, 關-)」の項目で「에 관하여(e gwanhayeo)」、「에 관해(e gwanhae)」、「에 관해서(e gwanhaeseo)」の三つの表現が用いられている。しかし、『外国語としての韓国語文法辞書』では、「-에 대하여 (e daehayeo)」、「-에 관하여 (e gwanhayeo)」が書かれているだけで、他の異形態については触れられていない。また、後置詞の先行研究でも、「에 대하여 (e daehayeo)」、「에 관하여 (e gwanhayeo)」は扱われているが、他の異形態については扱われていない。例えば、안주호(1994)⁵⁷は、文法化初期段階に入れる表現、つまり助詞を取りながら制限的に活用する表現として「에 대해서 (e daehaeseo)」、「에 관해서 (e gwanhaeseo)」のみあげている。塚本秀樹(1991)でも、日本語「に対して」「について」「に関して」と、それに対応する表現として「에 대해서(e daehaeseo)」、「에 관해서(e gwanhaeseo)」を挙げている。また論文タイトルでは、例えば、「‘-어다’의 형태에 대하여 (‘-eoda’の形態について)」のように大体「에 대하여 (e daehayeo)」が使われている。つまり後置詞、「에 대하여 (e daehayeo)」、「에 관하여 (e gwanhayeo)」は辞書ごとにばらつきがあり、使う人によってもそれぞれ異なっている。このような状況では、ますます後置詞、「에 대하여 (e daehayeo)」、「에 관하여 (e gwanhayeo)」の使い分けは難しくなってくる。そこで、本稿ではまず、「에 대하여 (e daehayeo)」と「에 관하여 (e gwanhayeo)」と他の形態について詳しく調べてから、文献からとった用例を中心に後置詞、「에 대하여 (e daehayeo)」、「에 관하여 (e gwanhayeo)」の用法について考察する。文献の場合、韓国語の専門家が書いた書物から取った用例と一般の人が書いた書物から取った用例に分けて⁵⁸考察する。韓国語の専門家が書いた書物の場合は、まず国定教科書⁵⁹である小学校・中学校・高

⁵⁷ 안주호(1994)、「動詞から派生されたいわゆる後置詞類の文法化研究」、p.133~154参照

⁵⁸ 韓国では「에 대하여 (e daehayeo)」、「에 관하여 (e gwanhayeo)」のような後置詞についての研究があまり進んでいないので、韓国語の専門家はこれらの表現についての知識があつてより正確な使い分けができると判断したので、専門家の書物と一般の書物に分けて考察することになった。

⁵⁹ 国定教科書とは、教育人的資源部が著作権を持ち、現在小学校全体の教科および、中学・高校

校の国語教科書を中心に考察してから、韓国語学者によって書かれた大学や一般人に読まれる専門書籍を中心にその使い方と頻度を考察する。次に一般の書物、例えば、小説・随筆・新聞・雑誌などからとった用例を中心にその頻度と用法などを考察する。

2-2 各語の形態上の差異

안주호(1994) では、「『에 대해서(e daehaeseo)』 『에 관해서(e gwanhaeseo)』のような表現は、中世国語にはあまり見られない形で、近代国語開花期ごろに現れるものであり、これらは漢字語に‘hada’が付いて用いられるもので、次のような形態以外には殆どなく、この形のみ制限的に用いられていることが分かる。」⁶⁰ といひ、次のような形態を文法化初期段階に入った表現としてあげている。

ここで文法化初期段階とは、現代韓国語の中で文法化される初期段階のことを表しており、‘文法化’とは詞から辞が派生したことを意味する。つまり名詞の後ろで固定された形で制限的に使われていて、述語としての役割を果たせないので完全な動詞とは言えないものを文法化初期段階という。

- 관해(- e gwanhae) /-에 관한(-e gwanhan) /-에 관해서(- e gwanhaeseo)
- 에 반해서(- e banhae) /-에 반한(-e banhan) /-에 반해서(- e banhaeseo)
- 에 의해(- e yehae) /-에 의한(-e yehan) /-에 의해서(- e yehaeseo)
- 에 대해(- e daehae) / -에 대한(-e daehan) / 에 대해서(- e daehaeseo)⁶⁰

上のように안주호(1994) は、「에 대해서(e daehaeseo)」「에 관해서(e gwanhaeseo)」を助詞「e」をとりながら、制限的に活用する文法化初期段階に入った表現といひ、動詞から派生した後置詞的な単語で、元動詞「대하다(daehada)」「관하다(gwanhada)」とは距離の生じた形だと主張した。また塚本秀樹(1991)⁶¹では、日本語「に対して」「について」「に関して」と、それに対応する韓国語「에 대해서(e d

の国語(韓国語)と歴史(韓国史)のテキストのことを言い、現在721冊ある。

⁶⁰ 안주호(1994)、「動詞から派生されたいわゆる後置詞類の文法化研究」、p.148 参照

⁶¹ 塚本秀樹(1991)、「日本語における複合格助詞について」、p.647~657 参照

aehaeseo)」「에 관해서(e gwanhaeseo)」を形態・統語・意味の三つに分けて考察している。塚本は日本語「に対して」「について」「に関して」に対応する表現として「에 대해서(e daehaeseo)」「에 관해서(e gwanhaeseo)」を挙げている。しかし、안주호(1994)も塚本秀樹(1991)も、後置詞「에 대해서(e daehaeseo)」「에 관해서(e gwanhaeseo)」のみに触れていて、異形態の「에 대해(e daehae) /에 대하여(e daehayeo)」「에 관해(e gwanhae) / 에 관하여(e gwanhayeo)」については触れていない。「에 대해서(e daehaeseo)」の場合、小学校では、「에 대하여(e daehayeo)」のほうが適切であり、学年が上がるにつれ、「에 대해(e daehae)」が適切であることがわかっている。このような結果については、「3. 国定教科書の『에 대하여(e daehayeo)』『에 관해서(e gwanhayeo)』」のところで詳しく考察する。

まず「대하여(e daehayeo)」は、元動詞「대하다(daehada)」に語尾「어(eo)」が付いて作られた形で、「대해(daehae)」はその縮約形である。そしてそれらが助詞「에(e)」と組み合わせさせて後置詞「에 대하여(e daehayeo)」と「에 대해(e daehae)」が生じたのである。

また「대해서(e daehaeseo)」は元動詞「대하다(daehada)」に語尾「어서(eoseo)」が付いて作られた形で、元は「대하여서(daehayaeseo)」であり、その縮約形に当たるのが「대해서(daehaeseo)」である。現在は「대하여서(daehayaeseo)」はあまり使われず、縮約形の「대해서(daehaeseo)」のみよく使われており、同じように助詞「에(e)」と組み合わせさせて後置詞、「에 대해서(e daehaeseo)」が生じたのである。つまり、「어(eo)」形⁶²の「대하여(daehayeo)」と「대해(daehae)」は、助詞「에(e)」と組み合わせさせて後置詞「에 대하여(e daehayeo)」と「에 대해(e daehae)」としてよく使われているが、「어서(eoseo)」形の「대하여서(daehayaeseo)」は、あまり使われず、縮約形の「대해서(daehaeseo)」のみ助詞「에(e)」と組み合わせさせて後置詞「에 대해서(e daehaeseo)」として頻繁に使われている。

次に「에 관하여(e gwanhayeo) / 에 관해(e gwanhae) / 에 관해서(e gwanhaeseo)」についても同じことが言える。まず「관하여(gwanhayeo)」は、元動詞「관하다(g

⁶² 이기갑(1998)「『-어(eo) /-어서(eoseo)』の共時態についての歴史的な説明」, p101~121 参照

wanhada)」に語尾「어(eo)」が付いて作られた形で、「관해(gwanhae)」は縮約形になる。「관해서(gwanhaeseo)」は元動詞「관하다(gwanhada)」に語尾「어서(eoseo)」が付いて作られた形で、元は「관하여서(gwanhayeseo)」であり、その縮約形に当たるのが「에 관해서(e gwanhaeseo)」である。現在は「관하여서(gwanhayeseo)」はあまり使われず、縮約形の「에 관해서(e gwanhaeseo)」のみ使われている。しかし「에 관하여(e gwanhayeo) / 에 관해(e gwanhae) / 에 관해서(e gwanhaeseo)」は「에 대하여(e daehae) / 에 대해(e daehae) / 에 대해서(e daehaeseo)」に比べて頻繁に使われているとは言いがたい。

以上、「에 대하여(e daehae) / 에 대해(e daehae) / 「에 대해서(e daehaeseo)」と「에 관하여(e gwanhayeo) / 에 관해(e gwanhae) / 에 관해서(e gwanhaeseo)」の後置詞としての変化過程を図に表わすと次の〈表1〉のようである。

〈表1〉

元動詞	変化過程	元の形	縮約形
대하다 (daehada)	대하 + 어 (daeha + eo)	대하여 (daehayeo)	대해 (daehae)
	대하 + 어서 (daeha + eoseo)	대하여서 (daehayeoseo)	대해서 (daehaeseo)
관하다 (gwanhada)	관하 + 어 (gwanha + eo)	관하여 (gwanhayeo)	관해 (gwanhae)
	관하 + 어서 (gwanha + eoseo)	관하여서 (gwanhayeseo)	관해서 (gwanhaeseo)

次に後置詞「에 대하여(e daehayeo) / 에 대해(e daehae) / 「에 대해서(e daehaeseo)」と「에 관하여(e gwanhayeo) / 에 관해(e gwanhae) / 「에 관해서(e gwanhaeseo)」のそれぞれの意味上の差異について、実例を挙げて調べてみる。ここに挙げる例は国定教科書（小・中・国の国語教科書）から取ったものである。

237) 집배원 아저씨가 한 일에 대하여 생각해 봅시다. (초, 국어 3-3, p25)

郵便屋さんがやったことについて考えてみましょう。(小、国語3-3, p. 25)

238) 이 사진을 보고, 가족에 대해 생각해 보자. (중, 국어 2-1, 80p)

この写真を見て、家族のことを考えてみよう。(中、国語 2-1, p80)

239) 자신이 아는 작품 중에서 문학의 기능에 대해서 생각해 보자. (고, 국어(상), p57)

自分の知っている作品の中から文学の機能について考えてみよう。(高、国語上、p. 57)

237)의「에 대하여(e daehayeo)」、238)의「에 대해(e daehae)」、239)의「에 대해서(e daehaeseo)」は、いずれも後行部分に「考えてみよう」という思考活動を表わす語がくる場合である。237) 238) 239)は互いに置き換えても意味には何の変化もない。要するにこれらは形態上での差異があるだけで、意味上での差異はない。

240) 맞춤법에 관하여 복습해 보는 활동 두 가지와 맞춤법을 더 깊게 공부해 보는 활동 두 가지가 있다. (중, 생활국어 3-1, p97)

正書法について復習する活動二つと正書法をもっと深く勉強する活動二つがある。

(中、生活国語 3-1, p. 97)

241) ‘문자의 역사’는 문자가 탄생하고 발전해 온 과정에 관해 설명한 글이다.

(중, 국 1-1, p88)

‘文字の歴史’は文字が誕生し発展してきた過程について説明した文である。

(中、国語 1-1, p. 88)

242) 우리는 꽤 오랫동안 문학에 관해서 공부해 왔다. (고, 문학(하), p25)

我々はかなり長い間文学について勉強してきた。(高、文学下, p. 25)

240)의「에 관하여(e gwanhayeo)」、e의「에 관해(e gwanhae)」、f의「에 관해서(e gwanhaeseo)」は、いずれも後行部分に「勉強する」「説明する」という思考活動や言語活動を表わす語がくる場合である。これらも形態上での差異であって、意味上での差異はない。

以上では、形態の面では、「에 대하여(e daehayeo)」と「에 대해(e daehae)」は元の形と縮約形の関係であり、「에 대해서(e daehaeseo)」は現在あまり使われない「에 대하여서(e daehayaeseo)」の縮約形である。また「에 관하여(e gwanhayae)」と「에 관해(e gwanhae)」は元の形と縮約形の関係であり、「에 관해서(e gwanhaeseo)」は現在あまり使われない「에 관하여서(e gwanhayeoseo)」の縮

約形である。つまり、それぞれ元の形と縮約形の関係であって、意味上の差異は存在しないということが分かる。

それでは、後置詞、「에 대하여(e daehayeo)」「에 대해(e daehae)」「에 대해서(e daehaeseo)」と「에 관하여(e gwanhayeo)」「에 관해(e gwanhae)」「에 관해서(e gwanhaeseo)」の文献でのそれぞれの頻度と用法の差異を調べるために、まず国定教科書の小学校・中学校・高校の国語教科書を中心に考察する。

3. 国定教科書の、「에 대하여 (e daehayeo)」「에 관하여 (e gwanhayeo)」について

3-1 全般的な傾向

「에 대해서(e daehaeseo)」には「에 대하여(e daehayeo)」と「에 대해(e daehae)」のような異形態があり、「에 관해서(e gwanhaeseo)」には「에 관하여(e gwanhayeo)」と「에 관해(e gwanhae)」のような異形態が存在する。それぞれ三つの異形態が存在すべき理由があるのか、あるとしたらそれは何か、などを含めて各表現の頻度と相違点について考察する。

まず、小・中・高の国語教科書からとった用例を次の〈表2〉にまとめておく。ただし小学校の例文の場合、例文表記上、例えば、『国語—話す・聞く・書く4-2』の場合、「話聞書4-2」と表記することにする。

〈表2 小・中・高 国語教科書〉

小/中/ 高	教科書名	대하다(daehada)			관하다(gwanhada)			에 대한(e daehan)	에 관한(e gwanhan)
		에 대하여(e daehayeo)	에 대해(e daehae)	에 대해서(e daehaeseo)	에 관하여(e gwanhayeo)	에 관해(e gwanhae)	에 관해서(e gwanhaeseo)		
小学校	話聞1-1	0	0	0	0	0	0	0	0
	書1-1	1	0	0	0	0	0	0	0
	読1-1	5	0	0	0	0	0	3	0

	話聞1-2	2	0	0	0	0	0	0	0
	書1-2	12	0	0	0	0	0	3	0
	読1-2	12	0	0	0	0	0	0	0
	話聞2-1	2	0	0	0	0	0	0	0
	書2-1	6	0	0	0	0	0	3	0
	読2-1	13	0	0	0	0	0	5	0
	話聞2-2	16	0	0	0	0	0	3	0
	書2-2	12	0	0	0	0	0	5	0
	読2-2	12	0	0	0	0	0	6	0
	話聞3-1	19	0	0	0	0	0	2	0
	書き3-1	10	0	1	0	0	0	2	0
	読み3-1	19	0	0	0	0	0	1	0
	話, 聞3-2	18	0	1	0	0	0	8	0
	書3-2	9	0	0	0	0	0	4	0
	読3-2	45	3	1	0	0	0	20	3
	話聞書4-1	24	0	0	0	0	0	12	0
	読み4-1	13	0	0	0	0	0	17	0
	話聞書4-2	50	0	0	0	0	0	7	0
	読4-2	17	0	0	0	0	0	22	0
	話聞書5-1	27	0	1	0	0	0	0	0
	読5-1	20	0	0	0	0	0	12	0
	話聞書5-2	52	0	0	0	0	0	5	1
	読5-2	35	2	1	0	0	0	38	2
	話聞書 6-1	39	0	1	0	0	0	14	0
	読6-1	32	1	1	0	1	0	33	2
	話聞書 6-2	30	2	1	0	0	0	27	0
	読6-2	28	4	4	0	0	0	22	2
	合計	580	10	11	0	1	0	274	7
中学校	国語1-1	32	6	12	0	1	1	16	11
	国語1-2	24	5	7	0	0	0	33	3

	国語2-1	12	10	10	0	1	0	32	11
	国語2-2	5	5	5	2	0	0	20	2
	国語3-1	22	21	21	1	0	0	31	6
	国語3-2	16	2	2	0	0	0	34	1
	生活国語 1-1	81	7	7	0	0	0	38	14
	生活国語 1-2	14	10	10	0	0	0	26	1
	生活国語 2-1	6	12	12	0	0	0	14	3
	生活国語 2-2	3	10	10	0	1	1	15	2
	生活国語 3-1	34	9	9	1	1	0	23	8
	生活国語 3-2	57	1	1	0	0	0	25	1
	合計	306	308	100	4	3	2	307	63
高等学 校	国語(上)	7	2	2	0	0	0	25	7
	国語 (下)	3	4	4	1	0	0	46	10
	国語生活	30	16	16	0	0	0	54	6
	文学(上)	37	15	15	1	0	0	153	9
	文学(下)	15	8	8	0	0	2	97	3
	話法	38	29	29	2	0	3	56	14
	読書	19	57	57	3	2	2	182	20
	作文	5	12	12	0	1	1	73	22
	合計	154	383	143	7	3	8	686	91

〈表2 小・中・高 国語教科書〉を分かりやすく整理したのが〈表3〉である。

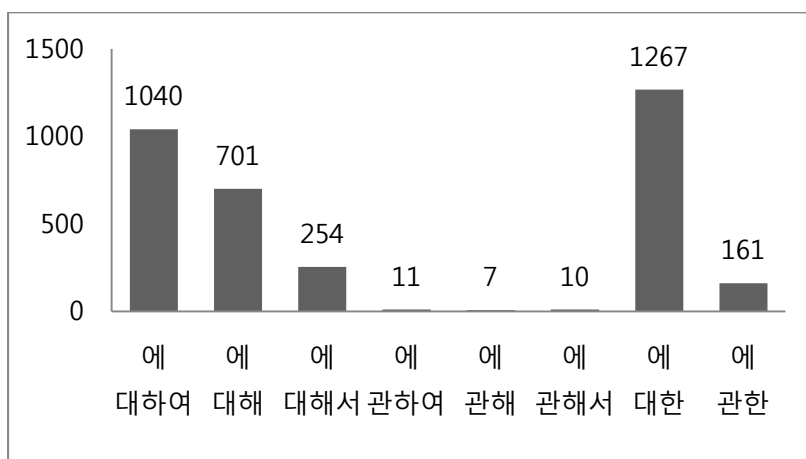
〈表3 小・中・高 国語教科書〉

ジャンル	作品	대하다(daehada)			관하다(gwanhada)			에 대한 (e daehan)	에 관한 (e gwanhan)
		에 대해 여(e daehayeo)	에 대해 (e daehae)	에 대해 서(e daehaese o)	에 관하여 (e gwanhayeo)	에 관해 (e gwanhae)	에 관해 서(e gwanhaes eo)		
教科 書	小学校	580	10	11	0	1	0	274	7
	中学校	306	308	100	4	3	2	307	63

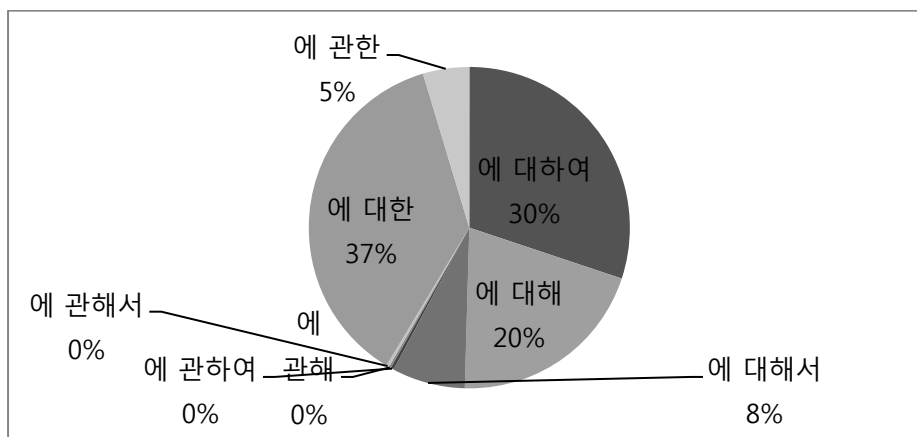
(国語)	高等学校	154	383	143	7	3	8	686	91
合計		1040	701	254	11	7	10	1267	161
総計		3451							

〈表3〉をもっと分かりやすく整理したのが次の〈グラフ1〉と〈グラフ2〉である。

〈グラフ1〉



〈グラフ2〉



〈表2、3〉では、「에 대하여(e daehayeo)」の連用表現である「에 대한(e daehan)」が1267例で一番現れやすくなっており、その次が「에 대하여(e daehayeo)」で1040例、「에 대해(e daehae)」が701例、「에 대해서 (e daehaeseo)」が254例用いられている。しかし、「에 관하여(e gwanhayeo)」は連体表現である「에 관한

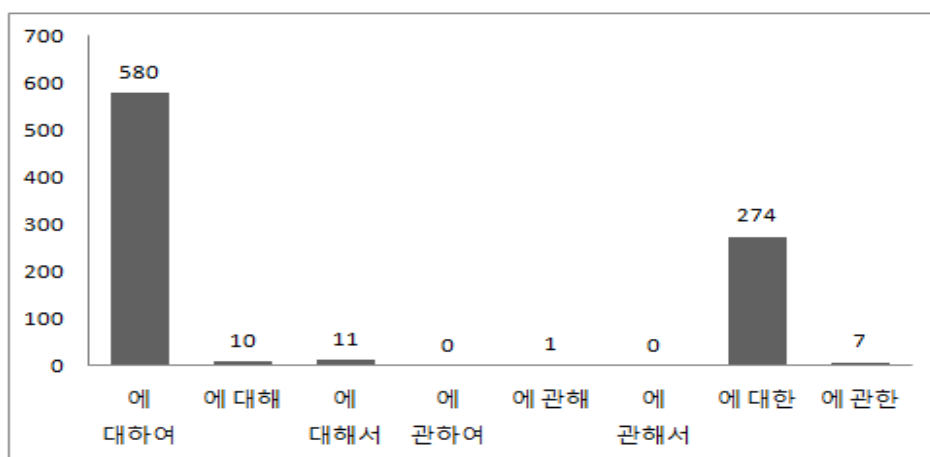
「에 관한」が161例用いられていて、「에 관하여(e gwanhayeo)」「에 관해(e gwanhae)」「에 관해서(e gwanhaeseo)」は、それぞれ7、3、10例のみで国定教科書では殆ど用いられていない。

つまり、全般的な傾向では、小学校の国語教科書では元の形の「에 대하여(e daehayeo)」が頻繁に使われており、中学校の国語教科書では元の形の「에 대하여(e daehayeo)」とその縮約形の「에 대해(e daehae)」が殆ど同じく使われている。また高校の国語教科書では、中学校の国語教科書に比べて、元の形の「에 대하여(e daehayeo)」の使われる頻度が低くなっている反面、「에 대하여서(e daehayaeseo)」の縮約形の「에 대해서(e daehaeseo)」の使われる頻度が高くなっている。

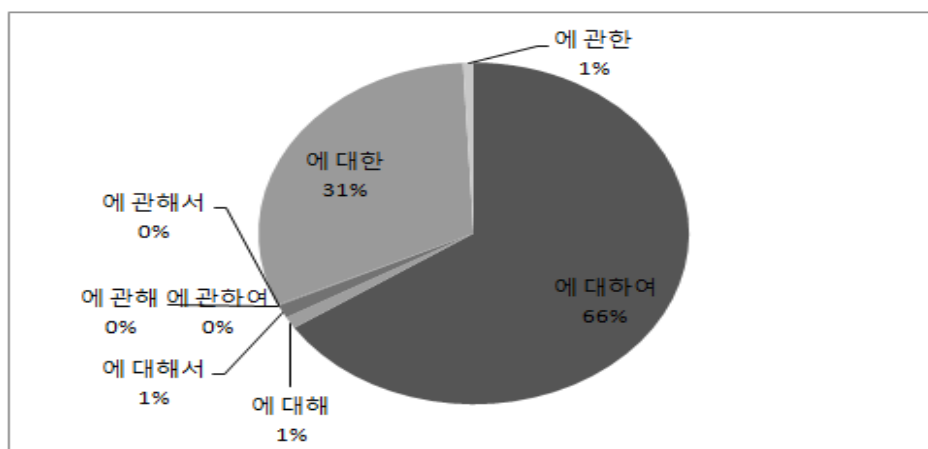
このような現象は小学校の国語教科書には出来るだけ縮約形よりは、元の形を使えるようにという規則が適用されていると考えられる。つまり言葉を初めて学習する場合にはまず元の形を習得させてから、それを上手に使いこなせるようになったら縮約形を学習させるという基準があるのではないだろうか。実際に中・高に上がるにつれ、元の形の使われる頻度は低くなる反面、縮約形の使われる頻度は高くなっていく。それでは、各表現の差異をもっと詳しく調べるために小・中・高の国語教科書ごとに考察する。

3-2 小学校国語教科書

〈グラフ3〉



〈グラフ4〉



小学校の国語教科書の場合、「에 대하여 (e daehayeo)」が580例で一番多く用いられており、その次が「에 대한 (e daehan)」で274例用いられている。「에 대해 (e daehae)」は10例、「에 대해서 (e daehaeseo)」は11例でその使用範囲が非常に低い。後置詞をもっと細かく分析すると、一番多く用いられている「에 대하여 (e daehayae)」は、教科書の本文の内容ではなく、練習問題の指示文の形で用いられており、「에 대하여 (e daehayeo)」は指示文には405例、本文の内容には151例用いられている。その次に連体形の「에 대한 (e daehan)」は、指示文には193例、本文の内容には72例用いられている。また「에 대해 (e daehae)」と「에 대해서 (e daehaeseo)」も指示文として9例用いられている。本文の内容として用いられている例は「에 대해 (e daehae)」は1例、「에 대해서 (e daehaeseo)」は2例ある。「에 대하여 (e daehayeo)」が本文内容に用いられている場合でも会話体は殆どなく、その殆どが説明文の中で用いられている。

「에 관하여 (e gwanhayeo)」 「에 관해 (e gwanhae)」 「에 관해서 (e gwanhaeseo)」はそれぞれ0例、1例、0例で、連体形の「에 관한 (e gwanhan)」は7例用いられている。「에 관해 (e gwanhae)」は指示文に、連体形の「에 관한 (e gwanhan)」はいずれも本文の内容に用いられている。このように「에 관하여 (e gwanhayeo)」 「에 관해 (e gwanhae)」 「에 관해서 (e gwanhaeseo)」と連体形の「에 관한 (e gwanhan)」は小学校の国語教科書ではあまり用いられていないことが分かる。

つまり、小学校の国語教科書では、動詞「대하다(dahada, 對-)」から派生した「에 대하여(e daehayeo)」が用いられやすくなっていると言える。「에 대하여(e daehayeo)」は指示文と本文の内容両方に用いられているが、その殆どが指示文として用いられている。「에 대하여(e daehayeo)」は指示文の中で「‘-해 봅시다’ (～してみましょう) 形と呼応して用いられている。例えば、

242) 연필을 바르게 잡는 자세에 대하여 알아보시다. (초, 국어쓰기 1-1, p. 8)

鉛筆の正しい持ち方について習いましょう。(小、国語書き 1-1、 p. 8)

243) ‘소학언해’ 를 읽고, 배우는 사람의 자세에 대하여 생각해 봅시다.

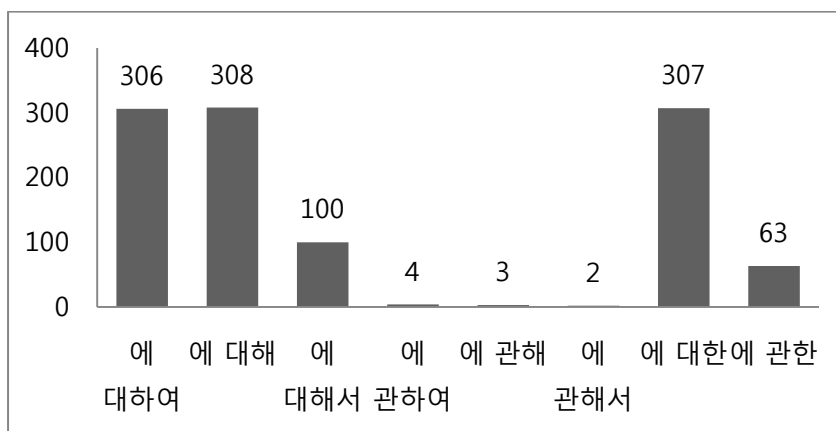
(초, 국어읽기 6-1, p. 185)

244) 『小学諺解』를読んで, 学ぶ人の姿勢について考えてみましょう。

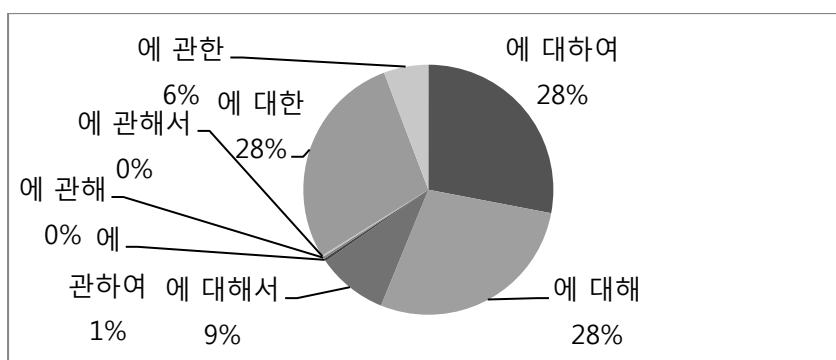
(小、国語読み6-1、 p. 8)

3-3 中学校教科書

〈グラフ 5〉



〈グラフ 6〉



中学校の国語教科書の場合、「에 대하여(e daehayae)」が 306 例、「에 대해(e daehae)」が 308 例で、小学校の国語教科書に比べて、「에 대하여(e daehayae)」は減っているが、「에 대해(e daehae)」は非常に増えている。また「에 대해서(e daehaeseo)」も 100 例で、「는(neun) /도(do)/까지(kkaji)/만큼(mankeum)」などの補助詞を伴う形として用いられている。「에 대해서(e daehaeseo)」「에 관해서(e gwanhaeseo)」の連体形の「에 대한(e daehan)」と「에 관한(e gwanhan)」も小学校の国語教科書に比べて用いられる比率が高くなっている。後置詞をもっと細かく分析すると、「에 대하여(e daehayae)」は指示文に 155 例、本文の内容に 136 例用いられている。「에 대해(e daehae)」は指示文に 154 例、本文の内容に 147 例用いられている。「에 대해서(e daehaeseo)」は指示文に 22 例、本文の内容に 67 例用いられている。連体形の「에 대한(e daehan)」は指示文に 86 例、本文の内容に 175 例用いられている。「에 관하여(e gwanhayeo)」「에 관해(e gwanhae)」「에 관해서(e gwanhaeseo)」はそれぞれ 4 例、3 例、2 例で、小学校の国語教科書と同じように殆ど用いられていないが、連体形の「에 관한(e gwanhan)」は 63 例で、小学校の国語教科書に比べてやや用いられやすくなっている。いずれも指示文より本文内容に現れやすくなっている。

つまり、中学校の国語教科書では、「에 대하여(e daehayae)」と「에 대해(e daehae)」は指示文と本文内容に用いられてその比率もほぼ同じであり、小学校の国語教科書と比べて、指示文として用いられる頻度が「에 대하여(e daehayae)」は低くなっている反面、「에 대해(e daehae)」は高くなっていることが分かる。指示文の形も小学校の国語教科書では、「~해 봅시다」(～してみましよう)形の「하십시오」(しましよう)体が用いられているが、中学校の国語教科書では、「~해 보자」(～してみよう)形の「해(しよう)」体が用いられている。例えば、

245) 한글과 한자의 특징에 대하여 설명해보자. (중, 국어 1-1, p. 226)

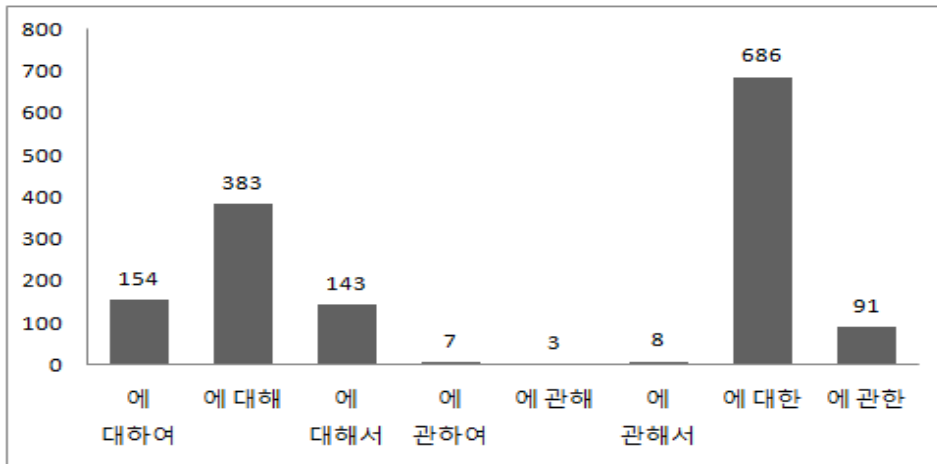
ハンングルと漢字の特徴について説明してみよう。(中、国語 1-1、p. 226)

246) 바리공주 이야기에 등장하는 인물들에 대해 생각해 보자. (중, 국어 2-2, p. 98)

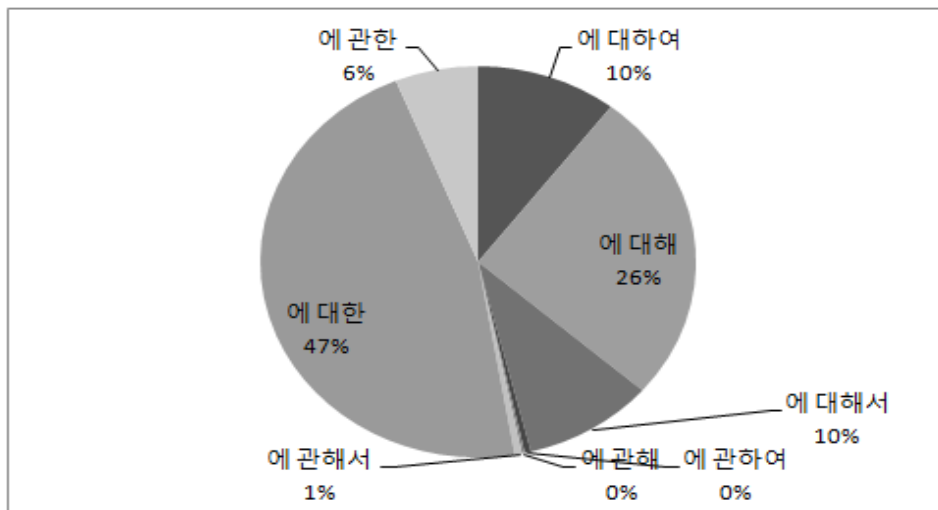
バリ王女の話に登場する人物について考えてみよう。(中、国語 2-2、p. 98)

3-4 高校国語教科書

〈グラフ7〉



〈グラフ8〉



高校の場合、連体表現「에 대한(e daehan)」が686例で一番現れやすくなっており、その次が「에 대해(e daehae)」で383例用いられている。「에 대하여(e daehayeo)」と「에 대해서(e daehaeseo)」は、それぞれ154例、143例と、ほぼ同じように用いられている。もっと細かく分析すると、連体表現「에 대한(e daehan)」は指示文に105例、本文の内容に494例用いられている。「에 대해(e daehae)」は指示文に156例、本文の内容に265例用いられており、「에 대하여(e daehayae)」は指示文に58例、本文の内容に92例用いられている。「에 대해서(e daehaeseo)」は指示文に38例、本文の内容に146例用いられている。学年が上がるにつれ「에 대하여(e da

ehayeo)」が用いられにくくなっており、特に指示文として用いられる比率が非常に減っている。「에 대해(e daehae)」は他の表現に比べて指示文として用いられる比率は高くなっているが、指示文より本文の内容に用いられやすくなっている。「에 대해서(e daehaeseo)」も指示文より本文の内容に用いられやすくなっている。つまり、高校の国語教科書では、連用形より、連体形が用いられやすくなっていて、指示文より本文の内容に用いられやすくなっている。また指示文の形も中学校の国語教科書と同じように簡略な「해(しよう)」体が用いられやすくなっている。例えば、

247) 이 시의 음악성에 대해 말해 보자. (고, 국어(상), p. 241)

この詩の音楽性について話してみよう。(高、国語(上)、p. 241)

248) 다음 그림을 보며, 독서의 본질에 대해 생각해 보자. (고, 독서, p. 22)

次の絵を見て、読書の本質について考えてみよう。(高、読書、p. 22)

「에 관하여(e gwanhayeo)」 「에 관해(e gwanhae)」 「에 관해서(e gwanhaeseo)」はそれぞれ 7 例、3 例、8 例で、高校の国語教科書でも小・中学校の国語教科書と同じように殆ど用いられていない。しかし連体形の「에 관한(e gwanhan)」は 93 例で小・中学校の国語教科書よりやや用いられやすくなっている。いずれも指示文より本文の内容に現れやすくなっている。

3-5 国定教科書の考察の結果

以上、小・中・高の国語教科書に現れる後置詞「에 대하여(e daehayae) / 에 대해(e daehae) / 에 대해서(e daehaeseo)」について考察した結果は次の通りである。

- 1) 小学校の国語教科書では、元の形の「에 대하여(e daehayeo)」が圧倒的に用いられている反面、縮約形の「에 대해(e daehae)」と「에 대해서(e daehaeseo)」は用いられにくくなっている。「에 대하여(e daehayeo)」は主として練習問題の指示文に現れる「~してみましょう」形の「‘하십시오’ (みましょう)」体と呼応して用いられている。

- 2) 中学校の国語教科書では、元の形の「에 대하여(e daehayeo)」と縮約形の「에 대해(e daehae)」と、その連体形の「에 대한(e daehan)」がほぼ同じ比率で用いられていて、いずれも指示文と本文の内容に同じく用いられている。指示文の形も、「~해 보자 (～してみよう)」形の「~해 (しよう)」体が用いられている。
- 3) 高校の国語教科書では、連体形の「에 대한(e daehan)」の用いられる比率が高くなっている反面、元の形の「에 대하여(e daehayeo)」は用いられにくくなっている。縮約形の「에 대해(e daehae)」は中学校の国語教科書と同じ比率で用いられている。つまり 高校の国語教科書では「에 대하여(e daehayeo) /에 대해(e daehae) / 에 대해서(e daehaeseo)」のような連用形より連体形の「에 대한(e daehan)」が用いられやすくなっていることが分かる。後置詞の使用においてもいずれも指示文より本文の内容に用いられやすくなっている。指示文の形は、中学校の国語教科書と同じように「~해 보자 (～してみよう)」形の「~해 (しよう)」体が用いられている。
- 4) 学年が低いほど格式ばった「‘하십시오’ (しましよう)」体が用いられやすく、学年が上がるほど簡略な「해 (しよう)」体が用いられやすくなっていることがわかる。
- 5) 内容の面では、低学年ほど単純な指示文が用いられやすく、学年が上がるほど本文の内容として用いられやすくなっていることが分かる。
- 6) 縮約形の「에 대해서(e daehaeseo)」は補助詞を伴う形として用いられやすくなっていることがわかる。
- 7) 後置詞「에 관하여(e gwanhayeo)」「에 관해(e gwanhae)」「에 관해서(e gwanhaeseo)」は 小・中・高の国語教科書では用いられにくくなっているが、連体形の「에 관한(e gwanhan)」は学年が上がるにつれ少し用いられるようになっていくことが分かる。

以上の結果から、次のようなことが言えるのではなかろうか。

まず、「에 대하여(e daehayeo) /에 대해(e daehae) / 에 대해서(e daehaeseo)」のような三つの表現が存在する理由があるかどうかについては、小学校では、元の

形を学習させるという原則のもとで、「어(eo)」形の元の形の「에 대하여(e daehayeo)」が圧倒的に用いられていて、学年(中・高)が上がるにつれ縮約形の「에 대해(e daehae)」が用いられやすくなっている。「어서(eoseo)」形の「에 대해서(e daehaeseo)」は補助詞を伴う形として用いられやすくなっており、また文の中で話し言葉として用いられる傾向があると言える。例えば、

249) “누구라도 좋아요. 통일에 대해서 평소에 하고 싶은 말이 있는 사람이면 다 좋아요.”

(읽기6-1, p. 42)

だれでもいいよ。統一について日頃言いたいことがある人なら。

(小学校読み6-1、p. 42)

250) 근데 나처럼 영화인이 되고 싶은 사람이 어떻게 해야 하는지에 대해서는 왜 한 마디도 안 하나? 계속 ‘영화인’ 에 대해서 이야기하면서…….

(고등학교, 화법, p. 177)

では、私のように映画関係者になりたい人がどうすればいいのかについてはなぜ一言も言わない?ずっと‘映画関係者’について話していながら… (高校、話法、p. 177)

つまり、後置詞「에 대하여(e daehayeo) / 에 대해(e daehae) / 에 대해서(e daehaeseo)」はそれぞれ各自の役割を持っているので、存在する理由があると言える。文体については、後置詞「에 대하여(e daehayeo) / 에 대해(e daehae) / 에 대해서(e daehaeseo)」の用法の差異を考察するとき、より詳しく述べることにする。

次に、国定教科書に「에 관하여(e gwanhayeo)」「에 관해(e gwanhae)」「에 관해서(e gwanhaeseo)」が用いられない理由としては、教科書という特性上、指示文が多く用いられているからである。つまり、指示文では「에 대하여(e daehaya e) / 에 대해(e daehae) / 에 대해서(e daehaeseo)」は用いられやすく、「에 관하여(e gwanhayeo)」「에 관해(e gwanhae)」「에 관해서(e gwanhaeseo)」は用いられにくいと言える。

さらに、学年が上がるにつれ連体形の「에 대한(e daehan)」「에 관한(e gwanhan)」が用いられやすくなっている理由としては、連用形にはそれぞれの異形態が存在するが、連体形には異形態が存在しないからではないだろうか。つまり、

連用形はその用法が表現別に分けられるが、連体形は異形態の用法を全て持つからであると言える。

それでは、国定教科書以外の一般の書籍の場合も、「에 관하여(e gwanhayeo)」「에 관해(e gwanhae)」「에 관해서(e gwanhaeseo)」は用いられにくくなっているのか。連体形の「에 관한(e gwanhan)」は連用形の「에 관하여(e gwanhayeo)」「에 관해(e gwanhae)」「에 관해서(e gwanhaeseo)」に比べて用いられやすくなっているのか、また一般の書籍の場合も指示文が用いられているのか。用いられやすい書籍はどのような書籍なのか、指示文は国定教科書と同じように「에 대하여(e daehayeo)」が用いられやすくなっているのか、などを調べるためにテキストをジャンル別に、専門書籍、一般教養、新聞雑誌に分けて、後置詞「에 대하여(e daehayeo) / 에 대해(e daehae) / 에 대해서(e daehaeseo)」と「에 관하여(e gwanhayeo) / 에 관해(e gwanhae) / 에 관해서(e gwanhaeseo)」についてそれぞれの形態上の差異と使用頻度について考察する。

4. テキストのジャンル別研究

4-1 専門書籍

韓国語専門家によって書かれた文献を中心に後置詞「에 대하여(e daehayeo) / 에 대해(e daehae) / 에 대해서(e daehaeseo)」、その連体形の「에 대한(e daehan)」と「에 관하여(e gwanhayeo) / 에 관해(e gwanhae) / 에 관해서(e gwanhaeseo)」、その連体形の「에 관한(e gwanhan)」についてそれぞれの形態上の差異と使用頻度について考察する。

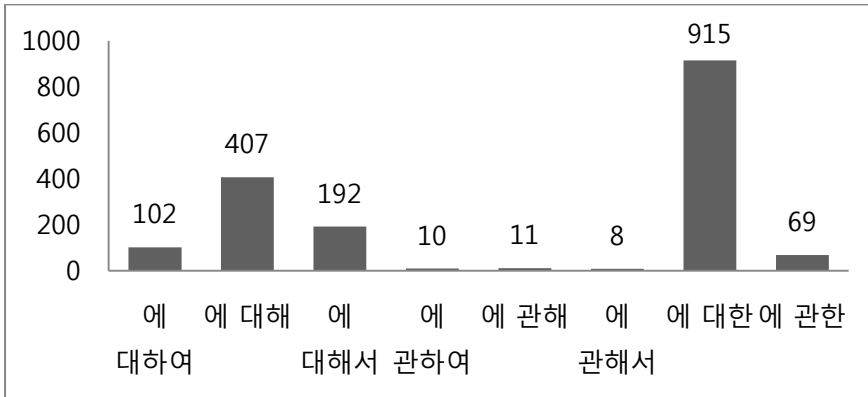
まず「専門書籍」からとった用例を次の〈表4〉にまとめておく。

〈表4 専門書籍〉

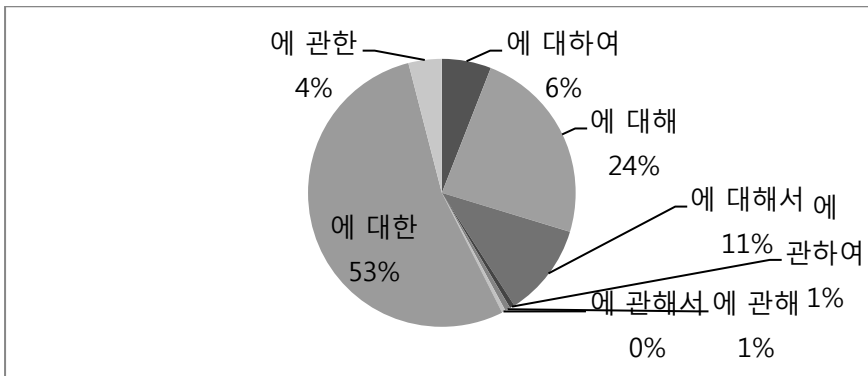
ジャンル	作品	대하다(daehada)			관하다(gwanhada)			~에 대한(e daehan)	~에 관한(e gwanhan)
		~에 대하여(e dae hayeo)	~에 대해(e daehae)	~에 대해서(e dae haeseo)	~에 관하여(e gwan hayeo)	~에 관해(e gwan hae)	~에 관해서(e gwan haeseo)		
専門書籍	国語用言の意味分析	15	116	45	0	0	0	113	7
	国語教育のための文法の探求	3	39	34	0	3	2	47	25
	韓国語学	9	39	16	1	1	0	67	12
	ソウル大人文学作文講義	1	55	8	0	0	0	110	3
	文学と現代思想	11	79	51	8	6	3	139	15
	韓国の文学と風土	1	49	24	0	0	0	142	5
	韓国語文化教育のための韓国文化の理解	44	16	9	0	0	3	181	6
	外国人のための韓国文化読み	18	14	5	1	1	0	116	1
合計	102	407	192	10	11	8	915	69	
総計	1714								

〈表4〉をもっと分かりやすく整理したのが次の〈グラフ9〉と〈グラフ10〉である。

〈グラフ 9〉



〈グラフ 10〉



専門書籍の場合、連体表現「에 대한(e daehan)」が915例で一番現れやすく、その次が「에 대해(e daehae)」で407例用いられている。「에 대하여(e daehayeo)」と「에 대해서(e daehaeseo)」は、それぞれ102例と192例で、「에 대해서(e daehaeseo)」が「에 대하여(e daehayeo)」より用いられやすくなっている。つまり、専門書籍は高校の国語教科書と同じように連用形より、連体形が用いられやすくなっていて、指示文より本文の内容に用いられやすくなっている。さらに細かく分析すると、論文書籍と大学の教材として用いられている国語教科書、例えば、『国語用言の意味分析』と『国語教育のための文法の探求』では、縮約形の「에 대해(e daehae)」が用いられやすく、外国人を対象にしたり、教養教材で用いられている教科書、つまり基礎的で教養的な内容の教科書の場合、例えば、『韓国語文化教育のための韓国文化の理解』と『外国人のための韓国文化読み』では、元の形の「에 대하여(e daehayeo)」が用いられやすくなっている。また指示文も、論文書籍と大学

の教材として用いられている国語教科書には縮約形の「에 대해(e daehae)」が用いられやすく、基礎的で教養的な内容の教科書には、元の形の「에 대하여(e daehayeo)」が用いられやすくなっている。「에 대해서(e daehaeseo)」は主として補助詞を伴う形として用いられている。例えば、「에 대해서는 (e daehaeseoneun)」、「에 대해서도 (e daehaeseodo)」、「에 대해서만 (e daehaeseoman)」、「에 대해서까지(e daehaeseokkaji)」の形態で用いられており、その中で補助詞「는(neun)」がついた形の「에 대해서는 (e daehaeseoneun)」が一番多く用いられている。

「에 대하여(e daehayeo)」は論文のタイトルとして現れやすくなっている。また連体形の「에 대한(e daehan)」と「에 관한(e gwanhan)」も論文のタイトルとして現れやすくなっている。

「에 관하여(e gwanhayeo)」「에 관해(e gwanhae)」「에 관해서(e gwanhaeseo)」とその連体形の「에 관한(e gwanhan)」は、専門書籍では用いられにくくなっている。

4-2 法律関連の書籍

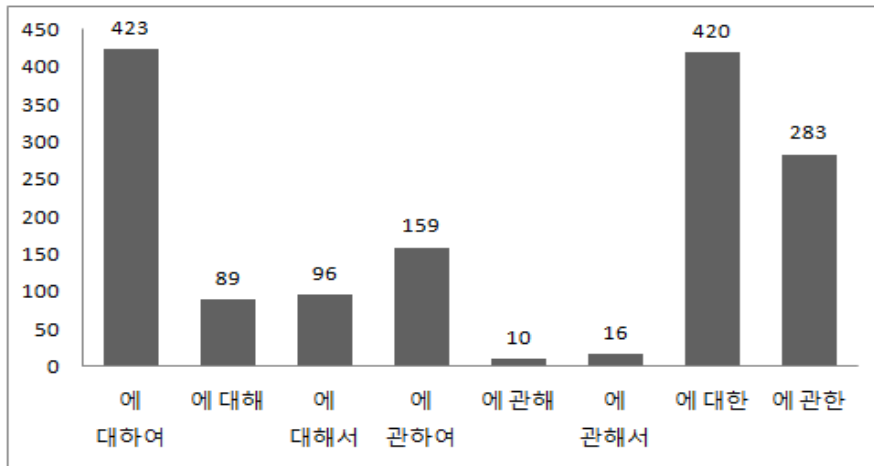
まず「法律関連の書籍」からとった用例を次の〈表5〉にまとめておく。

〈表5 法律関連の書籍〉

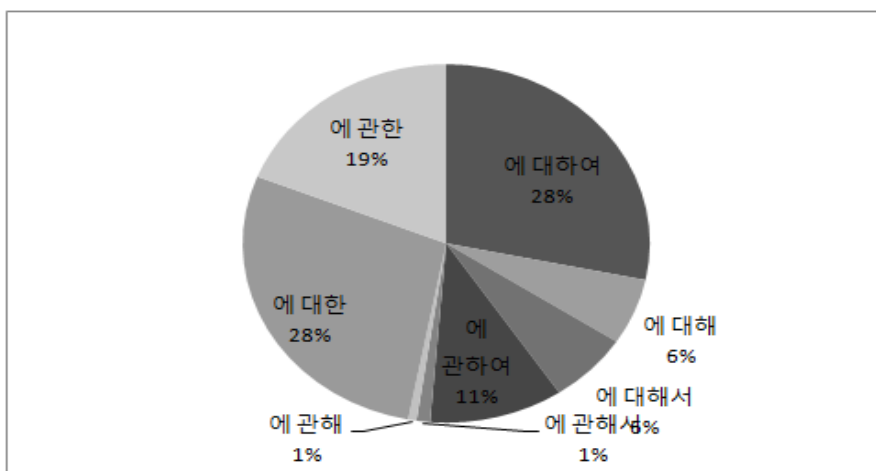
ジャンル	作品	대하다(daehada)			관하다(gwanhada)			~에 대한(e daehan)	~에 관한(e gwanhan)
		~에 대하여(e daehayeo)	~에 대해(e daehae)	~에 대해서(e daehaeseo)	~에 관하여(e gwanhayeo)	~에 관해(e gwanhae)	~에 관해서(e gwanhaeseo)		
専門書籍	法学	117	3	34	50	4	12	134	155
	法律コンサート	263	19	29	106	1	3	155	100
	生活法律	43	67	33	3	5	1	131	28
合計		423	89	96	159	10	16	420	283
総計		1496							

〈表5〉をもっと分かりやすく整理したのが次の〈グラフ11〉と〈グラフ12〉である。

〈グラフ11〉



〈グラフ12〉



法律関連の書籍の場合、「에 대하여(e daehayeo)」が 423 例、連体表現の「에 대한(e daehan)」が 420 例で同じ比率で用いられている。韓国語専門書籍に比べて、「에 대하여(e daehayeo)」の使用頻度が非常に高くなっている。また「에 관하여(e gwanhayeo)」も 159 例、連体表現の「에 관한(e gwanhan)」も 283 例で用いられやすくなっている。法律関連の書籍に元の形の「에 대하여(e daehayeo)」と「에 관하여(e gwanhayeo)」が用いられやすくなっている理由は何であろうか。

『法学』や『法律コンサート』のようなテキストの場合は、法の条文に使われている表現をそのまま使っているので、元の形の「에 대하여(e daehayeo)」と「에 관

하여(e gwanhayeo)」が用いられやすくなっている。しかし、『生活法律』という一般の教養書籍では、縮約形の「에 대해(e daehae)」が用いられやすくなっている。

つまり、法律という特殊な場合では「에 대하여(e daehayeo)」と「에 관하여(e gwanhayeo)」のような元の形が用いられやすいと言える。「에 대하여(e daehayeo)」と「에 관하여(e gwanhayeo)」は殆ど指示文ではなく内容に用いられている。形態の面でも「에 대하여(e daehayeo)」は、他の書籍ではあまり見られない「에 대하여는(e daehayeoneun)」「에 대하여도(e daehayeodo)」「에 대하여서도(e daehayeoseodo)」「에 대하여만(e daehayeoman)」などの古語的な文語体が用いられやすくなっている。「에 관하여(e gwanhayeo)」も「에 대하여(e daehayeo)」と同じように「에 관하여는(e gwanhayeoneun)」「에 관하여서도(e gwanhayeoseodo)」「에 관하여만(e gwanhayeoman)」などの現代語ではあまり使わない古語的な文語体が用いられやすくなっている。このように「에 대하여(e daehayeo)」と「에 관하여(e gwanhayeo)」は法律関連の書籍に用いられやすくなっているが、その意味は異なる。例えば、

- a) 관습법에 대하여(e daehayeo) 서술하십시오. (慣習法について述べなさい。)
- b) 관습법에 관하여(e gwanhayeo) 서술하십시오. (慣習法について述べなさい。)

a)は授業時間に学んだことや判例に出ている慣習法について述べることで、専門的なニュアンスを持っており、b)は慣習法に関わる一般事項について述べる感じで非専門的なニュアンスを持っている。また「에 대해서(e daehaeseo)」は、「에 대해서는(e daehaeseoneun)」、「에 대해서도(e daehaeseodo)」、「에 대해서만(e daehaeseoman)」、「에 대해서까지(e daehaeseokkaji)」のような補助詞を伴う形で用いられており、その中でも補助詞「는(neun)」がついた形態の「에 대해서는(e daehaeseoneun)」が一番多く用いられている。

4-3 一般教養の書籍

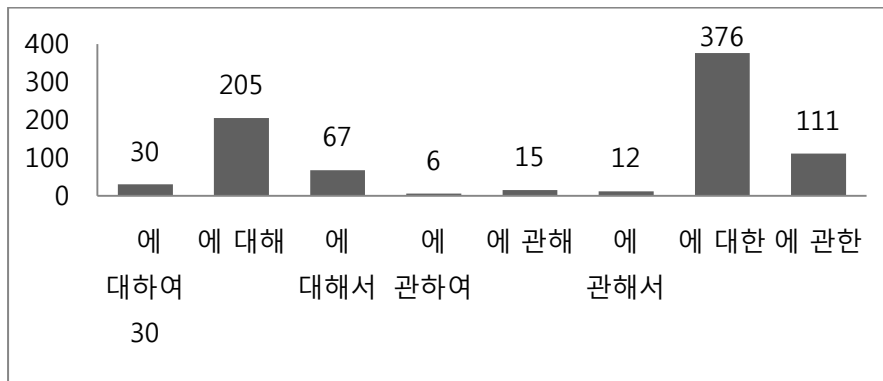
まず「一般教養の書籍」からとった用例を次の〈表6〉にまとめておく。

< 表 6 一般教養 >

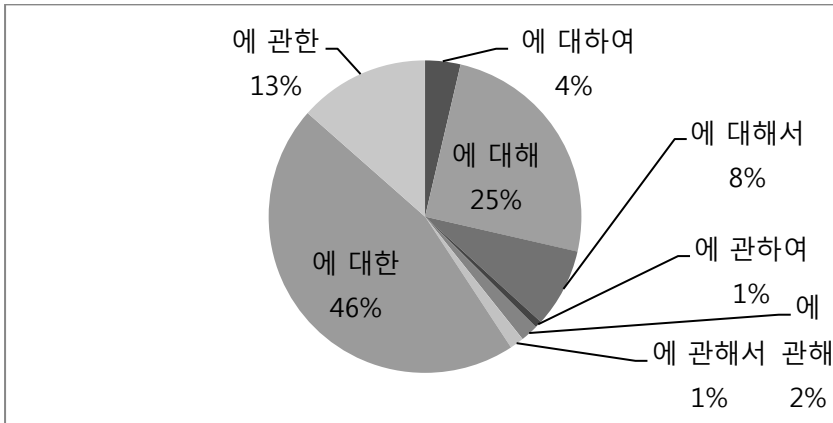
ジャンル	作品	대하다(daehada)			관하다(gwanhada)			~에 대한(e daehan)	~에 관한(e gwanhan)
		~에 대하여(e daehaye)	~에 대해(e daehae)	~에 대해서(e daehaeseo)	~에 관하여(e gwanhayeo)	~에 관해(e gwanhae)	~에 관해서(e gwanhaeseo)		
一般教養	ナモク	0	6	5	0	0	0	40	2
	どこかで私を探さ べルがなり	0	15	7	0	0	0	30	3
	ウンギョ	0	27	11	0	0	0	51	2
	甘たるい私の 都市	7	64	13	0	1	2	33	16
	ドンイ	1	14	2	0	3	1	24	10
	優先順位 現代随筆	21	12	10	1	2	5	65	7
	通歩の食卓	1	45	7	5	1	1	53	52
	日本熱狂	0	22	12	0	8	4	80	19
合計	30	205	67	6	15	12	376	111	
総計	822								

<表6> をもっと分かりやすく整理したのが次の <グラフ13> と <グラフ14> である。

<グラフ 13>



〈グラフ14〉



一般教養の書籍の場合、連体表現の「에 대한(e daehan)」が376例で一番現れやすく、その次が「에 대해(e daehae)」で205例用いられている。「에 대하여(e daehayeo)」と「에 대해서(e daehaeseo)」はそれぞれ30例と67例用いられている。一般教養の書籍の場合、4-1の専門書籍と4-2の法律関連の書籍に比べて、後置詞の使用頻度は低いほうである。

小説の場合、例えば、『ナモク』、『どこかで私を探すベルがなり』、『甘たるい私の都市』、『ウンギョ』、『ドンイ』の中で、後置詞が一番用いられやすくなっているのは、『甘たるい私の都市』である。『甘たるい私の都市』は、都市で生きる未婚女性たちの仕事と友情、そして恋について堂々と、また率直に話している小説である。この場合、縮約形の「에 대해(e daehae)」が一番現れやすくなっている。つまり、小説の場合は専門書籍と法律関連の書籍に比べて、後置詞があまり用いられなくなっているが、小説の中でも純粋な内容の小説より人と人との関係を扱う小説、すなわち心理的な表現がよく用いられている内容の小説の場合、後置詞が用いられやすくなっている。一般の教養書籍の中でも、『通歩の食卓』のような客観的な事実を土台としてある主張をする書籍の場合、連体形の「에 대한(e daehan)」と「에 관한(e gwanhan)」が用いられやすくなっている。『日本熱狂』のような心理学者の著者が日本の文化を分析し、解釈した本の場合は、連体形の「에 대한(e daehan)」が用いられやすくなっている。また『優先順位現代随筆』は中学校と高校で必読の書として指定されたテキスト、つまり国定教科書のようにその内容が規範的で画一化している本の場合は、元の形の「에 대하여(e daehayeo)」が多く用

いられている。この場合「에 대하여(e daehayeo)」は、指示文より本文の内容に用いられやすくなっている。「에 대해서(e daehaeseo)」は大体、「에 대해서는(e daehaeseoneun)」、「에 대해서도(e daehaeseodo)」、「에 대해서만(e daehaeseoman)」、「에 대해서까지(e daehaeseokkaji)」のような補助詞を伴う形態で用いられており、その中で「에 대해서는(e daehaeseoneun)」が一番多く用いられている。一般教養の書籍の場合も専門書籍の場合と同じように、「에 관하여(e gwanhayeo)」、「에 관해(e gwanhae)」、「에 관해서(e gwanhaeseo)」は用いられにくくなっている。連体形の「에 관한(e gwanhan)」は、人間の心理表現を描写した小説では用いられにくくなっているが、客観的な事実の上である主張をする場合は用いられやすくなっている。

4-4 新聞雑誌

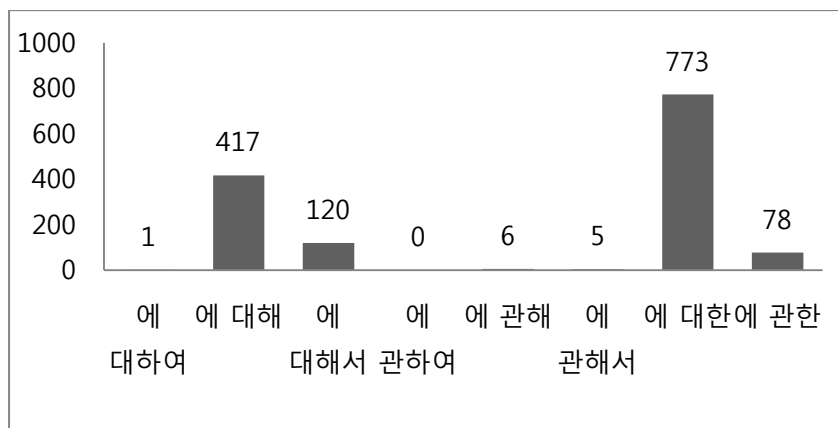
まず「新聞雑誌」からとった用例を次の〈表7〉にまとめておく。

〈表7 新聞雑誌〉

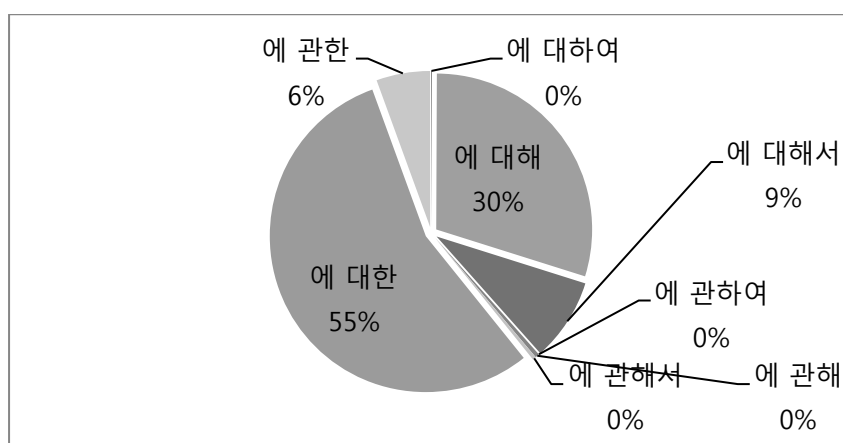
ジャンル	作品	대하다(daehada)			관하다(gwanhada)			~에 대한(e daehan)	~에 관한(e gwanhan)
		~에 대하여(e daehayeo)	~에 대해(e daehae)	~에 대해서(e daehaeseo)	~에 관하여(e gwanhayeo)	~에 관해(e gwanhae)	~에 관해서(e gwanhaeseo)		
新聞雑誌	中央日報 (2012. 7. 5~17)	0	138	71	0	0	0	286	19
	女性ドンア3, 4	0	77	14	0	1	3	161	19
	女性中央2, 3	1	101	18	0	1	1	193	25
	論述がやさしくなる雑誌ウォズキズ 9. 10. 12. 3	0	101	17	0	4	1	133	15
合計		1	417	120	0	6	5	773	78
総計		1400							

〈表7〉をもっと分かりやすく整理したのが次の〈グラフ15〉と〈グラフ16〉である。

〈グラフ15〉



〈グラフ16〉



新聞雑誌の場合、連体表現「에 대한(e daehan)」が773例で一番現れやすく、その次が「에 대해(e daehae)」で417例用いられている。「에 대해서(e daehaeseo)」は、120例用いられているが、「에 대하여(e daehayeo)」は1例のみ用いられている。つまり新聞雑誌では、限られた紙面にある情報や話題について正確に書かなければならないので、元の形の「에 대하여(e daehayeo)」より縮約形の「에 대해(e daehae)」が用いられやすくなっていると言える。「에 대해서(e daehaeseo)」は、大体、「에 대해서는(e daehaeseoneun)」、「에 대해선(e daehaeseon)」、「에 대해서도(e daehaeseodo)」、「에 대해서만(e daehaeseoman)」、「에 대해서나(e daehaeseona)」、「에 대해서보다는(e daehaeseobodaneun)」のような

補助詞を伴う形態で用いられており、その中で「에 대해서는 (e daehaeseoneun)」が一番多く用いられている。雑誌の場合も子供を対象とした雑誌は、他の雑誌と比べて指示文が現れやすくなっているが、国定教科書の小学校の国語教科書とは違って、縮約形の「에 대해(e daehae)」が用いられやすくなっている。子供を対象とした雑誌の場合も、連体表現の「에 대한(e daehan)」が一番用いられやすくなっている。

新聞雑誌の場合も、「에 관하여(e gwanhayeo)」「에 관해(e gwanhae)」「에 관해서(e gwanhaeseo)」はそれぞれ 0、6、5 例用いられており、連体形の「에 관한(e gwanhan)」は 78 例用いられている。つまり、新聞雑誌では、「에 관하여(e gwanhayeo)」「에 관해(e gwanhae)」「에 관해서(e gwanhaeseo)」とその連体形の「에 관한(e gwanhan)」は用いられにくくなっていると言える。

4-5 まとめ

テキストをジャンル別に専門書籍、一般教養の書籍、新聞雑誌に分けて考察した結果は次の通りである。

まず、全体の傾向を調べる。ここで、専門書籍、一般教養の書籍、新聞雑誌は、便宜上「一般の書籍」とする。

- 1) 一般の書籍の中で後置詞の使用頻度が一番低いのは一般教養の書籍である。一般教養の書籍の場合、柔らかい内容になるほど後置詞は用いられにくく、堅い内容になるほど後置詞が用いられやすい。
- 2) 専門書籍の中でも、法律関連の書籍の場合、元の形の「에 대하여(e daehaye o)」と「에 관하여(e gwanhayeo)」が用いられやすい。
- 3) 指示文の場合、一般教養の書籍と新聞雑誌では殆ど用いられず、専門書籍で少し用いられるようになっている。専門書籍の中で論文書籍と大学の教材として用いられている国語教科書には縮約形の「에 대해(e daehae)」が用いられやすく、基礎的で教養的な内容の教科書には、元の形の「에 대하여(e daehaye o)」が用いられやすい。
- 4) 一般の書籍では、後置詞は指示文より主に内容として用いられている。

次に、各表現別に分析してみると次のようである。

- 5) 「에 대하여(e daehayeo)」は文語体（古典的）な内容やタイトルに主に用いられやすい。また中学校と高校で必読の書として指定されたテキストで用いられやすい。
- 6) 「에 대해서(e daehaeseo)」は、一般の書籍いずれも補助詞を伴う形で用いられやすい。特に、その中でも補助詞「는(neun)」がついた形態の「에 대해서는(e haeseoneun)」が一番多く用いられている。
- 7) 「에 대해(e daehae)」は一般の書籍いずれも用いられやすいが、論文著書や専門的な書籍の場合は、さらに用いられやすい。
- 8) 「에 관하여(e gwanhayeo)」は特に法律関連の書籍のみ用いられやすく、一般の書籍では殆ど用いられない。
- 9) 「에 관해(e gwanhae)」と「에 관해서(e gwanhaeseo)」は一般の書籍いずれも用いられにくい。
- 10) 連体形の場合、「에 대한(e daehan)」は後置詞の中で一番用いられやすく、「에 관한(e gwanhan)」は連用形の「에 관해(e gwanhae)」と「에 관해서(e gwanhaeseo)」より用いられやすい。

以上の結果から、国定教科書と一般の書籍を考察した結果について次のようなことが言えるのではなかろうか。

まず、国定教科書には「어(eo)」形の元の形の「에 대하여(e daehayeo)」は、特に小学校の場合に圧倒的に用いられていて、学年（中・高）が上がるにつれ縮約形の「에 대해(e daehae)」と連体形の「에 대한(e daehan)」が用いられやすくなっている。一般の書籍には、連体形の「에 대한(e daehan)」が一番用いられやすく、その次が縮約形の「에 대해(e daehae)」である。어서(eoseo)」形の「에 대해서(e daehaeseo)」は、国定教科書と一般の書籍いずれも補助詞を伴う形として用いられやすくなっている。国定教科書と一般の書籍いずれも連用形の場合、学年が上がるにつれ、つまり、レベルが上がるにつれ、「어(eo)」形の元の形の「에 대하여(e daehayeo)」より、縮約形の「에 대해(e daehae)」が用いられやすくなっている。

しかし、이기갑(1998)は「- 어(eo)」と「- 어서 (eoseo)」両方可能な場合の例として、「-에 대해 (서) 、-e daehae (seo) 」を挙げている。「-에 대해 (서) 、-e daehae (seo) 」は慣用的表現として「- 어(eo)」と「- 어서 (eoseo)」の活用のみ許容し、動詞の先行成分も特定の助詞に制限され、殆ど固まった表現と云っている。また、慣用的表現も「- 어(eo)」の位置によって開放的な表現と閉鎖的な表現に分かれ、「-에 대해 (서) 、-e daehae (seo) 」は「- 어(eo)」の後行成分に何の制限もないので、その統合関係は相対的に開放されたと言っている。また이기갑(1998)は、「- 어(eo)」と「- 어서 (eoseo)」の関係について次のように述べている。

現代国語で様々な資格で現われる「- 어(eo)」と「- 어서 (eoseo)」は、元の形の「어(eo)」から影響を受けて、中世以後は「- 어서 (eoseo)」に代わった。「- 어서 (eoseo)」は繋がり語尾「- 어(eo)」に存在動詞「시(si)-」の副詞形の「셔(syeo)-」が文法化しながら「- 어서(eosyeo) 」のような新しい語尾が生じた。これが元の形の「- 어(eo)」と競争関係になる。しかし「- 어서 (eoseo)」は 16 世紀までは繋がり語尾として使われる比率が 3%くらいで非常に少なかったが、時間が経つにつれ「- 어서 (eoseo)」の使用比率が高くなって、現代では文語の 30%以上、口語の 80%以上を占めている。また補助詞と結合する場合は「- 어서 (eoseo)」のみ可能で、これは 20 世紀半ば以後に出来た最近の言語変化である。⁶³

以上の이기갑(1998)の説を整理すると、現代語では「- 어(eo)」系の「에 대해(e daehae)」より、「- 어서 (eoseo)」系の「에 대해서(e daehaeseo)」の使用率が高くなっているはずだが、実際の文献ではその逆である。이기갑(리기갑, 1998)は現代国語でも「- 어(eo)」と「- 어서 (eoseo)」がお互いに特別に使われたり、また一緒に使われたりする理由については、「- 어(eo)」と「- 어서 (eoseo)」の変化の速度が異なっているからであると指摘しており、文章構造上開放的な構成であれば、「- 어서 (eoseo)」が用いられやすく、閉鎖的な構成であれば元の形の「-

⁶³ 이기갑(1998)「『- 어(eo)』/-어서(eoseo)』の共時態についての歴史的な説明」, p. 119~120参照

어(eo)」が用いられやすいと言っている。その中間段階の構成では「-어(eo)」と「-어서(eoseo)」両方共存すると指摘している。

しかし、이기갑(1998)では、現代国語で「에 대해(e daehae)」と「에 대해서(e daehaeseo)」が両方共存できるということは分かるが、どうして、「-어서(eoseo)」系の「에 대해서(e daehaeseo)」より「-어(eo)」系の「에 대해(e daehae)」が用いられやすくなっているかは分かりにくい。

まず「에 대해(e daehae)」が用いられやすくなった理由としては、これは単純に「-어(eo)」と「-어서(eoseo)」関係から離れ、動詞「하였다(hayeosda)」と「했다(haessda)」の問題でもある。「하였다(hayeosda)」と「했다(haessda)」は両方とも完了形の「した」という意味で、「하였다(hayeosda)」は元の形であり、「했다(haessda)」は縮約形である。つまり、元の形と縮約形の問題である。20世紀に入って「하였다(hayeosda)」がなくなって、「했다(haessda)」のみ使われている。「하였다(hayeosda)」は学校で使われる公用文書に「하였음(hayeosngeum)」という表現で残っているだけである。そのため一般の書籍では「에 대하여(e daehayeo)」より「에 대해(e daehae)」が用いられやすくなっているのではなかろうか。しかし、法律関連の書籍の場合は、「에 대하여(e daehayeo)」が用いられやすくなっている。前にも触れたように法律という特殊な場合では、法の条文に使われている表現をそのまま使っているので、元の形の「에 대하여(e daehayeo)」が用いられやすくなっていると言える。

次に、이기갑(リギガプ、1998)では、「-어서(eoseo)」系の「에 대해서(e daehaeseo)」は、16世紀までは繋がりの語尾として使われる比率が3%くらいで非常に少なかったが、時間が経つにつれ「-어서(eoseo)」の使用比率が高くなって、現代では文語の30%以上、口語の80%以上を占めていると言っている。이기갑(リギガプ、1998)の指摘通り、「에 대해서(e daehaeseo)」は、主に口語体として多く使われている。例えば、『21世紀セッション計画最終成果物』⁶⁴では、「日常生活での会話」の場合、「에 대해서(e daehaeseo)」は146例、「에 대해(e

⁶⁴ 『21世紀セッション計画最終成果物2010.12 修正本、文化体育観光部、国立国語院』
—1998年から文化観光部が中心となって行われた大規模な言語資料を構築する事業において作成された文献。

daehae)」は 24 例、「에 대하여(e daehayeo)」は 0 例用いられており、「演説、講義、講演」の場合、「에 대해서(e daehaeseo)」は 110 例、「에 대해(e daehae)」は 12 例、「에 대하여(e daehayeo)」は 0 例用いられている。つまり、「에 대해서(e daehaeseo)」は「에 대해(e daehae)」と「에 대하여(e daehayeo)」より口語的であると言える。「에 대해서(e daehaeseo)」が口語的であるかどうかは、5-2 の各表現の用法の考察のとき用例を以て詳しく調べる。

また後置詞「에 대하여(e daehayeo) / 에 대해(e daehae) / 에 대해서(e daehaeseo)」とその連体形の「에 대한(e daehan)」が「에 관하여(e gwanhayeo) / 에 관해(e gwanhae) / 에 관해서(e gwanhaeseo)」、その連体形の「에 관한(e gwanhan)」より用いられやすくなっている理由としては、1956 年文部省が実施した大規模な語彙調査⁶⁵によると、多く用いられている語彙 100 位の中に動詞 ‘대하다(daehada)’ が 74 位を占めていたが、조남호(2002)の < 表 5 語彙頻度調査結果例示 >⁶⁶では、多く用いられている語彙 100 位の中で動詞「대하다(daehada)」が 24 位を占めている。つまり動詞「대하다(daehada)」の使用頻度が段々と高くなっているのが分かる。しかし動詞「관하다(gwanhada)」は多く用いられている語彙 100 位の中に入っていない。このような理由においても後置詞「에 대하여(e daehayeo) / 에 대해(e daehae) / 에 대해서(e daehaeseo)」とその連体形の「에 대한(e daehan)」が「에 관하여(e gwanhayeo) / 에 관해(e gwanhae) / 에 관해서(e gwanhaeseo)」、その連体形の「에 관한(e gwanhan)」より用いられやすくなっていると言える。

それでは、後置詞「에 대하여(e daehayeo) / 에 대해(e daehae) / 에 대해서(e daehaeseo)」、その連体形の「에 대한(e daehan)」と「에 관하여(e gwanhayeo) / 에 관해(e gwanhae) / 에 관해서(e gwanhaeseo)」、その連体形の「에 관한(e gwanhan)」についてそれぞれの用法上の差異について考察する。

5. 後置詞の用法上の差異について

⁶⁵ 文部省(1956), 『우리말 말수 사용의 찾기 조사』, p. 132~135参照

⁶⁶ 조남호(2002), 『現代国語使用頻度調査-韓国語学習用語彙選定のための基礎調査』 p. 132~135 参照

国定教科書とテキストをジャンル別に分けて調べた結果では、後置詞「에 대하여(e daehayeo) /에 대해(e daehae) / 에 대해서(e daehaeseo)」は元の形と縮約形の関係で意味上の差異はないが、各自それぞれの機能を果たしているのが分かる。また「에 관하여(e gwanhayeo)/ 에 관해 (e gwanhae)/ 에 관해서(e gwanhaeseo)」は、「에 대하여(e daehayeo) /에 대해(e daehae) / 에 대해서(e daehaeseo)」と同じように元の形と縮約形の関係で意味上の差異はないが、使用頻度の面では、法律関連の書籍を除けばかなり低い。元の動詞との関わりからも分かるように動詞「대하다 (daehada) 」から派生した「에 대하여(e daehayeo) /에 대해(e daehae) / 에 대해서(e daehaeseo)」が動詞「관하다 (gwanhada) 」から派生した「에 관하여(e gwanhayeo)/ 에 관해 (e gwanhae)/ 에 관해서(e gwanhaeseo)」より用いられやすくなっていると言える。さらに「에 관하여(e gwanhayeo)/ 에 관해 (e gwanhae)/ 에 관해서(e gwanhaeseo)」は慣用的になっている連体形の「에 관한(e gwanhan)」が用いられやすくなっている。「에 대하여(e daehayeo) /에 대해(e daehae) / 에 대해서(e daehaeseo)」も国定教科書の場合、小学校国語教科書を除けば、連体形の「에 대한(e daehan)」が用いられやすくなっている。またジャンル別に分けて調べた結果でも、法律関連の書籍を除けば、連体形の「에 대한(e daehan)」が用いられやすくなっている。連用形より連体形の方が用いられやすくなっている理由は何なのか。それは連体形の特徴の上、連用形より先行成分と後行成分との関係が明確なので、後置詞の前後の関係が分かりやすいからではないだろうか。この点などを踏まえて文献での実例をもって、後置詞のそれぞれの用法について考察する。

まず、後置詞「에 대하여(e daehayeo) /에 대해(e daehae) / 에 대해서 (e daehaeseo)」の用法について考察する前に、小学校の低学年の国語教科書で後置詞が用いられている理由について考えてみる。

日本語の場合、後置詞は日本語学習中、中級段階で習う表現として扱っているが、韓国語の場合、小学校低学年の国語教科書で何の説明もなく用いられている。小学校の国語教科書というのは、その国の言葉を一番分かりやすく、正確に学習できるように構成されなければならないと思われる。しかし、なぜ小学校の低学年の国語

教科書でより適切な助詞「을(ul)/를(reul)」を使わず、難しい後置詞が用いられているのか。その理由は何であろうか。助詞「을(ul)/를(reul)」と後置詞「에 대하여(e daehayeo)」はどんな関係を持っているのか。お互いに置き換えられるのか。それとも各自の用法を持っているのか。などの疑問に基づいて、まず小学校の国語教科書で圧倒的に用いられている後置詞「에 대하여(e daehayeo)」と助詞「을(ul)/를(reul)」の用法上の差異について詳しく考察する。前にも触れたように、日本語「について」「に対して」に対応する韓国語の表現としては、動詞「대하다(daehada)」から派生した「에 대하여(e daehayeo) / 에 대해(e daehae) / 에 대해서(e daehaeseo)」の三つの表現が存在する。

しかし日本語には「について」と「に対して」の二つの表現が存在しているのに、それに対応する韓国語の表現が一つしかないので混同されやすく、さらに形態の異なる異形態が三つもあるので、「について」と「に対して」の学習はもちろん、後置詞「에 대하여(e daehayeo) / 에 대해(e daehae) / 에 대해서(e daehaeseo)」の学習も難しくなる。そこで本稿では、まず小学校の韓国語教科書で圧倒的に用いられている「에 대하여(e daehayeo)」を中心に、助詞「을(ul)/를(reul)」との用法上の差異について詳しく考察する上で、異形態の「에 대해(e daehae) / 에 대해서(e daehaeseo)」の用法を考察したい。

まず用例を分析するのに当たって、後置詞「에 대하여(e daehayeo)」と助詞「을(ul)/를(reul)」の前にくる先行成分と後ろにくる後行成分との関係を考察し、前後関係では判断しにくいとき文全体を判断の範囲に入れる。各例文は小学校1年生から6年生までの国語教科書から採集したもので、例文表記上、例えば、『国語—話す・聞く・書く4-2』の場合、『話聞書4-2』と表記することにする。

5-1 「에 대하여(e daehayeo)」と助詞「을(ul)/를(reul)」 について

まず、助詞「을(ul)/를(reul)」の使い分けについて説明する。例えば、

251) 내가 옮겨 쓴 시를 친구들과 이야기하여 봅시다. (作例)

私が書き写した詩を友達と話してみよう。

252) 내가 자라 온 과정을 생각해 봅시다. (作例)

私が育てられてきた過程を考えてみましょう。

日本語の場合 a と b いずれも助詞「を」格が用いられるが、韓国語の場合 a は「를 (reul)」が、b は「을 (ul)」が用いられる。a の「시 (詩、si)」は「子音+母音」の組み合わせで、b の「과정 (過程、gwajeong)」の「과 (過、gwa)」は「子音+母音」、「정 (程、jeong)」は「子音+母音+母音」の組み合わせを成している。つまり、直前の音が母音で終わる語は「를 (reul)」と共起し、子音で終わる語は「을 (ul)」と共起する。

253) 내가 옮겨 쓴 시에 대하여 친구들과 이야기하여 봅시다. (읽기1-2. p11)

私が書き写した詩について友達と話してみましょう。(読1-2、p. 11)

254) 토론할 때 지켜야 할 규칙을 생각하며 우리가 정한 이야기거리에 대하여 토론해 봅시다. (말듣4-2, p. 17)

討論するとき守らなければならない規則のことを考え、私たちが決めた話のねたについて討論してきましょう。(話聞4-2、p. 17)

255) 내가 자라 온 과정에 대하여 생각해 봅시다. (말듣4-2, p. 126)

私が育てられてきた過程について考えてみましょう。(話聞4-2、p. 126)

これらは後置詞「에 대하여 (e daehayeo)」が小学校国語教科書の指示文の中で、話し手が聞き手に何かを一緒にするように勧めたりお願いしたりする「~해 봅시다 (~してきましょう)」の形と呼応して現れており、253) 254) 255) いずれも助詞「을 (ul)」と置き換えられる。253) は「내가 옮겨 쓴 시를 친구들과 이야기해 봅시다」(私が書き写した詩を友達と話してきましょう)に、254)は、「우리가 정한 이야기거리를 토론해 봅시다」(私たちが決めた話のねたを討論してきましょう)に、255)は、「내가 자라 온 과정을 생각해 봅시다」(私が育てられてきた過程を考えてみましょう)に、後置詞「에 대하여 (e daehayeo)」を助詞「을 (ul)/를 (reul)」に置き換えても全く問題ない。

256) 체험 학습을 가서 보고들은 내용에 대하여(*을) 친구와 이야기를 나누어봅시다.

(쓰기2-2, p. 11)

体験学習に行き見て聞いたりした内容について (*を) 友達と話してみましょう。

(書き2-2, p. 11)

257) 내 취미에 대하여(*를) 친구에게 소개하는 글을 써 봅시다. (말듣4-2, p. 80)

私の趣味について (*を) 友達に紹介する文を書いてみましょう。 (話聞4-2, p. 80)

256)と257)は助詞「을(u1))/를 (reul) 」に置き換えられない。256)は「체험 학습을 가서 보고들은 내용을 친구와 이야기해 봅시다 (体験学習に行き見て聞いたりした内容を友達と話してみましょう) 」に、257)は「내 취미를 친구에게 소개해 봅시다 (私の趣味を友達に紹介してみましょう) 」に変えれば、助詞「을(u1))/를 (reul) 」が自然に用いられる。要するに同じ助詞が一つの文で繰り返し使われるのを避けるために後置詞「에 대하여 (e daehayeo)」を使ったのである。また256)と257)では、後置詞「에 대하여 (e daehayeo)」は助詞「을(u1)」にはない用法を持っていることが分かる。しかし、253)254)255)のような助詞「을(u1))/를 (reul) 」を用いても全然問題のないところに、後置詞を用いた理由はなんだろうか。「에 대하여(e daehayeo)」が一つの文の中で繰り返し使われるのを避けるために用いられていることを除けば、助詞「을(u1))/를 (reul) 」と後置詞「에 대하여 (e daehayeo)」はどの文でもお互いに置き換え可能だろうか。

「에 대하여(e daehayeo)」のような後置詞を小学校の国語教科書で使わなければならない理由は何だろうか。以上の点を解決すべく、後置詞「에 대하여(e daehayeo)」と助詞「을(u1))/를 (reul) 」との用法上の差異についてさらに詳しく考察する。

5-1-1 助詞「을(u1)/를 (reul) 」のみ可能な場合

次は助詞「을(u1)/를 (reul) 」のみ可能な場合で、主に先行成分に「具体的(限定的)な対象」が来る。ここで「具体的(限定的)な対象」とは、具体的なものや内容、または指示対象がある場合を指す。

258) ‘준호의 일기’ 다시 읽고, 어색한 부분을 바르게 고쳐봅시다. (말듣3-2, p84)

「ジュンホの日記」をもう一度読んで、可笑しいところを正しく直しなさい。

(話聞3-2, p. 84)

259) ‘준호의 일기’를 읽고, ‘어울려 쓰는 말’을 잘못 쓴 부분을 찾아봅시다.

(말듣3-2, p. 84)

「ジュンホの日記」を読んで、「合う言葉」を間違っている部分を探しなさい。

(話聞3-2, p. 84)

260) 받침이 있는 글자의 짜임을 생각하며 ‘나의 꿈’을 읽어 봅시다.

(읽기1-1, p. 28)

パッチムのある文字の構成を考えながら「私の夢」を読みましょう。

(読1-1, p. 28)

261) 다음 노래말을 재미있게 읽어 봅시다. (읽기1-1, p. 36)

次の歌の言葉を楽しく読みましょう。(読1-1, p. 36)

258~261)の後行成分の「直す、探す、読む」が助詞「을(u1)」と共に先行部分を具体的(限定的)な対象として表す。助詞「을(u1)」は先行部分に「ジュンホの日記」「私の夢」のような指定(限定)された作品や、「次の歌の言葉」のような具体的な指示対象が来るとき、後行部分の具体的な対象を表す。つまり、先行部分に指定(限定)された対象と指示対象が来るとき助詞「을(u1)」のみ可能である。

262) 그림을 보고, 체험 학습을 가서 보고 들은 내용을 생각하여 봅시다.

(쓰기2-2, p. 10)

*絵を見て、体験学習に行き見て聞いたりした内容を考えてみましょう。

(○ について) (書2-2, p. 10)

263) ‘여러 가지 비 이름’에 나오는 비 이름을 정리하여 봅시다. (읽기2-2, p. 25)

「いろいろな雨の名前」に出る雨の名前を整理して見ましょう。(読2-2, p. 25)

262)と263)は、後行部分の「考える、整理する」という思考活動を表す動詞が助詞「을(u1)」と共に先行部分を具体的(限定的)な対象(内容)として表す。263)は「絵を見て」という指示対象が来て「絵の中に現われている体験学習の内容について考えてみる」という意味になる。つまり、韓国語の

場合は前に指示対象の表現が来ると、助詞「을(u1)」のみ用いられるが、日本語の場合「を」格は不自然で、後置詞「について」の方が自然である。264)は「いろいろな雨の名前」のような指定された作品の中に出てくる雨の名前、例えば、「霧雨、小雨、大雨」などについて整理しようという内容である。韓国語の場合、262)と263)いずれも助詞「을(u1)」のみ可能である。しかし、日本語の場合は262)のように先行部分に指示対象が来るときは後置詞「について」が用いられやすく、263)のように先行部分に指定された作品が来るときは「を」格が用いられやすくなっている。要するに、日本語の場合は先行部分に指示対象や指定された作品が来るかどうかよりは、後行部分にくる語の性質と先行部分の内容の性質の影響がさらに大きいと思われる。例えば、263)の「整理する」は「いろいろな雨の名前」に出てくる雨の名をただ整理するという意味になるので、「を」格が用いられやすく、262)の「考える」は体験学習に行き見て聞いたりした内容についていろいろと考えるという意味になるので、後置詞「について」が用いられやすい。つまり、後置詞が後行部分に思考活動を表す動詞と共起した場合、韓国語は先行部分に指示対象や指定された作品が来るときは助詞「을(u1)」のみ可能であるが、日本語は先行部分に指示対象や指定された作品が来るかどうかよりは、後置詞に直前に来る先行部分の内容が具体的か包括的かがさらに重要である。具体的であればあるほど助詞が用いられやすく、包括的であればあるほど後置詞が用いられやすくなっていると言える。

この件については各用法を考察する際さらに詳しく考察する。

264) 내가 옮겨 쓴 시를 친구들 앞에서 낭송하여 봅시다. (읽기1-2, p. 11)

私が書き写した詩を友達の前で朗読してみましょう。(読1-2、p. 11)

264)は「私が書き写した詩」を声を出して読むという意味で、後行部分の「朗読する」は助詞「을(u1)」と共起して「私が書き写した詩」を話題ではなく、対象として表す。つまり、「私が書き写した詩」が朗読の具体的な対象となり、この場合も助詞「을(u1)」のみ可能である。

265) 일 년 동안 우리 가족에게 있었던 일을 생각하여 봅시다. (말듣쓰4-2, p. 118)

一年間自分の家族に起こった出来事を考えてみましょう。

(話聞書4-2、 p. 118)

266) 하경이가 정리한 내용을 살펴봅시다. (쓰기2-1, p. 30)

ハギョンが整理した内容を調べてみましょう。 (書き2-1、 p. 30)

267) 가장 재미있게 읽었던 책 이름과 내용을 간단하게 써 봅시다. (읽기2-2, p. 110)

一番面白く読んだ本の名前と内容を簡単に書いてみましょう。 (読2-2、 p. 110)

268) 사과 꽃이 피고 나서 사과를 딸 때까지의 과정을 설명하여 봅시다.

(말듣3-1, p. 125)

りんごの花が咲いてからりんごを収穫するまでの過程を説明しましょう。

(話聞3-1、 p. 125)

265)～268)までの例文は後行部分に「考える、調べる、書く」のような思考活動表す動詞と「説明する」のような言語活動を表す動詞が助詞「을(u1)」と共起して先行部分を「具体的な内容」として表す。つまり、265)の「一年間自分たちの家族に起こった出来事」の場合、一昨年今の家に引っ越してきたことや去年の秋に家族全員が一緒にソラク山に行った記憶などの具体的な時期や内容を表す。266)の「ハギョンが整理した内容」と、267)の「一番面白く読んだ本の名前と内容」は、調べようとするまたは、文章で表そうとする具体的な対象(内容)を表す。268)の「りんごの花が咲いてからりんごを収穫するまでの過程」という説明の対象が指定されるときは、助詞「을(u1)」が自然である。つまり、助詞「을(u1)」は後行部分と共起して先行部分を具体的な対象や内容として表していることが分かる。これらの例文で助詞「을(u1)」が表れやすい条件としては、後行部分に思考活動を表す動詞と言語活動を表す動詞が来るときには、先行部分の性質によって決められる。要するに後行部分に思考活動を表す動詞と言語活動を表す動詞が来るとき、韓国語と日本語いずれも後行部分よりは先行部分の影響がより大きいということが分かる。

5-1-2 後置詞 「에 대하여(e daehayeo)」のみ可能な場合

5-1-2-1 話題

次は後置詞「에 대하여(e daehayeo)」のみ可能な場合で、主に先行部分に「話題」が来る。「話題」とは、話の種やトピックで、具体的な話題と包括的な話題に分けられる。ここで「具体的な話題」というのは、「話題」が限定されて、またその範囲が狭いことを表し、「包括的な話題」とは、話題に限られず話題として挙げられる側面をいくつか持っていることを意味する。

269) 새로 만난 친구를 생각 합시다. (作例)

*新しく出会った友達を考えましょう。

のことを (○)

270) 새로 만난 친구에 대하여 생각해 봅시다. (作例)

新しく出会った友達について考えましょう。

269)の「新しく出会った友達」は考えの直接的な対象になる。つまり、新しく出会った友達の外見などの外的なことを想像するようになる。韓国語の場合は「친구(友達)」がそのまま「考え」の対象になれるが、日本語の場合は「友達」を「友達のこと」のように抽象化しなければならない。270)は「新しく出会った友達」は話題の対象になる。つまり、外的なものを含めたいろいろなこと、例えば、住んでいるところはどこなのか、誰と一緒に住んでいるのか、どんなものが好きなのかなどが連想できる。

271) 새 짝에 대하여 알고 싶다고 했지? 내 짝 이름은 이지연이야. 지연이는 키가 크고 얼굴은 동그랴게 생겼어. 엄마를 많이 닮았대. 그리고 꿈은 한의사야. 자기 할머니가 많이 아프셔서 그렇대. (쓰기2-2, p. 7)

新しいパートナーについて知りたいと言ったよね。私のパートナーは李ジョンだよ。ジョンは背が高く、顔は丸い。お母さんに似ている。そして彼女の夢は韓方の医者になることだよ。ジョンちゃんのお婆さんが体の状態がかなり悪いので、韓方の医者になりたいって。(書2-2, p. 7)

272) 새로 만난 친구에 대하여 무엇이 알고 싶은지 생각해 봅시다. (쓰기2-1, p. 8)

新しく出会った友達について何が知りたいのか考えましょう。(書2-1, p. 8)

271)と272)は後行部分に「知る」「考える」のような思考活動を表す動詞と共起して先行部分を「話題」として表す。271)は「新しく出会った友達」についてのいろいろな事実を話題にしている場合で、272)は文の中に「何が知りたいのか」のような内容が入っている場合である。助詞「을(u1)」は「直接的な対象」を表しており、後置詞「에 대하여(e daehayeo)」は「話題」を表している。つまり、「話題」や「話題についての内容」が文の中に出ているときは、韓国語も日本語も後置詞「에 대하여(e daehayeo)」は用いられやすいが、助詞「을(u1)」は用いられにくいと言える。

273) 다른 사람의 말을 주의 깊게 듣지 않아서 겪은 일에 대하여 말해봅시다.

(말듣2-1, p. 23)

人の話を注意深く聞かずに起こったことについて話してみましょう。

(話聞2-1, p. 23)

274) 식물에 대하여 말하려고 하나요? 어디에서 사나요? 모양이나 색깔은?

(말듣2-2, p. 13)

植物について話したいんですか。どこに生えているんですか。形と色は。

(話聞2-2, p. 13)

275) 그 직업에 대하여 알고 싶은 내용은 무엇입니까? (말듣쓰6-2, p. 45)

その職業について知りたいことは何ですか。(話聞書6-2, p. 45)

276) ‘오른쪽이’와 ‘동네 한 바퀴’라는 이름에 대하여 생각해봅시다.

(읽기2-1, p. 75)

「右側」と「近所を一回り」という名前について考えてみましょう。

(読2-1, p. 75)

277) 글을 읽은 뒤에는 글쓴이의 생각을 알아보고, 그것에 대하여 요모조모 따져

보아야 합니다. (읽기3-2, p. 82)

読み終わった後は書く人の考えを調べて、それについてあれこれ検討してみな

ければなりません。(読3-2, p. 82)

278) 설날, 추석, 단오 등이 있는데, 추석에 대하여 쓰면 어떨까?

(말듣쓰4-2, p. 57)

お正月、お盆、端午の節句などがあるが、お盆について書けばどう。

(話聞書4-2, p. 57)

279) 정자나무처럼 듅직하고 푸근한 우리 삼촌에 대하여 쓰고 싶어.

(말듣쓰5-2, p. 11)

道端にある大樹のようにしっかりしていて頼もしい私の叔父について書きたい。

(話聞書5-2, p. 11)

273)～279)は後行部分に言語活動や思考活動を表す動詞が後置詞「에 대하여(e d aehayeo)」と共に起して、先行部分を「包括的な話題」として表す。例えば、273)は先行部分である「人の話を注意深く聞かずに起こったこと」には、「いつ起こったことなのか、どうして注意深く聞いてなかったのか、どんな大変なことがあったのか」などが挙げられる。274)は先行部分である「植物」には、例文に出ているように「どこに生えているものなのか、どんな形のものなのか、どんな色のものなのか」などが挙げられる。275)は先行部分である「その職業」には、「年俸はいくらなのか、大変なことは何か、一日の練習時間はどのくらいなのか、サッカー選手になるための過程はどうであろうか」などが挙げられる。他の例文も同様に、話題として挙げられるトピックがいくつか存在する「包括的な話題」の場合は「에 대하여(e daehayeo)」のみ可能である。日本語の場合も同じことが言える。

280) “누구라도 좋아요. 통일에 대해서 평소에 하고 싶은 말이 있는 사람이면 다 좋아요.” (읽기6-1, p. 42)

「だれでもいいですよ。統一について普段言いたいことがある人なら」

(読6-1, p. 42)

280)は273)-279)のように先行部分に「統一」という包括的な話題を表していることは同じであるが、使われている後置詞の形態が異なる。「에 대하여(e daehayeo)」ではなく、異形態の「에 대해서(e daehaeseo)」が用いられている。

「통일에 대하여 (e daehayeo、統一について)」は、統一について日ごろ考えていることをただ述べることであり、「통일에 대해서 (e daehaeseo、統一について)」と言うと、統一についての考えを訴えることである。つまり、後置詞「에 대해서(e daehaeseo)」は話題を取り立てる用法を持っていると言える。先行部分が「包括的な話題」の場合、後置詞「에 대하여(e aehayeo)」 「에 대해서(e daehae

seo)」いずれも用いられるが、「話題の取り立て」の用法は「에 대해서(e daehae seo)」のみ可能である。

281) “이번 시간에는 3학년 을 마치며 한 해 동안 가장 기억에 남는 일에 대해서 서로 이야기해 봅시다. 여러분은 어떤 일이 가장 기억에 남나요?”

(우등참고서, 말듣3-2,p.92)

この時間は3年生が終わるこの一年間、一番記憶に残っていることについてお互いに話し合ってみましょう。みなさんはどんなことが一番記憶に残っていますか。(優等参考書、話聞3-2、p. 92)

281)は小学校 3年2学期の国語教科書の参考書に出ている例で、「3학년 을 마치며 가장 기억에 남는 일이 무엇인가요? (말듣3-2, p. 86)、(3年生を終えて一番記憶に残っていることは何ですか、(話聞3-2、p86)」に出ている文章を参考にして、少し形態を変えて作った文章である。つまり、参考書でも「一番記憶に残っていること」を取り立てるために「에 대해서(e daehaeseo)」を用いている。

282) 석주명이 붙인 나비 중 ‘수노랑나비’ 와 ‘지리산팔랑나비’ 에 대해 조사해 봅시다. (우등참고서3-2, p. 32)⁶⁷

ソクジュミョウが命名した蝶々の中「スノランナビ」と「智離山パルランナビ」について調査してみましょう。(優等参考書3-2、 p. 32)

282)は、小学校3-2の国語教科書の参考書に出ている内容で、本文の内容をさらに理解させるため作られた練習問題である。国定教科書である小学校の国語教科書では、元の形の「에 대하여(e daehayeo)」が圧倒的に用いられているが、参考書で

⁶⁷ 次は、参考書で用いられている「에 대해(e daehae)」の例である。

- 1) 민지는 은행나무에 대해 더 자세히 조사해 보고, 은행나무가 사람에게 이롭게 쓰인다는 것을 알았습니다. (우등참고서3-2, p. 33)
ミンジは銀杏についてもっと詳しく調査して、銀杏が人にいいということが分かりました。(優等参考書3-2、 p. 33)
- 2) 민지는 은행나무에 대해 더 조사하려고 전자 백과사전을 열어 보았습니다. (우등참고서3-2, p. 36)
ミンジは銀杏についてもっと調査しようとして電子百科辞書をひいてみました。(優等参考書3-2、 p. 36)

は縮約形の「에 대해(e daehae)」がよく用いられている。

小学校の参考書では、元の形の「에 대하여(e daehayeo)」より縮約形の「대해(e daehae)」のほうが用いられやすくなっている。要するに、小学校の参考書では一般教養の書籍、専門書籍、新聞雑誌と同じように元の形よりは、縮約形を好んで使っていると言える。つまり、形態的な考察でも触れたように元の形の「에 대하여(e daehayeo)」は、国定教科書の中でも小学校の国語教科書のみで圧倒的に用いられ、学年が上がるのにつれ、徐々に縮約形の「에 대해(e daehae)」が用いられやすくなっていると言える。「에 대해서(e daehaeseo)」は「話題の取り立て」または「話題の定義づけ」の用法を持っていることが分かる。

5-1-2-2 「話題」と「見解」

一つの文章に後置詞「에 대하여(e daehayeo)」と助詞「을(u1)」が共に用いられている場合、後置詞「에 대하여(e daehayeo)」は「包括的な話題」を、助詞「을(u1)」は「見解（意見、考え、評価など）」を表している。

283) 나그네, 꿩, 구렁이가 한 일에 대하여 느낀 점을 말하여 봅시다.

(읽기1-2, p. 15)

旅人、雉、大蛇がしたことについて感じたことを話してみましょう。

(読1-2, p. 15)

284) ‘그만됐다’를 다시 읽고, 강아지와 고양이가 한 일에 대하여 느낀 점을 말하여 봅시다. (읽기1-2, p. 19)

「やめた」をもう一度読んで、子犬と猫がしたことについて感じたことを話してみましょう。(読1-2, p. 19)

285) 철수와 현희가 말하고자 하는 생각에 대하여 내 생각을 말하여 봅시다 .

(읽기1-2, p. 47)

チョルスとヒョンヒが言おうとする考えについて自分の考えを話してみましょう。(読1-2, p. 47)

286) 모듈별로 하나의 직업을 선택하여 봅시다. 그리고 그 직업에 대하여 알고 싶은 내용을 친구들과 말하여 봅시다. (말듣쓰6-2, p. 45)

グループ別に一つの職業を選択してみましょう。そしてその職業について知り内

容を友達と話してみましよう。(話聞書6-2、p. 45)

287) ‘베니스 상인’을 읽고, 등장인물에 대하여 친구들과 의견을 주고받아 봅시다. (읽기5-2, p. 177)

「ベニスの商人」を読んで、登場人物について友達と意見を交わしてみましよう。
(読5-2、p. 177)

288) 우리 명절에 대하여 소개하는 글을 쓰려고 하는데, 무엇에 대하여 쓸까?
(말듣쓰4-1, p. 72)

我が国の伝統的な祝日について紹介する文を書こうと思うが、何について書こうか。(話聞書4-1、p. 72)

289) 일본 학자들이 우리나라 나비에 대하여 잘못 쓴 부분들을 찾아내어 바로 잡았습니다. (읽기3-2, p. 12)

日本の学者たちがわが国の蝶々について間違えて書いた部分を見つけ直しました。(読3-2、p. 12)

290) 명희가 ‘봉사하는 생활’에 대하여 짧은 글을 썼습니다. (말듣쓰4-1, p. 72)

ミョンヒが「奉仕する生活」について短い文を書きました。
(話聞書4-1、p. 72)

283)~290)は一つの文に後置詞「에 대하여(e daehayeo)」と助詞「을(u1)/ 를(reul)」が共に用いられた場合で、後行部分に主に「話す」「意見を交わす」「直す」「書く」のような言語活動を表す表現や思考活動を表す表現が来る。この場合、後置詞「에 대하여(e daehayeo)」は「包括的な話題」を表しており、助詞「을(u1)」は「見解(意見、考え、評価など)」を表している。

291) 내가 더 알고 싶은 것에 대하여 조사한 다음 조사한 내용을 간단하게 정리하여 봅시다. (쓰기3-1, p. 91)

自分がもっと知りたいことについて調査した後、調査した内容を簡単に整理してみましよう。(書3-1、p. 91)

292) 민속 놀이를 하는 방법에 대하여 알아보고, 알게 된 내용을 글로 써 봅시다. (쓰기1-2, p. 66)

伝統遊びにについて調べて、分かった内容を書いてみましよう。
(書1-2、p. 66)

これに対して、291)は「私がもっと知りたいことについて調査した後、調査した

内容を簡単に整理する」という意味なので、「自分が知りたいこと」は「話題」を表し、「調査した内容」は話題の一部分に属する。292) も同じことが言える。つまり、「話題とその一部分」になるので、283)～290)の「話題と見解」の用法とはその性格が異なる。日本語の場合も同じことが言えるだろう。次は『複合助詞がこれでわかる』⁶⁸⁾に出ている例文である。

293) 委員会は調査の結果について報告書を出した。(p.6)

294) その留学生は国際関係についての論文を書いた。(p.6)

295) 留学生たちは環境問題に関して、調査結果を発表した。(p.15)

296) 政治に関する論文を書いた。(p.21)

『複合助詞がこれでわかる』では、293)～296)の例文について次のように書いている。

取り扱う対象の全体をテーマとしてXで示し、Yでその中にある部分、側面を扱うことを示す。「全体と一部分・一側面」の関係を示す場合には、特に「について」が多用される。

「に関して」の場合は、「に関する」の形が多用される。(p.21)

日本語の場合、例えば293)を例として挙げると、Xの「調査の結果」は、テーマを表し、Yの「報告書」は部分(側面)を表す。つまり、全体と部分(側面)として分けており、全体はテーマを表し、部分(側面)はその中に入っていると説明している。しかし、「全体」と「部分(側面)」の例としては、291)と292)のような例文が当てはまる。要するに、全体と部分に分けるということは、部分が全体の中に含まれるというニュアンスが入っているので、293)の「調査の結果についての報告書」、294)の「国際関係についての論文」、295)の「環境問題に関する調査結果」、296)の「政治に関する論文」は、「全体」に含まれる「部分(側面)」ではなくて、「話題」についての「見解(意見、考え)」を表していると言える。従って、293)～296)は全体と部分に分けるよりは、「話題と見解(意見、考え)」に分けた

⁶⁸⁾ 鈴木智美(2007)『複合助詞がこれでわかる』、東京外国語大学留学生日本語教育センター、p.6～21 参照

ほうがより自然ではないだろうか。

297) 学生は進学について先生の意見を聞いた。(p.7)

また『複合助詞がこれでわかる』では、例文297) について次のように述べている。

Xで文全体のテーマを示し、Yでそのテーマに関係したことを述べる。全体と部分・側面という関係は持たない。(p.7)

297)は、全体と部分・側面という関係は持たないと説明しているが、実際は「進学についての先生の意見」を表すので、293)~296)と同じように「話題」と「見解(意見、考え)」に当てはまる。つまり、日本語の場合も、XとYの関係を全体と部分(側面)と、文全体と文全体に関係したことのようによく分けるより、「話題」と「見解(意見、考え)」に分けたほうが分かりやすいと言える。韓国語と日本語の用法の比較については第5章でさらに詳しく考察する。

5-1-3 後置詞「에 대하여(e daehayeo)」と詞「을(ul)/를(reul)」 いずれも可能な場合

次は文章の内容が「具体的な対象(内容)」としても、「包括的な話題」としても使用可能な場合である。

298) ‘이것’, ‘그것’, ‘저것’ 을 넣어 교실 안에 있는 물건에 대하여 말해봅시다. (읽기2-1, p.103)

「これ」、「それ」、「あれ」を入れて教室の中にあるものについて話してみましよう。(読2-1, p.103)

299) ‘이것’, ‘그것’, ‘저것’ 을 넣어 교실 안에 있는 물건을 말해봅시다.

* 「これ」、「それ」、「あれ」を入れて教室の中にあるものを話してみま
について(O)

しょう。⁶⁹

298)の「教室の中にあるものについて」の「もの」は「考えの対象」つまり、「話題」を表し、299)は「教室の中にあるものを」の「もの」は単純な対象、つまり具体的な対象を表す。

300)내가 읊겨 쓴 시에 대하여 친구들과 이야기하여 봅시다. (읽기1-2, p. 11)

私が書き写した詩について友達と話し合ってみましょう。(読1-2、p. 11)

301)내가 읊겨 쓴 시를 친구들 앞에서 낭송하여 봅시다. (읽기1-2, p. 11)

私が書き写した詩を友達の前で朗読してみましょう。(読1-2、p. 11)

300)と301)は先行部分が「私が書き写した詩」で同じであるが、後行部分の「話し合う」と「朗読する」によって用いられる後置詞が異なる。「話し合う」と「朗読する」は言語活動を表す動詞という点では同じであるが、その性格が異なる。

「朗読する」は前にも触れたように「声を出して読む」という単純な行為を表しており、「話し合う」は、一定の話の筋のある長い言葉で、討論するという意味である。300)は友達と私が書き写した「詩」についていろいろな意見を交わすことであり、301)は友達の前でただ「私が書き写した詩」について音を出して読むという意味である。つまり、300)は「書き写した詩」が「話の話題」になる反面、301)では「書き写した詩」が「朗読」の具体的な対象になる。

302)베짱이는 노래 부르는 것에 대하여 어떻게 생각하고 있나요?(쓰기2-1, p. 65)

ウマオイムシは歌うことについてどう思っているんですか。(書2-1、p. 65)

303)베짱이는 노래 부르는 것을 어떻게 생각하고 있나요? (作例)

ウマオイムシは歌うことをどう思っているんですか。

302)は、ウマオイムシの答えとしては「歌うこと」についての長所や短所、経験談などの内容のある長い答えが考えられるのに対し、303)は、ウマオイムシの

⁶⁹ 298)は、日本語の場合、後行部分に「話してみる」という言語活動を表す語がきて、先行部分が「話題」になっている。この場合は、「を」格は用いられにくく、「について」が自然である。

答えとしては「歌うこと」に対して「いいと思っている」または「別にいいと思わない」などの短い答えが考えられる。つまり、「을(u1)/를(reul)」は内容に対するはっきりとした「態度」を表しており、「에 대하여(e daehaye o)」は「話題」についての様々な「見解（意見、考え）や主張」などを表している。

304) 내가 그린 만화를 친구에게 설명하여 봅시다.(말듣쓰5-2, p. 108)

*自分が書いた漫画を友達に説明してみましょう。(話聞書5-2、p. 108)⁷⁰

について (○)

305) 내가 그린 만화에 대하여 친구에게 설명하여 봅시다. (作例)

私が書いた漫画について友達に説明してみましょう。

304)と305)は 後行部分に「説明する」という言語活動を表す動詞が来るという点は同じだが、304)は先行成分が助詞「을(u1)/를(reul)」と共起して説明の直接的な対象（内容）を表し、305)は先行部分が 後置詞「에 대하여(e daehayeo)」と共起して「漫画として表現出来るまでの過程」や、「漫画を書いてから思ったり、感じたりしたことなどについて説明する」などの「包括的な話題」を表す。

306) 좋아하는 사람에 대하여 말해봅시다. (말듣2-2, p. 10)

好きな人について話してみましょう。(話聞2-2、p. 10)

307) 내가 좋아하는 사람에 대하여 자세하게 말하여 봅시다. (말듣2-2, p. 11)

私が好きな人について詳しく話してみましょう。(話聞2-2、p. 11)

308) 내가 잘 아는 동물이나 식물에 대하여 듣는 이가 알기 쉽게 말하여 봅시다

(말듣2-2, p. 12)

私がよく知っている動物や植物について相手が分かりやすく話してみましょう。

(話聞2-2、p. 12)

⁷⁰304)も301)と同じように、日本語の場合、「を」格は用いられにくく、「について」が自然である。つまり、日本語の場合、後行部分に「話す、説明する」のような言語活動を表す語が来る場合、「について」と共起しやすいと言える。

306)～308)いずれも 助詞「을(u1)」と置き換えられる。⁷¹後行部分が「言う」という言語活動を表す動詞と共起して、後置詞「에 대하여(e daehaye o)」は「包括的な話題」を表し、助詞「을(u1)」は「具体的な対象(内容)」を表す。つまり、先行部分が包括的であればあるほど「에 대하여(e daehaye o)」が用いられやすく、先行部分が具体的または限定的であればあるほど「을(u1)」が用いられやすい。例えば、306)は先行部分が「好きな人」でやや包括的であり、307)の「私が好きな人」と、308)の「私がよく知っている動物や植物」の場合は、「私の好きな」「私がよく知っている」という限定修飾句が来るために、後置詞「에 대하여(e daehayeo)」よりは助詞「을(u1)」のほうがより自然ではないだろうか。

5-1-4 まとめ

以上、後置詞「에 대하여(e daehayeo)」が助詞「을(u1)/ (reul)」と置き換え可能にも関わらず、小学校の国語教科書に「에 대하여(e daehayeo)」が圧倒的に用いられている理由は何なのか、後置詞「에 대하여(e daehayeo)」は助詞「을(u1)/ (reul)」と同じ用法を持っているのか、などの疑問をもって、両表現の用法の差異について詳しく分析した。

まず、後置詞「에 대하여(e daehayeo)」と助詞「을(u1)/ (reul)」の用法上の差異は、大きく先行部分と後行部分によって決められるが、両方いずれも後行部分よりは、先行部分によって決められやすいと言える。しかし、日本語も韓国語も、後行部分に来る語の性質によって後置詞が決まる場合がある。後行部分に来る語の性質が強よければ強いほど共起しやすくなる後置詞がある。これについては、「5-2 各表現の用法上の考察」で考察する。

次に、後行部分に来る語の性質が中間的な場合、韓国語は先行部分に指示対象や指示文が来ると、助詞の使用率が高くなる。しかし、日本語は先行部分に来る語の性質、ようするに話題の性質によって異なる。つまり、後置詞と助詞の決め

⁷¹ 日本語の場合、306)～308)の例は 助詞「を」格と置き換えられない。これについては第5章の日韓比較のとき詳しく考察する。

手としては日本語も韓国語も、後行部分に来る語の性質にも影響を受けるが、それは限られていて、むしろ先行部分によって決まりやすいと言える。

- 1) 主に先行部分に具体的なものや内容が来る場合、または指示対象が文の中に現われている場合、すなわち「具体的（限定的）な対象」を表す場合は、助詞「을(u1)/ 를(reul)」のみ可能である。
- 2) 先行部分が話題として挙げられるトピックがいくつか存在する「包括的な話題」の場合、すなわち「話題」用法と「話題と見解」用法、「話題と部分」用法の場合、後置詞「에 대하여(e daehayeo)」のみ可能である。
- 3) 先行部分が具体的な対象（内容）にも、包括的な話題にも用いられやすくなっている場合は、後置詞「에 대하여(e daehayeo)」と助詞「을(u1)/ 를(reul)」いずれも用いられやすい。
- 4) 後置詞「에 대하여(e daehayeo)」の異形態の「에 대해서(e daehaeseo)」も「話題」の用法を持っているが、後置詞「에 대해서(e daehaeseo)」には「에 대하여(e daehayeo)」では表せない「話題の取立て（定義付け）」の用法がある。例えば、

309) ‘사랑’ 에 대해서 “사랑은 이성인 상대를 좋아하는 마음을 가진다.” 라는 구절을 읽었을 때에는 아무런 움직임도 느낄 수 없었을 것이다. (중, 국1-2, p. 43)
「愛」について 『愛とは異性が相手を好きになる気持ちを持つ』という部分を読んだときには何の変化も感じられなかっただろう。 (中学校、国語1-2、p. 43)

309)は 後置詞「에 대해서(e daehaeseo)」は自然であるが、「에 대하여(e daehayeo)」は 不自然である。つまり、後置詞「에 대해서(e daehaeseo)」は 話題を「取り立てる」または、「定義付ける」働きをする。

以上の結果から、小学校の国語教科書の練習問題の指示文に「에 대하여(e daehayeo)」が用いられやすい理由は、後置詞「에 대하여(e daehayeo)」が助詞「을(u1)/ 를(reul)」では表せない「話題」用法と「話題と見解」用法、「話題と部分」用法を持っているからである。これらの用法をうまく使いこなせば文章をより明確に、分かりやすくするのに役立つと思われる。例えば、次の文

章は小学校国語教科書に用いられる後置詞「에 대하여(e daehayeo)」の用例の中で、文章がおかしかったり、難しく感じられる部分である。

310) 내가 좋아하는 놀이를 선생님께 알려드리는 글을 써 봅시다. (쓰기2-1, p. 35)

自分が好きな遊びを先生に紹介する文章を書いてみましょう。(書2-1, p. 35)

311) 텔레비전에서 재미있게 본 내용을 친구에게 알려주는 글을 써 봅시다.

(읽기2-1, p. 37)

テレビで一番楽しく見た内容を友達に紹介する文章を書いてみましょう。

(読2-1, p. 37)

310)と311)は「文章」を修飾する連体節がその中にまた連体節を内包しているため、修飾の部分が長くなって不自然である。312)と313)のように「話題」とその話題に対する「具体的な行為(見解、意見、主張など)」に区分して書くのがもっと自然ではないだろうか。

312) 내가 좋아하는 놀이에 대하여 선생님께 알려드리는 글을 써 봅시다. (作例)

‘自分が好きな遊びについて先生に紹介する文章を書いてみましょう。’

313) 텔레비전에서 재미있게 본 내용에 대하여 친구에게 알려주는 글을 써

봅시다. (作例)

テレビで楽しく見た内容について友達に紹介する文章を書いてみましょう。

次の文章は 後置詞 「에 대하여(e daehayeo)」の連体形の「에 대한(e daehan)」が用いられた場合で、連体形で繋げることでかえってもっとおかしくなっている例である。

314) 가고 싶은 곳에 대한 내 생각을 정리하여 봅시다. (쓰기2-1, p. 71)

行きたいところについての自分の考えを整理してみましょう。(書2-1, p. 71)

連体形というのは、長い文章を含ませる文章として表せるので便利だが、連体形で繋げてしまうと少しおかしくなる。また、小学校の国語教科書らしく

「에 대한(e daehan)」という連体形を使うよりは、315)のように連用形を使った方がより自然ではないだろうか。

315) 가고 싶은 곳에 대하여 내 생각을 정리하여 봅시다. (作例)
行きたいところについて自分の考えを整理してみましょう。

5-2 後置詞の連用表現の用法上の差異について

5-1では、小学校の韓国語教科書で圧倒的に用いられている「에 대하여(e daehayeo)」を中心に、助詞「을(ul)/를(reul)」との用法上の差異について詳しく考察した。5-2では、元の形の「에 대하여(e daehayeo)」が持つ用法を、異形態の「에 대해(e daehae) / 에 대해서(e daehaeseo)」も同じ用法を持つのか、それとも別の独自の用法を持つのかについて考察する。また「에 관하여(e gwanhayeo) / 에 관해(e gwanhae) / 에 관해서(e gwanhaeseo)」の用法も考察して、「에 대하여(e daehayeo) / 에 대해(e daehae) / 에 대해서(e daehaeseo)」との用法上の差異があるかどうかを調べた。その際、「에 대하여(e daehayeo) / 에 대해(e daehae) / 에 대해서(e daehaeseo)」と「에 관하여(e gwanhayeo) / 에 관해(e gwanhae) / 에 관해서(e gwanhaeseo)」の用法を考察する際、このような連用形では曖昧なところや微妙に違うところがよく現われるので、後置詞の前後に来る語の性質を判断するのは難しい。そこで、後置詞の前後の語の性質がより明確な連体形の「에 대한(e daehan)」と「에 관한(e gwanhan)」も加えて、後置詞の用法上の差異について詳しく考察する。

5-2-1 研究方法

各表現を分析する際、例えば、後置詞「에 대해(e daehae)」の場合、まず、先行部分と後行部分との関係を考察し、その後、連体形の「에 대한(e daehan)」と「에 관한(e gwanhan)」の先行部分と後行部分との関係について考察する。文を判断する際、前後の関係だけでは判断しにくい場合は、文全体を判断の範囲に入れる。研究方法としては、まず、後行部分に来る語について考察する。「에 대하여(e

daehayeo) /에 대해(e daehae) / 에 대해서 (e daehaeseo)」と、「에 관하여(e gwanhayeo)/ 에 관해 (e gwanhae)/ 에 관해서(e gwanhaeseo)」の場合、これらと共起する後行部分(述語部分)を大きく「心理活動(感情、感覚、姿勢、態度など)」、「言語活動(純粋な言語活動、態度や姿勢が入っている言語活動)」、「思考活動(思考活動、認知活動など)」に分けて調べる。また、連体形の「에 대한(e daehan)」と「에 관한(e gwanhan)」の場合は、後行部分を大きく「心理表現(感情、感覚、姿勢、態度など)」、「言語表現(言語、言語の結果物)」、「思考表現(思考、認知)」に分けて調べる。次に先行部分を考察する場合は、「対象」を表す場合と「内容」を表す場合とに分けて考察する。「内容」はさらに「具体的な内容」と「包括的な内容」に分けて考察する。5-1でも触れたように、「具体的な内容」とは、話題(内容)が限定され、その範囲が狭いものを表し、「包括的な内容」とは、話題(内容)が限定されず、話題として挙げられる側面をいくつか持っているものを表す。

後置詞「에 대하여(e daehayeo) /에 대해(e daehae) / 에 대해서(e daehaeseo)」、「에 관하여(e gwanhayeo)/ 에 관해(e gwanhae)/ 에 관해서(e gwanhaeseo)」と、その連体形の「에 대한(e daehan)」、「에 관한(e gwanhan)」についてそれぞれの用法上の差異について考察する際、国定教科書と専門書籍、一般教養の書籍、新聞雑誌などからとった用例を共に扱うことにする。また、後置詞「에 대하여(e daehayeo) /에 대해(e daehae) / 에 대해서(e daehaeseo)」と「에 관하여(e gwanhayeo)/ 에 관해(e gwanhae)/ 에 관해서(e gwanhaeseo)」は表記上、元の形を中心にして、それぞれ「에 대하여(e daehayeo)」類と「에 관하여(e gwanhayeo)」類と表記する。

5-2-2 「에 대하여(e daehayeo)」類のみ可能な場合

後置詞「에 대하여(e daehayeo) /에 대해(e daehae) / 에 대해서(e daehaeseo)」のみ可能な場合は、後行部分に対象(相手)に直接向けられる述語が来て、先行部分を対象物または相手として表す。

ここで「対象物」と「相手」というのは、直接述語の動作を受ける受け手として、もの及び人または人に準じるものなどを示す。

316) 부모가 잘못된 자녀에 대해 책임을 느끼듯이, 스승도 잘못된 제자에 대해 책임을 느껴야 하는가? (중, 국어생활3-2, p. 155)

親が間違った子女に対して責任を感じるように、師匠も間違った弟子に対して責任を感じなければならないのか (中、国語生活 3-2、 p. 155)

317) 샤 리아르 왕은 왕비의 불륜 사실을 알고는 여자에 대해 심한 불신과 혐오감을 가지게 되었다. (고, 문학(하), p. 110)

シャリアル王は王妃の不倫を知ってからは女に対して不信と嫌悪感を持つようになった。(高、文学・下、 p. 110)

318) 궁녀들 모두 동이에 대해 싸늘한 시선을 던졌다. (동이, p. 104)

官女らはみんなドンイに対して冷たい視線を送った。(ドンイ、 p. 104)

319) 이 규정은 가해 학생에 대해 엄한 처벌이 내려졌다 하더라도 사건이 다 끝난 것은 아니다. (생활법률, p. 308)

この規定では加害者の学生に対して厳しい処罰が下りたとしても事件が終わったわけではない。(生活法律、 p. 308)

320) 그런 자존심이 좀 더 나가면 남에 대해서 공격적으로 나간다. (한국)

そんな自尊心がさらに出てくると他人に対して攻撃的になる。(韓国日報)

321) 군대에 오기 전의 내겐 군대생활에 대해 오해와 환상이 있었던 것 같아.

(어디선가, p. 247)

軍隊に来る前の私には軍隊生活に対して誤解と幻想があったようだ。

(どこかで、 p. 247)

322) 국내 언론에 대해 강하게 불만을 제기했다. (조선일보)

国内言論に対して強く不満を提起した。(朝鮮日報)

323) 나는 그 노인에 대해서 죄를 지은 것 같은 괴로움을 느꼈다.

(고, 문학·상, p. 365)

私はその老人に対して罪を犯したような心苦しさを感じた。

(高、文学・上、 p. 365)

324) 이 사람은 자기 집 개에 대해 어떠한 감정을 가지고 있는가? (중, 국어 2-1, p. 128)

この人は自分の家の犬に対してどんな感情を持っているのか。

(中国語 2-1、 p. 128)

316)~324)の例は、後置詞「에 대하여(e daehayeo) /에 대해(e daehae) /에 대해서(e daehaeseo)」が、後行部分の「책임을 느끼다(責任を感じる)」「불신과 혐오감을 가지다(不信と嫌悪感を持つ)」「싸늘한 시선을 던지다(冷たい視線を送る)」「엄격한 처벌을 내리다(厳しい処罰が下りる)」「공격적이다(攻撃的だ)」「오해와 환상이 있다(誤解と幻想がある)」「불만을 제기하다(不満を提起する)」「죄를 짓다(罪を犯す)」「감정을 가지다(感情を持つ)」という心理活動を表す語と共起して、先行部分が直接向けられる態度や感情の対象(対象物)または相手、つまり「態度と感情の対象」を表し、316)~324)の例いずれも助詞と置き換えられる。先行部分に「子女、女、ドンイ、加害者の学生、他人、あの老人、自分の家の犬」のような人や動物を表す語が来る場合は、助詞「에게(ege, に)」、「軍隊生活、国内言論」のような人に準じるものが先行部分に来る場合は、助詞「에(e, に)」と置き換えられる。この場合は、「에 관하여(e gwanhayeo) /에 관해(e gwanhae) /에 관해서(e gwanhaeseo)」とは置き換えられない。つまり、後行部分の心理活動を表す語と共起して、先行部分に「態度と感情の対象(対象物または相手)」がくるときは、後置詞「에 대하여(e daehayeo) /에 대해(e daehae) /에 대해서(e daehaeseo)」のみ用いられる。

325)간디는 기계 자체에 대해 반대한 적은 없지만, 거대 기계에는 필연적으로 복잡하고 위계적인 사회 조직, 피지배의 구조, 도시화, 낭비적 소비가 수반된다는 것을 주목했다. (고, 국어(하), p. 243)

ガンディは機械そのものに対して反対したことはないが、巨大機械には必然的で複雑で、偽計的な社会組織、被支配の構造、都市化、消耗的な浪費が伴うということに注目した。(高、国語下、p. 243)

325)は 316)~324)と同じように、後行部分の「反対する」といった心理活動を表す語と共起して、先行部分が「態度の対象」となっている。しかし、先行部分は 316)~324)では人または人に準じるものや動物が来ているが、325)は、「機械そのもの」のような「具体的なもの」が来ており、助詞「을(u1)、を」格と置き換えられる。

また、後置詞「에 관하여(e gwanhayeo)/ 에 관해 (e gwanhae)/ 에 관해서(e gwanhaeseo)」とも置き換えられない。つまり、後置詞「에 대하여(e daehayeo) /에 대해(e daehae) / 에 대해서(e daehaeseo)」は、後行部分に心理活動を表す語と共起して、先行部分が「態度の対象」になる場合と、助詞「에(e)/ 에게(ege)、に」に置き換えられるときには、「에 대하여(e daehayeo) /에 대해(e daehae) / 에 대해서(e daehaeseo)」のみ用いられると言える。

326) 나의 대화하는 태도에 대하여 상대방이 불편해하지 않았는가?

(중, 생활국어 1-1, p. 52)

私の話し方 に対して相手が不便ではなかったのか。(中、生活国語 1-1、 p. 52)

327) 내가 앓았던 병을 고려하지 않는다면 지난 몇 년 동안의 나의 경력에 대해서

오해하기란 십상이오. (중, 독서, p. 273)

私が患った病氣のことを考慮しないと、過ぎ去った数年の私の経歴 に対して誤解されやすくなる。(中、読書、 p. 273)

328) 많은 학생들이 머리 규제에 대해 불만이 많군요. (고, 작문, p. 242)

大勢の学生たちが髪の新制 に対して不満が多いようです。(高、作文、 p. 242)

329) 우리 선조들이 향유하던 문학작품에 대해 어떤 태도를 가지고 있는가?

(중, 국어 2-1, p. 97)

我々の先祖たちが享有していた文学作品 に対してどんな態度を持っているのか。

(中、国語 2-1、 p. 97)

330) 학생의 입장에서 실수한 말에 대해 용서를 구하는 편지를 선생님께 써 보자.

(중, 국어생활 2-1, p. 152)

学生の立場で間違った言葉 に対して許しを求める手紙を書いてみよう。

(中、国語生活 2-1、 p. 152)

331) 현재에는 그 불굴의 정신은 온데간데없고 분단이란 상황 속에서 헤매기만 하는

현실에 대하여 안타까워하는 화자의 마음을 엿볼 수 있다. (고, 문학(상), p. 49)

現在はその不法不屈の精神は影も形もなく、分断という状況の中でさまよっている現実 に対して痛ましく思う話し手の気持ちが窺える。(高、文学・上、 p. 49)

332) 우리의 언어생활에 대해 반성을 하고 올바른 언어 사용에 힘써야 할 것을 일깨워 주고 있다. (고, 국어생활, p. 136)

我々の言語生活 に対して反省して、正しい言語使用に力を入れなければならないことを覚醒させている。(高、国語生活、 p. 136)

以上の 326)~332)は、後行部分に「不便だ、誤解する、不満が多い、態度を持つ、許しを求める、痛ましく思う、反省する、信用する」のような心理活動を表す語が用いられ、先行部分が「態度の対象」となっている。先行部分は「母が見なかったこと、対話の態度、間違った、分断という状況の中でさまよっている現実、数年の私の経歴、髪規制、文学作品、言語生活」のような話題になる内容が来ている。先行部分に内容を表す語が来ても、後行部分が心理活動を表す語である場合は、先行部分を話題ではなく、「態度の対象」として表す。助詞との置き換えの面でも、326)328)330)は、助詞「에(e, に)」と、327)331)332)は、助詞「을(u1)、を」とに置き換えられる。しかし、329)は助詞との置き換えが不可能である。まず、328)と329)を調べてみると、328)の「髪規制に対して不満が多い」は、「髪規制」は「不満」を及ぼす態度の直接的な対象になるが、329)の「先祖たちが享有していた文学作品に対してどんな態度を持っているのか」の「先祖たちが享有していた文学作品」は、一般の文学作品について意見を述べるのではなく、「先祖たちが享有していた文学作品」のような具体的な文学作品に対して、「いいかどうかをごく簡単に答える」というような態度を示している。

つまり、後行部分に心理活動を表す語がくる場合は、先行部分に話題になる内容が来ても「話題」ではなく、「態度の対象」になるということが分かる。また、後行部分に心理活動を表す語がくる場合、先行部分と後行部分が近いほど助詞と置き換えやすく、離れて行けば行くほど置き換えにくいと言える。要するに、後行部分に心理活動を表す語がくる場合、後置詞が助詞と置き換えやすくなるほど「에 대하여(e daehayeo) / 에 대해(e daehae) / 에 대해서(e daehaeseo)」が用いられやすいと言える。この場合も、「에 관하여(e gwanhayeo) / 에 관해(e gwanhae) / 에 관해서(e gwanhaeseo)」には置き換えられない。

333) 호랑이는 미처 여우를 몰라본 것에 대해 사과를 하고, 다른 먹이를 찾아 떠났다.

(중, 국어 1-1, p. 110)

虎はまえもって狐のことに気が付かなかったことに対して謝り、他の餌を捜しに行った。

(中、国語 1-1、p. 110)

333)は、後行部分の「謝る」という言語活動を表す語と共起して、先行部分の「まえもって狐のことに気が付かなかたこと」のような具体的な内容が来る場合、先行部分を「態度の対象」として表している。つまり、後行部分に言語活動を表す語と共起する場合、「謝る」のような態度性の含まれている語と共起するときは、先行部分が「話題」ではなく、「態度の対象」を表していると言える。61)は助詞と置き換えるとやや不自然になるが、後置詞「에 대해(e daehae)」を用いると、その意味が明確になる。

334) 노인도 물론 그 점에 대해서는 나를 완전히 신용하고 있었다.

(고, 국어(하), p. 175)

老人ももちろんその点に対しては/については私を完全に信用していた。

(高、国語下、p. 175)

334)は、後行部分の「信用する」という心理活動を表す語と共起して、後置詞「에 대해서(e daehaeseo)」に補助詞「는(neun)」がついて、先行部分の「その点」を限定する機能を持つ。この場合、助詞との置き換えは不可能である。

5-2-3 「에 대해서(e daehaeseo)」のみ可能な場合

335) 그런데 하회마을에 대해서는 아는 것이 거의 없다. (중, 국어 1-1, p. 123)

ところで、ハフエ町については知っていることが殆どない。

(中、国語 1-1、p. 123)

336) 왜 하필이면 노랑나비가 되고 싶은지에 대해서는 설명하지 않는다.

(중, 국어 2-1, p. 12)

どうして黄色い蝶々になりたいのかについては説明しない。

(中、国語 2-1、p. 12)

337) 사전 활용 방법에 대해서도 생각해 보자. (중, 국어 2-1, p. 194)

辞書の活用の仕方についても考えてみよう。(中、国語 2-1、p. 194)

338) 외래어 표기법에 대해서도 학습할 필요가 있다. (고, 국어생활, p. 65)

外来語の表記法についても学習する必要がある。(高、国語生活、p. 65)

339) 그 학교에서는 아이들에게 세계의 나머지 부분에 대해서는 전혀 가르치지 않았다.

(고, 독서, p. 30)

その学校では、子供たちに世界の残りの部分については全然教えなかった。

(高, 作文, p. 90)

340) 이 점에 대해서는 나중에 너와 함께 많은 이야기를 나누고 싶구나.

(고, 작문, p. 90)

この点については後であなたと共にたっぷり話し合ってみたい。

(高, 作文, p. 90)

341) 미국인들은 어떤 종류의 칭찬에 대해서도 마치 아주 친근한 선물을 인식하듯이 ‘고맙습니다(Thank you)’ 로 응답하도록 사회화되어 왔다. (고, 화법, p. 93)

アメリカ人たちはどんな種類の褒めごとについても、まるで非常に親しみのあるプレゼントのように「ありがとうございます(Thank you)」と答えられるよう社会化して来た。(高, 話法, p. 90)

342) 재인의 약혼자에 대해서는, 별로 길게 언급하고 싶지 않다.

(달콤한 나의도시, p. 132)

ジェインの婚約者については、あまり長く触れたくない。

(甘たるい私の都市, p. 132)

343) 안주에 나온 아몬드 대해서도 물었다. (은교, p. 112)

おつまみに出てくるアーモンドについても聞いた。(ウンギョ、p. 112)

344) 이 두 천재의 공통점에 대해서는 엄청나게 많은 분석과 글들이 나왔다.

(통섭의 식탁, p. 65)

この二人の天才の共通点については沢山の分析や文章などが出た。

(通歩の食卓, p. 65)

345) 인류의 미래에 대해서라면 저는 비관주의자예요. 하지만 지구의 미래에 대해서라면 낙관주의자죠. (통섭의 식탁, p. 211)

人類の未来に関してなら私は悲観主義者よ。でも、地球の未来に関してなら楽観主義者よ。(通歩の食卓, p. 211)

346) 일본에 대해서는 정말 아무것도 모른다. (일본열광, p. 20)

日本については本当に何も分からない。(日本熱狂, p. 20)

347) 한국인은 대개 가족 구성원에 대해서는 아주 관대하다.

(외국인을 위한 한국문화읽기, p. 50)

348) 韓国人は大抵家族に対してはとても寛大になる。

(外国人のための韓国文化読み, p. 50)

349) 두 사람은 알제리 문제에 대해서도 서로 다른 태도를 보였다. (쎄느강, p. 40)

二人はアルジェリア問題に対してもお互い異なる態度を見せた。

(세어ヌ川, p 40)

350) 그들은 개나 고양이 등을 끔찍이 사랑하는 반면, 먹을 게 없는 사람들에 대해서는 별 관심이 없다. (쎄느강, p. 152)

彼らは犬や猫などを非常に大事にしている反面、食べ物のない人に対してはあまり関心がない。 (세어ヌ川, p. 152)

335)~350)までは、「에 대해서(e daehaeseo)」に主に 「는 (neun)」「도 (do)」「라면 (ramyeon)」のような補助詞がついて、先行部分を強調したり、限定したりする。これは、「에 대해서(e daehaeseo)」のみ可能である。「에 대해서(e daehaeseo)」は、後行部分に「説明する、話し合う、触れる、聞く、答える」のような言語活動を表す語と、「知る、考える、学習する、教える、沢山の分析と文章などが出る」のような思考活動を表す表現がきて、先行部分は「話題」を表しており、「寛大になる、態度を見せる、関心がない」といった心理活動を表す語と共起して、先行部分を「態度の対象」として表す。大抵 「는 (neun)」のような補助詞がついて先行部分を強調したり、「라면 (ramyeon)」のような補助詞がついて、例えば、345)の「미래에 대해서라면 저는 비관주의자예요 (未来に関してなら私は悲観主義者よ)」のように先行部分を限定的に表している。つまり、「에 대해서(e daehaeseo)」は、「에 대하여(e daehayeo)、에 대해(e daehae)」と同じように「態度の対象」用法と「話題」用法を持っている。また、「에 대해서(e daehaeseo)」は、先行部分を強調する「話題取り立て」の用法を持つ。

「에 대해서(e daehaeseo)」が、「話題取り立て」の用法を持つ場合は、先行部分を強調しようとするとき、「에 대하여(e daehayeo)、에 대해(e daehae)」より「에 대해서(e daehaeseo)」が選択されやすい。それは限定的な意味を表す補助詞が「에 대해서(e daehaeseo)」と結合されやすいからである。

351) 웃기는 말을 했던 친구나 지루했던 수업시간에 대해서 써보는 거야.

(중, 생활국어 1-2, p. 12)

面白いことを言った友達や退屈な授業時間について書いてみよう。

(中、生活国語 1-2、 p. 12)

352) 한 가지에 대해서 많이 생각하고 글을 써보렴. (중, 생활국어 1-2, p. 12)

一つのことについていろいろ考えて文を書いてごらん。(中、生活国語 1-2、 p. 12)

353) 친구: 아무래도 대부분의 선생님이 요리에 대해서 큰 자부심을 가지고 계시겠지?

(중, 생활국어 3-2, p. 65)

友達：どうやら殆どの先生が料理について自負心を持っていらっしゃるようだ。

(中、生活国語3-2、 p. 65)

354) 노라: 처음에 우리가 서로 알게 된 날부터 진지한 일에 대해서 마음의 문을 열어젖히고 얘기를 해본 적은 한 번도 없었어요. (고, 문학상, p. 287)

ノラ：初めて私たちがお互いに顔を合わせたときから、真面目なことについて心のドアを開いて話し合ったことは、一度もなかったです。(高、文学上、 p. 287)

355) 노라: ...당신네들은 저한테 대해서 큰 잘못을 저지른 거예요.

(고, 문학상, p. 287)

ノラ：…あなたたちは私に対して大きい過ちを犯しているよ。

(高、文学上、 p. 287)

356) 야, 다음에는 우리 저번에 함께 본 영화에 대해서 이야기하겠다. 그치?

(고, 화법, p. 177)

また今度は私たち以前一緒に見た映画について話そうかも、そうだろう。

(高、話法、 p. 177)

357) 요즘 젊은이들의 행동과 사고에 대해서 어떤 느낌을 갖고 계십니까?

(고, 화법, p. 260)

最近若者の行動と思考についてどう感じますか。(高、話法、 p. 177)

358) 음, 요즘 네가 고민을 하고 있는 것에 대해서 생각해 보았어. (고, 작문, p. 263)

うん、この頃あなたが悩んでいることについて考えてみた。

(高、作文、 p. 263)

359) 혹시 트럭에 대해서 들은 얘기 있나요? (은교, p. 327)

もしトラックについて聞いた話がありますか。(ウンギョ、 p. 327)

360) “술에 대해서 제법 알고 있네” (나목, p. 80)

「お酒についてよく知っているね。」(ナモク、 p. 80)

361) “그래, 취선당의 움직임에 대해서선……알아보셨습니까?” (동이, p. 124)

「あのう、チソン堂の動きについては……調べてみましたか。」

(ドンイ、 p. 124)

362) “너, 내가 웬만해선 남 칭찬 안 하는 거 알지? 특히 남자에 대해서는.”

(달콤한 나의도시, p. 219)

「あなた、私ってあまり人を褒めたりしないということ、知っているよね。
特に男については。」 (甘たるい私の都市、 p. 219)

351)～362)の例は、「에 대해서(e daehaeseo)」が口語体として用いられている場合である。이기갑(1998)では、口語の80%以上を「- 어서 (eoseo)」形が占めていると指摘している。また『21世紀セジョン計画最終成果物』では、「日常生活での会話」と「演説、講義、講演」のような口語体に「에 대해서(e daehaeseo)」が用いられやすいと述べている。実際、国定教科書と一般の書物を調べた結果でも「에 대해서(e daehaeseo)」が、「에 대하여(e daehayeo)」と「에 대해(e daehae)」より口語体に用いられやすくなっている。しかし、이기갑(1998)の指摘の、「에 대해서(e daehaeseo)」が口語体として用いられる確率が80%以上になるという説は、「에 대해서(e daehaeseo)」、「에 대하여(e daehayeo)」、「에 대해(e daehae)」の場合には当てはまらない。例えば、

363) 병철: 우선, 제 꿈에 대해 이야기해야 되겠죠? 저는 요리사가 될거예요.

(중, 생활국어 3-2, p. 62)

ビョンチョル: まず、私の夢について話さなければいけないでしょうね。

私は料理人になります。(中、生活国語3-2、p. 62)

363)は、「에 대해(e daehae)」が口語体として用いられた例である。この場合は「에 대해서(e daehaeseo)」も自然である。また、353)の例も、「에 대해(e daehae)」と「에 대해서(e daehaeseo)」両方可能である。このように「에 대해서(e daehaeseo)」と「에 대해(e daehae)」いずれも口語体として用いられやすくなっていると言える。つまり、「에 대해서(e daehaeseo)」が口語体に用いられる確率は高いと思われるが、「에 대해(e daehae)」も口語体として用いられているので、이기갑(1998)の指摘のように「에 대해서(e daehaeseo)」が80%以上になるとは言いがたい。文体のことについては、今後の課題として「에 대해서(e daehaeseo)」が口語体として用いられる比率及び、「에 대해(e daehae)」とのニュアンスの差異についても考察したい。

5-2-4 「에 대하여(e daehayeo)」類と「에 관하여(egwanhayeo)」類

次は、「에 대하여(e daehayeo)」類と「에 관하여(e gwanhayeo)」類が共に用いられる場合で、後行部分に主に言語活動・思考活動・知的行為を表す語がきて、先行部分が「話題」を表す。「話題」とは、話の種やトピックで、「具体的な話題」と「包括的な話題」に分けられる。ここで「具体的な話題」というのは、「話題」が限定されて、またその範囲が狭いことを表し、「包括的な話題」とは、話題が限られず話題として挙げられる側面をいくつか持っていることを意味する。

364) 모듬별로 즉석 식품의 좋은 점과 나쁜 점에 대하여 말해봅시다.

(초, 말듣 3-2, p. 49)

グループ別にインスタント食品のいい点と悪い点について話してみましょう。

(小, 話聞 3-2, p. 49)

365) 내가 알고 있는 이야기를 바탕으로 하여 주인공이 고난을 극복하는 방식에 대해 이야기 해보자. (중, 국어 2-2, p. 64)

自分が知っている話に基づいて主人公が苦難を乗り越える方法について話してみよう。

(中, 国語 2-2, p. 64)

366) 책의 내용에 대해서 이야기할 수도 있고, 내용과 관련된 자신의 경험에 대해서 이야기할 수도 있으며, 현실 상황과 관련 지어 이야기할 수도 있다.

(중, 생활국어 2-1, p. 18)

本の内容について話すこともできるし、内容と関わりのある自分の経験について話すこともできる。また、現実の状況と関連付けて話すこともできる。

(中, 生活国語 2-1, p. 18)

367) 다음은 학생들의 진로 선택에 대해 토의한 내용의 일부이다.

(중, 생활국어 2-1, p. 87)

次は、学生たちの進路の選択について討議した内容の一部である。

(中, 生活国語 2-1, p. 87)

368) 신세대 미혼 남녀들이 결혼문화에 대해 허심탄회하게 털어놓았다.

(중앙일보, 2012. 7. 11)

新世代の未婚の男女たちの結婚文化について虚心坦懐に打ち明けた。

(中央日報, 2012. 7. 11)

- 369) 그는 주로 자신이 하고 있는 사업에 대해 이야기했다. (달콤한 나의도시, p. 257)
 彼は主に自分がやっている事業について話した。(甘たるい私の都市、p. 257)
- 370) 최근 텔레비전의 한 다큐멘터리 방송에서는 미국인들 사이에 불고 있는 한국 드라마 열풍에 대해 소개하였는데, …(외국인을 위한 한국문화읽기, p. 176)
 最近テレビのあるドキュメンタリー放送では、アメリカ人の間で流行っている韓国ドラマの熱風について紹介したが、…(外国人のための韓国文化読み、p. 176)
- 371) ‘책의 종말’ 과 ‘구텐베르크와 컴퓨터 공존’ 은 다 같이 종이책과 전자책의 미래에 관해 언급하고 있다. (고, 독서, p. 149)
 『本の終末』と『グーテンベルグとコンピューターの共存』はどちらも紙の本と電子書籍の未来について言及している。(高、読書、p. 149)
- 372) ‘문자와 역사’ 는 문자가 탄생하고 발전해 온 과정에 관해 설명한 글이다.
 (중, 국어 1-1, p. 220)
 「文字と歴史」は文字が誕生し発展して来た過程について説明した文章である。
 (中、国語 1-1、p. 220)
- 373) 간혹 내가 집안 식구와 대화를 할 때에, 아는 사람이나 또는 친척이 찾아와서 내 음성을 듣고 나의 소리가 난다고 하며 나에 관하여 물어올 때가 있다.
 (중, 국어 2-2, p. 38)
 たまに私が家の家族と話をしているとき、知り合いや親戚が尋ねてきて私の声を聞いて私の声が聞こえるといって私について聞いてくるときがある。
 (中、国語 2-2、p. 38)
- 374) 병원에 관해서는 이미 푸코가 아주 자세히 설명했다. (일본열광, p.39)
 病院については/関してはすでにフコがとても詳しく説明した。(日本熱狂、p. 39)
- 375) ‘아마에’ 같은 일본인의 정서적 특징에 관해 토론하다가 아주 흥미로운 연구 결과를 알게 되었다. (일본열광, p. 259)
 「甘え」のような日本人の情緒的な特徴について/関して討論したが、とても興味深い研究結果が得られた。(日本熱狂、p. 259)
- 376) 인간의 존재의 우연성에 관해서 항의한 말이다. (우선순위현대수필, p. 305)
 人間の存在の偶然性について抗議した言葉である。(優先順位現代随筆、p. 305)
- 377) 현대인의 사색에 관해서 하나의 위기를 지적하고 싶다. (우선순위현대수필, p. 311)
 現代人の思索について一つの危機を指摘したい。(優先順位現代随筆、p. 311)
- 378) 태오에 관해 고백할 용기가 없다는 것을 알고 있다. (달콤한 나의도시, p. 98)
 テオについて告白する勇気がなかったということを知っている。
 (甘たるい私の都市、p. 98)

379) 감찰부 최고 상궁이 동이에 관해 보고를 하자 뜻밖에도 숙종은 기억이 장 나지 않는다는 듯 ‘그 아이가 누구냐’ 는 반응을 보였던 것이다. (동이2권, p. 13)

觀察部の最高女官がドンイについて報告をしたが、意外とスクジョン王はあまり覚えていないようで、「その子は誰」という反応を見せた。(ドンイ 2巻、p. 13)

380) 1998년에 일본의 하시모토 수상과 러시아의 엘친 사이에 시베리아횡단철도 이용에 관해 협의했던 데서도 충분히 짐작할 수 있다. (세느강, p. 318)

1998年に日本の橋本首相とロシアのエルティンの間でシベリア横断鉄道の利用について/関して協議したことも十分汲み取った。(セーナ川、p. 318)

364) ~380) の例は、後行部分に「話す、討議する、打ち明ける、紹介する、触れる、説明する、聞く、討論する、抗議する、指摘する、告白する、報告する、協議する」という言語活動を表す語がきて、先行部分が話題となる場合である。この場合は、「에 대하여(e daehayeo)」類と「에 관하여(e gwanhayeo)」類が共に用いられるが、同じ意味ではない。例えば、364)と365)は後行部分に「話してみましよう」、「話してみよう」という姿勢と態度が入った言語活動を表す語と共起して、「에 대하여(e daehayeo)」の形で指示文によく用いられている場合である。また368)は、「에 대해(e daehae)」が「打ち明ける」という姿勢と態度が入った言語活動を表す語と共起する場合である。366)367)369)370)は、後行部分に「話す、討議する、紹介する」などの純粋な言語活動を表す語と共起し、先行部分を話題として示す。つまり、「에 대하여(e daehayeo)」類は後行部分に「話す、説明する」のような純粋な言語活動を表す語と、「打ち明ける」のような姿勢と態度が入った言語活動を表す語とも共起することが分かる。また、「話す」のような純粋な言語活動を表す語の場合でも、「~みよう」「~みましよう」形と呼応して、姿勢と態度が入った言語活動を表す形になり、よく指示文に用いられている。

371)~380)までは、後置詞「에 관하여(e gwanhayeo)」類が用いられている場合である。「에 관하여(e gwanhayeo)」類は、「에 대하여(e daehayeo)」類と同じように後行部分に純粋な言語活動を表す語がきて、先行部分が話題を表しているが、話題の内容が少し異なる。「에 대하여(e daehayeo)」類は、先行部分に「自分がやっている事業」「学生たちの進路の選択」「新世代の未婚の男女たちの結婚文化」などのやや具体的な内容が話題として示されている。「에 관하여(e gwanhayeo)」

類は、先行部分に「紙の本と電子書籍の未来」「文字が誕生し発展して来た過程」「日本人の情緒的な特徴」などのやや包括的な内容が話題として示されている。つまり、「에 관하여(e gwanhayeo)」類は、後行部分に純粹な言語活動を表す語がきて、先行部分が話題を表しているが、話題の中身は主に包括的な話題を示していると言える。しかし376)~378)は、後行部分に「抗議する、指摘する、告白する」のような姿勢と態度が入った言語活動を表す語がきて、先行部分が話題を表す場合である。366)~368)いずれも、「에 관하여(e gwanhayeo)」類よりは、「에 대하여(e daehayeo)」類の方がさらに自然である。

- 381) 보람이네 반에서는 아리랑에 대하여 조사하였습니다. (초, 읽기 3-2, p. 20)
 ボランのクラスでは、アリランについて調査しました。(小、読3-2、p.20)
- 382) 전통문화에 대하여 공부하는 것이 나라 사랑과 어떻게 관련되는지 토론하여 봅시다. (초, 읽기 4-1, p. 29)
 伝統文化について勉強することが愛国心とどう関わるのか討論してみましょう。
 (小、読3-2、p.29)
- 383) 평소 언어학에 관심을 가지고 있던 나는 남북한 언어 사용의 차이점에 대하여 연구하고 싶었다. (중, 국어생활 3-1, p. 152)
 日頃言語学に興味を持っていた私は、南と北の言語使用の差異について研究したかった。(中、国語生活3-1、p.152)
- 384) 어머니는 애가 만화가가 된다는 것에 대하여 어떻게 생각하고 계신가?
 (중, 국어생활 1-1, p. 132)
 お母さんは子供が漫画家になるということについてどう思っているのか。
 (中、国語生活1-1、p.132)
- 385) 우리 학교 학생들의 컴퓨터 활용 실태에 대하여 조사하고자 한다.
 (중, 국어생활 1-2, p. 114)
 私の学校の学生たちのコンピューターの活用実態について調査しようと思う。
 (中、国語生活1-2、p.114)
- 386) 동물의 성격을 규정짓는 것에 대하여 옳은 것인지 생각해 보자. (현대수필, p. 64)
 動物の性格を決めることについて正しいことかどうか考えてみよう。
 (現代随筆、p.64)

- 387) 한국에서 요즘 커다란 사회 문제의 하나로 나타나고 있는 왕따 현상에 대하여 살펴보도록 하자. (셰느강, p. 21)
 韓国で、この頃大きい社会問題の一つとして現われている、イジメ現象について調べてみよう。 (세너스川、 p. 21)
- 388) 나는 백과사전 덕분에 혜성에 대해 많은 것을 배울 수 있었다.
 (중, 국어 1-2, p. 190)
 私は百科事典のおかげで彗星について沢山のことを学ぶことが出来た。
 (中、国語 1-2、 p. 190)
- 389) 잘 된 독후감은 서로 돌려 가며 읽어 보고, 어떻게 하면 독후감을 잘 쓸 수 있는지에 대해 공부해 보자. (중, 국어 3-1, p. 1271)
 いい読後感はお互いに回し読みし、どうすれば読後感を上手に書けるかについて勉強しよう。 (中、国語 3-1、 p. 1271)
- 390) 명선이가 여자이면서도 남자아이처럼 행동을 한 이유에 대해 생각해 보자
 (중, 국어 1-2, p. 157)
 ミョンソンが女の子でありながら男の子のようにふるまった理由について考えてみよう。 (中、国語 1-2、 p. 157)
- 391) 물질만능과 배금주의의 폐해에 대해 심사숙고하고 사회의 각계 지도층이 솔선 수범하여 스스로 근검하게 살면서 남다른 개성을 보여주어야 한다. (셰느강, p. 23)
 物質万能と拝金主義の弊害について深思熟慮して、社会の各界の指導層が率先して、自ら勤勉に暮らしながら、特別な個性を見せなければならない。 (세너스川、 p. 23)
- 392) 우리 식생활에 대해서 어떻게 생각하는가? (중, 국어 1-2, p. 24)
 我々の食生活についてどう思いますか。 (中、国語 1-2、 p. 24)
- 393) 발표자는 미리 논제에 관하여 연구해야 하며, 원고도 치밀히 준비해야 한다.
 (고, 화법, p. 215)
 発表者は前もって論題について研究しなければならないし、原稿も緻密に準備しなければならない。 (高、話法、 p. 215)
- 394) 위르겐 타우츠는 꿀벌에 관하여 세계 최고 수준의 연구를 하는 것은 물론, 대중을 위한 과학 저술에도 탁월한 능력을 발휘하고 있다. (통섭의 식탁, p. 147)
 ウィルゲンタウツは蜜蜂について世界最高レベルの研究をするのはもちろん、大衆のための科学の著述にも優れた能力を発揮している。 (通歩の食卓、 p. 147)
- 395) 연애에 관해 생각하는 것도 귀찮아요. (논술이 쉬워지는 위즈키즈, p. 61)
 恋愛について考えることも煩わしいよ。 (論述がやさしくなるウィズキズ、 p. 61)

396) 독후감이란 책을 다 읽고 난 후, 책의 내용에 관해 자기가 생각하거나 느낀 점을 글을 가리킨다. (고, 작문, p. 310)

読後感とは本を読み終わってから、本の内容について自分が考えたり感じたことを書いた文章を表す。 (高, 作文, p. 310)

377) 우리는 꽤 오랜 기간 문학에 관해서 공부해 왔다. (고, 문학(하), p. 366)

私たちはかなり長い間、文学について勉強してきた。 (高, 文学下, p. 366)

398) 자신의 독해과정을 스스로 되살펴 보며 읽는 기술에 관해서 배우도록 하자.

(고, 독서, p. 65)

自分の読解過程を自ら繰り返し、読む記述について学ぶようにしよう。

(高, 読書, p. 65)

399) 진화에 관해서도 몇 가지 중요한 사실을 새롭게 깨달았다. (통섭의 식탁, p. 345)

進化についてもいくつか大事なこと (事実) を初めて悟った。

(通歩の食卓, p. 345)

381)~399)의 예는, 後行部分に「調査する、勉強する、研究する、考える、調べる、学ぶ、深思熟慮する、書く、悟る」という思考活動を表す語がきて、先行部分 が話題になる場合である。この場合は、「에 대하여(e daehayeo)」類と「에 관하여(e gwanhayeo)」類が共に用いられるが、先行部分の話題の特徴によって後置詞が決められているのが分かる。先行部分に来る語を見てみると、「에 대하여(e daehayeo)」類は、「どうすれば読後感を上手に書けるか、子供が漫画家になるということ、女の子でありながら男の子のようにふるまった理由、私の学校の学生たちのコンピューターの活用実態、動物の性格を決めること」などのかなり具体的な内容が話題になっている反面、「에 관하여(e gwanhayeo)」類は、先行部分に「論題、蜜蜂、文学、進化、恋愛、本の内容」などの包括的な内容が話題になっている。さらに詳しく観察すると、例えば、389)と 396)は、後行部分に「勉強する」「書く」のような思考活動を表す語と共起しているのは同じであるが、先行部分によって 123) は「에 대하여(e daehayeo)」類の「에 대해(e daehae)」が、396)は「에 관하여(e gwanhayeo)」類の「에 관해(e gwanhae)」が用いられている。389)は、先行部分に「どうすれば読後感を上手に書けるか」というかなり具体的な内容が話題として現われている。396)は先行部分に「本の内容」といった包括的な

内容、すなわち、「本の内容と関わる本人のエピソード」または文の中に出ているように「本を読んだ感想または意見と見解」などの側面の要素がいくつか挙げられる包括的な内容が話題として現われている。つまり、「에 대하여(e daehayeo)」類と「에 관하여(e gwanhayeo)」類は、後行部分に言語活動・思考活動を表す語がきて、先行部分が話題を表す用法を持つのは同じであるが、先行部分が具体的な話題になるほど「에 대하여(e daehayeo)」類が用いられやすく、包括的な話題になるほど「에 관하여(e gwanhayeo)」類が用いられやすいと言える。また、「에 대하여(e daehayeo)」類は、特に国定教科書で後行部分に言語活動・思考活動を表す語がきて、「～みよう」「～しよう」の形と呼応して、指示文によく用いられている。この場合、純粋な言語活動・思考活動を表す語でも「～みよう」「～しよう」の形で用いられた場合、純粋性がなくなり、姿勢と態度が入った言語活動・思考活動を表す語に変わる。このような影響は 390) の例からも見られる。一般の書籍でも、「～みよう」「～しよう」の形と呼応して指示文に用いられるときは「에 대하여(e daehayeo)」が用いられやすいと言える。

400) 로마에 관해 다른 과목에서 배웠던 내용과 피테가 로마에 대해 말하고 있는 내용이 어떤 차이를 보이는지 살펴보자. (고, 독서, p. 365)

ローマに関して他の科目で習った内容と、ゲーテがローマについて話している内容にどのような差があるか調べてみよう。(高、読書、p. 365)

400)は、一つの文に、「에 대하여(e daehayeo)」類と「에 관하여(e gwanhayeo)」類が共に用いられている場合である。まず、394)は後行部分に「習う(学ぶ)」という思考活動を表す語と、「話す」という言語活動を表す語がきて、それぞれ先行部分の「ローマ」を話題として示している場合であるが、先行部分によって用いられている後置詞が異なる。つまり、前の「ローマ」は「ローマについての政治、経済、特徴」などの、話題として挙げられる側面がいくつかある場合で、「에 관해(e gwanhae)」が用いられており、後ろの「ローマ」は、「ゲーテが話しているローマ」といったある程度限られている場合で、「에 대해(e daehae)」が用いられている。すなわち、「包括的な話題」には「에 관하여(e gwanhayeo)」類が用いられや

すく、「具体的な話題」には、「에 대하여(e daehayeo)」類が用いられやすいと言える。

401) 이 단원에서는 언어에 관한 이러한 의문들에 대하여 생각해 보고, 우리의 언어 생활을 살펴본다. (중, 국어 1-1, p. 213)

ここでは言語に関するこのような疑問について考えてみて、私たちの言語生活を調べてみる。(中、国語1-1、p. 213)

402) 다음은 ‘인터넷 언어 폭력’에 관한 기사이다. ‘우리가 지켜 나가야 할 인터넷 예절’에 대해서 이야기한 내용을 정리해 보자. (고, 국어생활, p. 184)

次は「インターネットの言語暴力」に関する記事である。「私たちが守らなければならないインターネットのエチケット」について話した内容を整理してみよう。

(高、国語生活、p. 184)

401) と 402) は、いずれも「에 관하여(e gwanhayeo)」類の連体形である「에 관한(e gwanhan)」が包括的な話題に用いられている場合である。それぞれ「언어(言語)」と「인터넷 언어 폭력(インターネットの言語暴力)」のような包括的な話題について、「이러한 의문들(このような疑問)」と「우리가 지켜 나가야 할 인터넷 예절(私たちが守らなければならないインターネットのエチケット)」は、後行部分に「考える」のような思考活動を表す語と「話す」のような言語活動を表す語と共起して、話題をさらに限定して具体的に表していると言える。

5-2-5 考察の結果

以上、国定教科書と一般の書籍から「에 대하여(e daehayeo)」類と「에 관하여(e gwanhayeo)」類について考察した結果は、次の通りである。

- 1) 後行部分に心理活動を表す語がきて、先行部分が「態度と感情の対象(対象物または相手)」を表す「対象(相手)の用法」となり、助詞「에(e)/에게(ege)、に」に置き換えられるときは、後置詞「에 대하여(e daehayeo)類」のみ用いられる。

- 2) 後行部分に「言語活動」を表す語や「思考活動」を表す語がきて、先行部分が話題（タイトル）を表す「話題（タイトル）の用法」のときは、「에 대하여(e daehayeo)」類と「에 관하여(e gwanhayeo)」類共に用いられる。しかし、「에 대하여(e daehayeo)」類は、後行部分に純粋な言語活動、態度や姿勢が入っている言語活動を表す語どれもきやすいが、「에 관하여(e gwanhayeo)」類は、後行部分に純粋な言語活動、純粋な思考活動を表す語がきやすく、心理活動を表す語は用いられにくい。
- 3) 「話題（タイトル）の用法」のとき、先行部分が包括的な話題になるほど「에 관하여(e gwanhayeo)」類が用いられやすく、具体的な話題になるほど、「에 대하여(e daehayeo)」類が用いられやすい。
- 4) 「에 대하여(e daehayeo)」類のうち、「에 대해서(e daehaeseo)」は、「話題取り立て」の用法を持っており、「에 대하여(e daehayeo)」は指示文と法的関連の書籍と論文のタイトルに用いられやすい。

「에 대하여(e daehayeo)」類と「에 관하여(e gwanhayeo)」類の意味用法上の差異について考察する時、「에 관하여(e gwanhayeo)」類のみ用いられやすい場合は殆ど見当たらなかった。「에 관하여(e gwanhayeo)」類は、国定教科書と一般書籍には殆ど用いられていなく、また用いられていたとしても法律関連の書籍に限られている。そういうわけで、「에 관하여(e gwanhayeo)」類のそれぞれの用法上の差異と、「에 대하여(e daehayeo)」類との用法上の違いを考察するのは難しい。そこで本稿では、「에 대하여(e daehayeo)」類と「에 관하여(e gwanhayeo)」類の連体形である「에 대한(e daehan)」と「에 관한(e gwanhan)」を用いて、二つの表現の差異についてさらに詳しく考察する。

5-3 後置詞の連体表現の用法上の差異について

まず、研究方法としては「에 대한(e daehan)」と「에 관한(e gwanhan)」の後行部分を、大きく「心理表現（感情、感覚、姿勢、態度など）」、「言語表現（言

語、言語の結果物)」、「思考表現(思考、認知)」、「知的行為を表す表現」に分けて調べる。次に、先行部分を「対象」を表す場合と、「内容」を表す場合とに分けて考察する。さらに「内容」は、「에 대하여(e daehayeo)」類と「에 관하여(e gwanhayeo)」類と同じように、「具体的な話題」と「包括的な話題」に分けて考察する。

5-3-1 「에 대한(e daehan)」のみ可能な場合

- 403) 정계장에 대한 주위 사람들의 반응 (초, 읽기6-2, p. 43)
 鄭係長に対する周りの反応 (小、読み6-2, p. 43)
- 404) 식당에 대한 갖가지 불만. (중, 생활국어 2-1, p. 34)
 食堂に対するいろいろな不満 (中、生活国語 2-1, p. 34)
- 405) 남편에 대한 구포덕의 반발 (고, 문학상, p. 277)
 主人に対する구포덕さんの反発 (高、文学上、p. 277)
- 406) 나에 대한 아내의 원망 (고, 국어하, p. 186)
 自分に對する家内の恨み (高、国語下、p. 186)
- 407) 일제에 대한 명서의 분노 (고, 문학상, p. 309)
 日本に對するミョンソの怒り (高、文学上、p. 309)
- 408) 신문 기사에 대한 경멸 (고, 국어하, p. 111)
 新聞記事に對する輕蔑 (高、国語下、p. 111)
- 409) 사생활에 대한 침해 (고, 화법, p. 93)
 私生活に對する侵害 (高、話法、p. 93)
- 410) 어머니에 대한 노여움 (나목, p. 145)
 母に對する憤り (ナモク、p. 145)
- 411) 혼혈아에 대한 편견 (나목, p. 159)
 混血兒に對する偏見 (ナモク、p. 159)
- 412) 여성에 대한 차별 (한국문화, p. 93)
 女性に對する差別 (韓国文化、p. 93)

403)~412)의 예는、「에 대한(e daehan)」は用いられやすいが、「에 관한(e gwanhan)」は殆ど用いられない。後行部分の「反応、不満、反発、恨み、輕蔑、侵害、

偏見、差別」は「態度や姿勢」を表す語で、これらの後行部分は先行部分に向けられる行為を示している。後行部分の観念性が薄れて具体性が強まると、先行部分が単純な受け手になる用法に繋がって行く。例えば、403)の「정계장에 대한 주위 사람들의 반응 (鄭係長に対する周りの反応)」の「반응 (反応)」の対象(相手)は、「정계장 (鄭係長)」である。このように先行部分が人格性を持っている場合と人に準じるもの場合は単純な受け手(相手)になりやすい。

413) 말하는 이의 삶에 대한 자세 (중, 국어3-2, p. 10)

話し手の生に対する姿勢 (中、国語3-2、p. 10)

414) 텔레비전에 대한 글쓴이의 태도 (중, 국어3-2, p. 83)

テレビに対する作家の態度 (中、国語3-2、p. 83)

413)と414)は、後行部分に「姿勢」「態度」がきて、先行部分が受け手(相手)ではなく対象になる場合である。413)は「삶에 대한 자세 (生に対する姿勢)」が楽しいか、つらいかを表しており、414)は「텔레비전에 대한 글쓴이의 태도 (テレビに対する作家の態度)」が肯定的か、否定的かを表している。つまり、「에 대한(e daehan)」は後行部分に対象(相手)に態度や姿勢を表している語がきて、先行部分が「態度や姿勢の対象(相手)」になると言える。この場合は「에 대한(e daehan)」のみ用いられる。

5-3-2 「에 대한(e daehan)」と「에 관한(e gwanhan)」

415) 대호가 숙제에 대한 자기의 생각 (초, 읽기1-1, p. 70)

デホが宿題に対する/についての自分の考え (小、読1-1、p. 70)

416) 두 사진에 대한 내 의견 (초, 읽기5-2, p. 140)

二枚の写真に対する/についての私の意見 (小、読5-2、p. 140)

417) 한국에 대한 세계인의 이해 (초, 읽기6-2, p. 124)

韓国に対する/についての世界の人の理解 (小、読6-2、p. 124)

418) 사물에 대한 지식 (중, 국어1-1, p234)

事物にに対する/についての知識 (中、国語1-1、 p. 234)

419) 기여 입학제에 대한 견해 (고, 작문, p255)

寄与入学制にに対する/についての見解 (高、作文、 p. 255)

420) 여성의 사회적 지위에 대한 일반적 인식 (고, 문학下, p329)

女性の社会的地位にに対する/についての一般的な認識 (高、文学下、 p. 329)

421) 부모의 친권에 대한 의견 (법학, p245)

親の親權にに対する/についての意見 (法学、 p. 245)

422) 범죄에 대한 이해 (법학, p329)

犯罪にに対する/についての理解 (法学、 p. 329)

415)~422)는, 後行部分に「考え、意見、理解、知識、見解、認識」という思考表現を表す語がきて、先行部分が「話題」になり、403)~414)とは少し用法が異なる。例えば、419)の「기여 입학제에 대한 견해(寄与入学制にに対する/についての見解)」は、一つは「寄与入学制に賛成か反対か」という単純な態度の(立場)の表明であり、もう一つは「寄与入学制について知っているのか、またはどう思っているのか」という内容を表す。つまり、「에 대한(e daehan)」は「態度の対象の用法」と「話題の用法」を持つ。403)~414)のような「態度や姿勢の相手の用法」では、その表す行為が外に現われるのに対して、415)~422)のような「態度の対象の用法」と「話題の用法」は、その表す行為が内部のみに存在し、変化として外部に現われえないと言える。また日本語の場合は、「態度や姿勢の相手の用法」や「態度の対象の用法」のときは、「に対する」が用いられやすく、「話題の用法」のときは、「についての」が用いられやすい。しかし、「에 관한(e gwanhan)」は、「態度や姿勢の相手の用法」や「態度の対象の用法」には用いられにくく、「話題の用法」のみに用いられやすい。

423) 가정교육에 관한 글쓴이의 의견 (중, 국어1-1, p. 136)

家庭教育にについての/に関する作家の意見 (中、国語1-1、 p. 136)

424) 맞춤법에 관한 지식 (중, 생활국어3-1, p51)

綴字方についての/に関する知識 (中、生活国語3-1、p. 51)

425) 행복에 관한 생각 (고, 작문, p. 87)

幸せについての/*に関する考え (高、作文、p. 87)

426) 논제에 관한 이해 (고, 화법, p. 215)

論題についての/に関する理解 (高、話法、p. 215)

427) 빛의 본질에 관한 견해 (고, 독서, p. 295)

光の本質についての/に関する見解 (高、読書、p. 295)

428) 유행에 관한 올바른 인식 (고, 작문, p. 245)

流行についての/に関する認識 (高、作文、p. 245)

429) 언어습득에 관한 견해 (교양언어학, p. 390)

言語習得についての/に関する見解 (教養言語学、p. 245)

423)~429)は、後行部分に思考表現を表す語がきて、先行部分が「話題」になるのは、405)~412)と同じであるが、その内容が異なる。例えば、416)と423)は、いずれも後行部分に「意見」という思考表現を表す語がきて、先行部分が「話題」になる。しかし、416)は「두 사진 (二枚の写真)」という「具体的な話題」がくるのに対し、423)は「가정교육 (家庭教育)」という「家庭教育の必要性」「家庭教育の問題点」「家庭教育の効果」などの話題として挙げられる点がいくつかある。「包括的な話題」が先行部分にきている。415)は後行部分に「考え」という思考表現がきて、先行部分が話題になる。この場合は「についての」は自然であるが、「に関する」は不自然である。つまり、「に関する」は後行部分に思考表現がきて、先行部分が感情や感覚を表す表現がくる場合用いられにくいと言える。

430) 旅行についての考え (ロータリーの友、p. 67)

に関する (○)

に対する (○)

430)は「についての」「に関する」「に対する」いずれも用いられるが、その内容が異なる。「についての」は「旅行についての具体的な計画を立てる」という意味で、「旅行地はどこにするか」、「宿泊や食事の問題」などが考えられる。「に対する」は「旅行に賛成か反対か」という質問に、態度が入っている簡単な答えが

考えられる。「に関する」は「旅行に関する一般論的な内容が考えられる。つまり、「に関する」は後行部分に思考表現を表す語がくる場合でも、先行部分が感情や感覚を表す表現がくる場合は用いられにくい、より包括的な話題がくる場合に用いられやすいと言える。韓国語の場合、「에 대한(e daehan)」と「에 관한(e gwanhan)」いずれも用いられる。

431) 방학동안 읽은 책에 대한 생각이나 느낌 (초, 쓰기3-2, p. 82)

休みの間読んだ本についての考えや感想 (小、書3-2、 p. 82)

432) 바람직한 진로선택을 어떻게 해야 하는지에 대한 전문가들의 견해

(중, 생활국어2-2, p. 11)

正しい進路をどう選べばいいのかについての専門家たちの見解

(中、生活国語、 p. 11)

433) 장애인과 비장애인이 인간으로서 함께 사회를 이루어 나가야 할 것인가에 대한 선명한 의견 (고, 독서, p.191)

障害者と非障害者が人間として共に社会を作って行かなければならないことについて

の明確な意見 ((高、読書、 p. 191)

434) 1억 원이라는 손해를 누가 부담하게 되는가에 대한 판단(생활법률, p. 78)

一億ウォンという損害を誰が負担するかについての判断

(生活法律、 p. 78)

435) “이런 무지막지한 책을 쓸 생각을 하고 실천에 옮긴 사람에 대한 궁금증

(통섭의 식탁, p. 357)

「このような非常に無知で荒々しい本を書こうとして実践に移した人についての疑問」

(通歩の食卓、 p. 357)

436) 외국인 최초로 문화훈장을 받은 야나기 무네토시에 대한 글(한국어문화, p. 55)

外国人としては最初に文化勲章をもらった柳宗義についての文章

(韓国語文化、 p. 55)

437) 고쳐 쓴 글에 대한 답글 (서울대 인문학, p. 29)

書き直した文章についての返事 (ソウル大人文学、 p. 29)

431)～437) も、 後行部分に「考え、見解、情報、意見、判断、疑問、文章、返事」などの思考表現を表す語がきて、先行部分が「話題」になるが、「話題」の内容が

かなり具体的である。この場合は、「에 대한(e daehan)」が用いられやすい。つまり、後行部分に思考表現を表す語がきて、先行部分が「話題」になるとき、「具体的な話題」になるほど「에 대한(e daehan)」が用いられやすく、「包括的な話題」になるほど「에 관한 (e gwanhan)」が用いられやすいと言える。

438) 인간존재에 대한 해명 (고, 독서, p. 187)

人間存在についての解明 (高, 読書, p. 187)

438)は後行部分に「解明」のような思考表現を表す語がきて、先行部分が「話題」になる。この場合は「에 대한(e daehan)」は自然であるが、「에 관한 (e gwanhan)」は不自然である。その理由は「解明」が持っている性質による。「解明」は対象にくっついてその理由や原因などを明らかにするというニュアンスを持っているので、「関係する」または「関わりを持つ」というニュアンスを持つ「에 관한 (e gwanhan)」は不自然であると言える。

439) 독도를 지키셨던 할아버지들에 대한 이야기 (초, 읽기5-2, p. 144)

独島を守ったお爺さんたちについての話 (小, 読5-2, p. 144)

440) 독도에 관한 재미있는 이야기 (초, 읽기5-2, p. 143)

独島に関するおもしろい話 (小, 読5-2, p. 143)

441) 수업 준비물에 대한 설명 (초, 읽기6-1, p. 42)

授業の持ち物についての説明 (小, 読6-1, p. 42)

442) 렘수면에 관한 설명 (중, 국어2-1, p.202)

レム睡眠に関する説明 (中, 国語2-1, p. 202)

443) 돼지의 생김새에 대한 내용 (중, 생활국어1-2, p. 77)

豚の外見についての内容 (中, 生活国語1-2, p. 77)

444) 김소월에 관한 내용 (중, 국어3-1, p.225)

金ソウォルに関する内容 (中, 国語3-1, p. 225)

445) 우리나라에 사는 나비에 대한 책 (초, 말듣3-2, p.29)

我が国に生殖している蝶々についての本 (小, 話聞3-2, p. 29)

446) 문학에 관한 책 (고, 문학下, p. 23)

文学に関する本 (高, 文学下, p. 23)

447) 입학지원서를 읽으실 선생님들의 대한 정보 (중, 생활국어3-2, p. 66)

入学願書をお読みになる先生たちについての情報 (中、生活国語3-2、p. 66)

448) 김치의 과학성에 관한 정보 (중, 생활국어1-1, p. 73)

キムチの科学性に関する情報 (中、生活国語1-1、p. 73)

449) 훈민정음을 창조한 역사적 사실에 대한 두 편의 글 (중, 국어1-2, p. 100)

訓民正音を作った歴史的事実についての二つの文章

450) ‘ 한국 영화의 역사에 관한 글’ (고, 작문, p. 47)

「韓国映画の歴史に関する文章」(高、作文、p. 47)

439)~450)의 예는, 後行部分に「話、説明」のような言語表現や、「内容、情報、本、文章」のような知的行為や知的行為の産物などがきて、先行部分が「話題」になる場合である。439)~450)では、「에 대한(e daehan)」と「에 관한 (e gwanhan)」は、先行部分によって決められる。奇数の例、例えば、439)・441)・443)・445)・447)・449)は偶数の例に比べて、やや具体的であり、偶数の例、例えば、440)・442)・444)・446)・450)は 奇数の例に比べてやや包括的である。

つまり、429)~440)でも後行部分に言語表現と思考表現を表す語すなわち、知的行為を表す語と知的行為の産物などがきて、先行部分が「話題」になるが、その話題が具体的になればなるほど「에 대한(e daehan)」が用いられやすく、包括的になればなるほど「에 관한 (e gwanhan)」が用いられやすいと言える。

451) 여기서는 김구 선생에 관한 다양한 자료를 실고 있어, 선생의 삶과

정신세계에 대한 정보를 얻을 수 있다. (고, 국어상, p. 97)

ここでは金九先生に関する多様な資料を持っており、先生の生と精神世界についての情報が得られた。(高、国語上、p. 97)

452) 다윈의 이론에 관한 책보다 다윈에 대한 책이 더 많이 출간되었다고 한다.

(통섭의 식탁, p. 274)

ダーウィンの理論に関する本よりダーウィンについての本がもっと多く出版されたようだ。(通歩の食卓、p. 274)

451)と452)は、一つの文に「에 대한(e daehan)」と「에 관한 (e gwanhan)」が両方用いられている場合である。後行部分に「資料、情報、本」という知的行為の

産物と知的行為を表す語がきて、先行部分が「話題」になる。451) の「에 관한 (e gwanhan)」は、「김구 선생의 여러가지 다양한 면 (金九先生のいろいろの多様な面)」という包括的な内容と共起し、「에 대한(e daehan)」は、「김구선생의 삶과 정신세계 (金九先生の生と精神世界)」という部分的な内容と共起している。「김구선생의 삶과 정신세 (金九先生の生と精神世界)」は、単独で使われるときは「김구선생의 삶과 정신세계에 관한 정보 (金九先生の生と精神世界に関する情報)」という包括的な内容としても用いられる。452) の「에 관한 (e gwanhan)」も、「다윈의 이론인 진화론과 그 사상 (ダーウィンの理論である進化論とその思想)」という包括的な内容と共起し、「에 대한(e daehan)」は、「ダーウィンはどんな人であるか」というやや具体的な内容と共起している。もちろん「ダーウィン」も単独で使われるときは「ダーウィンに関する本」のように包括的な内容としても用いられる。しかし、一つの文章で一緒に用いられるときは、「에 관한 (e gwanhan)」は全体を表す包括的な内容と共起しやすく、「에 대한(e daehan)」は一部分を表すやや具体的な内容と共起しやすいと言える。

453) 사랑에 관한 몇 가지 실속 없는 추억들(달콤한 나의 도시, p. 336)

愛に関するいくつか中身のない思い出 (甘ったるい私の都市、p. 336)

454) 결혼식에 관한 제반 사항(달콤한 나의 도시, p. 385)

結婚式に関するあらゆる事情 (甘ったるい私の都市、p. 385)

455) 문장을 짓는 능력과 정책에 관한 의견(한국사, p. 142)

文章を作る能力と政策に関する意見 (韓国史、p. 142)

456) 토지와 노비에 관한 제반문제(한국사, p. 206)

土地と奴婢に関する諸問題 (韓国史、p. 142)

457) 단군의 출생과 즉위에 관한 신화(한국문화, p. 186)

タンゲンの出生と即位に関する神話 (韓国文化、p. 186)

458) 작가의 태도 등에 관한 연구(교양언어학, p. 275)

作家の態度などに関する研究 (教養言語学、p. 275)

453)～458)の例は、「에 관한 (e gwanhan)」と共起しやすい場合である。後行部分に「思い出、事情、意見、問題、神話、研究」などの知的行為を表す語と共起して、話題を表しているが、話題が「문장을 짓는 능력과 정책 (文章を作る能力と

政策) 」、 「토지와 노비 (土地と老婢) 」、 「단군의 출생과 즉위 (檀君の出生と即位) 」、 「작가의 태도 등 (作家の態度など) 」のいろいろな側面の内容を含んだ包括的な話題であったり、文の中に 「몇 가지 (いくつか) 」 や 「제반 (あらゆる) 」 のような複数を表す語が現われるとき、 「에 관한 (e gwanhan)」 が用いられやすいと言える。

459) ‘책의 역사와 출판문화에 관한 박물관적 에세이’ (고, 독서, p. 49)

「本の歴史と出版文化に関する博物学的エッセイ」 (高、読書、 p. 49)

460) ‘야간 자율학습에 관한 건의문’ (고, 작문, p.248)

「夜間自由学習に関する建議書」 (高、作文、 p. 248)

461) ‘인터넷 등급제’ 에 관한 뉴스 (중, 생활국어, p.63)

「インターネット等級制」に関するニュース (中、生活国語、 p. 63)

459)～461)の例は、後行部分に「エッセイ、建議書、ニュース」という知的行為の産物を表す語、特にタイトルを表す語がきて、先行部分の包括的な話題と共起して、文全体がタイトル(内容提示)を表す。この場合は、「에 대한(e daehan)」も可能であるが、「에 관한 (e gwanhan)」が自然である。元々「タイトル」というのは、「題目」や「表題」の意味で格式ばっており、形式的なニュアンスを持っているので、「에 관한 (e gwanhan)」がより相応しい。つまり、「タイトル性」が強いほど「에 관한 (e gwanhan)」が用いられやすいと言える。

462) 「어휘소간의 의미관계에 대한 재검토」 (국어 용언의 의미 분석, p. 344)

「語彙素間の意味関係についての再検討」 (国語用言の意味分析、 p. 344)

463) 「상태성과 동작성에 대한 고찰」 (국어 용언의 의미 분석, p. 346)

「相対性と動作性についての考察」 (国語用言の意味分析、 p. 346)

464) 「한국어 교육에 대한 논고」 (한국어 교육의 이해, p. 32)

「韓国語教育についての論考」 (韓国語教育の理解、 p. 32)

462)～464)の例は、「에 대한(e daehan)」が論文のタイトルとして用いられている場合である。つまり、論文や論文著書の場合は、話題を集中的に研究し、整理し

ようとする傾向を持っているので、具体的で範囲を狭める特性を持つ「에 대한(e daehan)」が用いられやすいと言える。前にも触れたように「에 대하여(e daehaye o) /에 대해(e daehae) / 에 대해서(e daehaeseo)」の場合も「에 대하여(e daehayeo)」が論文のタイトル(内容提示)に用いられやすい傾向があった。

465) 「동음이의어에 대하여」(국어 용언의 의미 분석, p. 343)

「同音異義語について」(国語用言の意味分析, p. 343)

466) 「명사의 의미분류에 대하여」(국어 용언의 의미 분석, p. 352)

「名詞の意味分類について」(国語用言の意味分析, p. 352)

467) 「국어 어휘의 특성에 대하여」(국어 어휘론 개설, p. 363)

「国語語彙の特性について」(国語語彙論の概説, p. 363)

以上で、「에 대한(e daehan)」と「에 관한(e gwanhan)」は両方とも、話題を「タイトル(内容提示)」として表す「タイトル(内容提示)用法」を持っているがその性質が異なる。つまり、「タイトル(内容提示)」の示す範囲が具体的になっていくほど「에 대한(e daehan)」が用いられやすく、示す範囲が包括的になっていくほど「에 관한(e gwanhan)」が用いられやすいと言える。

5-3-3 「에 관한(e gwanhan)」のみ可能な場合

国定教科書でも、一般の書籍でも「에 관한(e gwanhan)」のみ用いられる例は非常に少なかった。

468) 주택 개량 촉진에 관한 임시조치법 (중, 국어3-1, p. 120)

住宅改良促進に関する臨時措置法 (中, 国語3-1, p. 120)

469) 국제적으로 중요한 습지에 관한 협약인 ‘람사협약’ (고, 작문, p. 71)

国際的に重要な湿地に関する協約の「ラムサ協約」(高, 作文, p. 71)

470) 조세제도와 토지제도, 노비매매 등에 관한 경제관련 법률(한국사, p. 257)

租税制度と土地制度、老婢売買などに関する経済関連法律(韓国史, p. 257)

471) ‘채무자 희생 및 파산에 관한 법률’ (생활법률, p. 328)

「債務者回生及び破産に関する法律」(生活法律, p. 328)

472) “여성에게 대한 모든 차별 철폐에 관한 협약” (법학, p. 93)

「女性に対するあらゆる差別撤廃に関する協約」 (法学、 p. 93)

473) “외국인투자기업의 노동조합 및 노동쟁의에 관한 임시특례법” (법학, p. 146)

「外国人投資企業の労働組合及び労働争議に関する臨時特例法」 (法学、 p. 146)

474) “특정범죄가중처벌등에관한법률 “ (법률콘서트, p. 502)

「特定犯罪加重処罰などに関する法律」 (法律コンサート、 p. 502)

468)～474)の例は、後行部分に「法、協約、法律」などの語がきて、先行部分が「タイトル(内容提示)」になる。つまり、「에 관한 (e gwanhan)」は「法」や「協約」などの法律関連の語と共起して、「法律関連のタイトル(内容提示) 用法」を持つ。「法律関連のタイトル(内容提示) 用法」は「에 관한 (e gwanhan)」のみ可能である。

475) 돈을 빌리는 기간에 대한 내용(생활법률119, p. 17)

お金を借りる期間についての内容(生活法律119、 p. 17)

476) 천만 원의 명목과 이자에 대한 합의(생활법률119, p. 30)

2千万ウォンの名目と利子についての合意(生活法律119、 p. 30)

477) 구체적인 사항에 대한 결정(법학, p. 115)

具体的な事項についての決定(法学、 p. 115)

478) 소송에 관한 서류의 내용(법률콘서트, p331)

訴訟に関する書類の内容(法律コンサート、 p. 331)

479) 대학의 자율성에 관한 문제(법학, p119)

大学の自律性に関する問題(法学、 p. 119)

480) 가등기담보와 명의신탁 등에 관한 법률적 문제(법률콘서트, p7)

仮登記担保と名義信託などに関する法律的な問題(法律コンサート、 p. 7)

475)～480)の例は、法律関連書籍に用いられた例である。後行部分に「内容、協議、決定、問題」などの知的行為を表す語がきて、先行部分が話題になる。先行部分の話題に「돈을 빌리는 기간(お金を借りる期間)、2천만 원의 명목과 이자(2千万ウォンの名目と利子)、구체적인 사항(具体的な事項)」のような具体的な内容が話題にくる場合は、「에 대한(e daehan)」が用いられやすく、「소송(訴訟)、대학의 자율성(大学の自律性)、가등기담보와 명의신탁(仮登記担保と名義信

託) 」のような包括的な内容が話題にくる場合は、「에 관한(e gwanhan)」が用いられやすい。つまり、後行部分の「法、協約、法律」などの法律関連の語の場合は「에 관한 (e gwanhan)」のみ用いられるが、それ以外は「에 대한(e daehan)」は話題をさらに限定して具体的に表す機能を持っており、「에 관한(e gwanhan)」は話題を関連している範囲までに拡大する機能を持つと言える。

481) 우리는 이들 사상에 관한 한 이웃의 중국이나 일본과 꼭 같은 문화전통을 이어받아 왔다. (고, 국어下, p313)

我々はこれらの思想に関する限り隣の中国や日本と同じような文化伝統を受け継いできた。(高、国語下、p. 313)

482) 미생물과의 전쟁에 관한 한, 우리나라는 특별히 심각한 전장이다.

(통섭의 식탁, p244)

微生物との戦争に関する限り、我が国は特別に深刻な戦場である。

(通歩の食卓、p. 244)

483) 스스로 과학에 관한 한 철저한 문외한이었다고 고백한다. (통섭의 식탁, p344)

自ら科学に関する限り徹底的に門外漢であったと告白した。

484) 성에 관한 한 우위를 빼앗길 수 없다는 남성들의 공포가 그만큼 컸다는

뜻이다. (통섭의 식탁, p104)

性に関する限り優位を取られないという男性たちの恐怖がそれほど大きかったという意味である。(通歩の食卓、p. 104)

485) 교육에 관한 한, 한국에서 가장 선택 받은 사람 중의 하나였다.

(세느강, p186)

教育に関する限り、韓国で一番選ばれた人の中の一人であった。

(セーヌ川、p. 186)

481)~485)の例は、「에 관한 (e gwanhan)」の定型化された表現である「에 관한 한 한 (e gwanhan han)」のみ用いられている場合である。これは、「에 관한 한 한 (e gwanhan han)」が、「이들 사상 (これらの思想)、미생물과의 전쟁 (微生物との戦争)、성 (性)、교육 (教育)」のような先行部分について、「他のことは分からないが、この点では~だ/この点にかけては~だ」というニュアンスで話題

を限定している場合である。つまり、「에 관한 (e gwanhan)」は、「에 관한 한 (e gwanhan han)」という定型化された形で「話題限定用法」を持つと言える。

486) 자기 일에는 어설픈 주제에 남의 일에 관해서라면 항상 예리하게 정곡을 찌르는 그녀다. (달콤한 나의 도시 .p274)

自分の事には中途半場なのに人に事に関してならいつも鋭く核心を突かされた女だ。(甘ったるい私の都市、p. 274)

487) 성 표현에 관해서만큼은 조선이 지금보다 자유로웠던 것일까?(한국사,p317)

性に関してならは朝鮮が今より自由であったのか。(韓国史、p. 317)

486)と487)の例は、「에 관해서(e gwanhaeseo)」の定型化された表現である「에 관해서라면 (e gwanhaeseoramyeo、に関してなら)」と「에 관해서만큼은(e daehaeseomankeueun、に関してなら)」が話題を限定している場合である。この場合は「에 대해서라면 (e daehaeseoramyeo、に関してなら)」や「에 대해서만큼은(e daehaeseomankeueun、に関してなら)」に置き換えられるが「에 관해서라면 (e gwanhaeseoramyeo、に関してなら)」と「에 관해서만큼은(e daehaeseomankeueun、に関してなら)」の方がより自然である。

5-3-4 まとめ

以上で、後置詞「에 대하여(e daehayeo)」類と「에 관하여(e gwanhayeo)」類の意味・用法上の差異について、連体形の「에 대한(e daehan)」と「에 관한 (e gwanhan)」を用いて考察した。考察の結果は次の通りである。

- 1) 後行部分に心理活動を表す語がきて、先行部分が「態度と感情の対象（対象物または相手）」になる「態度の対象（相手）の用法」では、「에 대한(e daehan)」のみ用いられる。
- 2) 後行部分に言語表現と思考表現などの知的行為を表す語がきて、先行部分が「話題」になる「話題用法」では、「에 대한(e daehan)」と「에 관한 (e gwanhan)」いずれも用いられるが、「話題」の内容によって異なる。つまり、

「具体的な話題」になるほど「에 대한(e daehan)」が用いられやすく、「包括的な話題」になるほど「에 관한 (e gwanhan)」が用いられやすい。

- 3) 「에 대한(e daehan)」と「에 관한 (e gwanhan)」はどちらも、話題を「タイトル(内容提示)」として表す「タイトル(内容提示) 用法」を持っているが、その性質が異なる。つまり、「タイトル(内容提示)」の示す範囲が具体的に becoming いくほど「에 대한(e daehan)」が用いられやすく、示す範囲が包括的に becoming いくほど「에 관한 (e gwanhan)」が用いられやすいと言える。
- 4) 「에 대한(e daehan)」と「에 관한 (e gwanhan)」が一つの文の中に共に用いられた場合、「에 관한 (e gwanhan)」は「話題」を、「에 대한(e daehan)」は「話題の一部」を表す。
- 5) 「에 관한 한 (e gwanhan han)、に関する限り」のような定型化された形で用いられている「話題限定用法」の場合と、「法、協約」などの法律関連の「話題用法」と「法律関連のタイトル (内容提示) 用法」では、「에 관한 (e gwanhan)」のみ可能である。
- 6) 「에 대한(e daehan)」は「에 대하여(e daehayeo)」類と同じ用法を持っているのに対し、「에 관한 (e gwanhan)」は「法、協約」などの法律関係の文章では「에 관하여(e gwanhayeo)」類と同じく用いられていたが、その他は連体形の、「에 관한 (e gwanhan)」の形で多く使われている。
- 7) 後置詞において元動詞の意味特性が強く反映される場合、その表現の独自の用法として用いられやすい。例えば、「에 대하여(e daehayeo)」類と「에 대한(e daehan)」の「態度の対象(相手)の用法」と、「에 관한 (e gwanhan)」の「法律関連のタイトル(内容提示)用法」がそれである。また「에 대한(e daehan)」は先行部分にくる対象の種類が多様であるが、「에 관한 (e gwanhan)」は、先行部分にくる対象の範囲が広くて包括的である。

以上で、後置詞「에 대하여(e daehayeo)」類と、「에 관하여(e gwanha yeo)」類の意味用法上の差異について考察するために、小・中・高の国語国定教科書や一般の書籍を用いて、形態・頻度・意味の三つの視点から分析してみた。「에 대하여(e daehayeo)」類と、「에 관하여(e gwanha yeo)」類いずれもそれぞれの連用形

より、連体形のほうが用いられやすくなっている。「에 대하여(e daehayeo)」類は連体形の「에 대한(e daehan)」と同じ意味領域を持っているが、「에 관하여(e gwanha yeo)」類はその殆どが、「에 관한 (e gwanhan)」で多く使われている。これはおそらく、「에 관하여(e gwanha yeo)」類の元動詞「관하다(gwanhada)」との関係が強いからだと思われる。つまり、「관하다(gwanhada)」が述語としての機能が薄れてその類語である「관련하다 (gwanryeonhada) / 관련되다(gwanryeondoeda)」に代わって用いられ、「에 관하여(e gwanha yeo)」類は慣用的な連体形の、「에 관한 (e gwanhan)」の形で用いられる。また、頻度の面では、「에 대하여(e daehayeo)」類が用いられやすくなっているが、意味用法では、「에 대하여(e daehayeo)」類と、「에 관하여(e gwanha yeo)」類はそれぞれ後置詞としての独自の用法を持っていることが分かる。次の章では、後置詞「에 대하여(e daehayeo)」類と「에 관하여(e gwanha yeo)」類の意味用法上の差異についてさらに詳しく調べるために、日本語の「について」「に関して」「に対して」とそれぞれの連体形について考察する。

次は、第4章の「에 대하여(e daehayeo)」類、「에 관하여 (e gwanhayeo)」類と、その連体形の「에 대한(e daehan)」「에 관한 (e gwanhan)」の用例に用いられた文章の中で、後行部分の表現を纏めたものである。

1) 「에 대하여(e daehayeo)」類 - 심리활동 (心理活動)

평가하다(評価する), 관심을 가지다(関心を持つ), 실망하다(失望する), 도덕적 관심을 가지다(道徳的に関心を持つ), 관심과 호기심을 가지다(関心と好奇心を持つ), 불편 해 하다(不便だと思われる), 걱정하다(心配する), 올바른 지식을 가지다 (正しい知識を持つ), 회의와 비판도 할 수 있다(議論も批判もできる), 정서적 반응을 나타내다(情緒的な反応を現わす), 소용이 있다(役に立つ), 당연한 것으로 여기다(当たり前のように思う), 자부심을 가지다(自負心を持つ), 물러서지 않는다(退かない), 우려를 제기하다(憂慮を申し立てる), 반성하다(反省する), 좋지 않는 생각을 가지다(よくない考えをもつ) 서운한 빛을 보이다(残念な気を見せる), 감정을 가지다(感情を持つ), 책임을 느끼다(責任を感じる), 자부심을 느끼다(自負心を感じる), 사과하다(謝る), 강요하다(強要する), 태도를 가지다(態度をとる)/지니다(持つ), 반응하다(反応する), 항의하다(抗議する), 그럴법하다(もっともらしい),

인식하다(認識する), 처벌받다(処罰される), 관심을 기울이다(関心をそむける), 두려워함을 가지다(恐怖心を持つ), 채근하다(催促する), 안타까워하다(哀れに思う), 반응을 보이다(反応を見せる), 공허하다(むなしい), 불평하시다(不平を言う), 신용하다(信用する), 부담을 느끼다(負担を感じる), 저항감을 느낄 수 없다(抵抗感を感じられない), 저항하다(抵抗する), 항의를 제기하다(抗議を提起する), 해답을 제시하다(回答を提示する), 예찬하다(礼賛する), 불만이 많다(不満が多い), 관심을 갖다(関心を持つ), 찬성하다(賛成する), 반대하다(反対する), 찬사를 보내다(賛辞を送る), 기대하다(期待する), 평하다(評する), 깨닫다(覚る), 품다(抱く), 가슴 두근거리다(ドキドキする), 자책하다(自責する), 불만을 품다(不満を抱く), 관심을 두다(関心を持つ), 관심이 많다(関心が多い), 불신하다(信じない), 감동을 받다(感動する), 아무리 많이 알아도 부족하다(どんなにたくさん知っていても足りない), 배타적이다(排他的だ), 동경심을 갖다(憧れを持つ), 오해하다(誤解する), 관심을 가지다(関心を持つ), 태도를 취하다(態度をとる), 후회하다(後悔する), 부정적인 태도를 갖게 한다(否定的な態度を取らせる), 놀라움을 표시하다(驚きを表示する), 동의하다(同意する), 같은 비중을 두고 있다(同じの比重をとっている), 개탄하다(慨嘆する), 안심하다(安心する), 화가 나다(腹が立つ), 동조하다(同調する), 못마땅하다(気に食わない), 각성하다(覚醒する), 초조한 심정을 밝히다(いらだつ心情を明らかにする), 죄를 짓다(罪を犯す), 불신과 혐오감을 가지게 되다(不信と嫌悪感を持つようになる), 신경을 쓰다(気にする), 저항하다(抵抗する), 호의적인 감정을 가지다(好意的な感情を持つ), 연애 감정이 없다(恋愛感情を持たない), 눈물짓다(涙する), 기대하다(期待する), 무시하다(無視する), 무관심하다(無関心だ), 분노가 들끓다(怒りで熱狂する), 불만을 가지다(不満を持つ), など

2) 「에 대하여(e daehayeo)」類 - 언어활동 (言語活動)

말하다(言う), 소개하다(紹介する), 이야기하다(話す), 설명하다(説明する), 읽어 보자(読んでみる), 이야기를 나누어 보자(話してみよう), 말씀 드려 보자(言ってみよう), 설명해 보자(説明してみよう), 발표하다(発表する), 의견을 나누다(話し合う), 이야기를 주고받다(やり取りする), 의논하다(相談する), 이야기 해주다(話してあげる), 알려주다(知らせる), 토론을 해보자(議論してみよう), 대화를 나누다(対話する), 고발하다(告発する), 토의해 보다(討議してみる), 질문하다(質問する), 대화를 하다(対話する), 말하지 않았다(言わなかった), 말하여 보자(言ってみよう), 이야기해 보자(話してみよう), 반론을 제기하다(反論を提起する), 질문을 해보다(質問をしてみよう), 토의를 해보다(討議をしてみる), 토론을 하다(討論する),

인터뷰하다(인터뷰하는), 여쭙어 보다(聞いてみる), 수군거리다(ひそひそと話す), 사실을 말하다(事実を言う), 서로 의견이 다른 글을 읽다(互いに意見の違う文を読む), 말해 보자(言ってみる), 상담하다(相談する), 해설을 담다(解説を盛り込んだ), 대답하다(返事する), 양측의 주장을 담다(両側の主張を盛り込む), 건의하다(申し述べる), 반박하다(反論する), 건의 드리다(申し述べる), 답하다(答える), 대화를 나누다(話し合う), 토의하다(討議する), 말해보자(言ってみよう), 질문하였다(質問した), 진술하다(陳述する), 의견을 말하다(意見を述べる), 발표하다(発表する), 공표하다(公表する), 말해 보아라(行ってみなさい), 언급하다(言及する), 묻다(聞く), 말을 많이 하다(たくさんのお話を話す), 응답하다(応答する), 소개해 보다(자)(紹介してみる(みよう)), 말하고 듣다(話して聞く), 쓰다(書く), 적다(書く), 추리하여 질문하다(推理して質問する), 충고하다(忠告する), 발표하여 보자(発表してみよう), 제안하다(提案する), 보고하다(報告する), 발언하다(発言する), 설교를 듣다(説教を聴く) など。

3) 「에 대하여(e daehayeo)」類 - 사고활동 (思考活動)

궁금하다(気になる), 생각하다(考える), 생각해 보자(考えてみよう), 공부하다(勉強する), 고민하다(悩む), 알다(わかる), 보고 듣다(見たり聞いたりする), 정리하여 보자(まとめてみよう), 생각해 보다(考えてみる), 조사하다(調べる), 알아보다(調べてみる), 떠올려 보다(思い出してみる), 따져 보다(是非をとってみる), 의견을 가지다(意見を持つ), 설명을 만들다(説明を作る), 알 수 없다(わからない), 의견이 여러 가지다(意見が色々ある), 알 수 있다(わかる), 알고 싶다(知りたい), 조사하여 정리하다(調べてまとめる), 조사해 보다(調べてみる), 생각하게 해 주다(思い出させる), 알게 되다(わかるようになる), 학습하다(学習する), 이해하다(理解する), 연구하다(研究する), 비하다(比する), 비판적인 견해를 제시하다(批判的な見解を提示する), 정리해 보자(まとめてみよう), 조사해 보자(調べてみよう), 알아보다(調べる), 관찰하다(観察する), 분석하다(分析する), 살펴보다(調べてみる), 추리하다(推理する), 상상하다(想像する), 학습하다(学習する), 논하다(述べる), 이해하다(理解する), 배웠다(習った), 공부하자(勉強しよう), 아는 것이 없었다(何も知らなかった), 논쟁이 되다(論争になる), 살펴보자(調べてみよう), 비판하다(批判する), 알아보다(調べてみる), 타당한 의견인지 판단한다(妥当な意見か判断する), 의견을 듣다(意見を聞く), 사회의식을 보여주다(社会意識を見せてやる), 생각을 정하다(考えを決める), 잘 모르다(よく知らない), 판단을 내리다(判断を下す), 태도를 취하다(態度をとる), 판단하다(判断する), 살펴보자(調べてみる),

수집하다(収集する), 분석하다(分析する), 점검하다(点検する), 정책을 펴다(政策を広げる), 의견을 듣다(意見を聞く), 의견을 모으다(意見を集める), 조언을 듣다(助言を聞く), 설문지를 돌리다(アンケートを配る), 주장을 논리적으로 펼치다(主張を論理的に広げる), 준비하다(準備する), 공부해 보자(勉強してみよう), 비판해 보자(批判してみよう), 알아두다(知っておく), 쓰다(使う), 안다(抱く), 배우게 되다(習うようになる), 평가하다(評価する), 밝히다(明らかにする), 묘사하다(描写する), 의견을 나누어보다(意見を交わしてみる), 고민하다(悩む), 조사하다(調査する), 여러 종류의 글을 쓸 수 있다(色々な種類の文体が書ける), 논의하다(論議する), 캄캄이다(真っ暗だ), 이해하며 감상하다(理解しながら鑑賞する), 학습할 필요가 있다(学習する必要がある), 알고 있다(知っている), 고려하다(考慮する), 다양한 인상과 판단을 제공한다(多様な印象と判断を提供する), 여러 가지 설이 있다(いろいろな説がある), 다양한 답이 있다(色々な答えがある), 듣다(聞く), 논란이 일다(論難を招く), 다양한 견해가 있다(多様な見解がある), 메모해 두다(メモしておく), 의견이 다르다(意見が違う), 논의가 있었다(議論があった), 신랄한 풍자와 비판이 가해지다(辛辣な風刺と批判が加わる), 토의해 보자(討議してみよう), 알고자 하다(わかろうとする), 협의하다(協議する), 논의하다(論議する), 어떤 느낌을 가지다(なんとなく感じる), 알지 못하다(わからない), 모르다(知らない), 중독증을 논하다(中毒症を述べる), 보다(見る), 평가하며 읽기를 할 수 있다(評価しながら読める), 해석하다(解釈する), 연구가 이루어지다(研究が行われる), 익히다(覚える), 기록하다(記録する), 평가하다(評価する), 눈을 뜨다(目を覚ます), 생각하다(考える), 어떤 판단을 하다(ある判断をする), 검토해 보자(検討してみる), (부정적인) 견해를 서술하다(否定的な見解を述べる), 깨달음을 주다(覚らせ), 생각을 표현하다(考えを表現する), 평가해 보자(評価してみよう), 비평해 보자(批評してみよう), 평가할 수 있다(評価できる), 점검을 하다(点検をする), 의식하다(意識する), 수집하다(収集する), 배우게 되다(習うようになる), 배울 것이다(習うはずだ), 논평하다(論評する), 써 보자(使ってみる), 의견을 나누어보다(意見を話し合ってみる), 눈뜨다(目覚める), 전망하다(展望する), 견해를 밝히다(見解を明かす), 기술 하다(記述する), 분석하다(分析する), 밝혀 제시하다(明かして提示する), 예상하다(予想する), 답을 정해 두다(答えを決めておく), 근거를 제시하다(根拠を提示する), 내다보다(外を眺める), 인식을 가지다(認識を持つ), 파악하다(把握する), 지적하다(指摘する), 개설하다(解説する), 논의하다(論議する), 성찰하다(省察する), 새 말을 만들다(新しい言葉を作る) など

4) 「에 관하여 (e gwanhayeo)」類 - 언어활동 (言語活動)

언급하다(言及する), 말하다(言う), 설명하다(説明する), 적어 놓다(書いておく), 쓰다(書く), 물어보다(聞いてみる), 의견을 교환하다(意見を交換する), 발표되다(発表される) など。

5) 「에 관하여 (e gwanhayeo)」類 - 사고활동 (思考活動)

배우다(習う), 파악하다(把握する), 배우다(学ぶ), 연구하다(研究する), 공부하다(勉強する), 필요한 정보를 찾아보자(必要な情報を調べてみる), 전문적인 강연을 하다(専門的な講演をする), 주관식 문제를 만들자(主観的な問題を作ろう), 요약하다(要約する), 결정을 내려준다(決定を下してやる), 견해를 같이하다(見解を一緒にする), 쓰다(書く) など。

6) 「에 관하여 (e gwanhayeo)」類 - 기타(その他)⁷²

자유롭다(自由だ), 정곡을 찌르다(正鵠を射る), 문외한이다(門外漢だ), 우위를 빼앗기다(優位を見逃す), 심각한 전장이다(深刻な戦場だ), 선택박은 사람 중의 하나다(選ばれた人の中の一人だ。) など。

7) 「에 대한(e daehan)」 - 심리표현 (心理表現)

마음(心), 관심(關心), 효심(孝心), 추억(思い出), 예의(礼儀), 그리움(懐かしさ), 애정(愛情), 욕망(欲望), 감정(感情), 태도(態度), 양갓음(仕返し), 반응(反応), 차별(差別), 편견(偏見), 인상(印象), 감성(感性), 교양(教養), 흥미(興味), 노여움(怒り), 공포(恐怖), 평가(評価), 평(評), 자세(姿勢), 태도(態度), 지식(知識), 무지(無知), 관심(關心), 박해(迫害), 원망(恨み), 사랑(愛), 애정(愛儒), 열정(熱情), 열애(恋愛), 책임감(責任感), 책임(責任), 열등감(劣等感), 친밀감(親密感), 만족감(満足感), 만족도(満足度), 혐오감(嫌悪感), 미련(未練), 불안(不安), 기대(期待), 호기심(好奇心), 자신감(自身感), 오해(誤解), 자부심(自負心), 소질(素質), 두려움(恐れ), 기쁨(裏しい), 인식(認識), 예절(躰), 사연(事由), 경험(経験),

⁷² <에 관하여 (e gwanhayeo) 類のその他の語は、主に「에 관하여 (e gwanhayeo)」類の「話題限定用法」に用いられている語で、その数が少ない。「話題限定用法」に用いられている「에 관하여 (e gwanhayeo) 類」の表現としては、「에 관해서라면 (e gwanhaeseoramyeon、に關してなら)」と「에 관해서만큼은(e daehaeseomankeueun、に關してなら)가、「에 관한 한 (e gwanhan han)、に關する限り」などが挙げられる。

대책(對策), 집중력(集中力), 내성(內省), 대비(備え), 충정(심) (忠誠(心), 기억(記憶), 경험(經驗), 체험(体験), 꿈(夢), 소양(所要), 이미지(イメージ), 경멸(輕蔑), 불신감(不信感), 아쉬움(惜しさ), 갈망(渴望), 동질감(同質感), 부담감(負擔感), 자신감(自身感), 속마음(內面), 질투심(嫉妬心), 수치심(羞恥心), 수치감(羞恥感), 집착심(執着心), 의무(義務), 투자(投資), 포상(褒賞), 대결(對決), 수급권(受給權), 서글픔(むなしさ), 두려움(恐れ), 그리움(思い出), 걱정(心配), 근심(謹慎), 심기(心氣), 심정(心情), 한탄(嘆き), 욕심(欲氣), 염려(念慮), 기쁨(うれしさ), 예감(予感), 보상심리(補償心理), 집착(執着), 회의(會議), 경멸감(輕蔑感), 자책감(自責感), 아쉬움(物足りなさ), 회한의정(悔恨の情), 신앙심(信仰心), 찬양(崇め称え), 희망(希望), 열망(熱望), 예찬(礼賛), 찬미(贊美), 비애(悲哀), 기다림(待ち焦がれ), 동경(憧れ), 외경심(畏敬心), 연민(憐憫), 향수(郷愁), 안타까움(哀れな気持ち), 신뢰함(信賴), 염원(念願), 자부심(自負心), 반성(反省), 존경심(尊敬心), 사랑(愛), 감동(感動), 열등감(劣等感), 전망(展望), 노여움(怒り), 압박감(圧迫感), 믿음(信賴), 감정(感情), 애착(愛着), 각성(覺醒), 신념(信念), 불안(不安), 불만(不滿), 환멸(幻滅), 반감(反感), 침해(侵害), 질책(叱責), 비난(非難), 반항(反抗), 저항의식(抵抗意識), 책임(責任), 반칙(反則), 욕구(欲求), 갈등(葛藤), 의심(疑い), 평가(評価), 서평(書評), 논평(論評), 요청(要請), 반발(反発), 반감(反感), 반동(反動), 횡포(橫暴), 증오(憎惡), 찬성(贊成), 관심(關心), 흥미(興味), 애정(愛情), 오해(誤解), 정서(情緒), 자세(姿勢), 정의(正義), 책임(責任), 금기(禁忌), 도전(挑戰), 찬탄(贊嘆), 투쟁(鬭争) など。

8) 「에 대한(e daehan)」 - 언어표현 (言語表現)

이야기(話), 설명(説明), 해설(解説), 광고(廣告), 속담(諺), 격언(格言), 소문(うわさ), 말하기(言い方), 질문(質問), 경험담(經驗談), 언급(言及), 토의(討議), 토론(討論), 소개(紹介), 진술(陳述), 호칭(呼称), 말(言葉), 풍자(風刺), 우리말(わが言葉), 해명(解明), 소리(音), 질의(質疑), 답변(答弁), 고백(告白), 변명(言い訳), 주장(主張), 의견(意見), 항거(抗拒), 호칭어(呼称語), 노래(歌), 외침(叫び), 시비(是非), 표현(表現) など。

9) 「에 대한(e daehan)」 - 사고표현 (思考表現)

생각(考え), 이해(理解), 인식(認識), 느낌(感じ), 의견(意見), 주장(主張), 견해(見解), 정보(情報), 내용(内容), 책(本), 글(文字), 자료(資料), 까담(訳), 이유(理由), 연구(研究), 연구결과(研究結果), 설문조사(アンケート調査), 근거(根拠),

해결방안(解決法案), 재판(裁判), 규칙(規則), 기준(基準), 교훈(教訓), 지혜(知恵), 관점(觀點), 계획(計畫), 시야(視野), 감상문(感想文), 기사문(記事文), 감상(鑑賞) 해석(解析), 신문기사(新聞記事), 학습과 연구(學習と研究), 묘사(描写), 분별력(分別力), 상식(常識), 자기점검(自己点檢), 교육(教育), 단서(糸口), 깨달음(悟り), 눈뜸(目覚め), 결정(決定), 소양(素養), 통계(統計), 분석(分析), 소감(所感), 답(答え), 대답(返事), 해답(回答), 반론(反論), 발견(発見), 생각(考え), 정보이해(情報理解), 논의(論議), 탐구(探求), 소개문(紹介文), 기사(記事), 묘사(描写), 전기(電氣), 독후감(読後感), 독서(讀書), 기록(記録), 용례(用例), 안내서(案内書), 견문(見聞), 예지(予知), 자각(自覺), 성찰(省察), 내용(内容), 지론(持論), 지식(知識), 사고(思考), 개념(概念), 조사(調査), 이론(理論), 관찰(觀察), 관념(觀念), 사색(思索), 통찰(洞察), 시각(視覚), 고찰(考察), 문제(問題), 안목(眼目), 가설(仮説), 진리(真理), 학습(學習), 학습경험(學習經驗), 의미(意味), 근거(根拠), 답(答え), 답변(答弁), 해답(回答), 대답(返答), 답장(返事), 성찰(省察), 독서방법(讀書方法), 사례(事例), 교육(教育), 시험(試験), 시스템(システム), 발췌(抜粹), 본문(本文), 판단(判断), 비판(批判), 관점(觀點), 반성(反省), 검증(檢証), 가정(過程), 고려(考慮), 소감(所感), 검토(檢討), 고민(悩み), 의논(議論), 반론(反論), 점검(点檢), 재고(在庫), 신념(信念), 집념(執念), 참여의도(参加意図), 회고(回顧), 회상(回想), 의지(意思), 해결(解決), 반응(反応), 찬반론(賛反論), 깨우침(悟り), 분별력(分別力), 낙관론(樂觀論), 궁금증(気がかり), 가치(価値), 조작(操作), 규제(規制), 제한(制限) など。

10) 「에 관한 (e gwanhan)」 - 언어표현 (言語表現)

책(本), 이야기(話), 내용(内容), 그림(絵), 소식(消息), 말(言葉), 의견(意見), 격언(格言), 설명문(説明文), 안내문(案内文), 광고문(廣告文), 소문(うわさ), 토론(討論), 노래(歌), 뉴스(ニュース), 설명(説明), 격언(激減), 물음(疑い), 문제(問題) 항의(抗議), 뉴스(ニュース), 대화(對話), 경고(警告) など。

11) 「에 관한 (e gwanhan)」 - 사고표현 (思考表現)

정보(情報), 글(文字), 책(書物), 일반원리(一般原理), 지식(知識), 내용(内容), 결정(決定), 궁금증(疑い), 문제풀이(問題解け), 문제(問題), 임시조치법(臨時措置法), 논의(議論), 연구(研究), 분석(分析), 실험(實驗), 자료(資料), 기사(記事), 생각(考え), 기록(記録), 지식(知識), 에세이(エッセイ), 수필(主筆), 사고(事故), 견해(見解), 건의문(嫌疑文), 인식(認識), 답(答え), 내용(内容), 이론(理論), 사항

(事項), 원리(原理), 통념(通念), 정서(情緒), 규칙(規則), 협약(協約), 고찰(考察), 이해(理解), 통제규정(統制規定), 진단(診斷), 사건(事件), 설계(設計), 실험(實驗), 증거(証拠) など。

第5章 日・韓後置詞分析

第5章では、後置詞「について」「に関して」「に対して」と、それに対応する「에 대하여(e daehayeo)」類と「에 관하여(e gwanhayeo)」類を用いて、対照分析を行い、各表現の用法について考察する。

1. 研究方法

日・韓後置詞の用法上の差異と特徴を考察する際、両言語の各表現がそれぞれ持っている独自の用法は同じであるか、両言語が後置詞を決めるとき影響を与える成分は同じであるか、両言語の各表現は助詞と同じ用法を持っているのか、また文献に用いられている表現と実際に使われている表現は同じであるか、などの疑問を基に各表現の用法について考察する。考察の方法としては、第3章と第4章の考察の結果に基づいて、まず、両言語の各表現の先行部分と後行部分を中心に、それぞれの各表現の用法を調べた上、日・韓後置詞の用法上の差異について考察する。次に、助詞との置き換えを通して後置詞と助詞との相関関係を考察する。最後に、文献に用いられている表現と実際に使われている表現との差異について、アンケート調査などを行って考察する。

2. 各表現の用法について

2-1 「に対して」と「에 대하여(e daehayeo)」類のみ可能な場合

488) 彼は妻や子どもに対して愛情をもっていた。(心、p. 67)

に (○)

489) 彼は僕に対していつも変わることなく親切だったし、あれこれ面倒をみてくれた。

に (○)

(ノルウェイの森 上、p. 58)

490)社員たちは会社に対して抗議した。(新潮文庫 100 冊)

に (○)

491)彼は仲間に対して圧迫感を抱いている。(新潮文庫 100 冊)

に (○)

492)「私は、田口みやさんに対して、なんら、責任を感じずるようなことはしていません。」

に (○)

(新潮文庫 100 冊)

493)娘はぞろりと伊川治を見上げ見下ろして、「ずいぶんでかい口きくわね」

「きみこそ客に対して無礼だと思いがね」(男と女のあいだには上、p.69)

に (○)

494)「自分の中にも偏見があるかも知れない。しかし、朝鮮人に対して差別されているか

に (○)

わいそうな人たち、という意識ではいけないと思う。そんな意識では偏見はなくな
らない」と赤羽は意見を言った。(韓国・韓国人、 p.58)

495)「つまり観客や読者に対してもある緊張感がないと、成り立たないところがある……」

に (○)

(笑談笑発、 p.87)

496)큰형이나 아버지에 대해 경외감을 가질 수밖에 없었습니다. (창원대신문, 2001. 1. 8)

에게 (ege、○)

一番上の兄や父に対して畏敬の念を持たざる得なかったです。

に (○)

(昌原大の新聞. 2001. 1. 8)

497) 남자는 타인이 자신에 대해서 비판하고 충고하는 것을 좋아하지 않는다. (作例)

에게 (ege、○)

男の人は他人が自分に対して批判し忠告することを好まない。

に (○)

498)기업가가 근로자에게 고마워하는 마음, 근로자가 기업에 대해서 감사하는 마음이

에 (e、○)

줄어들고, 또 불편을 참는 마음이 줄어들고…(조선일보, 2003. 6. 9)

企業家が勤労者にありがたいと思う気持ち、勤労者が企業に対して感謝している気持

に (○)

ちが少なくなり、また不便を我慢する気持ちが少なくなり…(朝鮮日報. 2003. 6. 9)

499) 엘리베이터 속에서 우리들은 벌써 어머니에 대해 무관심했다. (作例)

에게 (ege、○)

エレベーターの中にいるときから私たちは既に母に対して無関心だった。

に (○)

488)～499)は、後行部分に「愛着をもつ」「親切だ」「抗議する」「不賛成だ」「圧迫感を抱く」「責任を感じる」無礼だ」「差別する」「緊張感がある」「경외감을 가지다(畏敬の念を持つ)」「비판하다(批判する)」「감사하다(感謝する)」「무관심하다(無関心だ)」のような心理活動を表す語と共起して、先行部分が直接態度や感情が向けられる相手になる。つまり、先行部分が「態度と感情の対象」を表し、488)～499)の例いずれも助詞と置き換えられる。先行部分に「子ども」「僕」「仲間」「田口みやさん」「客」「朝鮮人」「読者」「아버지(お父さん)」のような人がくる場合、日本語は助詞「に」と、韓国語は助詞「에게(ege、に)」と置き換えられ、「기업(企業)」のような人に準ずるものがくる場合、日本語は助詞「に」と、韓国語は助詞「에(e、に)」と置き換えられる。つまり、日本語の場合、後行部分に心理活動を表す語がきて、先行部分がそれが直接向けられる「態度や感情の相手」になるとき、先行部分に人と人に準じるものがくる場合は「に対して」と助詞「に」が共に用いられやすい。韓国語の場合、日本語と同じように「에 대하여(e daehayeo)」類と助詞が共に用いられやすいが、先行部分にくる語の性質によって助詞が異なる。例えば、先行部分に人がくる場合、助詞「에게(e、に)」が、人に準じるものがくる場合助詞「에(e、に)」が用いられる。

500) 「きみは甘え過ぎているんだ。人生に対しても、ぼくに対しても」

(男と女のあいだには、 p. 79)

501)前にも話した通り奥さんは私のこの所置に対して始めは不賛成だったのです。

(心、 p. 87)

502) 이 자리에서 “학문탐구 기회를 축소시키고 선후배 사이를 멀게 만드는 학부제에 대해 반대한다.” 는 입장을 밝혔다. (창원대신문, 2001. 1. 8)

この場で「学問の探求の機会を縮め、先輩と後輩の仲を悪くする学部制に対して反

対する」という立場を明らかにさせた。(昌原大新聞. 2001. 1. 8)

503) 사실 재벌그룹들 중에서 현재의 IMF에 대해서 자신들이 책임이 있다고 생각하는 기업은 별로 없는 것 같다.(한국일보. 2002. 7. 9)

実は、財閥のグループの中で現在のIMFに対して自分たちに責任があると思っている企業はあまりなさそうだ。(韓国日報. 2002. 7. 9)

500)~503) は、後行部分に「甘えすぎる」「不賛成だ」「反対する」「責任がある」のような心理活動を表す語がきて、先行部分が態度の対象になる。500) の「人生」や 501) の「この処置」は、「人生について話す」や「私のこの処置について奥さんと話す」のように「話す」のような発話活動を表す動詞がきたら「について」も用いられる。また 502) や 503) も「학부제에 대해 이야기한다(学部制について話す)」や「현재의 IMF에 대해서 생각하다(現在のIMFについて考える)」のように変えると、「학부제(学部制)」と「IMF」は「態度の対象」ではなく、「話題」になる。つまり、「人生」、「학부제(学部制)」、「IMF」は後行部分に心理活動を表す語と共起したら「態度の対象」になるが、後行部分に知的行為を表す語がきたら「話題」になる。日本語の場合、500)~503) いずれも助詞「に」と置き換えられる。韓国語の場合、501) と 503) は助詞「에(e、に)」と置き換えられるが、502) は助詞「에(e、に)」と「을(u1)」共に置き換え可能である。また 500) は先行部分が「僕」のような人の場合は助詞「에게(ege、に)」と置き換えられるが、「人生」の場合は助詞「에(e、に)」を用いると不自然である。「に対して」と「に」、「에 대하여(e daehayeo)」類と助詞「에(e、に)」と「을(u1)」、特に「に対して」の意味で用いられている「에(e、に)」と「을(u1)」の関係などについては、それぞれの用法を明らかに考察してから比較したほうがいいと思われるので、今後の課題としておく。

以上の 488)~503) は、塚本(1990)⁷³の指摘通り、「に対して」「에 대하여(e daehayeo)」類は元の動詞「対する」と「대(對)하다(daehada)」の原義「向か

⁷³ 塚本秀樹(1990)「日本語と朝鮮語における複合格助詞について」、p. 646~657参照

いあい」「応じる」を受け継いだ例である。すなわち「に対して」や「에 대하여(e daehayeo)」類は、対象(相手)への態度(向かいあい)がはっきり示される場合に共に使えると言える。つまり、後行部分に心理活動を表す語がきて、先行部分が「態度の対象及び相手」になる場合は、「に対して」と「에 대하여(e daehayeo)」類のみ用いられる。また「에 대하여(e daehayeo)」類は、「に対して」と「について」両方の意味に用いられるので、「態度の対象及び相手」用法や「話題」の用法を共に持っているが、488)~503)の場合は「に対して」の意味のみ可能である。ようするに「に対して」の意味として使われる場合は「에 대하여(e daehayeo)」類のみ用いられる。この場合は後行部分によって後置詞が決まると言える。

504) 土井委員長の「消費税を廃止するお考えはありませんか」という質問に対して海部首相は「その考えはありません」と答えた。(作例)

505) ある小学校の校長先生は先生たちに「教師が生徒の質問に対して『はい』『いいえ』」の形で答える」よう指導した。(作例)

506) 용의자가 경찰의 심문에 대해서 대답했다. (塚本、1990)⁷⁴
容疑者が警察の審問に対して答えた。

507) 그는 이번 협상결과를 ‘실패’라 규정한 언론보도에 대해 “협상 내용을 자세히 몰라서 생긴 일로, 오해가 생겼다고 생각한다.” 며 “국민 전체 특히 어민을 위해서 해명해야겠다.” 고 말문을 열었다. (문화신문. 1999. 5. 13)

彼は今度の協商の結果を「失敗」と規定した言論の報道に対して「協商の内容が詳しく分からないために起きたことで、誤解が生じたと思われる。」また「国民全体特に漁民のために解明をするべきだ」と言い出した。(文化新聞. 1999. 5. 13)

504) ~507)は、後行部分に「答える」「言い出す」のような言語活動などの知的行為を表す語がきて、先行部分が「態度の対象」になる。「答える」「言い出す」などの語はその先行部分に「話題」を表す語をとると考えられるが、どうして「態

⁷⁴ 塚本秀樹(1990)「日本語と朝鮮語における複合格助詞について」、p. 649参照

度の対象」になっているのだろうか。それは例えば、504)は「消費税を廃止するお考えはありますか」という質問に対して、「その考えはありません」といったように、文の中に質問に対する答えが現われており、507)も、「『失敗』と規定した言論の報道」に対して「誤解が生じたと思われる」のような、対象に対する態度が文の中にはっきりと現われている。また 505)は「生徒の質問」に対して「はい」か「いいえ」といった簡潔な答えが要求され、506)は警察の審問に対して容疑者は罪を認めるか認めないかという簡潔な答えが予想される。504)～507)は、後行部分によって先行部分に「対象」と「話題」どちらも取れる語がきても、「に対して」を用いると先行部分にかなり具体的な内容がきて「態度の対象」になる。つまり、「に対して」と「에 대하여(e daehayeo)」類は、後行部分に知的行為を表す語がきても、先行部分を「態度の対象」として表し、先行部分にくる内容もかなり具体的な内容となる。この場合は「に対して」と「에 대하여(e daehayeo)」類のみ用いられる。

508) a. あなたこの計画に対してどう思いますか。

B. ウーン、ちょっと賛成できませんね。(坂井、1992)⁷⁵

509) a. あなたはこの計画についてどう思いますか。

b. ハア、時期はよいと思いますが、人数がちょっと足りませんね。(坂井、1992)⁷⁶

以上の例は、後行部分に「思う」のような思考活動を表す語がきて、先行部分が508)は「態度の対象」に、509)は「話題」になる。ここで「話題」というのは、話題の種類やトピックで、「具体的な話題」と「包括的な話題」に分けられる。508)は「この計画」という「具体的な話題」に属する。508)は「に対して」が用いられて、「この計画」に対して反対か賛成かという対象への態度を表しており、509)は「について」が用いられて、「この計画」について自分の意見を丹念に述べている。坂井(1992)は、508)と509)の例で、ストレートな応答を要求する場合は「に対して」が、曖昧で婉曲的な応答を要求する場合は「について」が用いられていると説

⁷⁵ 坂井厚子(1992)「『について』『に対して』の意味・用法をめぐって」、p. 148参照

⁷⁶ 坂井厚子(1992)「『について』『に対して』の意味・用法をめぐって」、p. 150参照

明している。また 坂井 (1992) は、曖昧で婉曲的な表現の好まれる日本語では、ストレートな応答を要求する「に対して」よりも、曖昧で婉曲的な応答を要求する場合「について」の方がよく使われていると述べている。しかし、例えば 509) の b の会話において、「費用はこれで十分だと思いますが、期間はもう少し短くてもよいのではないのでしょうか」という例も考えられる。だとすれば、これは曖昧で婉曲的な表現ではなく、自分が思っている意見や見解をきちんきちん述べている場合である。したがって、「に対して」は「態度の対象」を表すとき用いられやすく、「について」は「話題」を表すとき用いられやすいと説明したほうがいいのではないだろうか。

510) 盧泰愚韓国大頭領がこのほど発表した南北統一案に対して米ソ双方の専門家が「現実的なプラン」と評価している。(朝日新聞. 1988. 11. 11)

511) 土井委員長は新事務局長の推薦候補に指名したことについて「結構なことだ」と思う」と評価するとともに…。(読売新聞. 1991. 8. 16)

510) は、後行部分に「評価する」のような心的態度を表す語がきて、先行部分が「態度の対象」になる。この場合は「に対して」のみ用いられる。511) は後行部分に「思う」のような思考活動を表す語がきて、先行部分が「話題」になる。この場合は「に対して」とは言い換えられるが、「に関して」とは言い換えにくい。511) は「に対して」と言い換えられるが、510) は「について」と言い換えられない。511) の「結構なことだと思う」のように文中に「対象」や「話題」に対する内容が現われている場合、「について」「に対して」いずれも用いられやすいが、その意味は異なる。まず「について」が用いられると、「新事務局長の推薦候補に指名したこと」という「具体的な話題」について自分の意見や見解を明確に表すという意味になり、「に対して」が用いられると、「新事務局長の推薦候補に指名したこと」という具体的な対象(内容)に対して『結構なことだ』と思うのように対象への態度の意味として取られる。510) は対象への態度が明確に現われるときは「について」が用いられにくい、「盧泰愚韓国大頭領がこのほど発表した南北統一案について米ソ双方の専門家が評価している」のように変えたら「について」が自然に用いら

れる。韓国語の場合、510)511)いずれも「에 대하여(e daehayeo)」類のみ用いられる。

つまり、「について」は後行部分に曖昧で婉曲的な表現が用いられたとき表れやすいつま、という坂井(1992)の指摘は、後置詞の用法を考察するとき後行部分だけで判断するのは無理があると思うし、日本人が曖昧で婉曲的な表現を好むので、「について」がよく使われるというのはあまりにも主観的である。これでは「について」と「に対して」の使い分けがうまく説明できないと言える。

以上「に対して」と「에 대하여(e daehayeo)」類のみ可能な場合を考察した結果は次の通りである。

- 1) まず、後行部分に心理活動を表す語がきて、先行部分が対象に直接向けられる「態度や感情の相手」になるときは、「に対して」と「에 대하여(e daehayeo)」類のみ用いられる。
- 2) 次に、後行部分に「評価する」という心理表現を表す語がきて、先行部分に「具体的話題や内容」を表す語がくる場合、日本語は「に対して」「について」両方用いられるが、「に対して」は「態度の対象」を、「について」は「話題」を表す。韓国語は「에 대하여(e daehayeo)」類のみ用いられる。
- 3) 最後に、後行部分に発話活動や思考活動などの知的行為を表す語がきて、先行部分が「具体的な話題や内容」を表す語がくる場合、「に対して」は「態度の対象」になり、「について」は「話題」になる。韓国語は「에 대하여(e daehayeo)」類のみ用いられる。
- 4) 「に対して」と「에 대하여(e daehayeo)」類のみ可能な場合は、両方ともほぼ同じように動詞「対する」と「對하다(daehada)」と関わりの深い「態度や感情の相手」用法や「態度の対象」用法、つまり「に対して」と「에 대하여(e daehayeo)」類のみ用いられる独自の用法であると言える。

512) そう言えば、麻里子婦人は伊川治の書いたコピーに関しては、いつも辛らつだつ
(男と女のあいだには上、p.77)

513) 이런 영화들에 대해서 나처럼 실랄하거나 냉소적이지는 않았다.

(조선일보.1999.10.28)

このような映画に対して私のように辛らつだったり冷笑的ではなかった。

(朝鮮日報. 1999. 10. 28)

512)は後行部分に「辛らつだ」という心的態度(評価)を表す語がきて、先行部分が、「話題の限定」になる。513)は、後行部分に「실랄하거나 냉소적이지는 않았다(辛らつでだったり冷笑的ではなかった)」という心的態度(評価)を表す語がきて先行部分が、「態度の対象」になる。しかし、例えば512)は、「麻里子婦人は伊川治の書いたコピーに関して、いつも辛らつだった。」のように助詞「は」をとってしまうと「に対して」が自然で、「に関して」は不自然である。これは「に関して」に補助詞「は」がついて「話題の限定」を表すからである。513)は、「이런 영화들에 대해서는 나처럼 실랄하거나 냉소적이지는 않았다.(このような映画に関しては私のように辛らつだったり冷笑的ではなかった)」のように、「에 대해서 (e daehaeseo)」に補助詞「는(neun)」が付くと「に関しては」が用いられやすく、補助詞「는(neun)」をとってしまうと「に対して」が用いられやすい。つまり、「に関して」は心的態度を表す語とは共起しにくい、補助詞「は」がつくと共起しやすくなる。この場合「に関して」は後行部分に心的態度(評価)を表す語と共起して、先行部分が「話題の限定」になると言える。韓国語の場合、512) 513) いずれも「에 대하여 (e daehayeo)」類が用いられるが、「에 대해서는」のように補助詞「는(neun)」が付くと「話題の限定」になる。「話題の限定」用法については「に関して」の用法を調べるとき詳しく考察する。

2-2 「について」「に対して」と「에 대하여 (e daehayeo)」類

ここでは「について」「に対して」と「에 대하여 (e daehayeo)」類との使い分けについて考察する。

514) 斉藤さんは政治家というもの について、なんとなくマルマルと肥った顔の男を想像

に対して (○)

していた。(作例)

사이트씨는 정치가에 대해서 웬지 둥글둥글 살찐 얼굴의 남자를 상상하고 있었다.

515)私はこれまで大学教授というもの について、なんとなく長身で四角い顔でいつも地
に対して (○)

味な服装をして世俗的な物事には全く興味を示さないといったイメージを持っていた。
(作例)

나는 여태까지 대학교수에 대해서 웬지 키가 크고 모난 얼굴로, 언제나 수수한
복장을 하고 세속적인 일에는 전혀 관심을 보이지 않는 이미지를 가지고 있었다.

516)자신의 진로에 대해서 앞으로 어떻게 해야 할지 몰라 불안해 했다. (作例)

自分の進路 に対してこれから何をすべきかと不安になった。
について (○)

514) ~516) は、後行部分に「想像する」「イメージを持つ」「不安になる」のような心理活動を表す語がきて、先行部分が「政治家」「大学教授」のような相手や「自分の進路」のような具体的な内容がくる場合、「について」は「説明の対象」に、「に対して」は「態度(反応)の対象」になる。つまり、後行部分に心理活動を表す語の中で評価を表す語がくる場合、「について」「に対して」共に用いられやすいが、先行部分が相手や具体的な内容が来る場合「について」は「説明の対象」になり、「に対して」は「態度の対象」になる。この場合、「에 대하여 (e daeha yeo)」類は用いられやすいが、「에 관하여 (e gwanhayeo)」類は用いられにくい。また評価を表す語は、この他に「興味を持つ」「印象を持つ」「批判する」「関心を持つ」などが挙げられる。

517)私はこれまで塩釜 に対して 大変よいイメージを持っていた。(作例)

について (?)

나는 지금까지 塩釜에 대해 매우 좋은 느낌을 가지고 있었다.

517)は「に対して」は自然であるが、「について」はややおかしい。後行部分に「イメージを持つ」がきている点では 515)と同じではあるが、515)は先行部分の「大学教授」が「説明」や「態度」の対象両方の意味に取られる。しかし、517)は、

先行部分の「塩釜」が文の中に「大変よい」という評価、すなわち態度を表す表現が用いられているため「態度の対象」になっている。つまり「に対して」と「について」は共に態度や評価を表す語と共起しやすいが、文の中に態度や評価を表す表現が明確に出ている場合は「に対して」が用いられやすく、「について」は用いられにくいと言える。韓国語では、この場合は「에 대하여 (e daehayeo)」類のみ用いられ、相手や具体的な内容を「態度の対象」として表す「に対して」と、相手や具体的な内容を「説明の対象」として表す「について」の両方の意味に用いられやすい。次に、先行部分が「話題」を表す「について」と「に関して」との使い分けを考察し、「에 대하여 (e daehayeo)」類と「에 관하여 (e gwanhayeo)」類とはどのような関わりを持っているかを調べてみたい。

2 - 3 「について」「に関して」と「에 대하여 (e daehayeo)」類「에 관하여 (e gwanhayeo)」類

本や新聞などで用例をとった結果、「について」の方が「に関して」より圧倒的に多く用いられている。また、「에 대하여 (e daehayeo)」類も「에 관하여 (e gwanhayeo)」類より圧倒的に多く用いられている。ここでは、「に関して」は「について」に、「에 관하여 (e gwanhayeo)」類は「에 대하여 (e daehayeo)」類に代用されるのか、また全く同じ意味として使われているのか、などの疑問を基に実際の用例を用いてこれらの表現の使い分けについて調べてみる。

518) 人が命について考える機会のうち最も劇的なのは、自分の死の影をみたときであろう。

(朝日新聞. 1989. 10. 7)

519) 私は父の健康について母とよく話し合った。(心. p. 97)

520) ドリトル先生を中心に、おなじみの動物たちが「人間とクルマ」「社会とクルマ」「地球とクルマ」について語り合うストーリー。(坂井、1992)⁷⁷

⁷⁷ 坂井厚子(1992)「『について』『に対して』の意味・用法をめぐって」、p. 142参照

521)それから、アスパラガスを使った料理について考えた。チーズ巻きと、てんぷらと、ベーコン巻きと、おひたしと。(坂井、1992)⁷⁸

522)チンパンジーでも人間でも、おとなは、へびに関して過去に「かまれた」とか、「かまれた人の話を聞いた」など不愉快な経験をしてきた。(知的好奇心、p. 79)

523)ロバートソンという人は、ジョンという一人の乳児に関して、こんな報告をしている。ジョンが生後八週目のとき、父親が病気になってしまった。(知的好奇心、p. 42)

524)우리는 서로 자신에 대해서 이야기를 했다. 문희는 나보다 다섯 달 위였고, 강원도 출신이었다. (作例)

私たちはお互いに自分のことについて話をした。ムンヒは私より五つ上で、江原道出身だった。(作例)

525) 「둘째는, 만일 내 아내가 자네 아이를 배었다 하더라도 그것은 내가 말 없이 호적에 넣을 테니 그 아이에 관해서 자네가 일생에 아무 말도 아니 할 것을 약속해야 하네.」(동아일보.5.28)

「二つ目は、もし僕の家内があなたの子供を身ごもったとしてもそれは私が黙って戸籍に入れるからその子供についてあなたが一生何も言わないことを約束しなければならない。」(ドンア日報. 5. 28)

526)미야자키 감독의 철저한 일 스타일에 관해 스즈키 프로듀서가 예를 든다. 요즈음 미야자키 감독은 자신의 애니메이트 37 명에게 1 주일에 단 5 초분량의 그림 이상 원하지 않는다. 대신 최고여야 한다. 이것이 안되면 나를 떠나라. (조선일보.2003.6.28)

宮崎監督の徹底的な仕事のスタイルについて鈴木プロが例をあげる。この頃、宮崎監督は自分のアニメイト 37 人に一週間にたった 5 秒分の絵以上を望まない。その代わり最高でなければならない。これが出来なければ私のところを去れ。

(朝鮮日報. 2003. 6. 28)

518) ~526) は、後行部分に「考える」「話し合う」「語り合う」「報告する」「言う」「설명하다(説明する)」「예를 들다(例をあげる)」などの思考・発話などの知的行為を表す語がきて、先行部分が「話題」になる。この場合は「について」「に関して」と「에 대하여(e daehayeo)」類、「에 관하여(e gwanhayeo)」類い

⁷⁸ 坂井厚子(1992)「『について』『に対して』の意味・用法をめぐって」、p. 142参照

ずれも用いられる。まず、518) は、先行部分の「命」は「について」と「に関して」共に用いられる「話題」であるが、後行部分の「考える」は「について」とは共起しやすいが、「に関して」とは共起しにくい。例えば、「考える」は知識や感覚などを元に、ある事柄を明確にしたり、判断したりする知的行為を表す語であり、また結論を出そうとする目的意識が強い語なので、対象との関係が密接である「について」と共起しやすいと言える。坂井(1992)⁷⁹は、「研究する」「調べる」などの動詞は行為者と対象物と積極的に関わりをもとうとするという意味を含んでいるため、行為者と対象物の関係は密接で、これは「について」が動詞「つく」の意味的影響を多少うけていることを示しているためではないかと指摘している。坂井(1992)の指摘通り、「考える」も「研究する」「調べる」と同じように対象との関係が密接なので「について」が用いられやすいと言える。519) は「父の健康」について心配そうに話し合っているので、「について」は用いられやすいが、「周辺のこと」や「関わり」の意味を持っている「に関して」は用いられにくい。520) と521) は、「話題」の性質が具体的であったり、また話題の内容が文の中に具体的に出ているので、「について」は用いられやすいが、「に関して」は用いられにくい。例えば、520) は、「話題」が「人間とクルマ」「社会とクルマ」「地球とクルマ」のように細かく述べられており、521) は、先行部分に「アスパラガスを使った料理」という具体的な「話題」がきて、「話題」の内容が「チーズ巻き」「てんぷら」「ベーコン巻き」「おひたし」のように文の中に料理名が詳しく出ている。524) は自分について話しているので、「について」は用いられやすいが、「に関して」は用いられにくい。また522)・523)・525)・526) は、先行部分に関わる周辺的事項が述べられているので、「に関して」が用いられやすい。522) は「へびにかまれた」など、へびに関わる事柄などが書かれており、523) は、ジョンという幼児に関わる状況などが書かれている。525) は子供の出生に関わる秘密などが書かれており、526) は、宮崎監督の徹底的な仕事のスタイルに関するエピソードや情報などが書かれている。

⁷⁹ 坂井厚子(1992) 「『について』『に対して』の意味・用法をめぐって」、p. 145参照

以上から、後行部分に発話活動や思考活動などの知的行為を表す語がきて、先行部分が「話題」になる場合、「について」「に関して」共に用いられやすいが、具体的な話題や文の中に話題の内容が具体的に出ている場合は「について」が用いられやすく、対象の周辺的な事柄や状況などを表す場合には「に関して」が用いられやすいと言える。しかし、「에 대하여 (e daehayeo)」類と「에 관하여 (e gwanhayeo)」類は、「について」は「具体的な事柄」に、「に関して」は「周辺的な事柄」に用いられやすいというふうには使い分けできない。518) ~526) の中で、520) と 521) のように具体的な「話題」がきて、「話題」の内容が文の中に出ている場合は、「에 대하여 (e daehayeo)」類は自然であるが、「에 관하여 (e gwanhayeo)」類は不自然である。そのほかは「에 대하여 (e daehayeo)」類と「에 관하여 (e gwanhayeo)」類共に用いられやすい。韓国語の場合、「에 대하여 (e daehayeo)」類と「에 관하여 (e gwanhayeo)」類は、元の動詞「對하다 (daehada)」と「關하다 (gwanhada)」との繋がりをもつ表現であるが、「について」「に関して」のように細かく使い分けられていない。「에 대하여 (e daehayeo)」類と「에 관하여 (e gwanhayeo)」類は、前にも触れたように文献の用例では、「에 대하여 (e daehayeo)」類が圧倒的に多く用いられているが、日本語の例文を訳したり、韓国語の例文をお互いに置き換える場合、「에 대하여 (e daehayeo)」類「에 관하여 (e gwanhayeo)」類は殆んど同じく使えるので区別がつかない。

527) また消毒、殺菌の過程で生じるトリハロメタンという発がん性物質 について 解明
 に関して (*)

し、家庭で出来る防ぎ方を伝える。(朝日新聞、1988. 11. 13)

또, 소독. 살균과정에서 생기는 트리하로메탄이라는 발암성 물질 에 대해 해명
 에 관해 (*)

하고, 가정에서 할 수 있는 예방법을 전한다.

528) 人間 존재에 대한 해명 (高, 독서, p. 187)

에 관한 (*)

人間存在についての解明 (高, 読書, p. 187)

に関する (*)

527)と528)は後行部分に「解明する」と「解明」のような知的行為を表す語がきて、先行部分が「対象」になる。この場合は「について」と「에 대하여(e daehayeo)」類、「에 대한(e daehan)」と「についての」が用いられやすく、「に関して」と「에 관하여 (e gwanhayeo)」類、「에 관한 (e gwanhan)」と「に関する」は用いられにくい。「解明する」と「解明」は、それぞれの先行部分も「トリハロメタンという発がん性物質」と「인간존재 (人間存在)」のような「具体的な話題」がくる。「解明する」と「解明」は対象に密着してその理由や原因などを明らかにするニュアンスを持つため、いわゆる対象との結びつきが強いので、「について」と「についての」が用いられやすく、「関係する」または「関わりを持つ」というニュアンスを持つ「に関して」と「に関する」は用いられにくい。韓国語の場合、「에 대하여(e daehayeo)」類、「에 대한(e daehan)」が用いられやすく、「에 관하여 (e gwanhayeo)」類「에 관한 (e gwanhan)」は用いられにくい。つまり、「解明する」「解明」のような話題との結びつきが強い語⁸⁰は、「について」と「에 대하여(e daehayeo)」類のみ用いられやすいと言える。この場合は、後行部分によって後置詞が決められると言える。

529) 너희들 한국의 미래 에 대해 생각한 적 있니? (作例)

에 관해 (○)

あなたたち、韓国の未来 について 考えたことある?

に関して(*)

530) 나는 김씨의 의견 에 대해 내 감상을 말했다. (作例)

에 관해 (○)

私は金さんの意見 について 自分の感想を述べた。

に関して(○)

⁸⁰「解明する」は先行部分を明らかにするという意味を持つ語であり、「を」格と置き換えられる。従って先行部分と後行部分との結びつきが強い語であると言える。「解明」も同じ性質を持つと言える。

529)と530)は 後行部分 に「考える」「感想を述べる」のような思考活動や言語活動を表す動詞がきて、先行部分が「話題」になる。529)は「に関して」が用いられにくく、530)は「に関して」が用いられやすいのに対し、「에 대하여(e daehayeo)」類「에 관하여 (e gwanhayeo)」類は、529) 530) いずれも用いられやすい。

つまり、後行部分に言語活動や思考活動を表す動詞がきて、529)のように後行部分の「考える」と先行部分の「韓国の未来」が直接結び付く場合は「について」が用いられやすく、「韓国の未来に関していくつかの問題点を考える」のように変えれば、「に関して」が用いられやすくなるのではなかろうか。対象(話題)と動詞との結びつきが強くなるほど「について」が用いられやすく、結びつきが弱くなるほど「に関して」が用いられやすいと言える。次に、「에 대하여(e daehayeo)」類と「에 관하여 (e gwanhayeo)」類は用法上の差異がないのか次の用例を用いて調べる。

531) 私が書いた『留学』について その概要を説明したい。

に関して (○)

(現代人の心をさぐる、 p. 87)

내가 썼던 『유학』 에 대해서 그 개요를 설명하고 싶다.

에 관해서 (○)

532) 김교수가 한·일 관계의 문제점에 대해서 논했다. (塚本、1990)⁸¹

에 관해서 (○)

金教授が日・韓関係の問題点 について 論じた。

に関して (○)

531) と532) は、 後行部分 に「説明する」「論じる」のような知的行為を表す語がきて、先行部分が「話題」になる。この場合は、「に関して」と「에 관하여 (e gwanhayeo)」類が用いられやすい。後行部分 に527)の「解明する」より、話題をやや広くとらえる「説明する」「論じる」のような語がくる場合、「について」も「に関して」共に用いられやすい傾向がある。この場合は、「에 대하여(e daehayeo)」類と「에 관하여 (e gwanhayeo)」類共に用いられやすくなる。つまり、「에

⁸¹ 塚本秀樹(1990)「日本語と朝鮮語における複合格助詞について」、p. 649参照

대하여(e daehayeo)」類と「에 관하여 (e gwanhayeo)」類は、先行部分と動詞との結びつきが強いかわいより、先行部分の「話題性」、すなわち話題として取り上げる側面が多いか少ないかによって、その使い分けが違ってくると思われる。次に、「에 관하여 (e gwanhayeo)」類についてより詳しく調べる。

533) 彼は川端文学 について 研究している。(作例)

に関して (○)

그는 川端문학 에 관해서 연구하고 있다.

에 대해서(○)

534) 新製品について店員に質問する。(話し言葉の技術、p. 87)

に関して (○)

신제품에 대해 점원에게 질문하다.

에 관해(○)

535) 이것은 유교사상 에 관해서 쓴 글이다.(作例)

에 대해서(○)

これは儒教思想 について 書いたものだ。

に関して (○)

533)～535) は、後行部分に「研究する」「質問する」「쓰다(書く)」のような知的行為を表す語がきて、先行部分が「話題」になる。この場合は、531)・532)と同じように「について」「に関して」、「에 대하여(e daehayeo)」類「에 관하여 (e gwanhayeo)」類が共に用いられやすくなっている。すなわち、後行部分に先行部分の「話題」をやや広くとらえる性質を持つ語がくる場合、「について」「に関して」、「에 대하여(e daehayeo)」類「에 관하여 (e gwanhayeo)」類が共に用いられやすいと言える。つまり、「について」と「에 대하여(e daehayeo)」類は、「具体的な話題」に、「に関して」と「에 관하여 (e gwanhayeo)」類は「包括的な話題」に用いられやすいと言える。

以上の例から「について」と「に関して」は、後行部分と先行部分との結びつきが強いかわい、または後行部分と先行部分の結びつきの弱い語がきて、先行部分

が「話題」になる場合、文中に出ている話題の内容によって後置詞が決められると言える。例えば、「話題の内容」が具体的であれば「について」が、周縁的であれば「に関して」が用いられやすい。しかし、「에 대하여(e daehayeo)」類と「에 관하여 (e gwanhayeo)」類の場合、「에 대하여(e daehayeo)」類は「について」と大体似ているが、「에 관하여 (e gwanhayeo)」類は異なる。つまり、後行部分と先行部分の結びつきが強いか弱いか、または文中に出ている「話題」の内容が具体的か周縁的かよりは、後行部分に知的行為を表す語がきて、先行部分が「話題」になる場合、「話題」の性質によって後置詞が決められると言える。例えば、「具体的話題」であれば「에 대하여(e daehayeo)」類が、「包括的な話題」であれば「에 관하여 (e gwanhayeo)」類が用いられやすい。

2-4 助詞「을(ul)/ 를 (reul)」と「を」格

ここでは、助詞「을(ul)/ 를 (reul)」と「を」格との置き換えを通じて「에 대하여(e daehayeo)」類「에 관하여 (e gwanhayeo)」類と、「について」「に関して」の差異について考察する。

536) 아버지의 병명을 묻다. (○)

父の病名を聞く。(○)

537) 아버지의 병명에 대해서 묻다. (○)

父の病名について聞く。(○)

538) 아버지의 병명에 관해서 묻다. (*)

父の病名に関して聞く。(*)

536) ~538) は、父の病名を知らないので聞いている場合である。この場合、「病名」は「聞く」の直接的な対象になる。「에 대하여(e daehayeo)」類は用いられやすいが、「에 관하여 (e gwanhayeo)」類は用いられにくい。もし病名と関連したことなど、例えば、誰がつけた名前なのか、どのぐらい生きることができるのかなど「話題」として広く取られる場合であるなら、「에 관하여 (e gwanhayeo)」も用いられやすくなると言える。日本語の場合、「を」格と「について」は自

然であるが、「に関して」は不自然である。それは、後行部分に「聞く」という言語活動を表す語がきて、先行部分が「を」格は「対象」に、「について」は「話題」になる。つまり、対象に直接関わる「を」格と「について」は自然であるが、関わりの意味を持つ「に関して」は不自然である。例えば、「父の病名に関していろいろ聞いた」にすれば「に関して」も用いられやすくなるのではなかろうか。

539) 좋아하는 사람에 대하여 말해봅시다. (말듣2-2, p. 10)

에 관하여(○)

을(○)

好きな人について話してみましよう。(話聞2-2, p. 10)

に関して(△)

を(*)

540) 내가 좋아하는 사람에 대하여 자세하게 말하여 봅시다.

에 관하여(*)

을(○) (말듣2-2, p. 11)

自分が好きな人について詳しく話してみましよう。(話聞2-2, p. 11)

に関して(△)

を(*)

541) 내가 잘 아는 동물이나 식물에 대하여 듣는 이가 알기 쉽게 말하여 봅시다.

에 관하여(*)

을(○)

(말듣2-2, p. 12)

私がよく知っている動物や植物について相手に分かりやすく話してみましよう。

に関して(△)

を(*)

(話聞2-2, p. 12)

529) ~541) は、後行部分に「話す」のような言語活動を表す語がきて、先行部分が「話題」になる。韓国語の場合539) ~541)いずれも助詞「을(u1)」と置き換えられるが、日本語の場合は、助詞「を」格とは置き換え不可能である。その理由は、後行成分にある。例えば、539)は、「好きな人について話す」は自然であるが、

「好きな人を話す」は不自然である。つまり、「話す」は「について」とは共起しやすいが「を」格とは共起しにくいと言える。539)の「好きな人について話す」は、先行成分についていろいろな角度から説明するという意味で、「どんな性格なのか」「好きな食べ物は何か」「趣味は何か」などの話題として挙げられるのがいくつか存在する。この場合は「에 관하여 (e gwanhayeo)」類も用いられやすい。しかし、540)と541)は「助詞「을(u1)」と「에 대하여(e daehayeo)」類は用いられやすいが、「에 관하여 (e gwanhayeo)」類は用いられにくい。540)の「自分の好きな」と、541)の「私がよく知っている」という限定修飾句が来る場合は、後置詞「에 관하여 (e gwanhayeo)」類よりは、「에 대하여(e daehayeo)」類が用いられやすく、「에 대하여(e daehayeo)」類よりは、助詞「을(u1)」のほうがより自然であると言える。日本語の場合、「を」格は「のことを」のように抽象化すれば用いられるようになる。また「に関して」は文末にくる「～ましょう」とは共起しにくいと言える。つまり、日本語の場合、後行部分に知的な行為を表す語がきて、先行部分が「話題」になるとき、文末表現が「～ましょう」のような口語体の場合、「について」が用いられやすく、「に関して」は用いられにくいと言える。

542) 나에 대하여 뭘 소개하지? (중, 국어3-2)

에 관하여 (O) / 를 (*)

私について何を紹介しようか。(中、国語 3-2)

に関して (*) / を (*)

543) 다음엔 배우의 연기에 대해 이야기할까? (중, 국어 3-2)

에 관해 (O) / 를 (*)

次は俳優の演技について話そう。(中、国語 3-2)

に関して (?) / を (*)

544) 인터넷에 대해서 논하자. (고, 작문)

에 관해서(O)/ 을 (*)

インターネットについて論じよう。(高、作文)

に関して (?) / を (*)

542) ~544) は、後行部分に「소개하다 (紹介する)」「이야기하다 (話す)」「논하다 (論じる)」のような言語活動を表す語がきて、先行部分が「話題」になる。この場合、助詞「을(ul) /를(reul)」は用いられにくい、 「에 관하여 (e gwanhayeo)」類は用いられやすい。例えば、544) の「インターネット」のような「包括的な話題」の場合、「에 관하여 (e gwanhayeo)」類が用いられやすい。つまり、韓国語の場合、後行部分に知的行為を表す語がくる場合、先行部分が「話題」や「態度の対象」になれるが、特に先行部分が具体的にしなければなるほど助詞「을(ul) /를(reul)」と、「에 대하여(e daehayeo)」類が用いられやすく、包括的であればあるほど、「에 관하여 (e gwanhayeo)」類が用いられやすくなると言える。日本語の場合、542) ~544) いずれも「について」は用いられやすく、「を」格は用いられにくい。「に関して」は普通先行部分の性質が包括的になればなるほど用いられやすくなっているが、543) と 544) の場合は少し不自然である。これは後行部分の文末表現と関わりがあると思われる。つまり、後行部分に知的行為を表す語がくる場合、先行部分が「話題」や「態度の対象」になれるのは韓国語と同じであるが、特に後行部分が文末表現「~ましょう」や「~よう」のような口語体の場合、「について」が用いられやすく、「に関して」は用いられにくいと言える。また「を」格は後行部分に「話す」「論じる」のような語がくる場合、「のことを」のように抽象化しなければならない。

527) また消毒、殺菌の過程で生じるトリハロメタンという発がん性物質 について 解明
 に関して (*)
 を (○)

し、家庭で出来る防ぎ方を伝える。(朝日新聞. 1988. 11. 13)

또, 소독. 살균과정에서 생기는 트리하로메탄이라는 발암성 물질 에 대해 해명

에 관해 (?)

을(○)

하고, 가정에서 할 수 있는 예방법을 전한다.

545) 加藤先生は記者会見で発がん性の食品 について 述べた。(作例)

に関して (○)

을 (*)

加藤 선생님은 기자회견에서 발암성 식품에 관해서 이야기했다.

에 대해서 (○)

을 (*)

527) は、「について」と「を」が用いられやすく、「に関して」が用いられにくい。545) は「について」と「に関して」が用いられやすく、「を」格が用いられにくい。527) は先行部分の「トリハロメタンという発がん性物質」が後行部分の「解明する」の直接な対象になる。つまり「について」は「話題」に、「を」格は「態度の対象」になる。528) の連体形の場合も、先行部分の「인간존재 (人間存在)」は 後行部分の「解明」の直接な対象になる。この場合も「についての」と545) は、後行部分の「述べる」は「解明する」のように先行部分(話題)に直接働きかけるものではなく、先行部分(話題)をいろいろな観点から説明する場合である。この場合は、「に関して」は用いられやすいが、「を」格は用いられにくい。韓国語の場合、「에 대하여(e daehayeo)」類は527) 545) のいずれの場合も用いられやすく、助詞「을(u1)」は、527) は用いられるが、545) は用いられにくい。「에 관하여(e gwanhayeo)」類は、545) は用いられるが、527) はやや不自然である。

以上、527) と545) の例で、後行部分に「解明する」のような先行部分との結び付きの強い語がきて、先行部分に「発がん性物質」のような「具体的な話題」がくる場合、「について」と、「에 대하여(e daehayeo)」類、「を」格と助詞「을(u1)」が用いられやすく、後行部分に「述べる」のような事物をいろいろな観点から説明する語がきて、先行部分に「発がん性食品」のようなやや「包括的な話題」がくる場合、「に関して」と「について」、「에 대하여(e daehayeo)」類「에 관하여(e gwanhayeo)」類は用いられやすいが、「を」格と助詞「을(u1)」は用いられにくい。つまり、助詞「을」格と「을(u1)」が用いられ

やすい場合、「について」、「에 대하여 (e daehayeo)」類は用いられやすく、「に関して」と「에 관하여 (e gwanhayeo)」類は用いられにくいと言える

546) 車のタイヤ を 調べる。(話し言葉の技術、p. 103)

について (○) / に関して (*)

차 타이어를 조사하다.

에 대해 (○) /에 관해(?)

547) 車のタイヤの種類と情報について調べる。(作例)

に関して (○)

차 타이어의 종류와 정보에 대해 조사하다.

에 관해 (○)

546) は、後行部分「調べる」のような知的行為を表す語がきて、先行部分が「車のタイヤ」のような具体的な内容がきている場合、「について」は「対象(内容)」に、「を」格は「態度の対象」になる。「車のタイヤを調べる」というのは、一台の車を具体的にチェックしてみるという意味に、「車のタイヤについて調べる」というのは、車のタイヤのいろいろな面について調べる、という意味になる。この場合は「について」と「を」格は用いられやすく、「に関して」は用いられにくい。韓国語の場合、日本語と同じように「에 대하여 (e daehayeo)」類と助詞「을(u1)」は用いられやすいが、「에 관하여 (e gwanhayeo)」類は用いられにくい。547) は、話題として挙げられる側面をいくつかもつ「包括的な話題」になるので、「について」はもちろん「に関して」も用いられやすくなっている。韓国語の場合も日本語と同じで、「에 대하여 (e daehayeo)」類はもちろん、「에 관하여 (e gwanhayeo)」類も用いられやすい。つまり、後行部分に対象をやや広く捉える語がくる場合、先行部分によって後置詞が決められると言える。「具体的な話題」になるほど「について」と、「에 대하여 (e daehayeo)」類はが用いられやすく、「包括的な話題」になるほど「に関して」と「에 관하여 (e gwanhayeo)」類が用いられやすい。ここで「について」と、「에 대하여 (e daehayeo)」類は「具体的な話題」と「包括的な話題」共に用いられや

すいと言える。また助詞「を」格と「을(u1)」は後行部分に対象をやや広く捉える語がきても、先行部分が「態度の対象」になる。次に、助詞「を」格と「을(u1)」が同じように置き換えられるかどうかについて調べてみる。

548) 내가 그린 만화를 친구에게 설명하여 봅시다(말듣쓰5-2, p. 108)

에 대하여 (○)

에 관하여 (*)

* 自分が書いた漫画を友達に説明してみましよう。(話聞書5-2、 p. 108)

について (○)

に関して (*)

549) 교실 안에 있는 물건을 말해봅시다. (作例)

에 대하여 (○)

에 관하여 (*)

* 教室の中にあるものを話してみましよう

について (○)

に関して (*)

550) 同時に私はKの死因을 くり返してくり返して考えたのです。(心、 p. 28)

について (○)

に関して (*)

동시에 나는 K군의 사인을 거듭 거듭 생각했다.

에 대해 (○)

에 관해 (*)

551)けれども書いたあとの気分は書いた時とは違っていた。私はそうした

矛盾을 汽車の中で考えた。(心、 p. 49)

について (○)

に関して (?)

하지만 쓰고 난 뒤의 기분은 쓸 때와는 달랐다. 나는 이러한

모순을 기차 안에서 생각했다.

에 대해 (○)

에 관해 (*)

548)～551)は、後行部分に「説明する」「話す」「考える」のような言語活動や思考活動などの知的行為を表す語がきて、先行部分の「내가 그린 만화 (自分が書いた漫画)」「교실 안에 있는 물건 (教室の中にあるもの)」「K의死因」「이러한모순 (そうした矛盾)」が「具体的な対象」になる。548)と549)は「説明の対象」に、550)と551)は「考えの対象」になる。韓国語の場合、548)～551)いずれも、「에 대하여 (e daehayeo)」類と置き換えられるが、「에 관하여 (e gwanhayeo)」類とは置き換えられない。つまり、韓国語の場合、548)～551)は「을(ul)/를(reul)」と「에 대하여 (e daehayeo)」類共に用いられやすく、「에 관하여 (e gwanhayeo)」類は用いられにくい。しかし、日本語の場合、548)と549)は先行部分が後行部分の「直接的な対象」になる場合で、「について」が用いられやすく、「を」格は用いられにくい。550)と551)は「を」格と「について」共に用いられやすい。日本語の場合「説明する」と「話す」は、ある内容や話題についていろいろな角度から説明または話すという意味を持つので、「直接的な対象」を表す「を」格とは共起しにくいと言える。

以上、後行部分に知的行為を表す語がきて、先行部分が「具体的な対象」になる場合、「を」格と助詞「을(ul)/를(reul)」が用いられやすく、「具体的な話題」の場合、「について」と「에 대하여 (e daehayeo)」類が用いられやすい。従って「について」と「에 대하여 (e daehayeo)」類は対象の範囲が限られている具体的な場合に用いられやすく、「に関して」と「에 관하여 (e gwanhayeo)」類は対象の範囲が広い包括的な場合(話題として取り上げることができる側面を複数もつことを前提としている場合)に用いられやすいと言える。しかし、後行部分にくる知的行為を表す語の中で、特に語の性質が強い場合、それによって後置詞が決められる傾向が見られる。例えば、「解明する」のような知的行為を表す語で、対象に直接何らかの働きをかけがある語、つまり対象と結びつきの強い語の場合、「について」と「에 대하여 (e daehayeo)」類、「を」格と助詞「을(ul)/를(reul)」が用いられやすく、「に関して」と「에 관하여 (e gwanhayeo)」類は用いられにくい。この場合は、韓国語も日本語も同じであるが、「説明する」、「話す」の場合は異なる。韓国語の場合は「説明する」「話す」のような知的行為を表す語が後行部分にきて、先行部分が「具体的な対象」や「対象そのもの」を表す場合にも共

起しやすいが、日本語の場合は、「具体的な対象」や「対象そのもの」を表す場合には共起しにくい。つまり、韓国語より日本語の方が後置詞を決めるとき後行部分にくる語の性質の影響を強く受けると言えるのではないだろうか。次に、「説明する」、「話す」以外の語について、「調べる」を用いて考察する。

552) 先生は日本語弁論大会について詳しく調べる。(作例)

을 (*)

의 ことを (○)

선생님은 일본어변론대회에 대해 자세하게 조사한다.

를 (○)

의 것을 (*)

552) は後行部分に「調べる」のような知的行為を表す語がきて、先行部分が「話題」になる。先行部分に「日本語弁論大会」のような「包括的な話題」がくる場合「を」は用いられにくい。しかし「のこと」を添加すると、「を」格が用いられるようになる。「を」格は先行部分が「具体的な対象」になる場合用いられやすくなっているが、それでは「を」格が包括的な場合にも用いられやすくなっているのであらうか。これは、「のこと」の添加により、「日本語弁論大会」という複数の側面が考えられる対象から「日本語弁論大会のこと」という、一つのまとまりに変換されたからである。例えば、「日本語辯論大会のこの日程」とは言うことができないように、思考活動・発話活動を表わす語と共に用いられる「を」格は、その対象が、複数の側面を持たない場合のみを対象にしているか、「日本語弁論大会のこと」のように一つのまとまりと考えられるものを対象にするかいずれかである。つまり、「について」は「包括的な場合」にも「具体的な場合」にも用いられやすいと言える。韓国語の場合は、後行部分に「調べる」のような知的行為を表す語がきて、先行部分に「日本語弁論大会」という包括的な内容がくる場合、「에 대하여(e daehayeo)」類と助詞「을(u1)/를(reu1)」共に用いられやすいが、「에

대하여 (e daehayeo)」類は「話題」になり、助詞「을(ul)/를(reul)」は、「のこと」を添加すると、包括的な内容も具体化されるので、「態度の対象」になれる。

553) 새로 만난 친구를 생각 합시다. (作例)

*新しく出会った友達を考えましょう。

のことを (○)

554) 새로 만난 친구에 대하여 생각해 봅시다. (作例)

新しく出会った友達について考えましょう。

553)と554)は、後行部分に「생각하다 (考える)」のような思考活動などの知的行為を表す語がきて、先行部分に「新しく出会った友達」のような具体的な内容がくるのは同じであるが、助詞「을(ul)/를(reul)」は、「態度の対象」に、「에 대하여(e daehayeo)」類は「具体的な話題」になる。553)は、先行部分が考えの「直接的な対象」になるので、新しく出会った友達の外見など外的なことを想像するようになる。つまり、韓国語の場合は「친구 (友達)」がそのまま「考え」の対象になれるが、日本語の場合は「友達」を「友達のこと」のように抽象化しなければならない。554)は先行部分の「新しく出会った友達」は「話題の対象」で、外的なものを含めたいろいろなこと、例えば、住んでいるところはどこなのか、誰と一緒に住んでいるのか、どんなものが好きなのかなどが連想できる。この場合は、「에 대하여(e daehayeo)」類「について」共に用いられやすい。つまり、後行部分に「考える」のような知的行為を表す語がきて、先行部分が「直接的な対象」になる場合、韓国語は、助詞「를(reul)」が用いられるが、日本語は「を」格が用いられない。日本語の場合、「を」格を「のことを」のように抽象化しなければならない。『複合助詞がこれで分かる』⁸²でも、「を」格と「のことを」の違いについて次のように書いている。

(35) a. 日本語の先生について話す。

⁸² 鈴木智美 (2007) 『複合助詞がこれでわかる』、東京外国語大学留学生日本語教育センター、p. 9~10 参照

- b. *日本語の先生を話す。
- c. 日本語の先生のことを話す。

(36) a. 選挙について話す。

- b. *選挙を話す。
- c. 選挙のことを話す。

言語・表現活動を表す「話す」「書く」などの動詞を用いる時には、「のことを」加えて抽象化する必要がある。まず、(35)の「日本語の先生」や「父」「田中さん」などの具体的な人を表す名詞の場合、「コーヒー」「コンピュータ」のように具体的な事物を示す名詞の場合、また(36)の「選挙」や「貿易」「採用」など、ある行為を示す動作性名詞の場合である。

他方、「考える」などの思考動詞、「調べる」などの調査・研究・教育活動、「知る」などの認識活動、「心配する」などの感情・感覚を表す動詞などにおいては、「のこと」を加えて抽象化しなくても、「を」で結びつけることができる。

- (37) a. 日本について考える。
- b. 日本を考える。
- c. 日本のことを考える。

(37)のaとbは、いずれも日本という国の存在のあり方をまるごと考えるという意味合いを持つ。しかし、「を」の方がより直接的に対象に密着しており、「について」を用いると、対象である「日本」を客体化しながら考えることになる。(37)cは日本の政治・文化・人々といった具体的な表層が念頭に浮かんでいる。(p. 9~10)

以上のように、日本語の場合後行部分にくる語の性質によって、例えば「話す」「書く」のような語は「を」格を「のことを」に抽象化しなければ用いられないが、「考える」「調べる」「知る」「心配する」のような語は、「を」格を抽象化しなくても用いられると述べている。つまり日本語の場合、抽象化は後行部分にくる語の性質によって異なっており、先行部分が「具体的な人」「具体的な事物」ある行為を示す「動作性名詞」を表す場合、抽象化されやすいということが分かる。

以上、韓国語の場合、助詞「을(u1)/를(reul)」が用いられない場合は日本語のように抽象化するという行為自体がない。つまり、後行部分に知的行為を表す語がきて、先行部分が一般的な語がくる場合、例えば「日本語辯論大会」の場合、助詞「을(u1)/를(reul)」と、「에 대하여(e daehayeo)」類共に用いられやすいと言える。

555) 그림을 보고, 체험 학습을 가서 보고 들은 내용을 생각하여 봅시다.

(쓰기2-2, p. 10)

*絵を見て、体験学習に行き見て聞いたりした内容を考えてみましょう。

(○ について)

(書2-2, p. 10)

556) ‘여러 가지 비 이름’ 에 나오는 비 이름을 정리하여 봅시다.

(읽기2-2, p. 25)

「いろいろな雨の名前」に出る雨の名前を整理して見ましょう。(読2-2, p. 25)

555) と 556) は後行部分に「생각하다(考える)」、「정리하다整理する」という思考活動を表す語がきて助詞「을(u1)」と共起し、先行部分が具体的(限定的)な対象(内容)となる場合である。555) は「絵を見て」という指示内容が来て「絵の中に現われている体験学習の内容について考えてみる」という意味になる。つまり、韓国語の場合は前に指示内容の表現が来ると、助詞「을(u1)」のみ用いられるが、日本語の場合「を」格は不自然で、後置詞「について」の方が自然である。556) は「いろいろな雨の名前」のような指定された作品の中に出てくる雨の名前、例えば、霧雨、小雨、大雨などについて整理しようという内容である。韓国語の場合、544) と 556) いずれも助詞「을(u1)」のみ可能であるが、日本語の場合は 555) は「について」が用いられやすく、556) は「を」格が用いられやすくなっている。要するに、日本語の場合は先行部分に指示内容や指定された作品が来るか来ないかよりは、後行部分にくる語の性質と先行部分の内容の性質の影響がさらに強いと思われる。例えば、556) の「整理する」は「いろいろな雨の名前」に出てくる雨の名をただ整

理するという意味になるので、「を」格が用いられやすく、555) の「考える」は体験学習に行って見たり聞いたりした内容についていろいろと考えるという意味になるので、後置詞「について」が用いられやすい。つまり、後行部分の思考活動を表す語と共起した場合、韓国語は先行部分に指示内容や指定された作品が来るときは助詞「을(u1)」のみ可能であるが、日本語は先行部分に指示内容や指定された作品が来るか来ないかよりは、後行部分の語の性質と先行部分の内容が具体的か包括的かがより重要である。具体的であればあるほど助詞が用いられやすく、包括的であればあるほど後置詞が用いられやすくなっていると言える。その現象は次の例でも見られる。

557) 私が翻訳紹介した『ピーター・パン・シンドローム』についてその概要を説明したい。

(現代人の心をさぐる、p. 72)

558) 担任教師から専攻の学科に関して次の週までにある事項を調べてこいと命ぜられたのです。(心、p. 57)

559) 김치에 대하여 내가 알고 있는 내용을 간단하게 적어봅시다. (말듣, 4-2, p. 62)

キムチについて自分が知っている内容を簡単に書いてみましょう。

(話聞、4-2、 p. 62)

560) 내 취미에 대하여 친구에게 소개하는 글을 써 봅시다. (말듣, 4-2, p. 75)

自分の趣味について友達に紹介する文章を書いてみましょう。(話聞、4-2、 p. 75)

561) 다음은 어느 소설가가 독서의 방법에 대해서 생각한 것을 쓴 글의 일부이다.

(고, 국어, 하, p. 96)

次はある小説家が読書の方法について考えていることを書いた文章の一部分である。

(高、国語下、 p. 96)

557) ~561) は、一つの文章に後置詞と助詞「を」が共に用いられている場合である。後行部分に「説明する」「調べる」「書く」のような知的行為を表す語がきて、先行部分が「話題」になる。557) ~561) いずれも助詞「을(u1)」や「を」格

とは置き換えできない。同じ助詞が繰り返し用いられることを避けるという決まりもあるが、それよりは「話題」と「見解（意見、考え、評価など）」を表しているからと言える。

ここで「話題」というのは、話題として取り上げることができる側面を複数もつことを前提としており、これを「包括的な話題」という。つまり、後置詞「について」「に関して」「에 대하여(e daehayeo)」類は、「話題」を表し、助詞「을(u1)」と「を」格は、「見解（意見・考え・評価など）」などを表す。557)～561)は、佐藤（1989）⁸³の指摘のように「～の～について～する」に置き換えられる。例えば、557)は、「『ピーター・パン・シンドローム』のその概要について説明する」に、558)は「専攻の学科のある事項に関して調べる」に、559)は、「キムチの自分が知っている内容について書く」に、560)は「自分の趣味の友達に紹介する文章について書く」、561)の「読書の方法の考えていることについて書く」に置き換えられる。これについて佐藤（1989）は、「について」と「を」格は全体と側面という関係を持っているので、「～の～について～する」の形にいいかえることができるのであると指摘している。また『複合助詞がこれでわかる』⁸⁴では、これらを「全体」と「部分（側面）」に分けている。

562) 내가 더 알고 싶은 것에 대하여 조사한 다음 조사한 내용을 간단하게 정리하여 봅시다. (쓰기3-1, p. 91)
自分をもっと知りたいことについて調査した後、調査した内容を簡単に整理してみましょう。（書3-1、p. 91）

⁸³ 佐藤尚子（1989）「後置詞と前置詞」『国文学解釈と鑑賞』1月号 至文堂 p. 38参照

⁸⁴ 鈴木智美（2007）『複合助詞がこれでわかる』、東京外国語大学留学生日本語教育センター、p. 6～21 参照

562) では「自分が知りたいこと」は「全体」を表し、「調査した内容」は全体の一部分に属する。この場合は、佐藤（1989）と『複合助詞がこれでわかる』の指摘通り「全体」と「部分（側面）」のように分けたほうが良いと思われる。しかし、557)～561)は「全体」と「部分（側面）」に分けるより、「話題」と「見解（意見・考え・評価など）」に分けてほうが良いと思われる。例えば、559)は、キムチという「話題」について自分が知っている内容を書くということで、「キムチは韓国の代表的な食べ物」や、「にんにくと唐辛子が沢山入っていて辛い」ということ、また「キムチは発酵食品で体にいい」というようないろいろな見解（意見・考え）などが書ける。つまり、「김치（キムチ）」は「包括的な話題」を表し、「내가 알고 있는 내용（自分が知っている内容）」は見解（意見、考え）を表すと言える。

次は、一つの文章に後置詞「에 대하여(e daehayeo)」類と「에 관하여(e gwanhayeo)」類が共に用いられている場合である。

563) 동예루살렘 문제에 관해서 도시의 지위 자체에 대한 논의를 하지 않기로 했으나, 교육, 보건 개선 등 시와 관련된 문제에 대해 논의하기로 합의했다.

(조선일보.2003.6.20)

東エルサレムの問題に関して都市の地位についての論議をしないと云ったが、教育、保健の改善など、市と関連した問題について論議することに合意した。

(朝鮮日報. 2003. 6. 20)

564) 외국인들이 우리 문화에 관하여 오해하고 있는 부분에 대해서 알아보자.

(조선일보.2003.6.21)

外国人が私たちの文化に関して誤解している部分について調べてみよう。

(朝鮮日報. 2003. 6. 21)

565) 이 단원에서는 언어에 관한 이러한 의문들에 대하여 생각해 보고, 우리의 언어 생활을 살펴본다. (중, 국어 1-1, p. 213)

この単元では言語に関するこのような疑問について考え、私たちの言語生活について調べてみる。(中、国語1-1、p.213)

566) 다음은 ‘인터넷 언어 폭력’에 관한 기사이다. ‘우리가 지켜 나가야 할 인터넷

예절' 에 대해서 이야기한 내용을 정리해 보자. (고, 국어생활, p. 184)

次は「インターネットの言語暴力」に関する記事である。「私たちが守らなければならないインターネットのエチケット」について話した内容を整理してみよう。

(高、国語生活、 p. 184)

563) ~566) は、後行部分に「論議する」「誤解する」「調べる」「考える」「話す」のような知的行為を表す語がきて、先行部分が「話題」になる。この場合は、先行部分によって用いられる後置詞が異なる。例えば、563) の「동예루살렘 문제 (東エルサレムの問題)」、564) の「우리 문화 (私たちの文化)」、565) の「언어 (言語)」、555) の「인터넷언어폭력 (インターネットの言語暴力)」のような「包括的な話題」の場合は、「에 관하여 (egwanhayeo) 類」と「に関して」が用いられやすく、552) の「도시의 지위 자체 (都市の地位)」、553) の「오해하고 있는 부분 (誤解している部分)」、565) の「이러한 의문들 (このような疑問)」、566) の「우리가 지켜 나가야 할 인터넷 예절 (私たちが守らなければならないインターネットのエチケット)」のような「具体的な話題」の場合は、「에 대하여 (e daehayeo)」類と「について」が用いられやすい。

以上、後行部分に知的行為を表す語がきて、先行部分が「話題」になる場合、一つの文章に「에 대하여 (e daehayeo)」類と「에 관하여 (e gwanhayeo)」類が共に用いられている場合は、話題を限定する範囲が異なる。例えば、「包括的な話題」になるほど「에 관하여 (e gwanhayeo)」類が用いられやすく、「具体的な話題」になるほど「에 대하여 (e daehayeo)」類が用いられやすいと言える。

2-5 「に関して」と「에 관하여 (e gwanhayeo)」類

第3章と第4章の考察の結果では、「に関して」と「에 관하여 (e gwanhayeo)」類は、「について」と「에 대하여 (e daehayeo)」類とほぼ同じ用法を持つものとして扱われている。例えば、「話題 (タイトル) の用法」は「について」と「에 대하여 (e daehayeo)」類、「に関して」と「에 관하여 (e gwanhayeo)」類共に持っているが、その話題の範囲は異なる。つまり、「について」と「에

567) ~570) は、「他のことは分からないが、この点では～だ/この点にかけては～だ」の意味で用いられており、内容(話題)がごく限定された場合である。これらは、日本語の場合は「に関して」が用いられやすく、「について」が用いられにくい。つまり、「に関して」は「話題限定用法」を持つと言える。ここで「話題の限定」というのは、後行部分に心理活動を表す語の中で特に評価を表す語と共起して、先行部分を、「他のことは分からないが、この点では～だ/この点にかけては～だ」というニュアンスで話題を限定している場合を表す。韓国語の場合、567) ~570) は、「에 관하여(e gwanhayeo)」類が自然で、「에 대하여(e daehayeo)」類が不自然である。しかし、570) は「에 대하여(e daehayeo)」類、「에 관하여(e gwanhayeo)」類が共に用いられる。つまり、日本語・韓国語いずれも「話題限定用法」の場合は、「に関して」と「에 관하여(e gwanhayeo)」類の独自の用法であると言えるが、韓国語の場合、日本語ほど厳しくなく、「話題限定用法」の場合、「에 관하여(e gwanhayeo)」類が自然であって、「에 대하여(e daehayeo)」類を用いたとしても間違っているとは言にくい。従って、570) は「에 대하여(e daehayeo)」類よりは「에 관하여(e gwanhayeo)」類を用いたほうがより自然であると言える。

571) 社主の買物に関する限り、形式的なものでしかなかった。(空)

572) このインスタントラーメンとコーラというものに関する限り、お家の固いご法度山門に入るを許さず、の世界であった。(くた)

573) 우리는 이들 사상에 관한 한 이웃의 중국이나 일본과 꼭 같은 문화전통을 이어받아 왔다. (고, 국어下, p313)

我々はこれらの思想に関する限り隣の中国や日本と同じような文化伝統を受け継いできた。(高、国語下、p. 313)

574) 미생물과의 전쟁에 관한 한, 우리나라는 특별히 심각한 전장이다. (통섭의 식탁, p244)

微生物との戦争に関する限り、我が国は特別に深刻な戦場である。(通歩の食卓、p. 244)

575) 스스로 과학에 관한 한 철저한 문외한이었다고 고백한다. (통섭의 식탁, p344)

自ら科学に関する限り徹底的に門外漢であったと告白した。(通歩の食卓、p. 344)

576) 성에 관한 한 우위를 빼앗길 수 없다는 남성들의 공포가 그만큼 컸다는 뜻이다. (통섭의 식탁, p104)

性に関する限り優位を取られないという男性たちの恐怖がそれほど大きかったという意味である。(通歩の食卓、p.104)

577) 교육에 관한 한, 한국에서 가장 선택 받은 사람 중의 하나였다.

(세느강, p186)

教育に関する限り、韓国で一番選ばれた人の中の一人であった。

(セーヌ川、p. 186)

571) ~577) は、567) ~570) の「に関して」と、「에 관하여(e gwanhayeo)」類と同じように、「他のことは分からないが、この点では~だ/この点にかけては~だ」というニュアンスの、内容(話題)がごく限定された場合である。「に関する」と「에 관한 (e gwanhan)」の定型化された表現である「に関する限り」「에 관한 한 (e gwanhan han)」のみ用いられている場合である。これは、「に関する限り」と「에 관한 한 (e gwanhan han)」が、「社主の買物」、「このインスタントラーメンとコーラというもの」、「이들 사상 (これらの思想)、미생물과의 전쟁 (微生物との戦争)、과학 (科学)、성 (性)、교육 (教育)」のような先行部分について、「他のことは分からないが、この点では~だ/この点にかけては~だ」というニュアンスで話題を限定している場合である。つまり、「に関する」と「에 관한 (e gwanhan)」は、「に関する限り」「에 관한 한 (e gwanhan han)」という定型化された形で「話題限定用法」を持つと言える。

578) 共和国の政治的、経済的独立に関する法律 (読売)

공화국의 정치적, 경제적 독립에 관한 법률

579) まちづくりに関する法律。(新潮)

마을만들기에 관한 법률

580) 우즈베키의国家独立に関する法 (読売、)

우즈베키스탄 국가독립에 관한 법

581) 주택 개량 촉진에 관한 임시조치법 (중, 국어3-1, p. 120)

住宅改良促進に関する臨時措置法 (中、国語3-1、p. 120)

582) 국제적으로 중요한 습지에 관한 협약인 ‘람사협약’ (고, 작문, p. 71)

- 国際的に重要な湿地に関する協約である「ラムサール条約」
 (高、作文、p.71)
- 583) 조세제도와 토지제도, 노비매매 등에 관한 경제관련 법률(한국사, p. 257)
 租税制度と土地制度、老婢売買などに関する経済関連法律(韓国史、p. 257)
- 584) ‘채무자 회생 및 파산에 관한 법률’ (생활법률, p. 328)
 「債務者回生及び破産に関する法律」(生活法律、p. 328)
- 585) “여성에 대한 모든 차별 철폐에 관한 협약” (법학, p. 93)
 「女性に対するあらゆる差別撤廃に関する協約」(法学、p. 93)
- 586) “외국인투자기업의 노동조합 및 노동쟁의에 관한 임시특례법” (법학, p. 146)
 「外国人投資企業の労働組合及び労働争議に関する臨時特例法」(法学、p. 146)
- 587) “특정범죄가중처벌등에 관한 법률” (법률콘서트, p. 502)
 「特定犯罪加重処罰などに関する法律」(法律コンサート、p. 502)

578)~587) は、後行部分に「法、協約、法律」などの語がきて、先行部分が「タイトル(内容提示)」になる。つまり、「に関する」と「에 관한 (e gwanhan)」は「法」や「協約」などの法律関連の語と共起して、「法律関連のタイトル(内容提示) 用法」を持つ。「法律関連のタイトル(内容提示) 用法」は「に関する」と「에 관한 (e gwanhan)」のみの用法である。

以上「に関して」と「에 관하여 (e gwanhayeo)」類のみ可能な用法として、「話題限定用法」と「法律関連のタイトル(内容提示) 用法」が挙げられるが、その他は「について」と「에 대하여(e daehayeo)」類が代用する形になっていて、「에 관하여(e gwanhayeo)」類のみ用いられやすい場合は殆ど見当たらなかった。

次に、「に対して」「について」「に関して」と「에 대하여(e daehayeo)」類「에 관하여 (e gwanhayeo)」類、また、より多く用いられている連体形「に対する」「についての」「に関する」と、「에 대한(e daehan)」 「에 관한 (e gwanhan)」を用いて各表現の用法上の差異と、文献に用いられている表現と実際に使われている表現との差異についてアンケート調査の結果に基づいて詳しく考察する。

2-6 「に対する」「についての」「に関する」と、「에 대한(e daehan)」「에 관한(e gwanhan)」の用法上の差異について

2-6-1 研究方法

筆者は日本語を母国語としないため、意味上の微妙な問題を解決するのはむずかしい。そこで、第3章でジャンル別に調べて分析した「に対する」「についての」「に関する」の用例を用いて、実際の使い分けを調べるために、日本人20人と韓国人22人を対象に、日本人に対してはEメールを利用し、韓国人に対しては直接用紙を配布してアンケート調査を行なった。インフォーマントは、日本人は主として昌原市在住の社会人および名古屋大学の大学院生などである。韓国人は主として昌原大学の教員と大学院生などである。日本語と韓国語で28項目をあげてアンケート調査を行い、分析した。得られた回答者数および性別内訳は、日本人が女性18人、男性2人で、韓国人が女性16人、男性6人の合計42人である。これを年代別に見ると、日本人は20代4人、30代5人、40代11人であり、韓国人は20代が10人、30代が3人、40代7人、50代2人である。

年齢別に調べてみると、韓国人の場合はあまり差が見られなかったが、日本人の場合、少ない人数で断言できないが、30代、40代に比べて20代のほうが語の許容範囲が広い傾向が見られたが、年齢別の研究は今後の課題として残し、ここでは扱わないことにする。

2-6-2 調査結果および各語の機能について

日本語と韓国語のアンケート結果をそれぞれ集計し、「に対する」「についての」「に関する」を用いる表現を韓国語の「에 대한(e daehan)」「에 관한(e gwanhan)」と比較しながらそれぞれ示す。設問ごとに回答者の比率を挙げて考察する。比率は少数点を以下を四捨五入した。なお、複数回答とした。

各語の用法上の差異を明らかにするため、それぞれの語の先行部分と後行部分との関係を中心に用例を検討する。なお、以下で用いる用語として、例えば「に関する」の場合、「税に関する法令」は、「税」に当る部分を先行部分、「法令」を後行部分と呼ぶことにする。アンケートの様式は次の通りである。

〈表1〉 アンケート（日本語）

*次の（ ）のなかに「についての」「に関する」「に対する」のなかで、適切な表現を選んでください。（2つ以上適切な場合は全部選んでください。もし意味が違ってくる場合はどう違うか書いてくだされば非常に助かります。）

1. 急激なストレス（ についての / に関する / に対する ） 急性の反応
2. 相手（ についての / に関する / に対する ） 配慮
3. 不正（ についての / に関する / に対する ） 怒り
4. 先輩自身の仕事（ についての / に関する / に対する ） 姿勢
5. 英語資格（ についての / に関する / に対する ） 情報
6. 仕事の内容（ についての / に関する / に対する ） 認識
7. 材料の性質（ についての / に関する / に対する ） 理解
8. 問題（ についての / に関する / に対する ） 理解
9. 民族と祖国（ についての / に関する / に対する ） 考え
10. ロータリー（ についての / に関する / に対する ） 考え
11. 政治的・経済的独立（ についての / に関する / に対する ） 法律
12. 学生の家族（ についての / に関する / に対する ） 情報
13. 青少年交換（ についての / に関する / に対する ） 意見
14. 外国人医療（ についての / に関する / に対する ） 意見
15. 「人間性」（ についての / に関する / に対する ） 見方
16. 課長（ についての / に関する / に対する ） 見方
17. 医療と衛生（ についての / に関する / に対する ） 関心
18. 仏教（ についての / に関する / に対する ） 関心
19. 村の住宅（ についての / に関する / に対する ） 調査
20. 公務員（ についての / に関する / に対する ） 世論調査
21. 農薬その他の技術（ についての / に関する / に対する ） 研究
22. 糖質（ についての / に関する / に対する ） 研究
23. 日本語教育（ についての / に関する / に対する ） 講演会
24. 旅（ についての / に関する / に対する ） 討論会
25. 彼（ についての / に関する / に対する ） 記事
26. 国際交流（ についての / に関する / に対する ） 記事
27. 森鷗外（ についての / に関する / に対する ） たくさんの著書
28. 西洋（ についての / に関する / に対する ） 本

〈表 2〉 アンケート (韓国語)

*다음 문장의 괄호 안에 적당한 말을 넣어 주세요.

①~에 대한 ②~에 관한

기타의 경우 또는①, ②를 각각 사용했을 때 뉘앙스가 달라진다고 생각될 경우에는 어떻게 달라지는 지를 설명해 주시면 감사하겠습니다.

1. 급격한 스트레스 () 과도한 반응
2. 상대방 () 배려
3. 부정 () 분노
4. 선배 자신의 일 () 자세
5. 영어자격 () 정보
6. 일 내용 () 인식
7. 재료의 성질 () 이해
8. 문제 () 이해
9. 민족과 조국에 () 생각
10. 로타리 () 생각
11. 정치적, 경제적 독립 () 법률
12. 학생 가족 () 정보
13. 청소년 교환 () 의견
14. 외국인 의료 () 의견
15. 「인간성」 () 견해
16. 과장 () 견해
17. 의료와 위생 () 관심
18. 불교 () 관심
19. 시골주택 () 조사
20. 공무원 () 여론조사
21. 농약 그 외 기술 () 연구
22. 당질 () 연구
23. 일본어 교육 () 강연회
24. 여행 () 토론회
25. 그에 () 기사
26. 국제교류 () 기사
27. 모리 오오가이(*작가이름) () 만든 저서
28. 서양 () 책

2-6-3 「に対する」と「에 대한(e daehan)」

用例に出ている数字はアンケート回答者の数である。なお、回答者の母数は日本人20人、韓国人22人であり、複数回答を含むものである。

- 588) 急激なストレス () 急性の反応
급격한 스트레스 () 과도한 반응
①に対する 20人 ④에 대한(e daehan) 22人
②についての 0人 ⑤에 관한(e gwanhan) 1人
③に関する 0人
- 589) 相手 () 配慮
상대 () 배려
①に対する 20人 ④에 대한(e daehan) 22人
②についての 0人 ⑤에 관한(e gwanhan) 1人
③に関する 0人
- 590) 不正 () 怒り
부정() 분노
①に対する 20人 ④에 대한(e daehan) 18人
②についての 0人 ⑤에 관한(e gwanhan) 2人
③に関する 1人
- 591) 先輩自身の仕事 () 姿勢
선배 자신의 일() 자세
①に対する 19人 ④에 대한(e daehan) 20人
②についての 2人 ⑤에 관한(e gwanhan) 2人
③に関する 1人

以上の後行部分の「反応」「配慮」「怒り」「姿勢」は、「態度・姿勢」を表す語で、これらの後行部分は先行部分に向けられる行為を示している。すなわち 後行部分に「態度・姿勢」を表す語がきて、先行部分が「態度の対象(相手)」になる。つまり 「に対する」と「에 대한(e daehan)」は対象(相手)への態度がはっきり示される場合に用いられやすいと言える。この場合 「に対する」と「에 대한(e daehan)」が用いられやすい傾向が見られた。

- 592) 課長()見方
과장() 견해
- ①に対する 19人 ④에 대한(e daehan) 20人
②についての 3人 ⑤에 관한(e gwanhan) 4人
③に関する 3人
- 593) 仏教()関心
불교()관심
- ①に対する 17人 ④에 대한(e daehan) 20人
②についての 5人 ⑤에 관한(e gwanhan) 5人
③に関する 2人
- 594) 問題()理解
문제()이해
- ①に対する 16人 ④에 대한(e daehan) 20人
②についての 11人 ⑤에 관한(e gwanhan) 4人
③に関する 5人
- 595) 民族と祖国()考え
민족과 조국()생각
- ①に対する 17人 ④에 대한(e daehan) 20人
②についての 6人 ⑤에 관한(e gwanhan) 6人
③に関する 1人

以上の後行部分の「見方」「理解」「関心」「考え」は知的な行為を表す語である。この場合「に対する」と「에 대한(e daehan)」が用いられやすい。ここにあげた例は578)～580)の「に対する」のみにしか用いられない例とは少し用法が異なっている。588)～591)では後行部分はその表す行為が外に表われるのに対して、592)～595)の後行部分は、その表す行為が主体の内部のみに存在し、変化として外部に表われず、いずれも先行部分が「態度の対象」として用いられている。594)は「問題に対する理解が浅い」という意味と「問題の内容について分かっているかどうか」という両方の意味にとれるので、「に対する」はもちろん「についての」も用いられたのではないかと思われる。韓国語の場合「に対する」「についての」両方の意味をもつ「에 대한(e daehan)」が用いられやすいと言える。

- 596) 「人間性」()見方
「인간성」()견해
①に対する 11 人 ④에 대한(e daehan) 17 人
②についての 10 人 ⑤에 관한(e gwanhan) 8 人
③に関する 3 人
- 597) 医療と衛生()関心
의료와 위생()관심
①に対する 15 人 ④에 대한(e daehan) 17 人
②についての 8 人 ⑤에 관한(e gwanhan) 10 人
③に関する 3 人
- 598) 材料の性質()理解
재료의 성질()이해
①に対する 10 人 ④에 대한(e daehan) 12 人
②についての 10 人 ⑤에 관한(e gwanhan) 13 人
③に関する 11 人
- 599) ロータリー()考え
로타리()생각
①に対する 9 人 ④에 대한(e daehan) 18 人
②についての 8 人 ⑤에 관한(e gwanhan) 10 人
③に関する 5 人

以上の例は592)～595)と同じように後行部分に「見方」「関心」「理解」「考え」の知的行為を表わす語がきて、先行部分が「態度の対象」と「話題」の両方の意味にとれる場合である。先行部分に「課長」「仏教」「民族と祖国」のような対象物がくる場合は「態度の対象」になるので、「に対する」と「에 대한(e daehan)」の方が用いられやすいが、「人間性」「医療と衛生」「材料の性質」のような内容を表わす語がくる場合は、「態度の対象」と「話題」の両方の意味にとれるので、先行部分の性質によって異なる。つまり、後行部分に知的行為を表わす「見方」「関心」「理解」「考え」などの語がくる場合、先行部分が決め手の役割をもつと思われる。文献での考察の結果では、「에 관한(e gwanhan)」は「に対する」と共起しにくい傾向があったが、アンケートの結果では、597)の場合「에 관한(e gwanhan)」が用いられやすくなっている。つまり、597)は日本語の場合「医療と衛生」

が態度の対象としてとられ、「に対する」が用いられやすくなった反面、韓国語の場合「医療と衛生」が専門的な用語であり、また「包括的な話題」になるので「에 관한(e gwanhan)」が用いられたのではないだろうか。日本語の場合、「に関する」は「考え」のような先行部分と結びつきの強い語とは共起しにくいと考えていたが、アンケートの結果では、595)より599)の方が「に関する」が用いられやすくなっていた。これは595)は先行部分が後行部分の「直接的な対象」になり、599)は「話題」になっているからであろう。つまり「に関する」と「에 관한(e gwanhan)」いずれも、先行部分が具体的で限定的な内容になるほど用いられにくく、包括的な内容になるほど用いられやすくなっていると言える。この場合、「に関する」より「에 관한(e gwanhan)」の方が話題の制限の範囲が少し広いといえる。

- 600) 外国人医療()意見
외국인의료()의견
①に対する 17人 ④에 대한(e daehan) 9人
②についての 9人 ⑤에 관한(e gwanhan) 16人
③に関する 15人
- 601) 青少年交換()意見
청소년교환()의견
①に対する 12人 ④에 대한(e daehan) 10人
②についての 10人 ⑤에 관한(e gwanhan) 13人
③に関する 14人

以上の例は 後行部分に「意見」のような知的行為を表わす語がきて、先行部分が「話題(内容)」になる。600)と601)いずれの例も「に対する」と「に関する」「에 관한(e gwanhan)」が用いられやすくなっている。600)の場合、「に対する」を用いると「青少年交換の時期がよかったか、または日程はよかったか」などの仕事の結果の内容を問題にしているように思われる。「についての」と「に関する」は仕事の純粋な内容に関わると思われる。つまり、600)と601)の「に対する」は知的行為を表わす語と共起し対象を内容として捉えているが、内容への評価を表わすニュアンスがある。また600)と601)のいずれも「についての」より「に関する」が用いられやすくなっている。これは先行部分をタイトル(内容の提示)として捉えようとしたからである。日本語の場合、先行部分がタイトル(内容の提示)になると

き、「に関する」が用いられやすいが、韓国語の場合、先行部分が「タイトル(内容の提示)」よりは、「包括的な話題」になるかどうかによって決められると言えるのではないか。従って、600)の「外国人医療」が、601)の「青少年交換」より「包括的な話題」として捉えられたと言える。600)と601)の例から日本語・韓国語いずれも後行部分より先行部分が決め手の役割をもつと言える。

602) 仕事の内容()認識

일의 내용()인식

①に対する 11人 ④에 대한(e daehan) 13人

②についての 15人 ⑤에 관한(e gwanhan) 11人

③に関する 9人

602)の後行部分の「認識」は対象に対する心的態度(評価・認識)を表す語で「についての」が用いられやすい。「に対する」の場合、先行部分を「仕事」に変えれば用いられやすいと思われ、また、「に関する」の場合、文献で調べた結果では、「認識」と共起する例が一つも見られなかったが、アンケートの結果では20人中9人が使うと答えた。594)の「理解」も同じことが言える。なぜこういう結果が得られたのであろうか。それは、「評価や認識」などを表す語がくる場合、決め手の役割をA部分の方に譲ったのではなかろうか。これについてはさらに検討した上で述べる必要があると思われる。しかし、「에 대한(e daehan)」と「에 관한(e gwanhan)」の場合、殆んど等しく用いられる。

アンケート調査には入れていないが、「에 대한(e daehan)」と「에 관한(e gwanhan)」の使い分けを詳しく調べるために次の用例を見てみる。

603) 「命そのもの」()認識

「생명 그 자체」()인식

①に対する(○) ④에 대한(e daehan) (○)

②についての(○) ⑤에 관한(e gwanhan) (*)

③に関する(*)

604) 先生が提示した質問()答え

선생님이 제시한 질문()대답

- ①に対する(○) ④ 에 대한(e daehan) (○)
 ②についての(○) ⑤에 관한(e gwanhan) *
 ③に関する(*)

603) と604) は、いずれも「に関する」が用いられにくくなっている。先行部分
 がかなり限定された場合である。このようにかなり限定された内容が対象にくる場
 合「に対する」と「についての」が用いられやすく、「に関する」は用いられにく
 いと言えるのであろう。韓国語の場合、「에 대한(e daehan)」が用いられやすく、
 「에 관한(e gwanhan)」は用いられにくい。文の中に「対象そのもの」という意味
 の表現が表われると、「에 대한(e daehan)」は用いられやすくなっているが、「에
 관한(e gwanhan)」は用いられにくくなっている。すなわち、「에 관한(e gwanh
 an)」は先行部分が「態度の対象」を表す場合は用いられにくく、「話題」を表す場
 合は用いられやすいが、「話題」の内容が具体的で限定的な場合用いられにくくな
 っている。この場合も後行部分より先行部分が決め手の役割をもつと言える。

2-6-4 「についての」「に関する」と「에 대한(e daehan)」「에 관한(e gwan
 han)」

605) 農薬その他の技術()研究

농약과 그 외 기술()연구

- ①に対する 2人 ④에 대한(e daehan) 7人
 ②についての 11人 ⑤에 관한(e gwanhan) 20人
 ③に関する 19人

606) 糖質()研究

당질()연구

- ①に対する 2人 ④에 대한(e daehan) 7人
 ②についての 14人 ⑤에 관한(e gwanhan) 18人
 ③に関する 19人

607) 鷗外()著書

모리오오가이()저서

- ①に対する 2人 ④에 대한(e daehan) 11人

- ②についての 15 人 ⑤에 관한 (e gwanhan) 14 人
 ③ に関する 18 人
- 608) 西洋()本
 서양()책
 ①に対する 2 人 ④에 대한(e daehan) 8 人
 ②についての 16 人 ⑤에 관한 (e gwanhan) 18 人
 ③に関する 19 人
- 609) 国際交流()記事
 국제교류()기사
 ①に対する 5 人 ④에 대한(e daehan) 10 人
 ②についての 13 人 ⑤에 관한 (e gwanhan) 16 人
 ③に関する 19 人
- 610) 彼()記事
 그()기사
 ①に対する 3 人 ④에 대한(e daehan) 11 人
 ②についての 16 人 ⑤에 관한 (e gwanhan) 17 人
 ③に関する 18 人
- 611) 日本語教育()講演会
 일본어교육()강연회
 ①に対する 0 人 ④에 대한(e daehan) 13 人
 ②についての 16 人 ⑤에 관한 (e gwanhan) 13 人
 ③に関する 18 人
- 612) 旅()討論会
 여행()토론회
 ①に対する 1 人 ④에 대한(e daehan) 12 人
 ②についての 17 人 ⑤에 관한 (e gwanhan) 17 人
 ③に関する 14 人

以上の例で後行部分の「研究」「著書」「本」「記事」「講演会」「討論会」は、知的行為もしくは知的行為の所産を表す語であると同時に、タイトル（内容の提示）を要求する性質が強い語である。つまり、これらの用例では、後行部分は「内容」を要求するものであり、その内容に当たるのが先行部分である。この場合は「についての」と「に関する」が共に用いられやすいと言える。文献では「についての」

と「に関する」が等しく見られたが、アンケートの結果では、611)を除けば「についての」より「に関する」の方が用いられやすくなっている。612)の「旅」はタイトルより「旅」そのものという内容を限定するので「についての」が用いられやすいのではなからうか。つまり、日本語の場合、後行部分に知的行為もしくは知的行為の所産を表す語であると同時に、タイトル(内容の提示)を要求する性質が強い語がきて、先行部分が「話題」になる場合、「に関する」が用いられやすい傾向が見られた。しかし韓国語の場合、後行部分に知的行為もしくは知的行為の所産を表す語でくると同時に、タイトル(内容の提示)を要求する性質が強い語がきて、先行部分が「話題」になる場合、先行部分の性質によって少し違いが見られた。例えば、607)と608)の場合、先行部分に「鷗外」という「具体的な人物」がくるときより、「西洋」という「包括的な内容」がくるとき、「에 관한(e gwanhan)」が用いられやすい傾向が見られた。しかし、609)と610)は後行部分の「記事」の内容にそれぞれ「国際交流」と「彼」がくるときで、いずれも「에 관한(e gwanhan)」が用いられやすくなっている。先行部分に「彼」という人がくるときは、「에 대한(e daehan)」が用いられやすいと思われるが、「에 관한(e gwanhan)」が用いられやすくなっているのはなぜであろうか。それは「彼」は「具体的な人物」と「包括的で抽象的な人物」両方の意味にとれるのではなからうか。つまり、後行部分に知的行為もしくは知的行為の所産を表す語がきて、タイトル(内容の提示)を要求する性質が強く、先行部分が「話題」になる場合、日本語では「に関する」が一番用いられやすいが、韓国語では、先行部分にくる語の性質によって異なる。例えば、594)の「農薬その他の技術」のような複数の話題がくるときや「西洋」のような一般的で包括的な話題の場合、「에 관한(e gwanhan)」が用いられやすい。要するに、「に関する」は後行部分の「タイトル(内容の提示)」を要求する語との結びつきが高いと言えるが、「에 관한(e gwanhan)」は先行部分にくる語の性質が「包括的で概括的な内容(話題)」の場合により用いられやすいと言える。

613) 学生の家族()情報

학생 가족()정보

①に対する 5 人 ④에 대한(e daehan) 16 人

②についての 16 人 ⑤에 관한 (e gwanhan) 15 人

③に関する 12 人

614) 英語の資格()情報

영어자격()정보

①に対する 2 人 ④에 대한(e daehan) 10 人

②についての 12 人 ⑤에 관한 (e gwanhan) 17 人

③に関する 19 人

613) と614) は、後行部分に「情報」という知的行為を表わす語がきて、先行部分が「話題」になる。613)は「についての」と「에 대한(e daehan)」が用いられやすく、614)は「に関する」と「에 관한 (e gwanhan)」が用いられやすい。この場合、後行部分の「情報」が「に関する」と共起すると先行部分が「タイトル(内容の提示)」になるので、やや包括的な内容の「英語の資格」は「に関する」と共起しやすく、やや具体的な内容の「学生の家族」は「についての」と共起しやすいと言える。「에 대한(e daehan)」と「에 관한 (e gwanhan)」は「タイトル(内容の提示)」よりは、先行部分の性質により異なる。例えば、613)の「学生の家族」のようなやや「具体的な話題」には「에 대한(e daehan)」が用いられやすく、614)のようなやや「包括的な話題」には「에 관한 (e gwanhan)」が用いられやすいと言える。

以上、後行部分に知的行為を表す語と共起し、先行部分が「話題」になる場合、「についての」と「에 대한(e daehan)」を用いると、「対象との関係がより密接的で限定的」な意味が強くなり、「に関する」と「에 관한 (e gwanhan)」を用いると、「対象との関係がより包括的で概括的」という意味が強くなると思われる。特に「に関する」は「タイトル(内容の提示)」を要求する語と結びつきやすいと言える

615) 村の住宅()調査

시골주택()조사

①に対する 4 人 ④에 대한(e daehan) 12 人

②についての 12 人 ⑤에 관한 (e gwanhan) 15 人

③に関する 18 人

616) 公務員()世論調査

공무원()여론조사

①に対する 15 人 ④에 대한(e daehan) 18 人

②についての 10 人 ⑤에 관한 (e gwanhan) 12 人

③に関する 13 人

615) と616) は、後行部分に「調査」という知的行為を表わす語がきて、先行部分が「態度の対象」と「話題」となり、615) は「に関する」が用いられやすく、616) は「に対する」が用いられやすい。つまり、「村の住宅」のような「話題」が先行部分にくる場合は「に関する」が用いられやすく、「公務員」のような「態度の対象」になるものが先行部分にくる場合は「に対する」が用いられやすくなっている。文献の考察では、「に対して」が用いられやすくなると、「に関して」は用いられにくくなるという結果が出たが、616) は「に関する」が用いられやすくなっている。その理由は 後行部分に「世論調査」という知的行為を表わす語がくる場合、「に関する」と共起したら「公務員」が「態度の対象」でなく、「話題」になるからであろう。韓国語も日本語と同じように、「에 대한(e daehan)」と「에 관한 (e gwanhan)」は、後行部分に知的行為を表わす語がくる場合、先行部分が「態度の対象」と「話題」になるが、615) は「에 대한(e daehan)」を用いると、具体的な調査になり、「에 관한 (e gwanhan)」を用いると、概括的な調査になる。616) は「에 대한(e daehan)」を用いると、「公務員」が世論調査の対象になり、「에 관한 (e gwanhan)」を用いると、公務員を話題にした世論調査になる。

以上、後行部分に知的行為を表す語の中で「調査」のような対象との結びつきの高い語がきて、先行部分が「態度の対象」と「話題」両方にとり、先行部分が「話題」になる場合、「についての」「に関する」が用いられやすく、「態度の対象」になる場合には「に対する」が用いられやすい。韓国語の場合、後行部分に「調査」のような対象との結びつきの高い語がきて、先行部分に「公務員」のような人がくる場合、「態度の対象」になるので、「에 대한(e daehan)」用いられやすく、「村の住宅」のようなやや包括的な話題がくる場合、「에 관한 (e gwanhan)」が用いられやすくなっている。

2-6-5 「に関する」と「에 관한 (e gwanhan)」

ここでは、「に関する」と「에 관한 (e gwanhan)」が用いられやすい例を見てみる。

617) 政治的・経済的独立()法律

정치적・경제적 독립()법률

① に対する 6人 ④에 대한(e daehan) 5人

② についての 7人 ⑤에 관한 (e gwanhan) 20人

③ に関する 18人

617) は、後行部分に「法律」というタイトル(内容の提示)を要求する語がきて、先行部分が「タイトル(内容の提示)」になる。この場合は「に関する」と「에 관한 (e gwanhan)」が用いられやすい。「に関する」と「についての」は知的行為を表わす語と共起し、対象を内容として捉えている点では同じであるが、「法律」「法」のような語の場合は「についての」が用いられにくく、「に関する」が用いられやすいと言える。韓国語の場合も法律の関係の語の場合「에 관한 (e gwanhan)」が用いられやすく、「에 대한(e daehan)」は用いられにくい。

2-6-6 まとめ

以上、「に対する」「についての」「に関する」と、「에 대한(e daehan)」「에 관한 (e gwanhan)」を用いて、それぞれの実際の使用上の差異について考察した。考察の結果は次の通りである。

- (1) 「に対する」は態度を表す語(後行部分)と共に用いられやすい。その中で「怒り」「反応」「配慮」「姿勢」などの語は、その態度が外に表われてその影響を受ける対象が存在することが前提となっている。この場合は「に対する」と「에 대한(e daehan)」のみ用いられやすい。それに対して後行部分が「理解」「関心」「見方」などのその行為が内部にのみ存在する語、すなわち、心的態度(評価・認識)を表す語と共起するとき、先行部分に対象物がくると「に対する」と「에 대한(e daehan)」が用いられやすく、話題(内容)がくると「についての」「에 대한(e daehan)」と「에 관한 (e gwanhan)」が用いられやすいと言える。

- (2) 「についての」と「に関する」は「講演会」「本」「研究」などの知的行為を表す語(後行部分)と共起し、対象を内容(タイトル)として捉えようとする。この場合「에 대한(e daehan)」と「에 관한 (e gwanhan)」の両方が用いられやすい。しかし、「についての」と「에 대한(e daehan)」は対象になる内容との関係が「密接的で限定的」な意味が強くなり、「に関する」と「에 관한 (e gwanhan)」は「包括的で概括的」な意味が強くなる。特に、「に関する」は後行部分に知的行為を表す語をとり、先行部分を「タイトル(内容の提示)」として捉える。「에 관한 (e gwanhan)」は 後行部分に知的行為を表す語と共起し、先行部分を「包括的及び概括的な話題」として捉える
- (3) 「に対する」「についての」「に関する」は、後行部分の性質によって決められる場合は、「反応」「怒り」などの対象(相手)への態度を表わす語と共起する場合と、「研究」「本」などの内容性の強い語と共起する場合である。文献で調べた結果ではこれに当てはまる例が多かった。次に、後行部分だけでは決まらない場合は先行部分が決め手の役割を持つ。今回のアンケートの結果ではこれに当てはまる例が多かった。これには「見方」「理解」「意見」「情報」「調査」などがある。
- (4) 「에 대한(e daehan)」 「에 관한 (e gwanhan)」は後行部分が決め手の役割を持つ場合は、対象(相手)への態度を表す語がくる時と、内容性の強い語の場合である。文献では 先行部分を内容として捉えようとする場合、二つの表現が殆んど等しく使われていたが今回のアンケートの結果では「에 관한 (e gwanhan)」のほうが「包括的で概括的で専門的な話題」に用いられやすいことが分かった。つまり、後行部分より先行部分の方が決め手の役割を持ち、また先行部分後行部分の関わりの程度によって後置詞が決められるのではないだろうか。
- (5) 先行研究では「に対する」が用いられやすくなると「に関する」は用いられにくいと指摘しているが、「意見」「認識」「理解」「調査」のような領域の境界にある語の場合は両方とも用いられやすい。
- (6) 後行部分に「法律」「法」がくる場合、「に関する」と「에 관한 (e gwanhan)」が用いられやすい。

今回分析した結果を〈表3〉にまとめておく。

<表3> [「に対する」「についての」「に関する」と「에 대한(e daehan)」「에 관한 (e gw anhan) 」の使用に関するアンケート結果]

用法	決め手	語	に対する	についての	に関する	에 대한 (e daehan)	에 관한 (e gwanhan)
「態度の 対象」	後行部分	急激なストレス()反応	20	0	0	22	1
		相手()配慮	20	0	0	22	1
		不正()怒り	20	0	1	18	2
		先輩自身の仕事()姿勢	19	2	1	20	2
「態度の 対象」 と 「話題」	先行部分	課長()見方	19	3	3	20	4
		「人間性」()見方	11	10	3	17	8
		仏教()関心	17	5	2	20	5
		医療と衛生()関心	15	8	3	17	10
		問題()理解	16	11	5	20	4
		材料の性質()理解	10	10	11	12	13
		民族と祖国()考え	17	6	1	20	6
		ロータリー()考え	9	8	5	18	10
		外国人医療()意見	17	9	15	9	16
		青少年交換()意見	12	10	14	10	13
「話題」 と タイトル 「内容提 示」	後行部分	農薬その他の技術()研究	2	11	19	7	20
		糖質()研究	2	14	17	7	18
		鷗外()たくさんの著書	2	15	18	11	14
		西洋()本	2	16	19	8	18
		国際交流()記事	5	13	19	10	16
		彼()記事	3	16	18	11	17
		日本語教育()講演会	0	16	18	13	13
		旅()討論会	1	17	14	12	17
「話題」	先行部分	学生の家族()情報	5	16	12	16	15
		英語資格()情報	2	12	19	10	17

と 「態度の 対象」		村の住宅()調査	4	12	18	12	15
		公務員()世論調査	15	10	13	18	12
タイトル 「内容提 示」	後行部分	政治的、経済的独立() 法律	6	7	18	5	20

(表内の数字はアンケート回答者の数とする。なお、回答者の母数は日本人20人、韓国人22で
あり、複数回答を含む。)

第6章 おわりに

ここでは、日本語と韓国語の後置詞「について」「に関して」「に対して」と、それに対応する「에 대하여(e daehayeo)」類と「에 관하여(e gwanhayeo)」類に関する本質規定と日本語と韓国語のそれぞれの後置詞間の異同についてまとめる。

1. 後置詞の本質規定

1-1 「に対して」「について」「に関して」

- 1) 「に対して」は、元の動詞「対する」の「他のものに向かう、応じる」という意味を引きつぐため、先行部分を「態度や感情の対象（相手）」として取り上げる用法を持っている。また、「に対して」の方が「に」格より対象（相手）を明確にするニュアンスがある。つまり「に対して」は「関係の明確化」という独自の用法を持っている。この場合、後行部分が後置詞を決める決め手の役割を持つと言える。
- 2) 「について」は、元の動詞「つく」の対象に密着して掘り下げるという意味を一部分引き継ぐため、後行部分と先行部分（話題）との結び付きを強くする力を持っている。つまり、「話題」そのものに知的行為を及ぼすといった用法を持つ。
「について」は、先行部分と後行部分にくる語の性質によって用法が異なる。すなわち、後行部分に知的行為を表す語と共起して、先行部分を「話題」として取り上げる用法と、後行部分に心的態度を表す語の中で、動作的な態度を表す語と共起して「対象」として取り上げる用法を持っている。先行部分を行為の対象として取り上げる用法は、連体表現の「についての」の用法ではあまり見当たらなかった。また「を」格では表せない「話題」用法と「話題と見解」の用法、「話題全体と部分」の用法などがある。
- 3) 「に関して」は、元の動詞「関する」の「かかわりをもつ」という意味を引き継ぐため、対象との関連性のある周辺的な内容を話題に取り上げる用法を持っている。つまり、「話題」を限定せず広く取ろうとする「包括的な話題」の用法を持つ

つと言える。また、「話題（タイトル）」の用法中、法律に関することは殆ど「に関して」や「に関する」が主に用いられていた。さらに元の動詞では表せない「他のことは分からないが、この点では～だ/この点にかけては～だ」というニュアンスで話題を限定している「話題の限定」用法を持つ。「に関する」は「に関する限り」という定型化された表現で用いられている。「話題の限定」の用法は、実際の用例では「について」「についての」は殆ど見当たらなかった。

- 4) 後置詞「に対して」「について」「に関して」は後置詞において元動詞の意味特性が強く反映される場合、その表現の独自の用法として用いられやすいと言える。その代表的な場合が、「に対して」と「に対する」の「態度の対象（相手）の用法」と、「に関して」と「に関する」の「法律関連のタイトル（内容提示）用法」がそれである。また「に対して」「について」「に関して」の中で一番後置詞化が進んでいるのは「について」であると言える。

1-2 「에 대하여 (e daehayeo)」類 「에 관하여 (e gwanha yeo)」類

1-2-1 「에 대하여 (e daehayeo)」類

まず、形態の面では、「대하여 (e daehayeo)」は、元動詞「대하다 (daehada)」に語尾「어 (eo)」が付いて作られた形で、「대해 (daehae)」はその縮約形である。そしてそれらが助詞「에 (e)」と組み合わせさって後置詞「에 대하여 (e daehayeo)」と「에 대해 (e daehae)」が生じたのである。

また「대해서 (e daehaeseo)」は元動詞「대하다 (daehada)」に語尾「어서 (e oseo)」が付いて作られた形で、元は「대하여서 (daehayaeseo)」であり、その縮約形に当たるのが「대해서 (daehaeseo)」である。

現在は「대하여서 (daehayaeseo)」はあまり使われず、縮約形の「대해서 (daehaeseo)」のみよく使われており、同じように助詞「에 (e)」と組み合わせさって後置詞、「에 대해서 (e daehaeseo)」が生じたのである。

つまり、「어(eo)」形⁸⁵の「대하여(daehayeo)」と「대해(daehae)」は、助詞「에(e)」と組み合わせさせて後置詞「에 대하여(e daehayeo)」と「에 대해(e daehae)」としてよく使われているが、「어서(eoseo)」形の「대하여서(daehayaeseo)」は、あまり使われず、縮約形の「대해서(daehaeseo)」のみ助詞「에(e)」と組み合わせさせて後置詞「에 대해서(e daehaeseo)」として頻繁に使われている。

つまり、それぞれ元の形と縮約形の関係であって、意味上の差異は存在しないということが分かる。

次に、意味用法の面では、「에 대하여(e daehayeo)」類のみ可能な場合は、両方ともほぼ同じように動詞「對하다(daehada)」と関わりの深い「態度や感情の対象(相手)」用法で、つまり「에 대하여(e daehayeo)」と「에 대한(e daehan)」のみ用いられる独自の用法であると言える。

また助詞「을(ul)/를(reul)」では表せない、「話題」用法と「話題と見解」用法、「話題と部分」用法の場合、「에 대하여(e daehayeo)」と「에 대한(e daehan)」が用いられやすくなっている。つまり、「에 대하여(e daehayeo)」類は、文章の内容をより明確に、より分かりやすくする機能をもつと言える。

「에 대해서(e daehaeseo)」は、「話題取り立て」の用法を持っており、「에 대하여(e daehayeo)」は指示文や法的関連の書籍や論文のタイトルに用いられやすくなっている。

1-2-2 「에 관하여(e gwanha yeo)」類

まず、形態の面では「에 관하여(e gwanhayeo) / 에 관해(e gwanhae) / 에 관해서(e gwanhaeseo)」についても同じことが言える。

「관하여(gwanhayeo)」は、元動詞「관하다(gwanhada)」に語尾「어(eo)」が付いて作られた形で、「관해(gwanhae)」は縮約形になる。

「관해서(gwanhaeseo)」は元動詞「관하다(gwanhada)」に語尾「어서(eoseo)」が付いて作られた形で、元は「관하여서(gwanhayeoseo)」であり、その縮約形に当

⁸⁵ 이기갑(1998) 「『- 어(eo) /-어서(eoseo)』의 共時態 について の 歴史的 な 説明」, p101~121 参照

たるのが「에 관해서(e gwanhaeseo)」である。現在は「관하여서 (gwanhayeseo)」はあまり使われず、縮約形の「에 관해서(e gwanhaeseo)」のみ使われている。

しかし、「에 관하여(e gwanhayeo) / 에 관해(e gwanhae) /에 관해서(e gwanhaeseo)」は「에 대하여(e daehae) / 에 대해(e daehae) / 에 대해서(e daehaeseo)」に比べて頻繁に使われているとは言いがたい。連体形「에 관한 (e gwanhan)」の形で多く使われている。

次に、意味用法の面では、「에 관하여(e gwanha yeo)」類は、元の動詞との関わりの深い法律関連の「タイトル (内容提示)」用法を持っており、主に連体形の「에 관한(e gwanhan)」の形で多く用いられている。

また助詞「을(ul)/를 (reul)」では表せない、先行部分が話題として挙げられるトピックがいくつか存在する「包括的な話題」の場合、すなわち「話題」用法と「話題と見解」用法、「話題と部分」用法の場合、「에 관하여(e gwanhayeo)」と「에 관한(e gwanhan)」が用いられやすい。

さらに元の動詞では表せない「他のことは分からないが、この点では～だ/この点にかけては～だ」というニュアンスで話題を限定している「話題の限定」用法を持ち、「에 관한(e gwanhan)」は、「에 관한 한 (e gwanhan han)」という定型化された表現で用いられている。「話題の限定」の用法は、「에 대한(e daehan)」では用いられにくくなっている。

以上、「에 대하여(e daehayeo)」類 「에 관하여(e gwanha yeo)」類は形態の面では、それぞれ他の形が存在しているが、各自用法をもつので、存在する理由があると言える。「에 대하여(e daehayeo)」類 「에 관하여(e gwanha yeo)」類はいずれも元動詞の意味特性が強く反映される場合、その表現の独自の用法として用いられやすいと言える。その代表的な場合が、「에 대하여(e daehayeo)」類と「에 대한(e daehan)」の「態度の対象 (相手)」の用法と、「에 관하여(e gwanha yeo)」類と「에 관한(e gwanhan)」の「法律関連のタイトル (内容提示)」用法がそれである。また「에 대하여(e daehayeo)」類は「에 관하여(e gwanha yeo)」類より後置詞化が進んでいると言える。

2. 日韓後置詞間の異同と今後の課題

2-1 日韓後置詞間の異同

後置詞「について」「に関して」「に対して」と、それに対応する「에 대하여(e daehayeo)」類と「에 관하여(e gwanhayeo)」類の後置詞間の異同についてまとめる。

- 1) 「に対して」と「에 대하여(e daehayeo)」類のみ可能な場合は、両方ともほぼ同じように動詞「対する」と「對하다(daehada)」と関わりの深い「態度や感情の相手」用法や「態度の対象」用法で、つまり「に対して」「に対す」と、「에 대하여(e daehayeo)」類と「에 대한(e daehan)」のみ用いられる独自の用法であると言える。
- 2) 「に関して」は、「他のことは分からないが、この点では～だ/この点にかけては～だ」というニュアンスで話題を限定している「話題限定用法」を持つ。つまり、「話題限定用法」は「に関して」と「に関する」の独自の用法であると言える。この場合、韓国語では「에 관하여(e gwanhayeo)」類、「에 대하여(e daehayeo)」類共に用いれるが、「에 관하여(e gwanhayeo)」類がより自然であると言える。また「에 관한(egwanhan)」は用いられやすいが、「에 대한(e daehan)」は用いられにくい。
- 3) 後行部分に「評価する」という心理表現を表す語がきて、先行部分に「具体的な話題や内容」を表す語がくる場合、日本語は「に対して」「について」どちらも用いられるが、「に対して」は「態度の対象」を、「について」は「話題」を表す。韓国語では「에 대하여(e daehayeo)」類のみ用いられる。
- 4) 後行部分に発話活動や思考活動などの知的行為を表す語がきて、先行部分が「具体的な話題(内容)」を表す語がくる場合、「に対して」は「態度の対象」になり、「について」は「話題」になる。この場合、連体形の「に対す」「についての」も同じで、「に対す」は「態度の対象」に、「についての」は「話題」になる。韓国語は「に対して」「について」両方の意味を

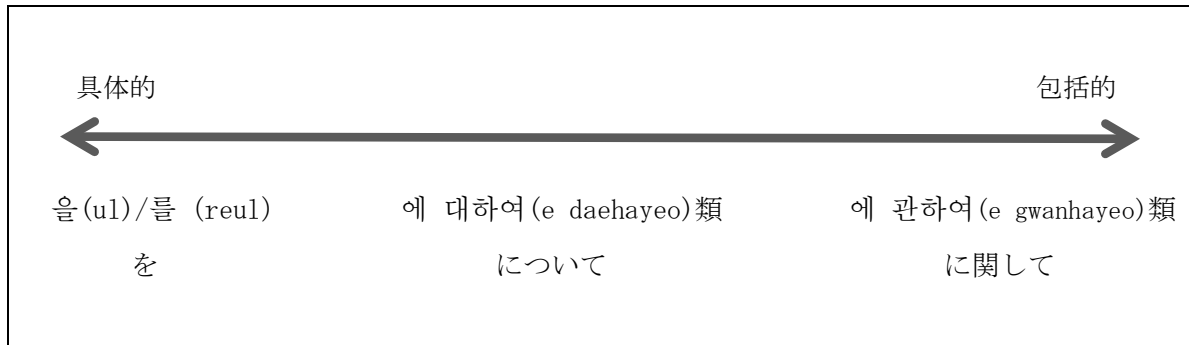
持つ「에 대하여(e daehayeo)」類と連体形の「에 대한(e daehan)」が用いられやすくなっている。

- 5) 後行部分に知的行為を表す語がきて、先行部分が「具体的な対象」になる場合、「を」格と助詞「을(ul)/를(reul)」が用いられやすく、「具体的な話題」の場合、「について」と「에 대하여(e daehayeo)」類が用いられやすい。従って「について」と「에 대하여(e daehayeo)」類は対象の範囲が限られている具体的な場合に用いられやすく、「に関して」と「에 관하여(e gwanhayeo)」類は対象の範囲が広い包括的な場合（話題として取り上げることができる側面を複数もつことを前提としている場合）に用いられやすいと言える。つまり、先行部分が具体的な場合には、「を」格と助詞「을(ul)/를(reul)」が用いられやすく、「に関して」と「에 관하여(e gwanhayeo)」類は用いられにくい。
- 6) 後行部分に知的行為を表す語がきて、先行部分が「話題」になる場合で、後行部分の語の性質によって後置詞が決められる場合、例えば、「解明する」のような先行部分との結びつきの強い語の場合、「を」格と助詞「을(ul)/를(reul)」と、「について」と「에 대하여(e daehayeo)」類が用いられやすくなっている。つまり、先行部分との結びつきの強い語は、先行部分に具体的なものを要求する。すなわち「具体的な対象」を表す「を」格と助詞「을(ul)/를(reul)」と、「具体的な話題」を表す「について」と「에 대하여(e daehayeo)」類が用いられやすくなる。また、後行部分に「説明する」、「話す」のような言語活動などの知的行為を表す語がきて、先行部分が「具体的な対象」や「対象そのもの」を表す場合、「について」は用いられやすいが、「を」格は用いられにくい傾向が見られた。つまり、「説明する」と「話す」は、先行部分に直接知的行為を及ぼす「解明する」とは違って、先行部分と距離をおいて知的行為を表す語なので「を」格とは共起しにくい。この場合、「を」格に「のこと」を添加して抽象化すれば用いられやすくなると言える。韓国語の場合、「에 대하여(e daehayeo)」類と助詞「을(ul)/를(reul)」共に用いられやすくなっている。

- 7) 後行部分に「考える」のような知的行為を表す語がきて、先行部分が「直接的な対象」になる場合、韓国語は、助詞「를 (reul)」が用いられるが、日本語は「を」格が用いられない。日本語の場合、「を」格を「のことを」のように抽象化しなければならない。韓国語の場合、助詞「을(u1)/를(reul)」が用いられない場合、日本語のように抽象化するという行為自体がない。
- 8) 後行部分の思考活動を表す語と共起した場合、韓国語は先行部分に指示内容や指定された作品が来るときは助詞「을(u1)」のみ可能であるが、日本語の場合は先行部分に指示内容や指定された作品が来るか来ないかよりは、後行部分にくる語の性質と先行部分の内容の性質の影響がさらに強いと思われる。例えば、先行部分が「話題」になる場合、「について」が用いられやすく、「対象」になる場合「を」格が用いられやすくなっている。
- 9) 「について」「に関して」と、「에 대하여(e daehayeo)」類「에 관하여(e gwanhayeo)」類は、後行部分に知的行為を表す語がきて、先行部分が「包括的な話題」の場合、先行部分は「話題」になり、「を」格は「見解（意見・考え・評価など）」を表す「話題と見解用法」を持つと言える。また「について」「に関して」と、「에 대하여(e daehayeo)」類「에 관하여(e gwanhayeo)」類は、一つの文と一緒に表れた場合、「包括的な話題」には「に関して」と「에 관하여(e gwanhayeo)」類が用いられやすく、「具体的な話題」には「について」と「에 대하여(e daehayeo)」類が用いられやすくなっている。

以上を元に、「を」格と「について」「に関して」と、助詞「을(u1)/를(reul)」と「에 대하여(e daehayeo)」類「에 관하여(e gwanhayeo)」類の関係について次の〈図1〉に示す。

〈図 1〉



10) 「についての」と「に関する」の用法上の差異については次のようなことが分かった。まず、後行部分に「講演会」「本」「研究」などの知的行為もしくは知的行為の所産を表す語がきて、タイトル（内容の提示）を要求する性質が強く、先行部分が「話題」になる場合、日本語では「に関する」が一番用いられやすくなっているが、韓国語では、先行部分にくる語の性質によって異なる傾向が見られた。先行部分に複数の話題がくる場合や 一般的で包括的な話題の場合、「에 관한(e gwanhan)」が用いられやすくなっている。

618) ‘책의 역사와 출판문화에 관한 박물관적 에세이’ (고, 독서, p. 49)

「本の歴史と出版文化に関する博物館的エッセイ」 (高、読書、p. 49)

619) ‘야간 자율학습에 관한 건의문’ (고, 작문, p248)

「夜間自由学習に関する建議書」 (高、作文、p. 248)

620) ‘인터넷 등급제’에 관한 뉴스(중, 생활국어, p63)

「インターネット等級制」に関するニュース (中、生活国語、p. 63)

以上の618)～620)は、後行部分に「エッセイ、建議書、ニュース」のような知的行為の産物を表す語、特にタイトルを表す語がきて、先行部分の包括的な話題と共起して、文全体がタイトル（内容提示）を表す。この場合は、「에 대한(e daehan)」も可能であるが、「에 관한 (e gwanhan)」が自然である。元々「タイトル」というのは、「題目」や「表題」の意味で格式ばっており、形式的なニュアンスを持っているので、「에 관한 (e gwanhan)」がより相応しい。つまり、「タイトル性」が強いほど「에 관한 (e gwanhan)」が用いられやすいと言える。

つまり、「に関する」は後行部分に知的行為もしくは知的行為の所産を表す語がきて、先行部分が「タイトル（内容の提示）」になる場合、後行部分の語の性質によって決められるが、「에 관한 (e gwanhan)」は607)～609)のように、文全体が「タイトル」を表す場合、または話題にいくつか複数の内容がきたり、話題の内容が「包括的で概括的な話題」の場合に用いられやすいと言える。

文献の用例を分析した結果、後行部分によって後置詞が決められる例が多かったが、アンケートの結果では先行部分によって後置詞が決まる例が多かった。また先行研究では「に対する」が用いられやすくなると「に関する」は用いられにくいと指摘されているが、アンケートの結果では「意見」「認識」「理解」「調査」のような領域の境界にある語の場合は両方とも用いられやすい傾向が見られた。

2-2 今後の課題

以上、後置詞「について」「に関して」「に対して」と、それに対応する「에 대하여 (e daehayeo)」類と「에 관하여 (e gwanhayeo)」類の各語の本質規定と後置詞間の異同についてまとめた。後置詞「について」「に関して」「に対して」と、それに対応する「에 대하여 (e daehayeo)」類と「에 관하여 (e gwanhayeo)」類いずれも助詞では表せない独自の用法を持っているのが分かった。元の動詞と関わりの濃い語（「に対して」、「に関して」、「에 대하여 (e daehayeo)」類、「에 관하여 (e gwanhayeo)」類、そして元の動詞の意味から離れた独自の用法を持つ語（「について」と「에 대하여 (e daehayeo)」）、に分けられ、その中で一番後置詞化が進んでいるのは「について」と「에 대하여 (e daehayeo)」類である。今回はなるべくその性質の差が分かりやすい語を中心に分析したが、今後は「意見」「認識」「理解」「調査」などの領域の境界にある語や、「調査」「考え」「話」など後行部分と先行部分との結び付きに違いがでる語などを中心に考察してみたい。また両言語のそれぞれの連体形が、連用形より用いられやすい場合の理由について詳しく考察してみたい。また韓国語の場合、「에 대해서 (e daehaeseo)」が口語体に用いられる確率が高いと思われるが、「에 대해 (e daehae)」も口語体として用いられているので、이기갑(1998)の指摘のように「에 대해서 (e daehaeseo)」が口語体に用いられる確率が80%以上になるとは言いがたいと思われる。文体のことに

については、今後の課題として「에 대해서(e daehaeseo)」が口語体として用いられる比率及び、「에 대해(e daehae)」とのニュアンスの差異についても考察してみたい。最後に今回は各語の用法上の差異について、微妙なニュアンスの違いまでは明らかにすることができなかったが、次回はその点についてさらに詳しく研究を重ね共に、本研究の成果を応用して韓国語と日本語の後置詞の指導、教育への提言も行いたい。

〈謝辞〉

2005年4月のある日、私は博士論文を書くために11年ぶりに東北大学文学部国語学科を訪ねました。しかし、10年過ぎた今やっと博士論文を仕上げました。これまで何回も気分を新たにしていって再び書こうとしましたが、学校の仕事や個人の事情でなかなかできませんでした。今回も斎藤先生にお導きいただけなかったらいつ完成できるか分からない状態でした。斎藤先生の励ましとご指導のおかげで仕上げられたと思います。

「斎藤先生、暖かいご指導ありがとうございました。
これからは名前を間違わないように気をつけます。」

また今はご定年の加藤正信先生、村上雅孝先生にも感謝のお礼を申し上げます。私が大学院生るとき、加藤先生は「今の世の中は大変だから仙姫さんのような苦勞していない人はなかなか大変でしょうね。これから一番端っこに座らせて苦勞させようか」とおっしゃいながら、父さんのようにいつも私のことを心配してくださいました。村上先生は「仙姫さんの笑い声は一階から八階まで聞こえるよ、いつも元気でいいね」と褒めてくださいました。先生方のおかげで博士論文が書けました。本当にありがとうございました。仙台は私の青春時代の思い出が一杯のところですよ。この思い出を大事にしながら生きて行きます。

論文の作成中いろいろな人に助けられましたが、特に韓国語は安貞雅先生、日本語は内堀明先生に十分お世話になりました。またいつも元気付けてくださった学科の先生方と、家族にも感謝します。皆様のおかげで仕上げられました。ありがとうございました。

2015年 12月15日

昌原にて 金仙姫

参考文献

<日本語>

- 池原悟・宮崎正弘・白井諭 他 (1997) 『日本語語彙体系5構文体系』岩波書店
- 柏崎雅世(2005) 「『について』と『に関して』—「に対して」を視野に入れながら—」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』第31号
- 金子尚子 (1983) 「日本語の後置詞」『国文学解釈と鑑賞』4月号 至文堂
- 金仙姫(1990) 「現代日本語における『~について』『~に関して』『~に対して』の用法上の差異について—アンケート調査を中心に—」『国語学研究』30号東北大学文学部国語学研究刊 行会
- 金仙姫(1992) 「現代日本語における『~についての』『~に関する』『~に対する』の用法上の差異の考察」、東北大学文学部日本語学科論集 第2号 東北大学文学部 日本語学科
- 金仙姫(1999) 「『~について』『~に関して』『~に対して』の用法上の差について—韓国語『에 대해서』『에 관해서』との比較を中心に—」日語日文学 第12輯 大韓日語日文学会
- 金仙姫(2003) 後置詞の用法に関する日・韓対照研究—『について』『に関して』『に対して』の意味用法をめぐって—『日語教育』韓国日本語教育学会 第25輯
- 金仙姫(2005) 「後置詞「에 대해서」「에 관해서」の意味・用法をめぐって—実際の使用状況の調査を中心に—」『日本語文学』第29輯 日本語文学会
- 言語学研究会 (1983) 『日本語文法・連語論(資料編)』むぎ書房
- 小泉保・船城道雄・本田治 他 (1989) 『日本語基本動詞用法辞典』大修館書店
- 江田すみれ (1987) 「『名詞+こと』の意味と用法について—『について』とのかかわり—」『日本語教育』62号
- 国立国語研究所 (1951) 『現代語の助詞・助動詞—用法と実例—』秀英出版
- 国立国語研究所 (1972) 『動詞の意味・用法の記述的研究』秀英出版
- 小矢野哲夫 (1980) 「『に格』をとる形容詞文について」『日本語・日本文化』第九号、大阪外国語大学研究留学生別科
- 小矢野哲夫 (1985) 「形容詞のとる格」『日本語学』3月号 明治書院
- 坂井厚子(1992) 「『~について』『~に対して』の意味・用法をめぐって」『信州大学教養部紀要』第26号
- 佐藤尚子 (1989) 「後置詞と前置詞」『国文学解釈と鑑賞』1月号 至文堂
- 佐藤尚子(1989) 「現代日本語の後置詞について—『~について』と『~に対して』を例として—」、『横浜国大国語研究』第七号、横浜国立大学国語国文学会
- 佐伯哲夫 (1966) 「複合格助詞について」『言語生活』7月号

- 沢田奈保子 (1986) 「『～に対して』と ～にとって」の指導上のルイル留意点—中国人学習者の語用例」
- 鈴木重幸 (1972) 『日本語文法・形態論』 むぎ書房
- 砂川有里子 (1987) 「複合助詞について」 『日本語教育』 62号 日本語教育学会
- 高橋太郎 (1982) 「構造の機能と意味—動詞の中止形 (シテ) とその転成をめぐって」 『日本語学』 12号 明治書院
- 高橋太郎 (1983) 「構造の機能と意味—動詞の中止形 (～シテ) とその転成をめぐって」 『日本語学』 12号 明治書院
- 高橋太郎 (1984) 「動詞の条件形と後置詞化」 渡辺実編 『副用語の研究』 明治書院
日本語教育学会 昭和62年度第七回研究例会口頭発表
- 張麟声 (2001) 『日本語教育のための誤用分析：中国語話者の母語干渉20例』 スリーエーネットワーク
- 塚本秀樹 (1990) 「日本語と朝鮮語における複合格助詞について」 『アジアの諸言語と一般言語学』 三省堂
- 塚本秀樹 (1991) 「日本語における複合格助詞について」 『日本語学』 第10巻 3月号 明治書院
- 東京外国語大学留学生日本語教育センターグループ KANAME 編著 (2007) 『複合助詞がこれでおかる』 ひつじ書房
- 蔦原伊都子 (1984) 「～について」 『日本語学』 10月号 明治書院
- 友松悦子・和栗雅子・宮元淳 『どんなときどう使う日本語表現文型500』 アルク
- 永野賢 (1953) 「表現文法の問題—複合辞の認定について—」 『金田一博士古希記念言語・民族論叢』 三星堂
- 仁田義雄 (1982) 「助詞類各説」 日本語教育学会編 『日本語教育辞典』 大修館書店
- 野間秀樹 (1990) 「朝鮮語の名詞分類—語彙論・文法論のために—」 『朝鮮学報』 134 朝鮮学会
- 橋本進吉 (1934) 『新文典別記文語篇』 富山房
- 橋本進吉 (1948) 『国語法研究』 橋本進吉博士著作集第二冊 岩波書店
- 松木正恵 (1987) 「複合辞の認定—その基準と尺度—」 国語学会昭和62年度春季大会要旨
- 松下大三郎 (1928) 『改選標準日本文法』 中文館書店
- 真仁田栄治 (2007) 「複合辞『～について』『～に関して』における連体修飾の被修飾の意味傾向」 日語教育 (第三十九輯)
- 村木新次郎 (1983) 「日本語の後置詞をめぐって」 『日語学習と研究』 第3期 北京対外貿易学院
- 森田良行 (1977) 『基礎日本語1・2・3』 角川書店
- 森田良行・松田正恵 (1989) 『日本語表現文型』、アルク

森山卓郎 (1988) 『日本語動詞述語文の研究』 明治書院

山本一枝・田山のり子・坂本恵(1987) 『読解演習 はじめての専門書』 にほんごの凡人社

<韓国語>

고대영(2006) 「현대국어의 후치사에 대한 연구- ‘없이, 밖에, 말고’ 를 중심으로-」 성균관대 석사학위논문

高辛淑 (1987) 『조선어 리문법(품사론)』 과학백과사전출판사

김선희(2007) 「『~에 대해서』, 『~에 관해서』의 일고찰-초, 중, 고 국어교과서를 중심으로」 『인문학논총』 제17집 제1호 한국인문과학회

김선희 (2009) 「『~에 대한』 『~에 관한』의 용법고찰- 초, 중, 고 국어교과서를 중심으로」 『동북아문화연구』 제21집 동북아시아문화학회

김선희 (2010) 「후치사 “에 대해서” “에 관해서” 및 그 관형형의 용법 고찰-초.중.고 국어교과서를 중심으로」 『동북아문화연구』 제25집 동북아시아문화학회

김선희 (2012) 「후치사 “에 대해서”, “에 관해서” 및 그 관형형의 용법 고찰- 텍스트 장르별연구 -」 『동북아문화연구』 제33집 동북아시아문화학회

김선희(2014) 「후치사 ‘에 대하여’ 와 조사 ‘을/를’ 의 용법고찰-초등학교 국어 교과서를 중심으로」 『동북아문화연구』 제41 집 동북아시아문화학회

남기심(1987) 『국어조사의 용법』 서광학술자료사

남기심(1993) 『국어조사의 용법』 서광학술자료사

柳龜相 (1983) 「국어 후치사에 대한 재론」 경희어문학6

문교부(1956) 『우리말 말수 사용의 찾기 조사』 문교부

안주호(1994) 「동사에서 파생된 이른바 후치사류의 문법화 연구」 『말』 한국연세당

유구상(1983) 『國語의 後置詞』 경희어문학 6

이기갑(1998) 「‘-어/어서’의 공시태에 대한 역사적 설명」 『담화와 인지』 제5권 2호

李相億(1972) 「動詞의 犧牲에 對한 理解」 『語學研究』 6회 서울대학교 語學研究所

李嬉子 (1995) 「한국 국어 관용구의 결합 관계 고찰」 『大東文化研究』 30 성균관대학교 동문학회

李崇寧(1953) 「격의 독립품사 시비」 『국어국문학』 4호

李崇寧 (1966) 「조사설정의 재검토- 특히 Postpositions, particle과 격과의 혼합설정의 의의를 중심으로-」 『동양문화』 제5집 대구대학부설동양문화연구소

이승녕(1983) 『중세국어문법(개정증보판)』 을유문화사

이승욱(1987) 『국어문법체계의 사적 연구』 일조각

이용덕(1992) 『표준일본어입문』 계명대학교출판부

李承旭 (1957) 「國語의 Postpositions에 대하여」 一石 李熙昇先生 頌壽紀念 論文集

조남호(2002) 「현대국어 사용 빈도 조사-한국어 학습용 어휘 선정을 위한 기초조사」 국어국립연구원 보고서

洪思滿(1976) 「國語 Postpositions의 下位 分類」 『東洋文化研究』 3, 경북대동양문화연구소

G. J. RAMSTEDT(1957) 『A Korean Grammar』 (서울 한국대학교재공사)

H. G. UNDERWOOD(1914) 『An Introduction to the Korean spoken Language』

<辭書類>

浅野鶴子・伊藤芳照・木村宗男 他 (1975) 『外国人のための基本用例辞典』 文化庁

新村出 (1991) 『広辞苑』 第四版 岩波書店

塚本勳他(1986) 『朝鮮語大辞典』、大阪外国語大学朝鮮語研究室編、角川書店

日本国語大辞典 第二版編集委員会 (2001) 『日本国語大辞典』(第二版) 小学館
松下大三郎 (1901) 『日本俗語文典』 勉誠社
松村明編(1988) 『大辞林』 三省堂
松村明編 (1971) 『日本文法大辞典』 明治書院
국어국립연구원 『표준국어대사전』 두산동아
백봉자(2006) 『외국어로서의 한국어문법사전』 도서출판하우
연세대학교 언어정보 개발 연구원편 (1998) 『연세 한국어 사전』 덕산동아
한글학회(1992) 『우리말큰사전』 어문각

・用例出典一覧

<日本語>

五木寛之 (1978) 『男と女のあいだには 上.下』 新潮文庫
井上ひさし (1978) 『笑談笑発』 講談社文庫
江上波夫 (1980) 『日本人とは何かー民族の起源を求めて』 天城シンポジウム
遠藤周作 (1985) 『何でもない話』 講談社文庫
岡崎敏雄 (1989) 『日本語教育の教材』 アルク
小川洋子(1994) 『シュガータイム』 中央公論社
小比木啓吾(1986) 『現代人の心をさぐる』 朝日新聞社
片岡義男 (1982) 『湾岸道路』 角川文庫
加藤考義(1986) 『空間のエコロジー』 新曜社
加藤諦三 (1983) 『自分を嫌うな』 三笠書房
金井良子 (1987) 『愛されるオフィスレディの話し方マナー』 大和出版
木村治美 (1986) 『あらあらかしこ』 集英社
金田一春彦 (1977) 『話し言葉の技術』 講談社
月間日本語編集部 (1990) 『日本語と私』 アルク
酒井広 (1977) 『話し上手になる本』 日東新書
佐野哲郎・佐野五郎(1986) 『人生と愛』 紀伊国屋書店
司馬遼太郎・山崎正和(1978) 『日本人の内と外』 中央新書
司馬遼太郎・金達寿 他 (1987) 『日韓理解への道』 中央文庫
曾野綾子 (1985) 『太郎物語』 新潮文庫
太宰治 (1952) 『人間失格』 新潮文庫
辰濃和男 (1981) 『天声人語』 朝日新聞社

田中明 (1985) 『ソウル実感録』 三修社
 中島梓 (1991) 『くたばれグルメ』 集英社文庫
 夏目漱石 (1991) 『心』 集英社文庫
 夏目漱石 (1984) 『硝子戸の中』 岩波文庫
 波多野誼余夫 他 (1973) 『知的好奇心』 中央公論社
 波多野誼余夫 他 (1984) 『知力と学力』 岩波新書
 原卓也訳 (1985) 『人生論』 新潮文庫
 樋口清之・諫山忠幸 (1979) 『米の未来学』 地球社
 前川恵詞 (1987) 『韓国・朝鮮人－「在日」の生活の中で』 講談社文庫
 松田道雄 (1988) 『私は赤ちゃん』 岩波新書
 松本清張 (1978) 『空の城』 文芸春秋
 三浦綾子 (1967) 『愛すること信じること』
 向田邦子 (1979) 『思い出トランプ』 新潮社
 向田邦子 (1985) 『向田邦子全対談』 文春文庫
 村上春樹 (1987) 『風の歌を聴け』 新潮文庫
 村上春樹』 (1987) 『ノルウェイの森 上.下』 講談社
 安岡章太郎 (2000) 『海辺の光景』 新潮文庫
 山田太一 (1988) 『ふぞろいの林檎たち』 大和書房
 新潮文庫 100 冊 (1995) CD-ROM

<韓国語>

구중서 (1996) 『문학과 현대사상』 문학동네
 국어편찬위원회 (2005) 『초 중, 고 국어교과서』 교육인적자원부
 김이영 (2010) 『동이 1 권, 2 권』 이가서
 김정운 (2007) 『일본열광』 프로네시스
 김해옥 (2010) 『외국인을 위한 한국문화읽기』 에피스테메
 김중섭 (2004) 『한국어 교육의 이해』 한국문화사
 남경완 (2008) 『국어용언의 의미분석』 국어학회
 박범신 (2010) 『은교』 문학동네
 박완서 (2012) 『나목』 세계사
 문덕수 외 (2011) 『우선 순위 현대수필』 도서출판 교지문화사
 송희식・김우진공저 (2012) 『법률콘서트』 법률출판사
 신경숙 (2010) 『어디선가 나를 찾는 전화벨이 울리고』 문학동네

- 신지영·정명숙 외(2012) 『한국어학의 이해』 지식과교양
 심재기·조항범 외(2011) 『국어어휘론개설』 지식과 교양
 안주호(2003) 『국어교육을 위한 문법탐구』 한국문화사
 오오세 타다시(1998) 『한국이 그래도 일본을 따라잡을 수 없는 18 가지 이유』
 이관규(1999) 『학교문법론』 月印
 이상원(2011) 『서울대 인문학 글쓰기 강의』 황소자리
 임경순(2009) 『한국어문화교육을 위한 한국문화의 이해』 HUF S BOOKS(한국의국어대학교
 출판부)
 정이현(2006) 『달콤한 나의 도시』 문학과지성사
 정정덕(1996) 『교양언어학 말·사람·삶』 영남서원
 최용기(2009) 『법학』 대명출판사
 최용범(2008) 『하룻밤에 읽는 한국사』 페이지로드
 최재우(1999) 『우리의 자녀 교육 대학제도가 망친다』 밀알
 최재천(2011) 『통섭의 식탁』 명진출판
 홍세화(1999) 『썰스강은 좌우를 나누고 한강은 남북을 가르친다』 한겨레신문사
 황선익(2012) 『생활법률 119(개정증보판)』 (주)더난콘텐츠그룹

<新聞・雜誌>

<日本語>

- 朝日新聞(1988年10月~11月、1989年8月~10月、2003年6月、12月、2005年4月、9月)
 『月刊日本語』(1990)9月号 アルク
 河北新報(1991年2月)
 『言語生活2・3』(1987)筑波書房
 『ことばシリーズ 敬語』(1986)文化庁
 読売新聞(1987年10月、1991年8月、2005.4月、9月)
 米山ロータリー(1990.8) 『ロータリーの友』
 雑類一 広告などで使われているちらしや便り

<韓国語>

- 논술이 쉬워지는 잡지 위즈키즈(2009년 3월, 9월, 10월, 12월호) 교원
 동아일보(1999년 5월)
 문화신문(1999년 5월)
 여성동아(2012년 3월, 4월호) 동아일보사

여성중앙 (2012 년 2 월, 3 월호) 중앙일보사
조선일보 (1999 년 9 월, 10 월, 2003 년 6 월)
중앙일보 (2012 년 7 월)
창원대신문 (2001 년 1 월~5 월)
한국일보(2002 년 7 월)